カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

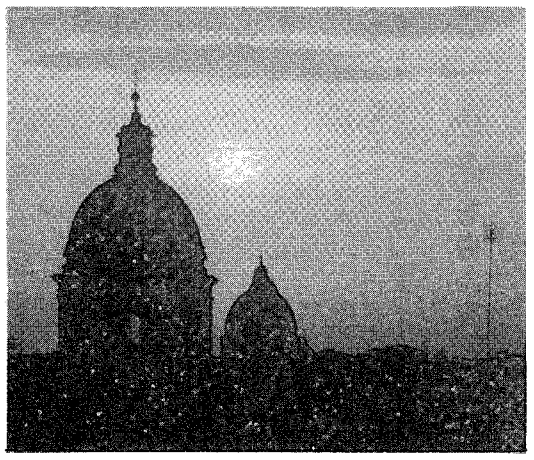
今月のみことば

門をたたきなさい
そうすれば、開かれる。
（ルカ11・9）

司教館　伊東　成晃助祭

教区年間テーマ

21世紀のために教会を整える



恐れずに希望をもって

ヨセフ松永久次郎司教は、教区内の全信者に向けて年頭のメッセージを送った。教会の第一の使命である福音宣教を踏まえながら、21世紀に向けて教会の態勢を整えていくことを明らかにした。この視点をメインテーマに、五年間にわたり、具体的に諸方面での整備がされていく。恐れずに希望をもって前進するよう励ましている。

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。神の祝福のうちに、私たち一同がキリストの希望のうちに、新しい歩みを始めることができるようお祈りいたします。

一、二十一世紀を前にして

教皇ヨハネ・パウロ二世は事あるごとに、もうすぐそこに迫っている二十一世紀のことについて話しておられますが、昨年十一月に「第三千年期を前にして」という教皇書簡を発表され、二千年から始まる新しい時代の意義とそれに対する私たちの心構えを諭されました。私たちもこの時のしるしを見て、神の民としての私たちの心を整え、私たちの教会の態勢を整備するように努めたいものであります。

福音宣教が教会の第一の使命です。それはキリストの真理と愛の恵みがすべての人にゆきわたることを希い、そのためにできるだけのお手伝いをすることです。そのために、私たちは教皇様のお勧めにしたがって、三位一体の神、父なる神、子なる神、聖霊である神のことをよく学び、その命の働きに与かって、人々に愛の実践を行うように心掛けたいものであります。

また、この世で働き、効果を挙げるためには、組織や設備も必要です。福岡教区の神の民にとって、これらの点で何が足りないか、何が不十分であるかを調べ、計画的に整備していくようにしたいものです。現在の教会活動のためだけではなく、将来の信者がより整った環境で、より効果的な働きができるよう計画することも、現在の私たちの務めであることもわきまえておかねばなりません。

二、若者、病人、新婚者

教皇様は、謁見のときいつも若者、病人、そして新婚者に特別の言葉をかけられます。それは、現在の教会の心が特別に彼らに期待をかけていることのしるしでもあります。そこで私たちもこの心を心としなければならないと思います。

私たちは、教会に若者たちが自分の場所を見いだすことができるように配慮しなければなりません。良かれ悪しかれ未来は若者たちの手にあるからです。彼らが正しい教育をうけ、健全に育つことができるように種々の条件を整えることが大切です。もちろん若者のためを思うことは、彼らを甘やかすことではありません。彼らの心の憧れを満たす美しい理想を提示し、その実現への協力を呼びかけることが最も大切と思います。

病人たちは、通常、外的な大きな活動はできません。しかし、キリストの十字架に合わせて耐え忍ぶ苦しみの意義を信じる私たちキリスト者は、彼らの存在、彼らの奉献のもつ意味合いを高く評価するとともに、彼らの福音宣教活動への参加を特に期待すべきだと思います。同じことが、苦しみを耐え忍ぶ以外何もできないかの様に見える特殊の状況におかれている人についてもいえることと思います。

この教皇様は「家庭の教皇」といわれるほど、家庭を巡る諸問題について発言しておられます。真に、家庭は創造の初め神の祝福を受けたものであり、救いの初めにキリストを迎えた場所、キリストの祝福を受けた場所です。家庭の中に神のお恵みは豊かに託されています。もちろんここに原罪に始まる人間家族の醜さも見いだされます。キリスト者は家庭生活を始めるに当たって、また家庭生活を続けるに当たって、神のお恵みの下、神が人間にくださった幸せを十分受け止めることができるように祈り、努力すべきであります。

三、「恐れるな」という励まし

教皇様は「希望の彼方に」というご自分の珍しい著作のなかで、福音書に何度も出てくるこの「恐れるな」という言葉に特別の意味を持たせています。あの著作全体のメッセージとさえいえるほどです。

キリストの弟子は、キリストにしたがうことを目指す限り恐れる必要はありません。キリスト者の群れは小さな群れであるかも知れません。しかし、恐れる必要はありません。キリスト者は十字架を背負って行かねばならない身の上です。しかし恐れる必要はありません。最後まで耐え忍ぶ人は救われます。天地は過ぎます、しかしキリストの言葉は過ぎ去ることはないのです。キリストは世に勝ったのです。キリストの十字架の死のあとには、栄光の復活があったのです。

現代において、キリストの教え、キリストの教会はいろいろな意味で逆風に晒（さら）されています。しかし、私たちは、キリストを信じつつ、キリストの教会とともに、力強い歩みを続けることができるのです。

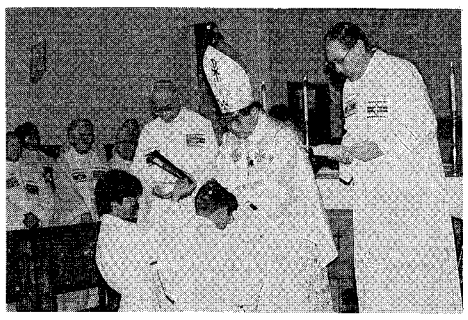
このような信頼のうちに、新しい年を新しい時代に向かって歩み続けて参りましょう。

伊東成晃神学生が助祭叙階を受ける

古賀教会

十二月八日、福岡教区は久しぶりに助祭の叙階式の恵みをいただいた。新しく叙階されたのは、古賀教会（F・ハーン神父主任）出身の伊東成晃神学生（三十歳）である。

「きょうこそ神が造られた日」の聖歌が流れる中、ダルマチカ（助祭が式典で用いる服）を手に受階者が、松永久次郎司教、司祭団とともに入堂した。期待と喜びと感謝のうちに見守る家族と列席者。式は滞りなく進んだ。



司教から助祭職への問いかけと本人の受諾の表明、司教に対する尊敬と従順の約束、諸聖人の取り次ぎの祈りと続き、聖霊を願う祈りと按手、ダルマチカと聖書の授与が行われた。

司教は「助祭の職務は神の民への恵み。応じる本人の真心を期待したい。助祭は、教会の心を伝える職務を持ち、み言葉を説き明かし、人々の心に光を与える。本人がみ言葉のカリスマを使い、生かせるように願う」と話した。

ミサ中の記念式典で、新助祭は「これからもより一層誠心誠意、教会のために頑張ります」と述べた。

隣設の暁の星幼稚園（乾盛夫神父園長）のホールで祝賀会が行われた。

伊東助祭は、現在の福岡カトリック神学院からサン・スルピス大神学院を卒業。後、司教館で奉仕していた。今後の活躍を願うものである。

※助祭とは、式典において司祭を助ける職務を有する者。

時の話題

井田　栄一

自称「みこころホスピス」が、このたび厚生省の施設基準を満たすホスピスとしての承認を受けた。この病院の原点は、療養の手立てのない患者・家族を深い愛と慈しみの精神で支えた訪問看護奉仕にある。

設立母体であるショファイユの幼きイエズス修道会のシスター四人が、百五年前に初めて来熊した時と同じ十一月一日（諸聖人の祭日）の承認は、単なる偶然ではなく神の摂理を感じさせる。この日、十五床（個室十三床）のホスピス病棟を手取教会のW・カリー神父が聖水で祝福した。これまでの二十か月間の歩みで、六十八人の末期の癌患者・家族のケアを行い、五十一人が天に召された。しかし、熊本県で初めてのホスピス承認といううことは、以前より行ってきたカトリック病院でのホスピス的看護の実践が認められたことになる。

命、生を支えるホスピス

ホスピスでは、末期の癌患者の身体的痛みだけでなく、患者・家族の精神的な痛みにも対応していく。

最近、若い奥さんを「みこころホスピス」で亡くされたあるご主人が、「悩んでいた癌告知をホスピスで行い、妻と最後に心の通い合った充実した時間を過ごせました。妻は夫である私に、『死んでしまうには余りにも早すぎるけど、自分は本当に幸せだったわ』との言葉を残して亡くなりました」と静かな口調で語ってくれた。

死は避けられないが、限られた残りの人生をその人らしく生き抜くようにホスピスでは支援する。決してホスピスは死ぬための場所ではない。生きる元気のある時にこそホスピス選択の真の価値がでてくる。その人の命、生を支えることがホスピスの仕事なのだから。

自分の意志でホスピスを選択する末期の癌患者がゆっくりと増えている。地域のホスピスとして、患者・家族がより豊かな生を送れるホスピスプログラムを、院内だけでなく在宅をも含め充実させたいと考えている。登録ボランティアであるカトリック信者の関わりによって、家庭的雰囲気を大切にする「みこころホスピス」が今後さらに育てられていくと確信している。

（手取教会）

みちくさ

夢をみた。車が狭い路地に入った。突然ワイパーが止まり、エンジンが停止した。JAFを呼ぶために近くの家の電話を借りることにした。

「ごめんください」。丁度、家主が土間に降りようとしている。手には何と黒い祈り本とロザリオをもっている。

（あれっ、この家の人、信者なのかな。けれど、大きな神棚もあるし…。とにかく電話を借りなくては）「すみません、お電話貸してください」

「いいですよ」「ところでお宅カトリックの信者ですか」

「よく判りましたね」「ロザリオと折り本を持っておられたので。私は神父です」「そうですか。実は、最近S町で洗礼をうけた後、ここへ引っ越してきたのですが、まだ教会を探してなくて、住所も届けていないんです」「そうですね、この辺だとO教会があ・りますよ、近くにも信者さんがいますよ」と得意になって話す。夢はそこで終わっている▼信者は以外に近くに住んでいる。しかし、いろんな理由で近くの教会に来れないで悩んでいる。ちょっとした機会を見つけて訪問するようになれば、相手の様子もよく解り、お互いの疎通が出来る。電話もいいが、足を運んだら不平不満も最小限に止められる。ところで、さきの夢の中の電話のことはどうなったのか。もしかしたら、車もよくなったのでは。そして、自分が行こうとしていた家は電話を借りようとした所だったかも▼新しい一年。司牧につかれてぐっすり眠れるような毎日であるように。イエス様は「人の子には枕する所もない」（ルカ9・58）と言われた。多くの人に出会い、全力でイエス様の教えを伝える今日も枕はなくても眠らねば。今朝のミサは六時半だ。【S】

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九五年　元旦

福岡教区長　松永久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　山元　眞
糸島　松井　忠之
今村　伊東　誠二
大楠　黒川　博
大牟田　伊東　成晃助祭
小郡　平田　三郎司教
久留米　中浜　一男
古賀　下町　豊重
笹丘　平田　三好
浄水通　牧山　勝美
大名町　山田　成章
高宮　三村　邦明
茶山　古賀　F・ハーン
西新　乾　盛夫
箱崎　赤倉　稔
　青木　保
　山川　辰幸
　中村　信哉
　春山　勝美
　片岡　仁志
　堤　要吉
　平田　敬
　T・リシャール

光丘　J・バイヨ
二日市　堤　敏雄
本郷　川上　惣一
吉塚　B・シュルツ
老司　G・カツァニーガ
大神学院　高見　三明
教区神学院　高木　善行
聖パウロ会　J・ツルデル
杉原　寛信　Z・イエール
御受難会　大山　悟
鈴木　忠一　櫻井　尚明
畠　基幸　牧山　強美
M・ベッター　森山　信三
G・ブレシュット　戸村　修
イエズス会　S・オチョア
K・ウーリック
A・セトアイン
塩谷　恵策
外川　直見
梶山　義夫

カルメル会　徳山　登
皿山F・C　S・ライル
司牧センター　M・コース
聖マリア病院　尹　汝沃

〈北九州地区〉

飯塚・田川　深堀　勝人
黒崎　L・ベリオン
小倉　岩永　義人
中村　彰
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑　浦口　均
直方　山下　正
八王子　L・デシャンブー
C・バスチ
E・モーゼ
水巻　J・ガイヤール
門司　A・ベルトラン
（門司港）　牧山　重光
湯川　平田　寛
行橋　浦　俊雄
若松　西田　邦洋

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガッザルディ
唐津　V・チェリッツア
佐賀　M・タルディフ
多久　A・テンペリーニ
武雄・鹿島　L・マネルバ
鳥栖　R・マグリン
馬渡島　畠山　七郎
呼子　田川　清美
ロザリオの園　A・アレグリーニ
トラピスト　C・ミケレーナ

〈熊本地区〉

荒尾　K・オマホニ
大江・崎津　V・ヤングキャンプ
帯山　山頭原太郎
菊池　R・オウエンス
健軍　鵜野　泰年
島崎　M・コーフィールド
手取　W・カリー
八吉　M・マッコンネル
本渡　T・フィッシャー
水俣　P・ダイヤモンド
武蔵が丘　J・モラハン
八代　F・マッケイ
生命山　J・ノーリス
　F・ソットコルノラ
　C・コデノッティ
在イタリア　青木　悟
在アメリカ　渡辺　隆義



第5回「カトリック愛と性を考える研修会」



福岡教区でのこの行事は十一月二十七日、佐賀カトリック幼稚園で行われ、約百五十人が参加。「カトリック家族年」を締めくくる実り多いものとなった。

ビデオ鑑賞。若者と夫婦の証し。三人グループの分かち合い。基調講演では、松永久次郎司教が「家庭のきずな・いのちと性」をテーマに、回勅「フマーネ・ヴィテ」やヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告「家庭」や「家庭への手紙」などを通して、テーマに関する教会の姿勢をはっきりと示され、ミサ聖祭をもって閉会した。

参加者の感想からー小六の時初めて、男子生徒シャットアウトの暗い部屋で性教育を受けた。快楽のみを追求する「性」アピールの広告や、酒の席上でおもしろ半分に話される性のこと。このような環境の中で育った私の「性」への気持ちが、この研修会で人間の体の神秘性、性と愛の尊さをはっきりと示され、百八十度変わったように思う。ー今回の研修会は、性の問題に神の視線と恵みの光を当て、生命と性の神秘におののく程の、感動と深い反省と希望を与えてくれた。また、教会の財産ともいえる教導権の重みをずっしりと感じさせられた。回勅「フマーネ・ヴィテ」は発布当時から「時代遅れで人人の期待に応えるものではない」と反対され、パウロ六世教皇はひどく心痛されたという話に胸がうずいた。命の尊さと家庭を守ろうとされた勇気ある教皇様のこの予言的回勅こそは、人の命と性が軽んじられる今日にこそ、見直されるものであると思った。

「カトリック」って何だろう



カトリックの本質を知る

－北九州信徒協主催－

北九州信徒使徒職協議会（大水茂市会長）は十一月二十三日、戸畑区・明治学園で信徒研修の一環として信徒、未信徒約二百人を集めて講演会を行った。

カトリック信徒として、日頃、信仰生活をしながらも、カトリックの本質とは何かを案外知らないのでは…カトリックとは何かを見詰め直してみようと、テーマを「カトリックってなんだろう」とした。

本多氏は「ユダヤ教を基本とするキリスト教がローマと出合い、長い間西洋を中心にカトリックが続いてきたが、宗教、医学、政治などさまざまな分野で行き詰まってきた。カトリックと東洋の出合いこそがカトリックを救うのでは…」との問い掛けで問題提起した。一方、松永司教は混宗婚（プロテスタントとの結婚）、異宗婚（異教徒との結婚）を含めた家庭生活における基本的な信仰教育のあり方を示唆した。

講演会後、聖体賛美式を行い集いを終えた。

水巻教会　川島晋二

ナザレ園児も　共同募金に



街頭募金に立つ園児たち

十二月四日、きびしい冷え込みの朝、八代寿屋百貨店玄関前で、約一時間あまりの募金活動を行いました。もう十年も続けていますが、信徒の自主的な活動に加えて、毎年施設ナザレ園の園児たちもシスターに連れられ、たすきがけで道行く人々に声もかれんばかりにお願いしています。自らも募金箱に入れます。

本年は、幸い八代殉教祭と重なり、熊本県下の信徒の皆さんの協力もあり、三万三千円を八代市社会福祉協議会に納入。年の瀬を控え、恵まれない方々の一助となることを願いました。

往時をしのぶ

～八代殉教祭～

十二月四日、熊本県内の信徒約百五十人を迎え、第五回八代殉教祭が行われました。

記念碑前の儀式では、殉教した十一人のプロフィールがそれぞれ朗読され、往時を偲ぶのに十分でありました。三百九十年ほど前のことでありますが、六歳、十二歳の幼い子を含めたくさんの人が、七年間にわたって処刑され、考えても涙を誘う限りでありました。

聖堂でのミサは、八代教会元主任のS・カレン神父様が司式をなさり、現主任J・ノーリス神父様による、鹿児島県知覧から飛び立った若い純粋な特攻隊員と、この殉教者たちとを比較しながらの説教は、参加者たちに感銘を与えました。

式典、およびミサには、J・モラハン（水俣）、W・カリー（手取）両神父様のあたたかいお力添えがありました。

参加者一同は、久しぶりの出会いの中で、歓談の機会もでき、楽しい半日となりました。

八代教会　斎藤正道



きびしい迫害の時代をしのんで

福岡カトリック神学院生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭との相談の上、福岡カトリック神学院（〒810 福岡市中央区浄水通38　☎092-531-6821）までご連絡ください。

【入学条件】

①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）

②主任司祭の推薦が必要

※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

院長　森山 信三

福岡サン・スルピス大神学院

【入学案内】

資格　カトリック男子
高校卒業以上の学歴
（受洗後3年経過）

試験
日時　1995年2月上旬
科目　国語、英語、宗教、ラテン語、小論文、面接
※大学卒業の場合：ラテン語、宗教、小論文、面接

手続き　司教の推薦状、主任司祭または、小神学院(校)院長推薦、その他必要書類

〒814-01 福岡市城南区松山1-1-1

【問い合わせ】
TEL　092-871-4943
FAX　092-863-6329
院長　高見 三明

特別企画
ピリオドの集い　－募集中－
生活にピリオドを打って新しい頁を開いてみませんか？
①1月20(金)～22(日)　②2月24(金)～26(日)
③4月21(金)～23(日)　④5月19(金)～21(日)
〔時　間〕各金曜の夜（夕食は済ませておいで下さい）～日曜、昼食後解散
〔対　象〕男性　〔会　費〕12,000円　〔世話人〕鈴木 忠一
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

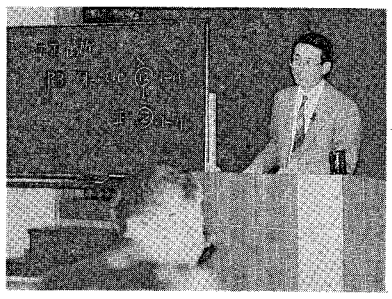
有限会社　**共立総合防災**
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

驚き・発見・喜び＝聖書講座

聖書週間特別講座
テーマ「エデンの園」

聖書週間最後の十一月二十七日、福岡カテドラルセンターにおいて、旧約聖書、特にモーセ五書を専門とされているマリア会の杉暁生神父様をお迎えして特別講演が行われました（＝写真）。



講演のテーマは『エデンの園』木の実、胎の実、大地の実（創世記三章一節―二十四節）で、日本語の聖書の文面からはうかがい知れない、知的な遊びとも言えそうな興味深いお話しが、エデンの園に登場の神・人・女・蛇の位置関連から展開された。尚、結びにはアダムによって引き起こされた禁止（木の実を食べてはいけない）が、イエス・キリストの受難と死によって禁止が撤回された（取って食べなさい。これはわたしの体である）とも言われ、人祖によって失われた神の恩恵を第二のアダムであるイエス・キリストによって回復された、ということの他の面をも見せてくださいました。当日は、待降節第一主日に当たっていて市内の教会では、それぞれ予想外の多忙さに来場できず出席が三十人に満たなかったことは、大へん残念なことでした。

大名町教会　鈴木美子

尚、二十六日には小倉教会で、約五十人の出席者を前に同神父の講演会が行われた。

イエスは仰せになった。「幼な子たちをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのを止めてはならない。」

聖書講座を毎回最前列のS席で与からせていただきました。イエスのみことばを足もとで耳を澄まして聴いたのは本当にお恵みでした。福岡教区の神父様方を講師としておこなわれた聖書講座は、私たち受講者にとって多くの教区の神父様と出会う機会にもなりましたし、みことばをいろいろな側面から味わうこともできて、驚きと発見と喜びのうちに、毎週帰路についていました。

果して私の聖書理解のレベルは少しは上がったのかしらと思うと、あまり自信はありませんが、何か変わったところと言えば「聖書ってすばらしい。もっとイエス様を知りたい」という思いが強くなったことだと思います。神さまからの愛の手紙を一生読まずに本棚においておくのは本当にもったいないことだと思います。そこにいっぱい詰まったよろこびのメッセージをまずよく聴いて、その福音の価値観で生きていこうと思います。特にこの日本の現代社会の中にあって、勇気と希望と喜びをもって初代のイエス様の弟子たちのように、私も今全てを捨てて、イエス様についていっています。

今年もまた喜びいさんで聖書講座に参加しようと思っています。神父様方に期待を寄せながら、祈りのうちに。

聖心のウルスラ宣教女修道会　修練者　牧野まり子

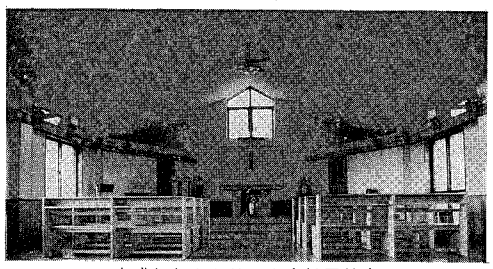
神の息吹を実感

南粕屋教会誕生

十二月十一日、福岡県粕屋郡に南粕屋教会が誕生した。この日各地から多くの関係者が集う中、厳かに聖堂祝別式と落成式が挙行された。司式は教区長松永久次郎司教。傍らには、主任司祭B・シュルツ神父が付いた。

まず、司教は水を祝別し、祭壇と会衆に散水した。

続いて多くの司祭を伴うミサが捧げられた。初めて朗読される聖書が司教から朗読者に手渡された。すべてが新しく感じられるミサに会衆は神の息吹を実感した。司教は、「教会は神の住まわれる所、信者が祈りと愛の業を行い、それを伝えるために出発する所である。この場所で祈り、社会のために福音を伝えて欲しい。地域の人々、関係者、信者に感謝したい」と述べた。



完成したカトリック南粕屋教会

ミサ後の落成式では聖堂にて、司教から関係者に対する感謝と信者への励ましの挨拶があり、主任司祭の挨拶があった。さらに司教より建築関係事業所に感謝状が贈呈された。吉塚教会の信徒会長からの挨拶もあり、「これまでに導いてくださった神と司教様に感謝いたします。主任司祭と信徒により一層頑張って欲しい。神の恵みを祈りたい」と述べた。長年苦楽を共にした建設委員長の謝辞もあり、一層尽力することを語った。

祝賀会は、会場を駐車場に移し、県会議員を招いて手作りの料理で行われた。

尚、この教会は志免教会から改名されたもので、吉塚教会の巡回教会である。建設委員会が一九八三年に発足、九四年七月着工、十一月竣工、そしてこの日に献堂式を迎えたのである。

祈りにつながるステンドグラス

浄水通教会

十二月十一日、浄水通教会のステンドグラスを松永久次郎司教様から祝別していただきました。

以前の窓には立派な絵画が描かれていましたが、残念ながら年月を経て褪色してしまったのです。そこで、青木保（主任）神父様のご発想があり、改修工事に踏み切ったのです。

式では、「工事にあたっては、もちろん司教様のご意見を伺ったうえでした。小教区信徒全員に大変な犠牲をはらってもらいました。ドミニコ会のA・カルペンティール神父様の素晴らしいデザインです。業者、関係者の皆様、多額のご寄付をくださった方々に心から感謝致します」と青木神父様の言葉がありました。

式後には、皆で心を合わせて準備した祝賀会がありました。一皿持ち寄りの料理。楽しい会話。しめくくりは、聖歌「しあわせな方マリア」を歌いました。盛大で心の通い合う集いとなりました。

クリスマスのミサには、ステンドグラスは教会の灯りで外にも素晴らしく浮かび上がることでしょう。その光が道行く人を神の民の集う教会へ導いてくれるように。そして教会で心を合わせて祈る私たちに「マラナ・タ」！

浄水通教会　浜崎正幸

「設立の精神を今日に！」

みこころホスピス

熊本市のイエズスの聖心（みこころ）病院のホスピス病棟が、十一月一日付けで厚生省施設基準を満たす緩和ケア病棟として熊本県第一号の承認を受けた（＝写真）。



「みこころホスピス」開設記念式典及び感謝パーティー

十一月二十九日に「みこころホスピス」開設記念式典と感謝パーティが挙行され、内外からの祝福を受けた。式典では、理事長のシスター脇山ミキコの挨拶に続いて来賓の祝辞があった。中でも、ホスピスの遺族を代表して若い妻をホスピスで看取られたご主人の辞は、ホスピスとの出会いや告知に関する内容で参加者に深い感銘を与えた。

みこころ病院は、一八八九年（明治二十二年）に四人の「ショファイユの幼きイエズス修道会」会員の来熊に始まる。今回のホスピスの開設も「設立の精神を今日に！」との取り組みの中から始まった。

ベッド数十五床、スタッフ十六人とボランティアの協力を得て、人生の終末期を迎えた方々の生を支え、安らかな最後の看取りを在宅ホスピスを含めて頑張っている。

教区長松永久次郎司教も、「人生の完成に備え、やり残した仕事を成し、言い残す言葉を伝え、感謝して、この世との別れをする看取りを希望する」と、関係者を励まし、参加者に「みこころホスピス」への協力を要請された。

医師　井田栄一

市民クリスマス

十二月十二日、福岡市民会館にて、毎年恒例の「福岡市民クリスマス」が行われ、約九百人の市民が集った。

今年は福岡中部教会の東島勇気牧師がクリスマス・メッセージを述べた。同牧師は現代社会の中でクリスマスが華やかに祝われるようになったと同時にクリスマスの意味がその華やかの中に埋もれ、忘れられている。人間を真の幸福に導いてくれるみことばであるイエス・キリストの誕生は人間にとって大きな喜びであると力説し、みことばに生活の基礎をおき、みことばに導かれて生きよう、と呼びかけた。

また「クリスマスの喜びを歌にのせて」ということで福岡女学院短期大学ハンドベルクワイヤによるハンドベルの演奏があり、参加者全員も賛美歌を数曲歌って、クリスマスの雰囲気を盛り上げた。プログラムの後半はウィーン在住のオペラ歌手岩田隆子さんの「クリスマスを歌う」と題してのリサイタルで、歌の合間に話される岩田さん自身の信仰体験は美しい歌声と共に参加者に訴えるものがあった。

最後に参加者全員による「ハレルヤ・コーラス」で終了した。

エキュメニズム担当　櫻井尚明神父



BOOK 読みは専科

★祈り

マザー・テレサ　ブラザー・ロジェ



祈りとは何か、どのようにしたら祈ることができるか。世界各地でこの問いかけが熱心に行われる。祈りが何を意味しているのか、日々の生活の中で、人びとがどのようにその祈りを生きているのか。この問に答えるために、マザー・テレサとブラザー・ロジェは、小さな本をまとめた。本書は、十二章から成り、それぞれの章を二人が半分ずつ書いている。祈りとは何かを体験と人びととの出会いをもとに書いている。

中央出版社　七〇〇円

しめやかに　墓前ミサ

熊本地区

十一月二十日、手取教会のM・マッコンネル神父様司式の墓前ミサが熊本立田山カトリック納骨堂で捧げられました。

十八日頃から熊本では、雨が降ったり止んだりしていましたが、この日は朝から快晴の行楽日和、福岡や佐世保からの参加者もありました。

ミサに与かった人は百三十人位。ミサ後、遺族は墓前で祈りを捧げ、解散しました。

現在この納骨堂は、永眠者数五百七十二人（司祭五人を含む）を収容している。

熊本カトリック納骨堂管理　深堀秀市

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石他 / 理石 / 影の / 御そ }
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

1・2月の行事

※ゴチックは司教日程

1月

1日 元旦・新年のミサ［カテドラル］
8日 主の公現
筑後ブロック成人式ミサ［今村教会］
北九州ブロック成人式ミサ［小倉教会］
9日 主の洗礼
10日 司祭新年の集い
教区顧問会
15日 松永司教着座記念日
18日 キリスト教一致祈祷週間（～25日）
22日 福岡ブロック成人式ミサ［カテドラル］
25日 聖パウロの回心
28日 児童福祉の日（指定献金日）
教区信徒協役員会［カテドラル］
31日 短期キリスト教講座①［カテドラル］（以後毎週火曜日、3月7日まで）

2月

2日 主の奉献
5日 日本26聖人殉教者
老司教会堅信式
7日 司祭評議会
10日 アド・リミナ（～18日）
［司教ローマ訪問］
11日 教区修道女連盟研修会
12日 信徒使徒職委員会全国大会［カテドラル］
17日 福音刷新コースII（～19日）［福岡黙想の家］
22日 聖ペトロの使徒座
26日 今村信徒発見記念日

福岡黙想の家

▼6(金)～13(金) 休館
▼15(日)～16(月) 聖母カテキスタ会
▼20(金)～22(日) ピリオドの集い
▼2月2日(木)～5(日) 後援会会員のための黙想会

■教区成人式 福岡教区の青年は、大きく5つのブロックに分かれて活動しています。成人の日にあたり、各ブロックで成人のお祝いが行われます。多数のご参加をお待ちしています。★8日北九州ブロック［小倉教会（新年会）13時～］★筑後ブロック［今村教会（司教ミサ）11時～］★15日熊本、佐賀ブロック［各教会で］★22日福岡ブロック［カテドラル（司教ミサ）13時］［問合先］各小教区宛に配布されるチラシをご覧ください。

■松永司教様の教皇文書研究会 教皇様の使徒的勧告『信徒の召命と使命』を読んでいます。［日時］木曜日10時～11時［参加費］500円［場所］カテドラルセンター一階講堂［主催］福岡地区婦人会［問合先］山口紀子☎0921-45532★1月の日程についてはお問い合わせください。

■第1回短期キリスト教講座「生きるとは」 カトリックを紹介する講座です。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターがつきます。［日時］1月31日～3月7日まで毎週火曜日（全6回）昼の部10時～11時45分、夜の部19時～20時45分［場所］福岡大名町カテドラルセンター一階ホール［参加費］全6回3000円（1回800円）［日時・テーマ・講師］①1月31日・カトリック教会へようこそ・山元眞神父、②2月7日・病気、老い、死、苦しみ・井田栄一、③14日・子供の躾と教育≪昼の部・0歳から9歳まで・土岐圭子≫≪夜の部・思春期、青年期・Sr.村木敏子≫④21日・夫婦・深堀邦枝、⑤28日・生命の誕生・小山一、⑥3月7日・聖書とキリスト教・森山信三神父［申込締切］1月23日(月)受講料は当日受付にて［問合・申込先］各教会、Sr.西田（平日13時～18時☎092-715-1061、教区本部事務局（平日10時～12時☎092-522-5139、FAX092-522-5152≪24時間≫〒810福岡市中央区浄水通39［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会

■結婚準備セミナー 結婚の準備はお早めに［福岡］2月9日より毎木・土曜日（全8回）［場所］カテドラルセンター［問合先］カトリックファミリーセンター☎092-541-1620［熊本］1月23日より毎月・水曜日（全8回）［場所］カトリック手取教会［問合先］手取教会☎096-352-3030

■信徒使徒職委員会全国大会 2月12日(日)9時～15時［テーマ］教皇ヨハネ・パウロ2世の使徒的勧告「信徒の召命と使命」から学ぶ―働くこと―（家庭で、職場で、社会で）～信徒は働くことを通して信仰を生きるのであり（在俗性）、働く場がすなわち宣教の場でもあるという現実をよく理解して、もっと生き生きと誇りを持って働けるように、働くことの意味を深く探る［場所］カテドラル大名町教会［参加費］無料（昼食代別）［申込先］各教会［問合先］深堀純☎092-801-5351

ミニ情報

■ルワンダへの中古衣料、約16万着に 11月上旬から中旬にかけて集められたルワンダ援助のための衣料品は全国で16万着にもおよんだ。大名町教会に集められた衣料は、有志女性の協力を得て整理、梱包され、ダンボール百四十箱が東京に送られた。全国から集まった中古衣料は約二千五百箱（十六万着）、毛布は五百箱（二千五百枚）。今年一月初めにケニアのモンバサ港に到着。その後陸路で二月中旬にザイール・ブカブに着く。

■福岡「生と老い・死を見つめる会」 この会はだれでもが生と死について考え、学び、行動することのできる場となることを目指しています。［定例会］毎月最後の日曜日［時間］14時～16時［場所］カトリック大名町教会四階会議室［年会費］3000円賛助会員一口一万円（何口でも可）［定例会費］500円［事務局］大山美穂子☎FAX092-713-8523

■SE・CO「春の集い」 ［日時］2月12日10時30分～14時［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院ホール［お話］山元眞神父［問合・申込先］龍☎092-581-6838、吉田☎092-5156117801、Sr.富山☎092-515-1022≪連絡は19時以降に≫

■カトリック中央協議会広報部推薦映画

□『裸足のマリー』（フランス映画）ベルギーの地方に住むマリーという女の子が、妊娠し、恋人に捨てられ、友人の裏切りに出会い、家出をし、ブリュッセルからリスボンへ旅をする。その旅路の中で次第に生命の尊さ、本当の愛に気づき、人間として成長してゆく。

□『コリーナ、コリーナ』（アメリカ映画）母親を亡くして以来口をきかなくなった女の子モリーと、その父親でCMソングの作曲家のレイの心を、黒人メイドのコリーナが開いていく。コリーナには「天使にラブソングを」で人気を博したウーピー・ゴールドバーグが扮している。50年代の黒人差別が当然のように行われていた時代背景を織り交ぜながら描いている。

日本カトリック研修センター

◆コース案内

福音刷新コースII［テーマ］小教区と家庭～NICEIIを受けて開かれた教会が地域社会へ福音的に関わるとは？「家庭」に焦点を当て、社会から遊離しているといわれる教会と信仰のあり方を見直す。［日時］2月17日(金)16時～19日(日)13時30分【場所】福岡黙想の家［対象］信徒、修道者、司祭［費用］20000円（消費税600円は別）

◆進学・就職試験受験の時期にあたり、地方から名古屋周辺に来るミッションスクールの受験生、ならびに卒業・入学など学校行事出席者とその家族関係者の便宜を図り、宿泊施設を以下のとおり特別提供します。なお、未洗者の場合はカトリック関係者の紹介を原則とします。［期間］12月1日～4月10日［対象］受験生（進学・就職）、入学・卒業など学校行事参加者とその関係者［料金］宿泊（1人1泊）3500円、食事（朝食500円／昼・夕食各1000円）

［問合先］**いずれも**〒466名古屋市昭和区広路町隼人30日本カトリック研修センター研究企画部☎052-831-5037

…　…　…

1月命日の司祭

†ジョセフ・フレスノン神父（パリ外国宣教会）
一九二九年一月
元久留米教会主任
†ルドビコ・ガルニエ神父（パリ外国宣教会）
一九四一年一月十九日
元大江教会主任
†アウグスチン・ハルブ神父（パリ外国宣教会）
一九四五年一月十四日
元崎津教会主任
†グスターブ・ロー神父（パリ外国宣教会）
一九五〇年一月一日
元人吉教会主任
†ジャンマリ・マルタン神父（パリ外国宣教会）
一九七五年一月十八日
元大牟田教会主任
†ジェームス・ドノフ神父（聖コロンバン会）
一九八五年一月二日
元菊池教会主任
†ヨセフ牧山藤房神父
一九九三年一月二日
福岡司教館

三年目



司祭に叙階されて三年目である。これまでを振り返りながら、今の自分をみつめていきたいと思う。まず一年目は何がなんだかわからず、次から次ぎにくる仕事に追い立てられた年だったように思う。何をするにも余裕がなく力が入り過ぎていた。新司祭ということで信者さんに受け入れてもらったところが多々あったように思う。次に、二年目は教会の年間行事も頭にあり、一年目よりはある程度余裕を持って事にあたっていけたように思う。働く教会が変わり、人もやり方も違う中で、自分がやりたいこともさせていただいた。様様な人々との出会いの中で、自分の足りなさがよく見えてきた年であった。司祭とは何なのか、気づかされた点を反省しながら、これからの自分の歩みにしたいと思う。

司祭はもう一人のキリストと言われ、預言者・牧者・祭司の務めを果たします。教会内においても教会外においても司祭は、人と違って見られ、何かしら一段と高い所で生活しているように見られます。キリストは神でありながら人となられた。しかも、当時、罪人とされ、差別されていた人々の友となられた。最近、共に生きるということばが、教会内においても社会においてもよく出てくる。ことばだけが先走りで、いかに行いが伴っていないか反省させられる。人を感動させる説教や講話をしても、自分の生き方で証しできなければつまづきになることもある。悟ったふりして人に話をするが、本当に悟っていないことに気づかされる事もある。司牧の範囲を教会内だけに狭めて、宣教する姿勢に欠けていることがある。信者でない人から福音的な価値観に気づかされる事もある。秘跡を行うにあたって儀式書の字面にとどまって、あるいは祈りが足りなくて生きている神と、生きている秘跡との交わりに鈍感な時もある。

この他、いろいろな点で自分の足りなさを自覚させられる。まず、この自分の弱さを受け入れないと司祭としてやっていけないなと思う。また、この弱さを通して働かれる神に自分を道具として捧げること、自分を変えていくことも必要だと思う。

そういった意味では、これからの自分がどう変わるのか、神の働きかけが何なのか楽しみでもある。三年目を決して安堵の年とすることなく、これからの歩みに期待したいと思う。

小倉教会・中村　彰

編集室から

神からいただくこの一年、大切にしていきたい。これを書く時間も過ぎて行く。充実したものにできるかどうか、自分にかかっている。災難がかかってこないように。かかってきても乗り越えていけるよう祈りながら過ごしたい。また一年、宜しくお願い致します。

【おことわり】
今月号の、司祭のコラム・自由席・幼稚園のできごとは紙面の都合でお休みです。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

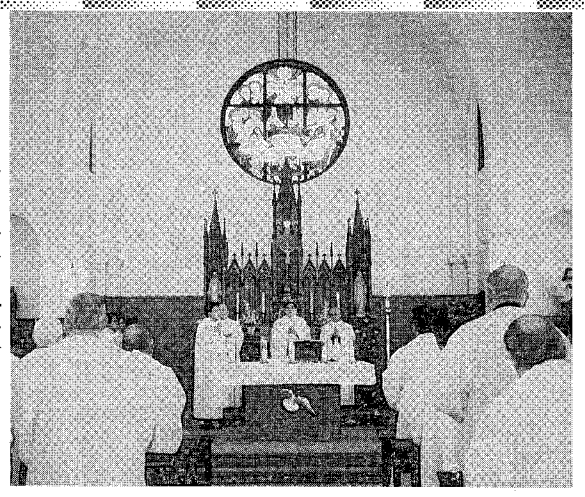
カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

2000年に至る準備を

司祭自身が心身共に健康的に

一月十日、福岡教区に在住する司教、司祭の新年の集いが司教館にて行われた。新年祝賀会に先立って、浄水通教会で松永久次郎司教司式の新年のミサが行われた。同席した平田三郎司教をはじめ約七十人の教区在住司祭、近くの修道者、教区大神学生、信徒で教会はほぼ一杯になった。新春に集う司祭たちの顔は一層希望に満ちたものであった。



一年の恵みの祈願

ミサが始まり、伊東成晃助祭の福音朗読の後、松永司教の説教。

「年の初めにあたり、感謝と賛美の祭りを共に捧げることは嬉しいこと。一年の区切りに当たり、過ぎた一年の恵みと新しい年をいただいたことに感謝し、実りの年に出来るよう祈ろう。互いの不足・欠点をゆるし合い、励まし合い、協力していこう。また、教皇から出された書簡の中にあるように第三千年期を考え、日本でも待望される事柄に心を留めよう。数年後には、日本二十六聖人四百周年と聖フランシスコ・ザビエルの来日四百五十周年を迎える。彼らはこの福岡教区の地を歩んだ人々であって、縁のある人々である。何かを準備しなければ。さらに、教区内の殉教者の列福調査が進められているが、四組十一人の該当者が祭壇でも尊敬されるようにしたい。また、教皇が話されているように、一九九七年（キリストの年・洗礼の年）、一九九八年（聖霊の年・堅信の年）、一九九九年（御父の年・ゆるしの秘跡の年）を考えながら、二千年に至る準備をしていこう。先に、年頭のメッセージで『二十一世紀のために教会を整える』とテーマを出したが、先ず司祭団が充実していくように。とりわけ、召し出しに力を入れること。そして、司祭自身が心身共に健康で、信心においても知的にも高揚するように。交わり、励まし合い、福音に生きるように。生きて教える人の語る教えはいつも新しく、生きているものである」と司教は述べた。

ミサ後、司教館で催された新年祝賀会で、新しく赴任した司祭が紹介され、祝宴の和やかな一時を過ごした。

今月のみことば

「七の七十倍までゆるしなさい」（マタイ18・22）

パウロ会　楠本　正良修道士

時の話題

中筋　一郁

長洲町に居た頃、雲仙岳を眺め乍ら、小・中学校に通った。教室では、前は黒板、左側の窓には雲仙岳があり、天気予報も雲仙岳から教わり、私を慰めてくれた山だった。

それから四十年、悠々とした山が突然噴火した。唯驚くばかりであった。地元深江町では、住家、畑も火山灰にのまれ死傷者も多数出た。本当に気の毒な事である。噴火を鎮める祈願祭が地元で行われるテレビ放映を見て、神の事を思い、原点を見つめた。二百年前にも大噴火があった。二百年の年月は人間にとっては長い歳月だが、地球規模からみると、一呼吸かも知れない。人の一呼吸は一秒でも、地球の一呼吸は二百年かも知れないと思った。その雲仙災害に遇い、深江町から引っ越しのため、夫婦と子ども一人の家族が玉名駅に降りた。当地には、親戚も知人も無く、足の向くまま駅前を真っすぐ歩き、駅より五百米位の所にやっと住まいを求めることが出来た。熊本の水前寺付近まで行く予定だったのが、玉名の途中である。それから古本販売を始めた。店は初めのうちは誰も知る由もなかった。そうした或る日、テレビ記者が古籍を求め店に来た。記者は主人との世間話の中で雲仙被災者と知り、感動し、番組を製作した。数日後、「雲仙被災者玉名で生きる」のタイトルで、ドキュメンタリー番組としてくまもと県民テレビで放映された。それで客も多くなった。良いことにも追いうちがあり、熊日新聞のローカル版にも掲載され、玉名で話題になった。この方の話によると、「玉名駅に降りた時は、教会が何処にあるのか知る由もなかった。今は神様からこんなに守られている。神様におまかせしていたら、何も心配することはありません」とのこと。

自然と人間

私は昨夏、阿蘇山登山をした。高岳（阿蘇五岳の最高峰）から、中岳（噴火口の山）を眺めると、大自然のすばらしさを味わえる。が、噴火口の崖っ淵にまで人が豆粒の様に群がっているし、おまけにロープウェイが火口淵まで引いてあるのを見るとき、地球が一呼吸すると大惨事になると思った。科学に頼り、爆発予知が可能だから良いけど、そこには人間のおごりがあるように思えてならなかった。

（玉名教会）

殉教者の遺骨、マカオから到着

―教区民遺徳を偲ぶ―

マカオ（ポルトガル領）に保管されていた日本人殉教者の遺骨の一部が一月二十日、福岡空港に到着した。教区内外の信者、関係者は、三百八十年ぶりの帰国を喜びのうちに出迎えた。遺骨は長崎に安置された。

帰国したこの遺骨は一五八七年から一六一四年までに、キリシタン迫害によって殉教した信徒たちのもので、宣教師が日本から追放される時、マカオに長崎から運ばれ、サン・パウロ学院聖堂に安置されていたものである。一八三五年に同聖堂が火災にあったために、遺骨は他の教会に移された。最近までコロアネ島の聖フランシスコ・ザビエル教会にて歴代司祭によって大切に保管されていた。

遺骨の返還については、草の根レベルでの粘り強い運動が行われてきており、九一年に日本カトリック司教協議会が殉教者の遺骨確認と鑑定のため、キリシタン殉教史に詳しい日本二十六聖人記念館館長らを調査団としてマカオに派遣した。調査の結果、現地に安置されている遺骨の中に一五八七年から一六一四年に日本で殉教した人々が含まれていることはほぼ間違いないと結論された。遺骨の引き取り日時や保管場所などについてマカオの教会関係者と協議を重ねてきたのである（資料提供＝カトリック新聞）。

今回の返還で遺骨の五十九体が、マカオの司教らと共にマカオから福岡経由で長崎に入った。

三つの木箱に納めた遺骨

殉教者の尊い遺骨は松永久次郎司教をはじめ、多数の司祭、修道者、信徒の出迎えの中、定刻通り福岡空港に到着した。当日は『大寒』とはいうものの、さして冷え込むこともなかったが、集まった人々の篤い信仰の熱気で包まれた。今回里帰りを果たした遺骨は五十九人の殉教者で、その中にはすでに二十六聖人の一人として尊敬されているディエゴ喜斉のものも含まれており、現在列福調査中の二十五人も含まれている。福岡教区に関しても、小倉の加賀山隼人、八代の竹田五兵衛をはじめ十数人という多くの殉教者が含まれており、それが誰のものか特定することは困難だが、長年異国の地にあり、この度祖国に返還されたこれらの尊い遺骨が誰のものであれ、大きな喜びであり、励ましとなる。

空港で出迎えた信者及び関係者は、かつての迫害に屈せず信仰を守り通した殉教者の篤い心に思いを馳せ、遺徳を偲んだ。「彼らが母国に帰ってきてうれしい。彼らを通して、日本の信者が信仰に燃えるようにとの神のお計らいである。中には小倉や八代の殉教者もいる。福岡教区民として手厚く歓迎しなければ」と信者の一人は話していた。

尚、遺骨は日本の教会が進めている「列福のための調査」の対象者百八十八人の中に含まれている。

返還式は一月二十二日に長崎カテドラル浦上教会にて、島本要長崎大司教司式のミサの中で、荘厳に行われた。今後の安置場所については、三つの遺骨箱のうち二つは長崎の日本二十六聖人記念館に展示され、他の一つは長崎大司教館に保管されることになる。

今回、遺骨と共に来日したのは、マカオのドミンゴス・ラム司教をはじめ、マカオ領事夫人など二十六人程で、長崎の市内、雲仙、平戸、生月などを訪問し、二十五日に再び福岡から帰国した。





▲殉教者の遺骨が納められた木箱に花束が捧げられた。

◀殉教者の遺骨の到着を待つ信者の皆さん。市内から約100人が出迎えた。

みちくさ

今年もスタートした。いい年にしたい。キリストがともにいてくださるように▼年少の女の子、ヘアバンドを手にしていた。お母さんから買ってもらったのだとにこにこしながら見せる。私は、「ちょっと見せて」と手に取った。「へーっ、良かったね」と言ったが早いか、誤って落としてしまった。とたんに女の子は、「あーあ、汚れちゃう」と言いながら急いで拾おうとする。普段は服とかかまわずに汚しているのに、母からの特別なプレゼントとなると、大事に、きれいに保っていたいらしい。この子に限らず、私たちも子どもの頃からいろんな特別なものを貰っている。その時の喜びようは表現できないくらいだ。両親が買ってきてくれたもの。一緒に行って買ってもらったもの。自ら作ってくれたもの。その時、その時に大切な場所に飾っては眺めていた。私も中学卒業の頃に買ってもらった腕時計は今でも大切にしている。思い出は見えるものとともに残る▼私たちは見えるものを通していろいろなプレゼントを神からいただいた。洗礼の時は水を通して、新しい命をいただいた。周りの人からも祈りと祝福をいただいた。初聖体の時には、わくわくしながら、大きな恵みであるイエス様ご自身を。初告解の時は、どきどきしながらゆるしの恵みを。堅信の時も、叙階の時（ある人は結婚）も…。今でもいただくゆるしと聖体。でもいただくための準備は完全だろうか▼私たちの魂には衣食住が必要。キリストを着け（衣）、キリストを食べ（食）、キリストが住む自身の心（住）を大切に思い、美しくしておくように。私が特別にいただく神からのプレゼントが汚されないように。

【S】

しみじみと…人との出会い

最近、驚いたことがあります。そして、その驚きはいつか感激に変わっていたのです。

ところで、人との出会いを通して、教えられることは数多い。人との出会いを通して温かさを味わったり、厳しさを教えられたり、時には勇気づけられたり…。しみじみと人との出会いは大切だと思います。

大牟田教会に転任して、一年が過ぎようとしています。「出会いがあれば別れがある」とはよく言われることですがある御婦人との出会いは、短いものでした。何故短いかと言いますと、その時はもう病気で、結果的には亡くなられたからです。そんな彼女は、若い人からお年寄りまで幅広く関わって、いろいろな影響を与えていたようです。

私との出会いと言えば、日曜日のミサで一、二度会ったきりで、その時はまだ名前と顔が一致しない時で、病人訪問をして、漸（ようや）く覚えた次第です。その後彼女は入院し、手術し、回復は順調と聞いて安心していました。間もなく退院されましたが、体調がよくなく、再度入院、手術となったのでした。入院中、彼女と出会った多くの人たちが見舞いに行ったと聞いて、どんなに嬉しかったかと思います。でもそんな中、彼女は息を引き取ったのです。

私が驚き、感激に変わったと言ったのは、この御婦人のお葬式でありました。教会いっぱいの人がお祈りに来られましたが、そんな中、四、五人の二十歳前後の女性が泣きじゃくっていました。お子さんでもないようだが、一体誰だろうか。気になってしょうがなく、式後聞いてみたら、生前彼女が幼い時から自分の子どものように可愛がっていた人だというのです。だから、お母さんのように思えて泣きじゃくっていたのでしょう。

また彼女は、お年寄りを大切にしていたようで、よく声をかけたり、家を訪問していたようです。

初めて教会に来た人には、進んで話しかけていたようです。

この御婦人が与えた影響を思うと、嬉しくなります。それは子どもを可愛がり、お年寄りを大切にする。普通のことですが、その普通のことがいつまでも心に残る。

教えようとするのも大切かも知れませんが、もしかしたら普通に関わる、その関わりが大切であり、求められているのかも知れません。

大牟田教会　平田三好神父

教区に初めて赴任します

この度、福岡教区に初めて赴任した二人の司祭を紹介。

一人は、ザベリオ会L・メネガッツオ神父。一九五二年七月十六日イタリアのパドヴァ生まれ。日本には一九八一年から八九年に在住。後、イタリア大神学院に五年間勤務し昨年の十二月に熊本県玉名教会に着任。


メネガッツオ神父

福岡教区は家庭的な雰囲気がして好きです。「お茶」をたしなみますが、日本人と合うような仕方で、開かれた教会目指して頑張ります、と語った。


チェリッツァ神父

もう一人は、V・チェリッツァ神父。一九二四年一月九日イタリアのミラノ生まれ。ミラノ宣教会。日本には一九五二年に来日。以後甲府にて勤務。福岡には昨年九月に来て、十月に唐津教会に赴任。

福岡教区は初めてだが、若くて明るく、希望がある。神の慈しみを感じさせる所。精一杯頑張ります、と語った。

二人の健康と活躍を期待したい。

研修会を終えて

＝家庭委員会＝



福岡教区では二年前に、共同通信社の編集委員横川和夫氏を迎えて、カテドラルセンターで行った「カトリック愛と性を考える研修会」を次のように各地区で行って来ました。

第二回　パウロ六世教皇回勅フマーネ・ヴィテ（人間の生命）発布二十五周年を記念して、テーマ「家庭で生きるキリストの心―創造への参加と夫婦愛」福岡地区。

第三回　テーマ「いのちと性は神の賜物」熊本地区。

第四回　テーマ「家族のきずな、いのちと性―今私たちが知りたい結婚と家庭に関する神の計画―」北九州地区。

第五回『カトリック家族年』を祝って、テーマ「家族のきずないのちと性―自己の実現と幸せのために」佐賀地区。

二年間に亙ったこの研修会の基調講演は総て松永久次郎司教様が担当してくださり、教会の教導職による力強い真理と愛の豊かさを示してくださいました。

また、勇気と真実をもって証しされた信徒の方の話も深い感銘と共感を呼びました。

終始ご協力くださった信徒使徒職委員会・婦人会のメンバーの方々。また、参加によって研修会を盛り上げてくださった多くの方々に、この研修会を提案し主催してきました教区信仰教育委員会及び家庭委員会より心からお礼申し上げます。

今後とも多くの方々と力を合わせて進むことが出来ればと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

カテドラルセンターでの新年司教ミサ

一九九五年元旦は「神の母マリア」のお祝い日。この日カトリック大名町教会では、十時から松永久次郎司教様をお迎えし盛大にミサが行われた。

松永司教様は、教皇様の意向を踏まえて「第三千年期」の事に触れながら説教をされた。二十一世紀を前に、今はその準備期間として私たちに反省を促された。その一つに「感謝の気持ちを持つこと」を強調され、今、私たちの信仰が足りない事に注意しながら、「カトリックの中で一致があるように」と話された。

「そういう中で、一九九五年の『国際寛容年』を迎えている。しかし、社会正義も完成していない。信仰も熱心ではない。そういう環境の中で私たちの反省のヒントになるのが殉教者の人たちであり、先人たちの歩んだ道を私たちも歩いて生きてきたか？という事だろうと思う」とも話された。

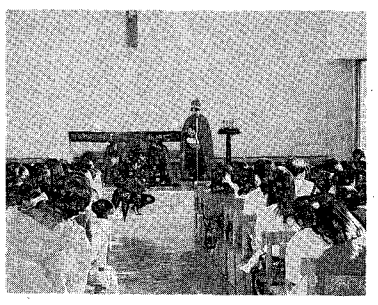
また、「一九九五年から一九九九年は『第三千年期』の特別の準備の期間と位置づけられ、一九九七年から年ごとに『イエス・キリストの年』、『聖霊の年』、『御父の年』とし、それぞれ『洗礼』、『堅信』、『ゆるし』の秘跡を考える年としたい。そのためにもカテキズムをもっと勉強しましょう」と励ました。

話の終わりに、その日は『世界平和の日』でもあり、女性の責任に触れ、「女性は生命の近くにいる立場であるからもっと世界平和への努力をしてほしい」と希望を述べられ、「自分自身、家庭、未来のことを、全ての恵みをマリア様にお願いしましょう」と話を結ばれた。（佐田一兵）

地域の親子を招いてクリスマスの集い

十二月二十三日午後、新田原教会学校では、地域の親子を招いて聖堂で「子どものクリスマスの集い」を行った。教会の小学生（約百八十人在籍）が校区の友だちに呼びかけたものだが、親子合わせて約五百人が集まった。校区に呼びかけたのは初めて。これは主任司祭の竹森勇神父が発案したもの。同神父は、「教会の周囲はほとんどが信者である。今回は教会に興味あるはずの未信者が境内地にも入ったことのない状況を憂慮して招待した。この集いを機に教会をよく観てもらい、クリスマスの本当の意味を知ってもらいたいと思う。参加者がこんなに大勢とは」と喜んでいた。

集いの第一部は、『キャンドルのつどい』でクリスマスに因む聖書朗読と聖歌。主任司祭の力強い話があり、共同祈願と祝福へと続いた。



第二部の『クリスマスのつどい』では、カリタス会のシスターの話。子どもの寸劇「しあわせの王子」（＝写真）。そして、下町豊重神父（大楠教会）の腹話術と聖書紙芝居があった。この日はサンタ・クロースも登場した。参加したある小学校の男性教師は、「主任司祭が話した西暦の起源にこんな深い意味があったことを初めて知りました。また、こんな雰囲気に触れることができて嬉しいです。」と語っていた。

お母さんの集い

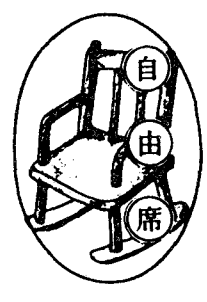
小倉教会

小倉教会（岩永義人主任神父）で一月二十四日、お母さんの集いが開かれた。この日は約五十人のお母さんが集まった。先に、中村彰神父（小倉教会）のミサについての話。

「最近の信者のお母さんの価値観が気になり、この集いを設けました。キリストの教えをもっと勉強し、キリストに価値観を求めるように願いたい。ミサはそれをよく表してくれる効果的な教えです。また、マリアのような心で子育てを」と語った。第二部で下町豊重神父の腹話術と聖書紙芝居があった。子どもたちも参加したこの集いは和やかな雰囲気に包まれた。昼食後、分かち合いが行われ有意義な一日を過ごした。関係者は、「喜んでいます。集いは続けたい」と語った。

「生と死を考える」

矢部由子



近頃、友人Iさんの姉にあたる人が亡くなった。Iさんは信者で、お姉さんを、その友人三、四人が見舞った。

当然のことながら、本人の心を除々に知ることになると、神様の恵みについて伝えたくなる。にもかかわらず、病気で亡くなるかも知れないその人に受洗のすすめをはっきりと言い出せず過ぎていく。Iさんは仏教である母親に、本人が望めば受洗することになると話し、許しを受ける準備をした。私たち友人は、着任したばかりの神父様に病人のことを話し、訪問と洗礼の勧めをお願いした。日時を打ち合わせ、一応洗礼に必要な準備もしてもらって、いつもと違う厳粛な気分で待ち、病室に入った。

神父様の温かいまなざしの「もしもあなたが望むなら洗礼を授けることが出来ます」の言葉に病人は、「お願いします」。マリアの洗礼名をいただいて、喜びでみちあふれた。今思うと神様のアドバイスだったのだろうか、二つのことがあった。出掛けにハンカチを手探りでとれば、新しいベールだった。ハッと思ってバッグに入れた。洗礼のお祝いになった。

ろうそく用のマッチがなくて困った時、一人の友人のポケットに、タバコも吸わないのにライターが入っていて、おかげで洗礼の約束のろうそくが明るく光った。約一カ月後、彼女は信者として、神様の御許へと旅立った。

人の死を通して多くを学んだ。自分にも必ずやってくる死を、静かに受けとめるために、本物の信仰に基づいた生でありたい。

ご案内
四旬節を黙想の家で…
① 3月4(土)～5(日)：山元神父
② 11(土)～12(日)：畠神父
③ 26(日)<日帰り黙想>：マテオ神父
④ 4月1(土)～2(日)：ガブリエル神父
⑤ 8(土)～9(日)：鵜野神父
⑥ 13(木)～16(日)：マテオ神父
※時間その他詳細は黙想の家までお問い合わせ下さい。(9:30～17:00)
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

誘い合わせのうえご参加ください。
日時：2月11日(土)14時～16時30分／場所：熊本手取教会信徒会館／テーマ：大本教について／講師：大本教 石田常氏／問合先：生命山ｶﾄﾘｯｸ別院

◆青年黙想会のご案内

「あなたは、冷たくもなく熱くもない」
（ﾖﾊﾈ黙・3章）

日時:3月17日(金)～19日(日)／場所：福岡黙想の家／指導：Fr.畠（御受難会）／対象：青年男女／参加費:全日程 8,000円(夕食から)、1泊2日 4,000円（昼食から)／主催：熊本ﾌﾞﾛｯｸ青年会／問合・申込先：川崎由美子 096(357)3073

◆ビデオをごらんになりました？！

ＮＨＫ人間大学の「死とどう向き合うか」で放送された全12回のビデオが完成しました。「死への準備教育」の必要性を唱えてきたデーケン教授（上智大学文学部)が生死学について解説しています。このビデオ(全12巻、ﾃｷｽﾄ付)は６月末に発売予定です。「生と死を考える会」では、ただ今予約を受け付けています。
問合・申込先：生と死を考える会事務局
〒101 東京都千代田区外神田 2-18-6 春秋社ﾋﾞﾙ

◆信仰の源泉を訪ねて

－ローマ、アッシジ、イスラエル－

聖ﾌﾗﾝｼｽｺのゆかりの地 ｱｯｼﾞから巡礼を始めるところに、この旅の特徴があります。聖ﾌﾗﾝｼｽｺの精神を汲んでローマに入ります。日本の援助による壁画の洗浄作業が最近ようやく終わった、天井画と正面の「最後の審判」を存分に見てゆきます。
日時：3月19日(日)~29日(水)<11日間>／同行司祭：戸村修神父（聖パウロ修道会）／日程：ローマ３泊～エルサレム３泊～ティベリア２泊～テルアビブ１泊／料金：370,000円(東京発着・全食事付・添乗員同行）／問合先・申込：㈱フソオワールド／担当 吉見:宮坂:岡本:清水／TEL 03(5568)5281 FAX 03(3573)3529

◆結婚準備セミナー　（ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ）

【福岡】 2月9日より毎木曜・土曜日（ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ:全８回）／問合先:ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ
TEL 092(541)6207 FAX 092(522)5022
【熊本】 1月23日より毎月曜・水曜日(手取教会：全８回)／問合先：手取教会
TEL 096(352)3030 FAX 096(324)6749

◆福岡「生と老い・死を見つめる会」

この会はだれでもが生と死について考え、学び行動することのできる場となることを目指しています。／定例会：毎月最後の日曜日 14:00～16:00 ｶﾄﾘｯｸ大名町教会４階会議室／年会費：3,000円／賛助会員:1口1万円(何口でも可)／定例会費：500円／事務局：大山美穂子 TEL／FAX 092(713)8523・市原照明 092(781)5616

◆友愛会点字教室（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ希望者対象）

視覚障害者のためのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱになってくださる方、点字を学んでみませんか。健常者と視覚障害者が共に生きることの大切さや障害者に対する心配りや接し方なども語り合える情報交換の場になります。／問合先:小柳ゆみ TEL 092(851)7993

◆成人の日に前後し、教区青年会の５つのブロックでは成人式（ミサ）が行われた。かいつまんで、その内容をお知らせする。

≪熊本ブロック≫

１月22日、手取教会にて。W・カリー神父主司式でミサ。４人の新成人参加。ロウソクを手に新しい門出を祝った成人たちは、神と人への愛の奉仕を誓う。ミサ後パーティー。

≪佐賀ブロック≫

佐賀ブロックでは合同成人式は行われていない。鳥栖教会は筑後ブロックに参加。佐賀教会は１月８日にマルコ神父司式による成人ミサ。名簿上は６人の新成人がいたが、参加したのは一人。ミサの中で特別に祝福をいただき、記念に新約聖書をもらう。

≪筑後ブロック≫

１月８日、今村教会にて。松永司教主司式でミサ。およそ５００人の信者が参加。新成人は24人。説教の中で、司教は「二十一世紀はあなたたちの時代であり、あなたたちが作るのです」と、力強く励ました。ミサ後、ビンゴゲームなどをして親睦を深める。「より一層自分を見つめていきたい」と新成人の抱負。

≪北九州ブロック≫

１月８日、小倉教会にて。午後、聖堂にて祝福式を行う。これまで成長させて下さった神と家族に対して感謝を捧げ、これから神と人への奉仕に生きる恵みを願った。その後、新年会をする。新成人者の参加者は３人。毎年参加者の数は少なくなりつつある。

≪福岡ブロック≫

１月22日、大名町教会にて。松永司教主司式ミサ。参加した新成人は20人。司教は「成人の祝い方は様々であるが、祭壇を囲んだ信者の祝い方は最も美しく相応しい。今回は関係者が少ないが多くなるよう期待する」と語った。共同祈願で、「平和を造る人であるように」「その道が神から導かれたものであるように」「感謝できる人であるように」と願う。ミサ後、茶話会。ゲームなどを楽しんだ。

CROSSROAD No.15/1995

くろすろーど

わたしの情報は　みんなの情報

CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

情報提供をお願いします

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一所懸命頑張っておられると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。本紙の名前、「くろすろーど」（CROSSROAD）は、英語で「交差道路」「横町」「十字路」を意味します。この情報欄を通して、主においてさまざまな出会いが実現し、キリスト者として共に成長できれば幸いに思います。

2月

1日(水)1995年度大神学院入学試験
　結婚講座④[熊本 手取 毎月・水曜]
2日(木)主の奉献
5日(日)日本２６聖人殉教者
　★老司教会堅信式
6日(月)聖アガタおとめ殉教者
　福岡地区祈りの集い[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ第1・3月曜]
7日(火)★司祭評議会[司教館別館 10:30~]
　短期キリスト教講座②[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 毎火曜]
　★顧問会
9日(木)★司教常任委員会［中央協議会]
　結婚講座①[福岡 ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 毎木・土曜日]
10日(金)聖スコラスチカおとめ
11日(土)★修女連研修会[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 10:30~]
　諸宗教委員会[手取 14:00~]
12日(日)信徒使徒職全国大会[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 9:00~]
14日(火)聖チリロ・聖メトジオ
　†J.オマラ[荒尾]
17日(金)福音刷新コースⅡ[黙想の家～19日]
　†J.ボア[黒崎]
19日(日)★福岡地区信徒協代表者会議
20日(月)★司教アドリミナ参加[ﾛｰﾏ ～3月2日]
22日(水)聖ペトロ使徒座
　†F.ベルトラン[門司港]
23日(木)†パウロ糸永武雄[今村]
24日(金)熊本地区・召命を祈る集い[健軍19:00]
25日(土)しののめ福祉会[中央市民ｾﾝﾀｰ 13:00~]
　「‥ﾈｯﾄﾜｰｸ」発足集会[美野島 18:00~]
26日(日)今村信徒発見記念日
　聖歌研修会[大楠 13:00~]
　†F.ドルエ[八王寺]
　†G.オーブリ[大神学院]

★　司教日程

3月

1日(水)灰の水曜日(大斎・小斎)
　聖歌と祈りの集い[黙想の家14:00~]
　†R.ミケレ[鹿島]
　†J.オブライエン[手取]
4日(土)御受難会黙想会(~5日)
　結婚講座⑧[福岡 ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 最終回]
5日(日)四旬節第１主日
6日(月)福岡地区教会学校ﾘｰﾀﾞｰ研修会
　[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 9:30～]
　†H.ジョリ[久留米]
7日(火)短期キリスト教講座⑥(最終回)
　1994年度大神学院卒業式
11日(土)御受難会黙想会(～12日)
12日(日)典礼を考える集い[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 14:00~]
　†F.M.ヴェイヨン[唐津]
14日(火)教会奉仕者・宣教奉仕者選任式
16日(木)†L.M.ベリボ[箱崎]
17日(金)聖パトリック
　熊本ﾌﾞﾛｯｸ青年黙想会[黙想の家~19日]
19日(日)信仰の源泉を訪ねて‥･[～29日]
　†J.ベラス[水俣]
　†M.ボア[新田原]
20日(月)聖ヨセフ
　松永司教霊名祝日
21日(火)春分の日
25日(土)神のお告げ
26日(日)日帰り黙想会[黙想の家 10:00~]
　†J.ドイル[荒尾]

†司祭命日

参加しませんか

◆第１回短期キリスト教講座

「生きるとは」

ｶﾄﾘｯｸを紹介する講座です。友人・知人の方をお誘いください。昼の部はﾍﾞﾋﾞｰｼｯﾀｰがつきます。

場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ大名町教会1Fﾎｰﾙ／日時：1995年1月31日～3月7日／毎火曜（全6回）昼の部10時～11時45分、夜の部19時～20時45分／主催：短期ｷﾘｽﾄ教講座福岡実行委員会／参加費：1回800円／申込：当日会場にて／問合先：各教会、ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会Sr.西田[平日13時～18時 TEL 092(715)1061]、ｶﾄﾘｯｸ福岡司教館[平日10時～12時 TEL 092(522)5139]，[FAX 092(523)2152<FAXは24時間>]、〒810 福岡市中央区浄水通 39／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：②2月7日「病気、老い、死、苦しみ」(Dr.井田栄一)③2月14日「子供の躾と教育」《昼の部：0歳から9歳まで(Dr.土岐圭子)》、《夜の部：思春期・青年期(Sr.村木敏子、幼きｲｴｽ会)》④2月21日「夫婦」(Mrs.深堀邦枝)⑤2月28日「生命の誕生」(Pr.小山一)⑥3月7日「聖書とｷﾘｽﾄ教」(Fr.森山信三)

◆松永司教様の教皇文書研究会

日時：2月9日(木)10時～11時／参加費：500円／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会／主催：福岡地区婦人会ﾃｷｽﾄ：「信徒の召命と使命」／問合先：山口紀子 TEL 092(921)4532

◆福岡地区祈りの集い

二人・三人集って祈ることを強く望んでおられる主に、心を燃やし、霊に満たされ、清められ、いやされ、強められるように一人でも多く祈る魂をお待ちしております。

1.定期の集い

日時：毎月第1・3月曜日①11時30分~13時30分②18時30分~20時30分／場所：①午前-ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ 大名町教会控室②午後－ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ 大名町教会小聖堂

2.不定期の集い

毎月１回マテオ神父様の日程に合わせて日曜日に集います。／時間：13時15分～16時15分／場所：司教館別館5F

主催：聖霊による刷新福岡地区奉仕会

☆問合先：Br.床島（教区本部 092(522)5139）

日本カトリック研修センター

◎福音刷新コースⅡ　九州会場

ﾃｰﾏ：小教区と家庭 ～NICE・Ⅱを受けて開かれた教会が地域社会へ福音的に関わるとは？

「家庭」に焦点を当て、社会から遊離しているといわれる教会と信仰のあり方を見直す。

日時：2月17日（金）16時～2月19日（日）13時30分（2泊3日）／ 場所：福岡黙想の家 ／対象：信徒、修道者、司祭／費用：20,000円（消費税600円は別）

定員：２５名

☆問合先：日本カトリック研修センター

TEL 052(831)5037 FAX 052(831)5317

福岡黙想の家

TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

◆九州ダルク開設準備

～癒しの場『ダルク』

そこに愛と共感と回復があった～

現代社会において、薬物乱用・依存は世界的な大問題となっています。ダルクでは、薬物依存の仲間、家族、関係者そして広く関心ある人々と共に薬物依存と回復について考えます。一人でも多くの皆さんの参加を心より待っています。☞DARC(ﾀﾞﾙｸ)とは Drug Addiction RehabilitationCenterの略で、薬物依存者の回復の手助けを目的とした民間ﾘﾊﾋﾞﾘ施設のことです。現在、東京ﾀﾞﾙｸ、女性ﾀﾞﾙｸ、横浜など7ヵ所あり、100名以上の仲間がﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを受けています。現在、九州ダルクの設置準備中。福岡教区では美野島司牧センターが後援します。

問合先：九州ﾀﾞﾙｸ開設準備室

大木文夫 TEL 092(542)5274

◆大楠教会のＦＡＸ番号が変更になりました。

教会の電話番号と同じになります。

ＴＥＬ／ＦＡＸ　０９２（５２１）６９４６

◆修女連研修会

司教様をお迎えして、生命に関する今日の問題、高齢化社会における問題を考えていきます。霊的講話、ビデオ鑑賞など、豊かな内容を盛り込んでいます。ぜひご参加ください。

日時：2月11日（日）10時30分（受付：9時30分）～16時／場所：大名町ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ1Fﾎｰﾙ／内容：①霊的講話：「修道者-ｷﾘｽﾄの証し人」(松永久次郎司教様)②講演：「生命倫理をめぐって」(井手道雄聖マリア病院長)③ビデオ鑑賞：「森の中の淑女たち」／参加費：1,000円（当日受付にて）／対象：福岡教区修道女、信徒の希望者／備考：自由にご参加ください。昼食は各自ご用意ください。／問合先：Sr.植木タヨ子（女子ﾊﾟｳﾛ会） 092(531)0942、Sr.黒木紗耶子（幼きｲｴｽｽ会） 096(324)6212

◆「移住労働者と共に生きるﾈｯﾄﾜｰｸ」発足集会

『外国人労働者と、共に生き、

共に支えあう社会を！！』

国際化社会の今、足もとからの交流を考えて見ませんか？福岡を中心に活動する、外国人労働者の支援ＮＧＯ（市民ｸﾞﾙｰﾌﾟ）が集まり、ﾈｯﾄﾜｰｸを結成します。

日時：2月25日（土）18時～／場所：ｶﾄﾘｯｸ美野島司牧ｾﾝﾀｰ／内容：松井やより（ﾌﾘｰｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ）講演会、ﾃｨｽｶｯｼｮﾝ、ﾐﾆｺﾝｻｰﾄ等／入場ｶﾝﾊﾟ：500円／問合先：ｶﾄﾘｯｸ美野島司牧ｾﾝﾀｰ 092(431)5701

◆熊本地区・召命を祈る集い

教区内のあちこちで、召命促進の努力がなされています。司祭、修道者、信徒が同じ意向のもとに、共同体として召命のために祈ります。特に、熊本市内の信徒、修道者の皆さんの積極的な参加をお願いします。

日時：2月24日（金）19時～20時／場所：ｶﾄﾘｯｸ健軍教会／問合先：Sr.黒木紗耶子（幼きイエズス会）

TEL 096(324)6212

◆聖歌研修会

～聖週間・復活祭の典礼～

日時：2月26日（日）13時～15時30分／場所：ｶﾄﾘｯｸ大楠教会／聖歌指導：深堀　純／問合先：ｶﾄﾘｯｸ大楠教会 TEL 092(521)6946

◆福岡地区教会学校リーダー研修会

日時：3月6日（月）9時30分～16時／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会／ﾃｰﾏ：「復活祭をどう伝えるか」／講師：Fr.ﾌﾗﾝｺ（生命山）／申込先：小教区単位で教区事務所（Fr.松井、深堀）まで TEL 092(522)5139

◆信徒使徒職委員会全国大会

教皇ヨハネ・パウロ２世使徒的勧告から学ぶ

「働くこと」 ～家庭で、職場で、社会で～

信徒は働くことを通して信仰を生きるのであり働く場がすなわち宣教の場でもあるという現実をよく理解して、もっと生き生きと誇りをもって働けるように、働くことの意味を深く探る。

日時：2月12日（日）9時～15時／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会／講師：糸永真一司教（鹿児島教区）／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：①ミサ②基調講話③分団会／会費：無料（昼食代は別）／主催：信徒使徒職委員会／問合先：深堀 純 TEL 092(801)5351

◆典礼－聖歌と祈りの集い

日時：3月1日（日）14時～17時／場所：福岡黙想の家／聖歌指導：深堀純／会費： 1,000円／主催：福岡典礼聖歌研究会／問合先：福岡黙想の家 TEL 0940(32)3222／FAX 0940(32)3385

◆典礼を考える集い

日時：3月1日（日）14時～／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会 対象：各小教区、福岡地区典礼担当者／問合先：Fr.森山（ｶﾄﾘｯｸ神学院） TEL 092(531)6821

◆しののめ福祉会－みんなの集い－

「こころの病」理解のために

日時：2月25日（土）13時～（開場12時）／場所：中央市民ｾﾝﾀｰ（中央区赤坂）／内容：①講演「家・家族・家庭」藤本義一（作家） ②仲間からのﾒｯｾｰｼﾞ「人間・生きる・やさしさ」むかい治英氏（ﾌｫｰｸ・ｼﾝｶﾞｰ）／参加費：無料／主催・問合先：しののめ福祉会事務局福岡市城南区鳥飼7-18-4 TEL 092(851)7528

◆四旬節黙想会ご案内

～主の愛を心に刻む十字架の黙想をあなたに

静かな祈りの時と生活の霊的刷新の時～

①3月4日（土）昼食12時～3月5日（日）午後／指導：Fr.山元／会費：7,000円 ②3月11日（土）午前11時～3月12日（日）16時／指導：Fr.畠／会費：7,000円 ③3月26日（日）午前10時～午後《日帰り1日黙想会》指導：Fr.ﾏﾃｵ／会費：1,000円④4月1日（土）午前11時~4月2日（日）午後／指導：Fr.ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ／会費：7,000円⑤4月8日（土）午前11時～4月9日（日）16時／指導：Fr.鵜野／会費：7,000円⑥4月13日（木）17時～4月16日（日）昼食後《聖なる過越の三日間と主の復活》指導：Fr.ﾏﾃｵ／会費：7,000円

申込・問合先 福岡黙想の家 TEL 0940(32)3222

◆諸宗教委員会

諸宗教対話研修会が下記の日程で行われます。お

福岡黙想の家

◎黙想の家スケジュール

2/ 2(木)~ 2/ 5(日)	後援会々員のための黙想会
2/11(土)	春日原ｷﾘｽﾄ塾・祈りの集い
2/11(土)~ 2/12(日)	きょうだい会
2/17(金)~ 2/18(日)	日本ｶﾄﾘｯｸ研修ｾﾝﾀｰ 福音刷新ｺｰｽⅡ・九州会場
2/24(金)~ 2/26(日)	ビリオドの集い
3/ 4(土)~ 3/ 5(日)	四旬節黙想会(Fr.山元)
3/ 5(日)	典例・祈りと聖歌の集い
3/11(土)~ 3/12(日)	四旬節黙想会(Fr.畠)
3/17(金)~ 3/19(日)	青年黙想会
3/26(日)	<日帰り黙想会>(Fr.ﾏﾃｵ)
4/ 1(土)~ 4/ 2(日)	四旬節黙想会(Fr.ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ)
4/ 8(土)~ 4/ 9(日)	四旬節黙想会(Fr.鵜野)
4/13(土)~ 4/14(日)	四旬節黙想会(Fr.マテオ)

問合先：福岡黙想の家（宗像市名残 1056）

TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

生命山

◎諸宗教対話研修会

日時： ２月11日（土） 14時～16時30分

場所： 熊本 手取教会 信徒会館

講師： 大本教 石田常氏

テーマ：大本教について

問合先：生命山カトリック別院

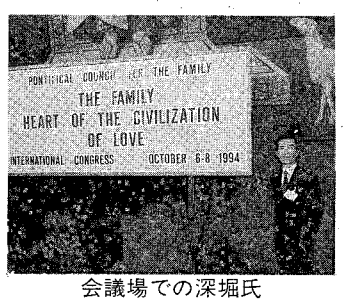
TEL 0968(85)3100　FAX 0968(85)3186

まず聴くことから
―国際家族会議で思ったこと―

昨年末からいじめの問題が再び大きな社会問題となりました。今年一月に行われたある調査によりますと、いじめの原因として親と子の対話不足など、家庭に原因があると答えた人の割合が五割近くあり、それがいじめる側、いじめられる側双方の親や家庭を含んでいるとありました。別のアンケート調査では、いじめをなくす方法として家庭では親子の対話、学校では教師の親身な相談とコミュニケーションの大切さを指摘する声が多かったそうです。

一九九四年の国際家族年に因んで昨秋バチカンで開かれた国際会議「家庭、愛の文明の心」でも家族のコミュニケーションの大切さが指摘されました。夫婦の対話と親子の対話を通して家族の親しい交わりを持つことは家庭での祈りや助け合いと同じく聖性への神の招きに応えていく道であるということでした。

しかし、コミュニケーションとか対話とか親しい交わりといっても、言うに易く行うに難しです。夫婦、親子といえどもいつでも何でも話せるものでもないし、今さらという思いもあるかも知れません。ところで、会議の中で対話に関してよく耳にしたのは次のことでした。



会議場での深堀氏

本当に相手の言うことに耳を傾けることだというのです。そして聴くためには、相手の違いを認めること。たとえば子どもを一人の個人として認めることが必要です。一言で言えば対話とは、目の前にいるその人を今最も大事にすること、気持ちや感情まで含めて相手をありのまま受け入れることであるというのです。

対話とか、分かち合いとか言う言葉はさておき、まずは相手の話、何気ない語りかけを、上の空ではなく、時には自分のことはしばらくおいて真剣に聴くということから始めてはどうでしょう。何かが変わりそうな気がします。新しい発見と前進があるように思います。

会議の最終日、聖ペトロ広場で教皇を囲む集会が行われました。寒風の中、長時間じっと家族の話に耳を傾ける教皇様の姿をすぐ近くで拝見しながら、聴くことのすごさを実感したのでした。

（大名町教会　深堀　純）

いじめを考える
（その一）

山頭原太郎神父

今いじめが大きな問題になっている。特に中学校で。突然ふき出してきたように見えるかもしれないが、今までの教育の失敗が生み出した結果である。しかも学校教育だけの責任ではなく、家庭教育や社会教育も大きく関係しているのだと思う。いじめは学校でしかも中学校で多く起こっているため、マスコミを始め多くの父兄は、いじめのあった学校に行ってその責任を追求することが当然であるかのように見られているのは決して正しいことではない。もちろん学校にいじめの責任がないと言っているのではない。それは大いにあると思う。家庭教育や社会の甘やかし等からいじめは生まれていることを忘れてはならない。

一体いじめとは何かを考えると問題は判りやすくなってくる。いじめるとは、相手がのぞまないことを誰かが無理にやらせようとして苦しめることを言う。つまり相手の人権を無視して自分の望みを相手に強制することから自分の身勝手、わがままと相手のことを考えないことである。その次に問題になることは、精神的な弱さから「ノー」と言えない人間、友人がいじめられるのを見て、それをやめさせる勇気がないことなどもいじめを流行させる要因になっている。このように相手を思うことなしに自分のやりたいことだけをする人間には誰が何と言っても家庭で、両親が幼い時から教え込まねばならない筈（はず）である。こうした思いやりのない、しかも望むことは叶えてもらった子どもが肉体的に強くなった中学校でいじめを始めることは当然のなりゆきである。大事に教育することを忘れて何一つ不自由をさせない、まるで可愛いペットのように育てた子どもは微風にも倒れる弱い人間になるのである。それでいて、いじめがあれば学校教育だけの責任であるかのように父母たちが学校に押しかけるようではいじめの解決はありえない。もっと人格形成の苗床とも言われる家庭での両親の子ども教育を考えるべきだと思う。

神道一口メモ①

森山敬三

「神道」にはもともと結婚の儀式をつかさどることはなかったが、キリスト教の影響をうけて、神前結婚が行われることになった。一八九七年（明治三十一年）皇太子（大正天皇）の結婚式にそなえて「皇室婚嫁令」が制定された。このの ち宮中の神前結婚の儀礼は、一九一〇年（明治四十三年）に制定された「皇族親族令」によって確定し、これがもっと簡略化されて民間にも普及するようになった。

一人でも多く参加しよう
短期キリスト教講座

現在、私たちがかかえている問題は種々様々で、大変複雑です。子どもの教育問題、夫婦、老後、生きがいなどの問題があり、どれをとっても素通りできないものです。

このような問題を考え、見つめ直して、少しでも喜びと希望のある生活にしたい、という望みをあちこちで耳にしています。

実行委員会は少しでもこの望みに答えたいという趣旨から、この度、講師をお招きして、「生きるとは」というテーマで短期キリスト教講座を開催することにいたしました。多数の方々の参加をお待ちしています。一緒に考え、見つめ直してみましょう。

日時と内容は左記の通り。

☆場　所・カトリック大名町教会
☆日　時・昼の部　午前10時－11時45分
　　夜の部　午後7時－8時45分

○カトリック教会へようこそ	▼山元 眞神父　1／31
○病気・老・死・苦しみ	▼井田 栄一氏　2／7
○子どもの躾と教育（午前）	▼土岐 圭子氏　2／14
（午後）	▼シスター村木 敏子　2／14
○夫　婦	▼深堀 邦枝氏　2／21
○生命の誕生	▼小山 一氏　2／28
○聖書とキリスト教	▼森山 信三神父　3／7

※申し込みは当日／受講料：1回800円

教区信仰教育委員会

幼稚園のできごと

平和幼稚園

直方市の中心街を通り抜け右に入ると直方カトリック教会と平和幼稚園があります。教会独特の尖り屋根に十字架といった造りでないせいか、また、幼稚園の名前からカトリック幼稚園と感じられないせいか、最近ではカトリック幼稚園だとは知らない人もいるようです。しかし一歩入ると、門の横のルルドを思わせる場所の一角に母子像があり、この母子への朝のお祈りで園児の一日は始まります。創立以来四十五年間、特に力を入れてきた「心の教育」は、毎週聞く園長先生の話を通して、園児の心の奥底に確実に身についている様です。

入園して一ケ月の頃、年少児の一人が保育時間中に靴をはいて門の方へ駆け出しました。門の横の教会へ行こうとしていたのです。Tちゃんが入院した話を聞いてお祈りに行こうとしていたのです。入園して一ケ月しかならないのに。手をあわせて祈ることを覚えたばかりなのに。教会は二階にあり、階段が急なため母の日参観日に一回入っただけだったのですが、「ここは神様のお家ですよ」と言ったのを覚えていたのでしょう。

また、泣いている子がいると当然の様に自分のハンカチで涙をふいてあげる子を見て感激しました。私たち大人も一緒にお祈りする様になりました等と便りをいただいたりします。このようなことはカトリック幼稚園なら珍しい出来事ではないでしょうが、幼いこの時期に、日常生活の中で自然に培われてこそ身についていくものだと思います。現在、園児減少で困難な中にありますが、小人数だからこそ家庭的な手作りの、きめ細かな保育が出来ると思い、園児一人一人が神様のかけがえのない子どもだと感じられる様な保育を心掛けてゆきたいと思っています。

（主任教諭）

福岡カトリック神学院生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭との相談の上、福岡カトリック神学院（〒810 福岡市中央区浄水通38　☎092-531-6821）までご連絡ください。

【入学条件】

①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）

②主任司祭の推薦が必要

※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

院長　森山 信三

福岡サン・スルピス大神学院

【入学案内】

資格　カトリック男子
高校卒業以上の学歴
（受洗後3年経過）

試験
日時　1995年2月上旬
科目　国語、英語、宗教、ラテン語、小論文、面接

※大学卒業の場合：ラテン語、宗教、小論文、面接

手続き　司教の推薦状、主任司祭または、小神学院(校)院長推薦、その他必要書類

〒814-01 福岡市城南区松山1-1-1

【問い合わせ】
TEL　092-871-4943
FAX　092-863-6329
院長　高見 三明

BOOK 読みは専科

★内なる福音
モーリス・ズンデル
福岡カルメル会 訳



スイス人の司祭、カトリックの神秘家、モーリス・ズンデルの好評中の既刊「沈黙を聴く」「日常を神とともに」に続く三冊目の邦訳。

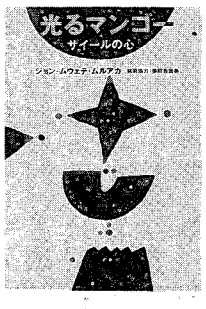
彼の数多い著作の初期のもので、彼が生涯をとおして生き抜き、教えてやまなかった霊性の主なものが、この中に要約されている。

神と人の魂について、ズンデルの深い沈黙と観想的、芸術的直観のフィルターをとおして語られるとき、その言葉は何かカリスマ的光を帯びてくる。

女子パウロ会　一、二〇〇円

◇　◇

★光るマンゴー
―ザイールの心―
J・ムウェテ・ムルアカ著



著者は、ザイールの首都キンシャサに生まれた34歳の青年。一九八五年に来日し、現在三つの公職を務めながら、東京電気大学で生体磁気学博士論文を準備中。

本書は想い出の少年時代を語る。どこにでもある少年の日々、そしてどこにもない少年の日々。

珠玉の20編の中に私たちの知らないありのままのアフリカが紹介されている。

女子パウロ会　一、三〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

大村じゅん礼のたび

（じょう水通教会・小2・広田　ま理子）

きょう、私たちはじょう水通教会からバスで、長さきにじゅん礼に行きました。朝の六時三十分に教会にしゅう合しました。私は、バスにのりおくれないために、ねむたい目をこすりながら、家から教会まで、お母さんといっしょにはしりました。ごしょが谷の信号のところで、私は、ふと空を見上げました。すると、カラスが、ふたば学園のむこうの方から薬いんの方へ、

「カァーカァー。」

と、なきながら、

「ザ、ザァー。」

と、とんでいるのが見えました。

教会につくとじょうじまさんや浜さきさんは、もう来ていました。朝早いために子どもは十人ぐらいしかいませんでした。

バスの中では、青木神父様のお話の後で私たちは、よいじゅん礼ができるようにロザリオの祈りを一連となえました。

長さきにつくと、まず、私たちは大村の植松教会で、ミサにあずかりました。私は、子どもがものすごく多いのにびっくりしました。そして、じょう水通教会もこんなにたくさんの子供がいたら、もっともっと楽しいだろうなあと思いました。

植松教会の信者さんがじゅん礼地をあん内して下さいました。さい所に行った所は、鈴田牢跡でした。そこは、せん教しの神父様をはじめ三十人くらいの人が、じゅん教したそうです。そして、今はもう、おはかになっていました。

私たちはそれから、胴塚跡、首塚跡、放虎原斬罪所跡、大村純忠終えんの地をつぎつぎと、めぐりました。そのたびに私たち子どもは、おはかのまわりを、大人の人たちがお祈りをしている間、

「ギャー、ギャー。」

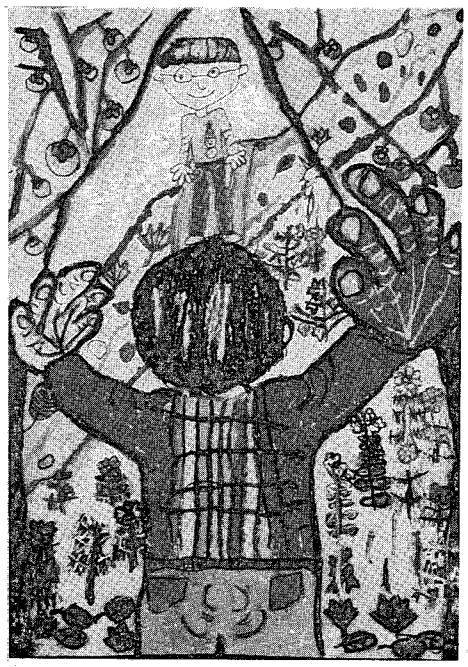
さわぎまわりました。私は、お母さんから、

「さわがないで。」

といわれました。だけど、ほかの人が、

「子供が楽しそうにさわぐと、きっと、じゅん教者もよろこぶよ。」

と、いわれました。



「さあ　おいで」

いしい　あんな（5歳・老司教会）

私たちは、主の祈りや天使祝詞をとなえました。じゅん教者の方々は、きっと、さむかったりひもじかったりしただろうと思いました。

帰りのバスでは、じゅん礼なのに私たちは、おかしやジュースを食べたりのんだりして、まるでごふっ活さいのパーティーみたいでした。とっても楽しかったです。

これからも教会のじゅん礼のたびに行こうと思います。

おかげ

大切な秘密

こんな話を聞いた。

修道会に入っている娘が修練期を迎えた。しばらくしてその生活が厳しく辛いため、涙ながらに母親に辛さ、苦しさを手紙に書いたそうだ。手紙を読んだ母親は、娘のために祈りをささげることと、修練を行っている娘と同じ時間割で、娘が起きる時に自分も起き、祈る時に祈り、という毎日を過ごしたそうだ。



杉原　寛信

しんぷさま（パウロ会）

これはものすごく力強い愛情に思えてならない。

最近、機会があって実家に帰った。母親はじめ家族の者が風邪をひき、私も四十度の高熱を出し床に伏してしまった。自分も高熱で苦しいはずなのに、八十歳近い母が、夜中に何度も隣の部屋で高熱にうなされている私の様子を心配そうに伺い、額に手を置いて熱は下がったか確かめ、フトンを首もとまでかけなおしてくれた。高熱の苦しみの中で、母の優しい心遣いを見た時、心の中に深く深くしみこむものがあった。

このことを考えていると、自分のこれまでの召し出しの歩みの中で、苦しいとき、辛い時に、母は様々な形で、温かく、優しい心遣いをしてくれたのではと思われてならない。感謝があふれてくる。

痛み、苦しみを分かちあってくれる人がいること、それは召し出しの大切な秘密だ。

「フィレト・ガンプ　一期一会」

この題名は主人公の名前で彼は生まれつき背中が曲がっていて足にはギブス、IQも人並み以下でいつもいじめられていた。そんな彼がある日、同級生の一声がきっかけでものすごい速さで走りだし、フットボールの選手になって成功していく半世紀。広大な自然の美しさを背景に、純粋な心が一際印象に残る作品です。



〈2月上旬公開〉（溝）

阪神大震災　義援金募集

カトリック大阪大司教区に義援金をお送りくださる場合は、左記の口座にお振り込みください。

さくら銀行　甲東支店

普通預金　3084020

カトリック大阪大司教区

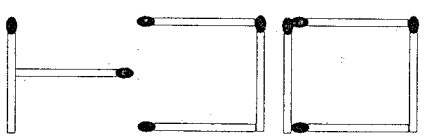
☆同大司教区からの若干の報告をご紹介します。（1月23日付）

①教区の救援の基本原則は、公的救援の谷間におかれる人々や場所を優先することです。したがって、行政等公的機関の救援活動に教区組織として協力することは、それしか手段がないとき、余裕があるときに行います。したがって、一般的な救援をという場合は、直接公的機関（県、市、日赤等）の窓口を通してください。

②右記にお振り込みいただいた義援金は、一般の被災者の皆さんのためだけでなく修道院や教会など宗教目的の施設の復興等にも使わせていただきますので、ご理解ください。

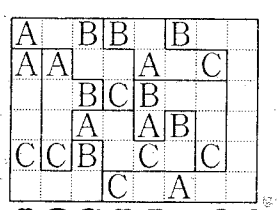
クイズ！

マッチで書いた「トコロ」という字がありますが、マッチを1本だけ移動して『山口』という字に変えてください。



君も神父様になることをめざして神学院でがんばってみませんか？5面をみてね！

12月号解答



編集後記

春遠し。日毎寒さが募ります。やせていても太っていても寒いときは寒い。暖房機がもてはやされる。できれば暖かい所に一日中いたい。

しかし、仕事は厳しい。温かみのあるものにして、愛読されるようにしなければ。まずは外の新鮮な空気を感じてそれを取り入れて暖めよう。

どこか新鮮な空気はありませんか。探し回って冷たい外気でかぜは引きたくありませんが。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

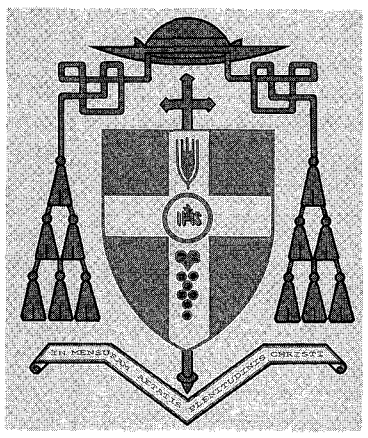
松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

四旬節教書

郷土の殉教者を顕彰する

勇気ある信仰の証し人

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は、四旬節を迎える教区民に対し、四旬節教書「郷土の殉教者を顕彰する」を贈り、殉教者たちにならい、勇気ある信仰をもって生きるよう促した。



教区長松永久次郎司教紋章

灰の水曜日（三月一日）から始まった四旬節にあたり、教区長松永司教は、四旬節教書「郷土の殉教者を顕彰する」を出された。これは、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的書簡「紀元二千年の到来について」の諭しと勧めに応えるものである。

その内容は、「郷土の殉教者」「八代、天草、小倉、熊本の殉教者」「福岡教区の殉教者の特徴」「殉教者の顕彰の意義」「具体的な勧め」であり、信徒の時代と言われる今日を生きる私たちへの具体的指針を、殉教者たちの残した貴重な信仰の遺産に照らし合わせて述べたものである。

現在、日本の教会は一八八名の殉教者の列福を聖座に要請している。その中には、二七名の福岡教区の殉教者が含まれ、そのすべてが、幼い子供をも含めた普通の信者であった。

この勇気ある信仰のすばらしさ、神のお恵みによる信仰のすばらしさを、教区民一人一人に知ってもらい、再確認していただきたい。

信徒使徒職は世の奉献

—福岡で全国大会—

信徒使徒職委員会（委員長平山高明司教）の全国大会が二月十一・十二日の両日にわたって、カテドラル大名町教会を会場として開催された。

初日十一日には平山委員長をはじめ、全国の担当司祭、常任委員が一堂に会し、各教区の活動状況報告が行われ、また信徒の養成、教区間の情報交換についても、活発な意見が交わされた。午後六時からの懇親会には地元福岡地区の信者を含めて、約二百人が参加した。「神の似姿として造られた人間は、働くことを通して、神の天地創造の業に参加している」という基本的な観点から、「神は人間を人間のために造られた。そして、働くことは人間らしい生活を開発するための手段であり、その働きが、神の設計図にしたがっているかどうかを識別する基準は家庭にある」「神の御子が人となり、労働されたことによって、人間の働きは聖化された。地上の生活（働き）は、神の国を築くために役立つのだということを信仰の光にてらして、確信することが必要である」と述べられ、「信徒使徒職は世の奉献である」と結ばれた。

午後、十グループに分かれての分団会では、働くことの真の意味に気付かされたメンバーの、熱気に満ちた分かち合いが行われ、平山司教の「まとめ」を最後に、午後三時閉会した。



熱気に満ちた分団会での参加者



糸永司教の基調講演

信徒協の役員も参加して交流と親睦を深めた。

翌十二日、午前九時からのミサに引き続いて、松永久次郎司教の講師紹介のあと、鹿児島教区長糸永真一司教の基調講演が正午まで行われた。

テーマは、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告から学ぶ—働くこと—。地元福岡地区の信者を含めて、約二百人が参加した。「神の似姿として造られた人間は、働くことを通して、神の天地創造の業に参加している」という基本的な観点から、「神は人間を人間のために造られた。そして、働くことは人間らしい生活を開発するための手段であり、

【司祭叙階式】

このたび　福岡教区　洗礼者ヨハネ伊東成晃（助祭）は神の恩恵とご配慮の中で、沢山の方々のお祈りとご支援により、来る三月二十一日（火）司祭の位に叙階されることになりました。今日までの皆様方のご配慮に深く感謝いたします。

今後は新司祭がより一層自己の使命を認識し、その重責を最後まで果たしていくことができますようにお祈り賜りますようお願い申し上げます。

カトリック　福岡司教区
教区長・司教　ヨセフ　松永久次郎

☆日時　三月二十一日（火）　午後二時
☆場所　福岡教区カテドラル（大名町教会）
☆司式　ヨセフ　松永久次郎司教

今月のみことば

主の「霊」のおられるところに自由があります
（IIコリント3・17）
玉名　メネガッツォ神父

時の話題

藤岡　利男

私たちの教会は、信者数が五十人程の小さな教会ですがとても家庭的な教会で、皆がよく役割責任を自覚して働きます。クリスマスが近づくと恒例になっている市内での街頭募金の事が気になります。

教会の定例会で役割分担を決めて、それぞれが当日まで準備します。パンフレットの準備、共同募金の道具の準備と手際よく進め、十二月十一日がやって来ました。

当日は雨が降りそうな天気で心配してましたが、ミサの時間は募金がうまくいきますようにお祈りしながら、ミサが終了すると、各々の指定の場所、街頭にタスキと募金箱を持って出発しました。市内の二つのスーパーの責任者に許可を得て第一声を上げたのは十時半でした。聖母幼稚園のシスター方にも応援を受け「共同募金にご協力をお願いします」と最初は小さな声で言っていましたが、募金をいただくうちに一段と声も大きくなり、「ありがとうございました」と感謝の気持ちがいっぱいになり、この中に神様がおられるのではないかと感じながら声をさらに大きくして雨の降る中、精一杯頑張りました。

一致と協力で教会アピール

こうして年末の忙しい日曜日の一日を市内の共同募金に参加できたことを神に感謝しました。昼も過ぎ、午後二時半頃、募金活動を終了してそれぞれに重い募金箱を持って帰ると、雨が急に大降りになりました。募金活動が終わるのを待ち構えたように雨がたくさん降り出したのです。皆で神様の働きに改めて感謝せずにはおれませんでした。教会に帰って募金箱からたくさんのお金を出して、皆で丁寧に数えたところ、総額で約十一万円が集まり、そっくり市の福祉事務所に届けました。そこを通して市内の施設に寄付されるそうです。お金を数え終わると婦人部が食事を用意してくれていました。温かい豚汁、たくあん、そしてシスターからのぜんざい。家族的な雰囲気でおいしくいただきました。

共同募金も無事終了。後はクリスマスを待つばかり。心のこもった準備ができたことを神様に感謝しながら片付けをして教会を後にしました。

（菊池教会）

花岡山に眠る殉教者マリア・みや

花岡山殉教祭が、今年は三月二十六日に行われる。場所は加賀山マリア殉教碑前。

花岡山殉教の史実について、かつて熊本日日新聞が「霊場の心を訪ねて」と題して次のような文章を載せている。

「花岡山中腹に加賀山マリア（みや）殉教碑が建てられています。……マリアみやは……小笠原玄也の妻で……熱心なキリシタンとなって……貧しい生活の中で……信仰を一心に守り続けました。しかし、寛永十二年十一月、ついに、……処刑され…殉教の血が私たちの身近な地で流されたのです。当時、罪人、異端者は処刑されても墓を建ててはならないしきたりでした。しかし、玄也一族は密かに花岡山中腹に葬られたらしく、長い年月を経て、現在の官軍墓地付近より加賀山マリアみやの墓石が発見されました。……此の地は殉教者の眠る私たちの聖地ではないでしょうか。」

世界でも希れな、遺体が実際に埋葬されている殉教者の聖なる墓域でのミサに、多くの信者が参加し、勇気ある信仰を汲み取っていただきたいものである。（詳しくは6面に）

〔教会奉仕者選任式間近〕

サン・スルピス大神学院で三月十四日に選任式が行われる。福岡教区の受選者は左記の通り。

日高　弘（糸島教会出身）
牧山　美好（糸島教会出身）
田中　重治（西新教会出身）

※三人は現在神学科二年生。

司祭叙階を目指して祈りと学業に勤しむ彼らのために祈りましょう。

みちくさ

三月を迎えた。新年度前の最後の時期。各学校では、卒業式が催される。それぞれの思い出が残る卒業式。あのときはこうだった。友とこんなことをした。一人でこんなこともした。先生はこんな人だった。忘れられない日々を残した写真の数々▼幾年間の成長の集大成が卒業式であるなら、人間の人生全体の卒業式は何だろうか。母の胎から生まれて死ぬまで生きる。死んだ時が人生の卒業式。しかし、その卒業式についてはわくわくしない。それはいつやって来るか解らないからである。人間の生涯教育をみごと卒業して、生命の与えぬしである神から「あなたは優秀な成績を修めましたから天国を贈呈いたします」と賞状をもらえるならありがたいと思うが。不良人間だったら後の世界でどうみてもらえるだろうか。「不良」という烙印が永遠についてまわるなら辛い思いをすることだろう。だから信者の卒業式が来ないうちに、自分の生き方を整えていないと▼とはいえ、信者としての務めを怠りなく毎日果たしているだろうか。先生である神の教えに十分に応えているだろうか。教室としての教会を愛しているだろうか。生徒である信者が机を傷つけたり、ガラスを割ったりするような行為はないか。お互いを大切にし、お互いを尊敬しているだろうか。生徒の権利だけを主張するのではなく、義務を果たしているだろうか。生徒としての自覚と誇りを持っているだろうか。やがて来る卒業式に備えてよき教師である御父がこの世での生命をながらえてくださる限り、「世の終わりまでともにいる」（マタイ28・20）イエスと共に学び、生きていこう。

【S】

各教会黙想会日程表（3月1日現在）

地区	教会名	日程	指導司祭	テーマ
福岡	糸島	4月2日	徳山　登神父	キリストの信仰の基礎：キリストの復活
	今村	3月29日～31日	深堀勝人神父	ともに生きるために
	大楠	3月12日	杉原寛信神父	神秘体の一致と派遣
	大牟田	4月2日		
	小郡	4月1日～2日	牧山勝美神父	家庭
	久留米	3月22日～24日	塩谷恵策神父	心をこめて神を仰ぎ
	古賀	3月10日～12日	川上惣一神父	信徒の召命
	笹丘	4月9日	鈴木　忠神父	復活祭に向けて
	浄水通	4月2日	松井忠之神父	福音宣教とは
	大名町	3月27日～29日	牧山強美神父	キリスト信者とは
	高宮	4月9日	塩谷恵策神父	キリストの受難・死・復活をともに生きる
	茶山	3月25日～26日	森山信三神父	召命について
	西新	3月11日～13日	戸村　修神父	ゆるし
	光丘	3月14日～16日	林　尚神父	信徒の霊性
	二日市	3月31日～4月2日	田口孝志神父	信仰にめざめ、その証人となろう
	本郷	4月4日～6日	下山盛朗神父	信仰の見直し
	吉塚	3月25日～26日	畠　基幸神父	十字架の黙想
	老司	4月1日～2日	Z・イエール神父	ルカ福音書による救い
北九州	飯塚	3月26日	戸村　修神父	ゆるし
	黒崎	3月31日～4月2日	山元　眞神父	いま、キリスト者として生きる
	小倉	4月6日～8日	溝部　脩神父	殉教者を通して信仰を深める
	新田原	3月27日～29日	浜口末雄神父	キリスト者の務め
	田川	4月2日	戸村　修神父	ゆるし
	天神町	3月26日～29日	A・セトアイン神父	イエス様の本当の弟子になるには
	戸畑	3月5日～7日	L・ベリオン神父	新しい十戒
	直方	月　日		
	八王寺	4月7日～9日	百村　等神父	派遣
	水巻	3月3日～5日	崎浜宏美神父	子供の信仰教育
	門司	3月11日～12日	深堀　純氏	詩編・イエスの祈り、私たちの祈り
	湯川	3月11日～14日	山頭原太郎神父	信仰生活の基礎
	行橋	3月26日～28日	杉原寛信神父	信仰者の喜び
	若松	3月2日～4日	池田紀行神父	神の足跡
佐賀	伊万里	3月12日	平田三好神父	殉教者の信仰を求めて
	唐津	月　日		
	佐賀	3月21日	M・タルディフ神父	改心から回心へ
	多久	3月26日	堤　敏雄神父	祈りの中で心をひとつに
	武雄	3月19日	A・ネグリ神父	改心
	鳥栖	4月1日～2日	山田成章神父	祈りにおける愛
	馬渡島	4月2日	畠山七郎神父	愛がなければ
	呼子	4月1日～2日	百村　等神父	未定
熊本	荒尾	月　日	K・オマホニ神父	未定
	大江	3月10日～12日	S・カレン神父	改心
	帯山	3月18日～19日	高木善行神父	信仰教育の基本
	菊池	3月26日	鵜野泰年神父	聖母マリアの交響曲
	健軍	4月8日～9日	畠　基幸神父	キリストの受難
	崎津	3月25日～26日	S・カレン神父	改心
	玉名	3月19日	M・ルイジ神父	エフェソの信徒への手紙6・20
	手取	3月24日～26日	M・ルトウルズ神父	主の過越しを共に生きる　ほか
	本渡	5月20日～21日	鵜野泰年神父	未定
	水俣	3月25日～26日	山元　眞神父	イエスのみこころ
	武蔵ヶ丘	3月3日～5日	川添　猛神父	俳句をとおして神様へ
	八代	3月25日～26日	松井忠之神父	21世紀のために

今求められていること

〝ニッポン、ただいま午後三時〟暮れの三十日の朝日新聞社説の見出しです。この活字を見た時、一瞬ぎょっとさせられました。

その主な内容は、日本は、日本人はかくあらねばならぬと言うとき、昨今の私たちは、とかく外への働きかけだけを考えがちでした。大江健三郎さんは受賞記念講演で、「望ましい日本人像」について、「人間味あふれた」「まともな」「きちんとした」といった上品な日本人、つまり、私たちが久しく忘れかけていた「心の気高さ」「内からにじみ出る美しさ」「志の高さ」といった内面的価値を備えた人について語り始められ、次に「同情するなら金をくれ」で象徴される現今のあざとい「お米騒動」「いじめ」「サリン事件」など、世相の側面を取り上げ、更に日本青少年研究所が、「自分は世話好きと思うか」と高校生に尋ねたところ、米国と台湾では八割以上が「そう思う」と答え、日本では五割にも及ばず、「自分は自分、他人は他人」というさつばつとした気分がはびこり、世話や思いやりも死語になったと指摘。日本は「一日でいえば、太陽が中天を過ぎ、日差しも弱まり始めた、そう午後三時頃の国」と結ばれ、本当に考えさせられました。

午後三時といえば、キリストの十字架上の死の時間を連想させます。しかし、この十字架の死は様々な意味をもっています。私たちにとっては救いのしるしであり、復活の曙、人生の希望、光です。日没では終わらない明日の訪れが期待できます。明日という日は私たちの生き方次第で変わります。生き方に目的と意味が加われば、「下り坂」も努力次第で「上り坂」に変えられます。そこで、「阪神大震災」の被害者たちが、今回〝一人でなく共に生きている〟という貴重な体験を通してその素晴らしさ、大切さを実感し、〝失うものも多かったが得るものも多かった〟と述懐しているように、私たちも先ず、「自分一人位」から、人間らしく「自分だけでも」と意識を改革し、自己本位な打算的生き方を乗り越える努力が肝心です。そして今、死語になったと言われる反面、万人が求めてやまない思いやり、奉仕、犠牲などを「地の塩」として、積極的に実践することです。その過程で「人にしてもらいたいと思うことは何でも人にしなさい」と諭されるキリストのみ言葉を日々少しでも多く、自然に実行できるようになれたら幸せです。

現代社会にも生かされる回心を心掛けたいものです。

西新教会　平田敬神父



四〇〇万人が集う世界青年大会

マニラ

一月十一日から十六日にかけて、教皇ヨハネ・パウロ二世はマニラを訪問し、「世界青年の日」を四百万人の若者と共に祝った。

福岡教区から参加した八人の青年とスタッフにとって、信仰を見直す大切な機会となった。

福岡教区では、八人の青年が一月十四日から十六日にかけて参加しました。メインは教皇様のミサへの参加でしたが、人（新聞報道では四百万人）でいっぱいでした。当初教皇様は移動して、祭壇に向かわれる予定でしたが、道に人が溢れて車での移動が出来なくなり、急きょ、ヘリコプターで来られたのでした。

会場は、全世界から集まった人々の熱心な祈りと声援に包まれ、その雰囲気にいつしか青年たちもとけ込んでいったようでした。

また、いくつかの教会を巡りましたが、教会は人でいっぱい。フィリピンの信者の信仰を見たような感じで、青年たちも自分の信仰を考えるよい機会となったのではないかと思います。

青少年司牧担当　平田三好神父

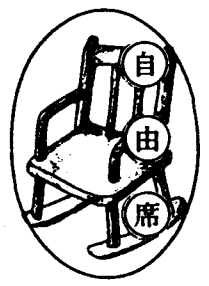
巡礼を通して感じたこと

「今、教皇様がヘリコプターで到着されました」

英語でそう放送されたように聞こえた。その時僕は、教皇様の車が通るはずの道から五メートルと離れていない所に立っていた。「教皇様はこの後、この道を通られるのだろうか、それともう、通られないのだろうか」。心の中で同じ質問を繰り返し思い浮かべていた。少しでも近くで教皇様を見たい、という思いが自分の体を少しずつ前へ前へと押し進めていた。すでに通りは座る場所もないほど人が集まっており、身動きをすれば隣の人に当たる状態だった。それでも前へ行こうとする人が何人かおり、僕もその人たちについて行った。

「会場の中へ入れなくてもいいから、壁ぎわまで行きたい」と思いつつ、周りの人に「エクスキューズ・ミー」を連発しながら歩を進めていった。「恐らく、会場に入るには許可証がいるんだろうな。会場の外の見晴らしのいい所から中が見られないかな」と

4面につづく



明恵上人のことども

森山　敬三

京都の西北の深山にある高雄の高山寺をおとずれる機会があった。日頃から明恵上人に親しんでいたからである。そこで頂いたパンフレットを見て驚いた。それにはゴチックで「兄弟教会の約束」と書かれていて、「一九八六年十月二十六日、アシジの聖フランシスコ教会と高山寺が教皇ヨハネ・パウロ二世の祝福を受け、兄弟教会の約束をした。同時代に同じような信条を持った偉大な人物が出現することは歴史の秘密とされているが、明恵上人（一一七二―一二三二）と聖フランシスコ（一一八一―一二二六）は同じく十二世紀に生を受け、共に清貧一途の生涯を送ったことで知らされている。ちなみに明恵上人の「樹下座禅像」には小鳥やリスが描かれ、聖フランシスコの「小鳥に説法」と相似して、両聖人の慈悲が象徴されている、とあった。

明恵は北条泰時の作った「貞永式目」の思想的バックとなり、それは山本七平によれば、「明治になるまで、日本人の秩序意識に革命的ともいうべき大きな影響を与えた」とある。また、彼は、十九歳のときから四十年にわたって夢の記をしるし、この夢を積極的に利用して、少しでも釈迦に近づく手段とした人で、河合隼雄の言によれば、四十年間も夢を書きつづけた人は世界に類例がないとのことである。

今ここは世界の文化遺産に申請中とのことであるが、この国宝にみちた地が、明恵上人の心を捉んで、いつまでも清閑の北であることを望む。

（箱崎教会）

聖週間をともに…
「聖なる過越の三日間の黙想」と
荘厳典礼を通して主の復活を祝う
〈主な典礼開始時刻〉
4/13㈭20：00～　・　14日㈮15：00～
15日㈯23：00～　・　16日㈰11：00～
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

四旬節教書

「郷土の殉教者を顕彰する」

＋聖父と聖子と聖霊の御名によって、　アーメン

一九九五年の四旬節にあたり、天の御父が教区の信者の皆様を祝福してくださるよう心からお祈りいたします。

さて、教皇様は先頃教皇書簡を発表されて、西暦二千年の大聖年を準備するようお論しになりましたが、その中で郷土の殉教者を顕彰するようにとの勧めも表明しておられます。そこで、今回は福岡教区の殉教者について考えてみたいと思います。

一、郷土の殉教者

日本の教会はその始めから厳しい迫害によって鍛えられ、清められた教会であり、二十六聖殉教者をはじめ、数多くの勇気ある信仰の証し人によって飾られた教会であることはよく知られていますが、このわたしたちの福岡教区にも殉教者が多数いたことは、余り自覚されていないようです。ところで実は、わたしたちの教区にも勇気ある信仰の証し人が多数いたのです。ただ今、日本の教会は一八八人の殉教者の列福を聖座に要請していますが、その中には二十七人の福岡教区の殉教者も含まれています。

二、八代、天草、小倉、熊本の殉教者

福岡教区の殉教者で、ただ今列福要請中の者二十七人は四つのグループに分けられます。

年代的に一番古いのは、八代の十一人の殉教者たちです。すなわち、一六〇三年に殉教したヨハネ南とシモン竹田及びその家族ら計六人、一六〇六年に牢死したヨアキム渡辺、そして一六〇九年に殉教したヨハネ服部とその子ペトロ、及びミカエル三石とその子トマスの四人です。

次に来るのは天草の殉教者アダム荒川です。彼はもと、島原半島有馬の荒川の人でしたが、故あって志岐（現在・苓北町）に移り、そこで神父を助けて信者の指導に当たりました。そして一六一四年富岡で輝かしい殉教を遂げ、残った信者たちの大きな励ましとなったのでした。

そして一六一九年、細川家の家臣ディエゴ加賀山隼人が小倉で殉教しました。彼は自分の主君、細川忠興に重く用いられた武士でしたが、その位をなげうって信仰に殉じたのみならず、彼の信仰は、その一族に大きな影響を及ぼしました。熊本で殉教した小笠原玄也は彼の娘「みや」の婿ですが、小笠原の信仰は加賀山隼人に負うところが多かったとされています。（なお、豊後の日出で殉教したバルタザル加賀山半左衛門は、この小笠原隼人の従兄弟に当たります）。

さて、この小笠原玄也とその妻「マリアみや」の一家十五人（小笠原夫婦、子供九人、下女四人へうち三人列福要請〉）は、信仰のため禄を奪われ厳しい生活に耐えた後、一六三六年熊本で殉教したのでした。彼ら一族の遺体は現在に至るまで、熊本の花岡山に葬られています。

三、福岡教区の殉教者の特徴

これらの福岡の殉教者たちは聖職者・修道者ではなく、すべて普通の信者でした。武士もいますが、多くはその家族の者だったりし、しかも八歳以下三歳までの子供たちも数名いたとされています。特に、当時信徒の中から立てられた後に殉教した慈悲役たちの奉仕のもと、八代の信者たちが如何に相互に励まし合い助け合ったかは、一つの美しい物語です。また、小笠原一家の者たちが書き残した信仰の心溢れる遺書は、読む者の心を今日でも感動させるものです。信徒の時代と言われる今日、貴重な信仰の遺産と考えるべきではないでしょうか。

また、歴史的にみても、八代の殉教者たちは二十六聖人の殉教以後最大のものであり、地方における殉教者の初穂となったものでした。また、花岡山における小笠原一家の墓地は、墓碑のあるキリシタン時代の墓地として現存する数少ないものの一つであり、しかも埋葬された人々についての殉教が詳しく判明している唯一のものとされています。このようなキリシタン時代の言わば宝物がわたしたちの教区に残されているのです。

一方、彼らは平凡な人たちでもありました。最終的には信仰の勇気のある証し人となりましたが、一度は転び、その後回心して殉教した者もあり、また一度は心得違いの行いをしたとされる者もいます。彼らも人間だったのです。神のお恵みによってのみ、あのような信仰の輝かしい証しを立てることができたのでした。平凡な人間であるわたしたちのための、いい模範となる人たちだったのです。

四、殉教者顕彰の意義

昔の殉教者たちの顕彰は、けっして一部の人の単なる歴史好みとか、回顧趣味といったものではありません。カトリック者の信仰表明の基本的な姿の一つなのです。

第二バチカン公会議は、キリストがわたしたちのために、十字架上で生命を捧げてくださったことを想起したのち、「イエスとその兄弟のために自分の生命を捧げる者以上に大きな愛をもつ者はだれもいない」と教え、次のように続けています。「あるキリスト者は、すでに初期の時代から、すべての人の前、特に迫害者の前でこの最大の愛を証明するために招かれたのであり、また将来も常に招かれるであろう。したがって、世の救いのために進んで死を受けた師に弟子が似たものとなり、流血において弟子が師の姿にあやかるものとなる殉教を、教会はすぐれた賜物、愛の最大の証明と考えるのである。この賜物はわずかの者にしか与えられないが、すべての人はキリストを人々の前で宣言し、教会に決して欠けることのない迫害の中にあって、十字架の道をたどりつつキリストに従う覚悟がなければならない」（教会憲章42）

殉教は、昨日も今日もまた明日も、キリスト信者のこころなのです。殉教者の信仰を思い、それに倣う心を育てていくことは、現代のキリスト者の務めなのです。

五、具体的な勧め

そこで、各地区毎にこれら殉教者たちの歴史を確かめ、その顕彰を心掛けて下さい。殉教の歴史は単なる理論ではなく、神のお恵みと人間の真心が造った一つの生きた記念碑ですから、そこから多くの教訓と励ましを汲み取ることができます。如何に生きるべきかのインスピレーションをいただくことができます。また、カテキズムの勉強においても、郷土の殉教者のことに触れるようにお願いします。若い心は彼らの生き方・死に方から、何か尊いものを学び取ると思います。わたしたちの郷土が殉教者の血潮で聖なるものとされていることを自覚し、今の時代を勇気をもって生きることができるように祈り、そう努めたいものです。

またその昔、この福岡教区の地を聖フランシスコ・ザビエル、そしてその後日本二十六聖人が歩かれたことも忘れてはなりません。そして、この教書で取り上げました四組の殉教者たちのほかに、筑後地区や佐賀地区などあちこちに、信仰の物語は数多く残っていると思います。これからのことを思い起こし、その記憶を大切にすることを学ばねばならないと思います。わたしたちが住んでいるこの土地もまた、聖なる土地だからです。

以上、郷土の殉教者について少し考えてみました。美しいお恵みの歴史を偲びつつ新しい未来、実りある信仰生活の未来を、頼もしい心で歩み続けたいものです。

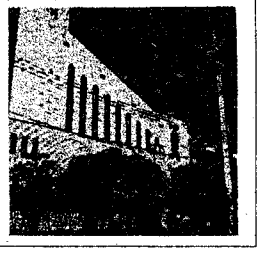
わたしたちの歩みを全能の神が祝福してくださいますように。
アーメン。

一九九五年三月

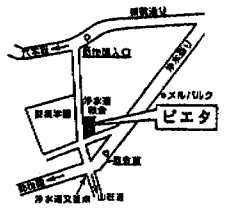
カトリック福岡司教区

教区長　ヨセフ　松永　久次郎

本との出合い　人との出会い　神との出会い
聖パウロ書院
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・カセット・CD
福岡市中央区大名2-7-7 カトリック大名町教会1F
平日／AM10時～PM6時
日曜／AM10時～PM4時（水曜日定休日）
TEL／092(741)4588　FAX／092(716)4142

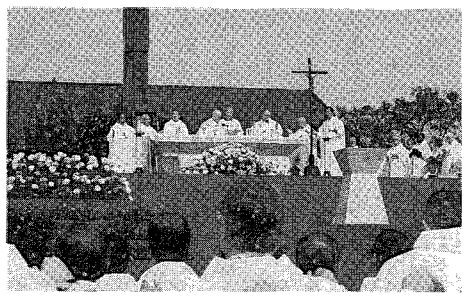


来て・見ませんか…キリストのことば
典礼センター ピエタ
師イエスズ修道女会
祭服、聖器具、
聖画、聖像、ベール、カード、その他
〒810　福岡市中央区浄水通り37
TEL FAX／092（526）9176
平日／AM10時～PM6時
日曜／AM10時～PM1時（休日／水曜日、祝日）



2面よりつづき

考えながら、進んでいると、会場の入り口まで来た。入り口の所で係の人が、一生懸命何か叫んでいる。「許可証のない人は入らないで」と言っているのだろうが、人々は聞かない。いつの間にか僕も会場の中へ入っていた。



会場の中はすごい人だ。各グループの旗が、歓迎の横断幕があちこちで振られ、それぞれが口々に教皇様の名前を呼んでいる。

「ヨハネ・パウロ二世、私たちはあなたを愛しています」を声を合わせて連呼したりした。両手の平にすくい上げた山盛りの米粒のように人がいた。でも、ミサが始まると、大観衆は静かになっていた。

聖書朗読、アレルヤ唱賛歌と終わり教皇様の説教へと続いた。天気は曇り時々晴れだが、あまりの密集状態に倒れる人が続出した。教皇様は英語で話されている。でもよくわからない。自分の語学力のなさを嘆いた。説教が終わると観衆は大拍手、その後ウェーブを一回した。聖体変化の時、教皇様の姿が見えた。確かにホスチアを皆の方へ揚げておられる。主に感謝。しばらくして、司祭たちが群衆の間に散ってご聖体を配った。僕も狭い所だったが、ひざまづいて舌でご聖体をいただいた。

ミサ後、昼食をハンバーガーですまし、オーグスチン教会をはじめ、他の二つの教会とスモーキー・マウンテンを見に行った。

二泊三日と短い間であったが、なぜか彼らの方が豊かに見えた。確かに物質的には日本の方が恵まれているが、なにか日本人が忘れてしまったものがあちこちにあった。人々の笑顔の中、暑い日差しが途切れた時に吹いた一陣の風の中に。暑いと言っては文句を言い、寒いと言っては愚痴を言う日本人。仕事の能率だけを第一に考え、家庭をないがしろにする日本人。キツイことはせず、楽な方へとばかり向かう日本人。そんな日本人がなくした「神に感謝する大切な気持ち」が見えたような気がした。

どんな小さなことにも、どんな短い出会いも大切にし、そのことを神に感謝する。たとえ結果が悪くても、人を大事にする。悪い結果を与えて下さったことをも感謝する。これが大切なんだと、今回の巡礼を通して感じた。

「そればかりではく、艱難さえも喜んでいます。それは艱難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです」（ローマ人への手紙5・3―4）

大名町教会　生田　宏

イエス様を肌に感じ

一月十四日から十六日にかけて、福岡教区から十人の仲間たちと共に、マニラで開催された Young Youth Day 世界青年大会に参加するという恵まれた機会を与えられました。世界各国から、史上最多の約四百万人が集まったのです。人々の間には、何ともいえない熱気が満ちていました。

どこからともなく〝We love you John Poul II〟という歓声がわきおこり、今回のテーマソングである〝Tell the world of his love〟を共に歌っている時は、ひしひしとイエス様の存在を肌に感じました。「人々が集まって、私について語り合っている時、私はそこに共にいる」とイエス様は言われます。まさに、マニラでは皆が心を一つにして集まり、神様と共にいることができた一時だったと思うのです。日本と違い、フィリピンでは国中で信仰しており、まさにカトリック（普遍的）を感じました。神様がもともとそのように人をお創りになったのですから。私たちが頂いた恵みの中で、最もすばらしい恵みに応えるためにも、私たちができる範囲で、少しでも多くの人と共に、同じ喜びを分かち合っていきたいものです。

浄水通教会　居石礼子

教皇マニラ訪問の感動

教皇は第十回「世界青年の日」を世界の青年と共に祝うために、一月十一日から十六日まで当地を訪問された。この大会のため、各国の青年代表二三三人（日本からも参加）が六日から十日まで特別な研修会を開き、大会のテーマである「父がわたしをお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす」について語り合い、このイエス生誕二千年を迎えようとする特別な時期にいる青年として、家庭生活に対する責任やよりよい社会づくりのために、イエスを更に深く知り、より共に行動できるようになりたいというこ



福岡教区から参加した青年たち

とであった。また、パパ様にさしあげるメッセージも用意された。

十三日、パパ様は代表者のために特別なミサ聖祭を捧げられ、ミサ後、彼ら一人ずつと会われて親しくおことばも交わされた。「世界青年の日の集い」最後の夜の十四日には、若者百五十万人以上が集まった。日本からの参加者には福岡の若者もいた。青年による各国の特別な催しものもあり、この一時をパパ様も楽しく若者と語り合われた。

十五日の最後のミサ聖祭には、会場となったルネタ公園と周り一帯の道が四百万人以上の人垣で埋め尽くされた。パパ様の車は通ることも出来ず、急きょヘリコプターで会場にお着きになった。若者たちは「パパ様、私たちはあなたを愛しています」と口々に叫び、パパ様も「私たちもあなたを愛しています」と応えられ大合唱となって会場にこだました。また、フィリピンの若者五万人はパパ様に対して「私たちは、結婚までの純潔を大切にします」と自発的な約束をして、いかにも若者らしい非常に印象的な若者の大祭典となった。

福岡ファミリーセンター
ショーン・M・ライル神父

大神学院で恒例の演劇

日本二十六聖人のお祝いの前晩である二月四日の夜、大神学院では恒例の演芸会が催されます。今年は曜日の関係で五日の晩に行いました。この演芸会というものは、神学生が一年の間直接お世話になった神学校の神父様はじめ、シスター方や外部からの講師の先生、職員の皆さんに、神学生たちが劇などの出し物をして感謝の気持ちを表すものです。

神学校では入学してから順にラテン語科（一年）・哲学科（二年）・神学科（四年）に分かれており、それぞれの科で独自に出し物を準備します。



熱演する神学生

今年も、各科の神学生たちが自分たちで脚本を書き、演出した劇を皆さんに披露しました。裏方や役者として、全員が精一杯の感謝と、今後もよろしくといった気持ちで取り組みました。

あいにく、来ることが出来ない方々もおられましたが、参加された方々は、涙あり、笑いありの劇を喜んで下さったようでした。優秀賞である院長賞は、感動ものの劇を演じた神学科が獲得しましたが演技にはまりきった神学生にぐっと引き込まれたり、まさかの女装姿で登場した時はどっと笑ったりと、終始和やかな一時でした。

神学科生　田中　重治

21世紀のために

司祭評議会

教区長松永久次郎司教は、今年の教区年間テーマを「二十一世紀のために教会を整える」に決めた。二月七日に司教館で開かれた教区司祭評議会では、この年間テーマを考慮しながら、諸問題の検討がなされた。

司祭評議会は教区長の諮問機関で、年間二回開催されている。現評議員は二十人。教区での諸問題について教区長から諮問があり、評議会で討議される。

今回は、評議会を経て、次のことが決まった。

ザビエル祭の準備

一九九九年は、聖フランシスコ・ザビエル渡来、日本での福音宣教開始四五〇周年にあたる。また、一九九七年は長崎での日本二十六聖人殉教四〇〇周年にあたる。全国レベルでの準備が始まるが、福岡教区でもその準備にとりかかる。具体的には、ザビエルや、二十六聖人の教区内での足跡を明らかにすることや、巡礼などが現時点では考えられているが、今後、各教区の信徒使徒職協議会や司祭団で検討される。

合同堅信式

教会の誕生を記念する聖霊降臨祭（六月四日）にカテドラルにおいて、高校生以上の信徒を対象とした合同堅信式が行われる。時間、要綱などについては詳細決定後、後日通知される。

教区内全司祭集合

六月十三日から十五日まで教区内の全司祭を対象とした研修会が開かれる。この研修会のテーマは、先頃バチカンから出された「新しいカテキズム」について。また、教区内の諸問題を踏まえて、教区の未来についても検討される予定。

平和旬間の行事について

八月六日（主の変容の祝日）から十五日（終戦記念日）まで平和旬間と定められているが、今年は終戦五〇周年にあたる。各小教区では、今年の四旬節に出される「戦後五十年にあたっての司教団教書」の意向に従って平和祈願ミサが行われる。カテドラルでは八月十三日に平和祈願ミサが教区長主司式で行われる。

なお、終戦五〇周年にあたり、平和祈願ミサだけではなく、地区信徒協など、信徒アクション団体などを中心に、地区レベルでの記念行事が企画されることが望まれる。

教会維持費について

福岡教区では各所得者（世帯ではない）が、その収入の3％を教会維持費として出すことが基準になっていることを確認した。信徒の理解と協力を求めていく。

教区の未来を考える会

教区の未来を考える会の設置が検討され、メンバーが評議員によって、教区内全司祭の中から推薦された。その結果、以下の六人が教区長より任命された。（敬称略）。牧山勝美（小郡教会主任）・深堀勝人（飯塚、田川教会主任）・山元眞（教区事務局長）・松井忠之（教区会計）・川上惣一（本郷教会主任）・森山信三（福岡カトリック神学院院長）。

二月二十一日に初めての会合が開かれ、代表者として深堀勝人神父が選出された。その後、同会の今後の方向性が検討された。その結果、二十一世紀に向かって教区を整えていくために、まず教区内の諸問題の所在を明らかにして教区長に答申することが決まった。今後は必要に応じて会合がもたれ、六月の司祭研修会で結果が発表される。

ユニバーシアード福岡大会への協力

八月二十三日から九月三日まで、福岡市においてユニバーシアード福岡大会が開催される。開催期間中、キリスト者へのミサ等のサービスが必要と考えられる。今後、教区本部事務局が大会事務局と調整をとった上で、できることを明確にし、福岡市近郊の信徒、司祭の協力を求める。

（教区事務局長　山元　眞）

いつでも、誰でも、自由に利用できる
ボランティア活動の拠点
あなたを必要としている人に、あなたの心と共に
力と時間をさいて下さい。
熊本クリスチャン・ボランティアセンター
熊本市水道町1―5　手取カトリック教会別館内
TEL096－325－4471

業務用食肉販売業
㈲ 肉のくろいわ
代表取締役　黒岩　信吉
〒838－01　福岡県小郡市寺福童429－4
（店）☎0942－72－5532（FAX兼用）
（自宅）☎0942－72－5591

「加賀山隼人の殉教」講演

北九州地区信徒研修会

二月五日、小倉教会の聖堂にて講部脩神父様（サレジオ会）による「加賀山隼人の殉教」の講演会があった。一五六六年の出生から十歳での受洗、禁教令での細川忠興の家臣として、また、キリスト者としての隼人。一六一九年十月十五日の処刑までを時代背景を交えながら、物静かな口調の内にも熱意を込めて詳細に述べられ、ほぼ満席の聖堂は静かに聞きいった。以下に講演のほんの一部を述べる。

「貧しい人の友」「十字架のキリストを見ている」「ぜいたくをしない」と一六一九年のイエズス会の報告にある隼人は、豊前地方一体の郡奉行を勤めながら、中津教会そして小倉教会で信徒の面倒を見、神父亡き後は、厳しい禁教令の最中、主君忠興から家臣としてまた人間として手厚い信頼を受けながらも、それが故にかえってより一層背教を迫られる。

しかし、「私は時勢に合わすことはできない」と背教を拒



む。そして処刑の日、罪の償いをし、裸足になって処刑地（小倉北区の日明病院裏の小倉城下を見渡せる丘陵地と推定されている）に赴き、そこでひざまづき祈り、イエズス・マリアと五回唱えながら処刑される。

加賀山隼人は、一八八八の日本の殉教者の一人として一九九八年に列福式を迎える予定になっている。そのためにも、より一層隼人への理解と共感が必要とされている。

戸畑教会　増永将二

「キリストの証し人に」

修女連研修会

ルルドの聖母ご出現の記念日に、教区修女連は一日研修を行った。

午前中は「修道者それはキリストの証し人」のテーマで、松永久次郎司教様の講話があった。



講演する松永司教

キリストの生き様を眼前に繰り広げながら、「修道者は神に近いことが言動に表れているか、真剣に人々のために祈っているか、自分自身が、また社会にとっても幸せであるか」等、おだやかで慈父的口調の中にも、迫力ある鋭い具体的指摘に、思わず襟を正し、原点に立ち返る一時ともなった。

午後からは井手道雄医師（聖マリア病院長・短大学長）による「生命倫理を巡る諸問題」と題した講演を聞いた。

学際的分野に属する生命倫理は、実は私たちが日常の使徒職現場の中で直面しているし、チャレンジを受けている問題でもあった。科学技術万能の世にあって、絶えず脅かされている生命を守るカトリック医師としての徹底した生命尊重の姿に触れながら、溜飲が下がる思いがしたと同時に、世の逆らいのしるしとしての氏のご活躍にエールを送った。

修女連として有意義な一日でした。

会長　Sr.黒木紗耶子

神道一口メモ②

森山敬三

靖国神社は一八六九年（明治二年）、東京九段に創建された招魂社がその起源である。招魂社は維新の際、戦没した人の慰霊のために設けられたが、それは一八七九年（明治十二年）に靖国神社と改名された。各地の招魂社は靖国神社の分社として整備され、一九三九年（昭和十四年）護国神社と改称した。それは必ず一府県に一社以上設けられ、現在はその数五二社に達している。

いじめを考える（その二）

山頭原太郎神父

いじめの原因を考えるとき決して容易に決められるものではない。何と言っても幼い頃から思いやりの心を日常生活を通して身体で覚えさせることが大切であろうと思う。それは、両親の幼児教育の重要性を意味している。もちろん、学校の責任というか使命は大切である。自分さえ点数がとれればそれが立派なことのように生徒たちは考えていないだろうか。先生たちの日頃の指導が原因であれば大きな問題である。確かに、そのような学校は多いように思える。そして、その裏には先生方をそのように仕向ける親たちのエゴ的な動きがあることも否めない。しかし、学校側はいじめがあってもそれを解決しようとするより、公にならないようにしようとする傾向がある。そのことが結局いじめをなくしえない要因になり、いじめられる生徒も助けを求めるところを失うし、いじめる生徒はそのいじめを続けやすくしているのである。

また、マスコミはいじめる生徒について彼らが未成年者であるということから、いじめてもそれは仕方がないことのように報道している。

いじめる未成年者を大人と同じく処罰せよと言っているのではないが、彼らに今から自分の行動に責任のとれる訓練をさせなければならないと言いたい。甘やかしすぎていると思えてならない。

今いじめを問題にしてはいるが、国民一人ひとりがそれを自分の問題として取り組んでいないように思われる。村山総理大臣がいじめをなくすように指示したということで多くの関心のある人々が、「さて政府は、文部省はどんな対策を打ち出して来るかを待っている現状ではなかろうか。もしそうであれば、いじめがなくなることはありえない。」

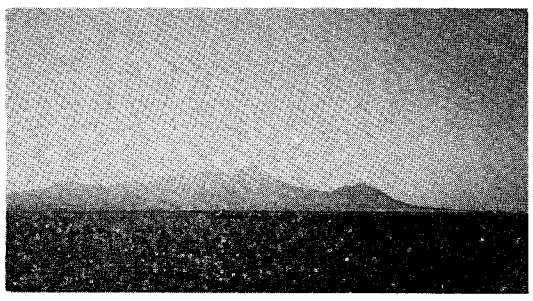
また、「風邪への対策は治療よりも予防が大切」とよく言われているが、教育でも全く同じことが言える。人権問題と真剣に取り組む団体は多いがこのいじめに対しては目立った発言もない。

キリスト教こそイエス様と共に立ち上がらねばならないのではなかろうか。

クルシリヨのお誘い

33回生　平田竜介

昨年のクルシリヨに参加して、まもなく一年近く経とうとしています。思い返せば去年の五月、人々がゴールデンウイークで、遊びだ、旅行だと浮かれている時に、自ら参加を申し込んだものの三泊四日の間何をするのだろうか、見ず知らずの人々とうまくやっていけるだろうか、期待と不安を胸に黙想の家まで行ったというのが正直な気持ちでした。



しかし、実際には鳥の声だけが聞こえる木々に囲まれた黙想の家で、初期のキリスト教徒のような日々を送る中で日常の生活に流され、キリストと私たちの関係や信徒同士のつながりといったものを見失っている自分に気づかせ、再発見させてくれる貴重な時間だったように思います。

最後の日には、長すぎると思っていた期間が短いように思え、不安の一つであった見ず知らずの人々とも、同窓会だ、結婚式だと集まる楽しい仲間となりました。

このようなクルシリヨへ多くの方が参加され、日常生活からはなれて、もう一度自分を見直す機会をもち、新たな自分を見つけることができればよいのになと思います。

最後に、指導司祭の下町豊重神父様や事務局の方々をはじめ、多くの霊的あるいは物的な援助をくださった信者の皆様、本当に有り難うございました。

（小郡教会）

幼稚園のできごと

ロザリオ幼稚園

「マリア様お早ようございます。今日も一日お守りください」。白い息を吐きながらフアチマのマリア様に挨拶をして、子どもたちの一日が始まります。

このマリア様のうしろに、しだれ梅が豊かに枝をさげています。

「この梅は枝が全部さがっているでしょう。しだれ梅って言うの。ようく見てごらん、枝に変わったところが無いかな」。

「あっ、ぶつぶつがたくさん出て来てるよ」。「ほんとだ、ほんとだ。先生どうして」。「どうしてでしょうね」。「わかった、お花の赤ちゃんが入っているんだ」。「先生、神様が赤ちゃんをおこしたらお花咲くのね」。

自然の事象に対して興味と関心の強い子どもたちの目がやさしく光っていました。

雪がちらついた日、こどもたちは大喜びで雪と戯れていましたが、三歳の女の子が石の上にうずくまっています。頭や肩に雪がかかるのも気づかないで…。「テントウ虫さんが寒いので、おふとんかけてるの」。かじかんだ小さな指で枯葉をちぎっては石と石の間で動かないテントウ虫にかけていました。三歳児の命へのやさしさ、子どもと共に育って行く人生だと考えさせられました。

大型バスを予約して楽しみに待った遠足の日が生憎（あしにく）の雨、職員が空を見上げてやきもきしていると、「先生、今日行くと誰かがケガするので、神様が雨を降らしてくれたのよね」とあっさり。一本とられました。

「聖堂へ行くとお猿とリスの歌を歌うと子どもが言うのですが、本当ですか」との電話。??　正体は「オサルタルスホスティア…」でした。

Sr.岡崎光枝



訃報

▼シスターピーター山下満寿江様。聖母訪問会修道女。大濠修道院で一月二十四日死去。享年六十九歳。

▼シスターマリーマドレーヌ三木恵様。女子跣足カルメル修道会修道女。白十字病院で死去。享年七十五歳。

▼シスターエチエン山中喜代様。幼きイエス会（ニコラ・バレ）福岡修道院修道女。福岡逓信病院で一月三十日死去。享年八十三歳。

▼シスターマリア・ヨセフ様福岡徳州会病院で死去。聖クララ寮。享年八十八歳。

▼マリア牧山イヨ様。牧山重光神父様ご母堂。二日市の水城病院で二月三日死去。享年九十九歳。なお教区のために香典返しとして金一封をいただきました。

永遠の安息をお祈りいたしましょう。

中央出版社は、4月1日からサンパウロに社名が変わります。

これが新しいマークです。　サン パウロ

従来の福岡支部は、「サンパウロ　福岡センター」となります。
今後ともどうぞよろしくお願い致します。

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石他 / 理影の / 大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

3・4月の行事
※ゴチックは司教日程

3月
1日　灰の水曜日（大斎小斎）
5日　典礼・聖歌と祈りの集い［黙想の家］
6日　福岡地区教会学校リーダー研修会［カテドラル］
7日　短期キリスト教講座［最終回］
12日　典礼を考える集い
14日　宣教奉仕者・教会奉仕者選任式［大神学院］
20日　聖ヨセフ・松永司教霊名祝日
21日　司祭叙階式［カテドラル］
26日　花岡山殉教祭［熊本］

4月
9日　受難の主日（枝の主日）
世界青年の日
13日　聖木曜日（主の晩さん）聖香油ミサ［カテドラル］
司教座教会献堂記念日
14日　聖金曜日（主の受難）［大斎・小斎］
15日　聖土曜日（復活徹夜祭）
16日　復活の主日
23日　本郷教会堅信式

福岡黙想の家

▼3月4日(土)～5日(日)　御受難会主催・四旬節黙想会（Fr.山元）
▼5(日)　典礼・聖歌と祈りの集い
▼11(土)～12(日)　御受難会主催四旬節黙想会（Fr.畠）
▼15(水)～17(金)　泰星学園新卒生黙想会
▼17(金)～19(日)　青年黙想会（熊本青年会主催）
▼20(月)～21(火)　パブテスト教会宣教師グループ
▼21(火)～23(木)　名古屋・聖母カテキスタ会黙想会
▼23(木)～25(土)　聖母カテキスタ会・会議・黙想
▼26(日)　御受難会主催・日帰り黙想会（Fr.マテオ）
▼27(月)～31(金)　オブレート会黙想
▼4月1日(土)～2(日)　御受難会主催・四旬節黙想会（Fr.ガブリエル）

■典礼・聖歌と祈りの集い［日時］3月5日(日)14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［お話し］山元眞神父［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940－32－3222FAX32－3385

■福岡地区教会学校リーダー研修会［日時］3月6日(月)9時30分～16時［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］復活祭をどう伝えるか［講師］フランコ神父(ザベリオ会・生命山)［問合先］教区本部事務局（松井忠之神父・深堀邦枝）☎092－522－5139

■第1回短期キリスト教講座「生きるとは」　カトリックを紹介する講座です。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターがつきます。［日時］3月7日(火)昼の部10時～11時45分、夜の部19時～20時45分［場所］カテドラル大名町教会一階ホール［参加費］800円［テーマ］聖書とキリスト教［講師］森山信三神父［問合先］各教会Sr.西田（平日13時～18時☎092－715－1061、教区本部事務局（平日10時～12時☎092－522－5139、FAX092－523－2152〈24時間〉）［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会

■典礼を考える集い　3月12日(日)14時～［場所］カテドラル大名町教会　［対象］各小教区、福岡地区典礼担当者［問合先］森山信三神父（カトリック神学院）☎092－531－6821

■宣教奉仕者・教会奉仕者選任式　福岡教区の日高弘、牧山美好、田中重治神学生の三人が教会奉仕者に選任されます。［日時］3月14日(火)10時30分～［司式］松永司教［場所］福岡サン・スルピス大神学院

■召命を祈る徹夜祈祷会［日時］3月18日(土)19時～19日(日)5時30分ミサ後［場所］福岡サン・スルピス大神学院［主催］福岡・召命を祈る会［問合先］森山信三神父（カトリック神学院）☎092－531－6821

■司祭叙階式　古賀教会出身の伊東成晃助祭が司祭に叙階されます。［日時］3月21日(火)14時～［場所］カテドラル大名町教会

■花岡山殉教祭　熊本市の花岡山中腹に加賀山マリア（みや）殉教碑が建てられている。この碑が建立されている処は遺体が実際に埋葬されている世界でも稀な殉教者の聖なる墓域とされている。この殉教者の墓の前で毎年司教司式ミサが捧げられている。［日時］3月26日(日)11時ミサ。雨天の場合、島崎教会聖堂でミサ［場所］熊本市花岡山・加賀山マリア殉教碑の前［問合先］島崎教会☎096－352－5610

■聖香油ミサ　聖木曜日は司祭職と御聖体の秘跡制定の記念日。午前中、教区内のすべての司祭がカテドラルに集まり、司教を中心として聖香油ミサが捧げられる。［日時］4月13日(木)11時

ミニ情報

■奥村一郎神父様の黙想会［日時］3月25日(土)17時～26日(日)16時［場所］大分カルメル会黙想の家［指導］奥村一郎神父（カルメル会）［参加費］5000円［申込先］大分カルメル☎0975－41－4012

■光の子のつどい―神様が大好きなおともだちあつまれ―［日時］3月27日(月)午後2時～29日(水)午後2時［場所］聖心のウルスラ修道会福岡修道院［対象］小学5年～中学3年生の信者の女の子［指導］下町豊重神父（大楠教会）［持ってくるもの］ベール、洗面・筆記用具［参加費］3000円［連絡先］ウルスラ修道会福岡修道院☎092－512－0033［申込締切］3月11日

■聖霊による信仰生活刷新セミナー（1995）―祈りは新しい心のいのちである―［日時］4月17日以降5月29日まで、毎週月曜日10時～12時［場所］カテドラル大名町教会

■SE・CO（奉仕と分かち合いのボランティアグループ）「春の集い」　［日時］4月21日(金)11時～14時［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院［お話し］山元眞神父（教区本部）［問合・申込先］島☎092－521－1544、山下☎092－574－3787、平山☎092－952－1340

■第34回クルシリヨ　［日時］5月2日(火)～5日(金)［場所］福岡黙想の家☎0940－32－3222［指導］下町豊重神父（大楠教会）［参加費］12000円（宿泊・食事・用品代として）［携行品］ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具［申込先］教会配布の用紙を4月25日までに送る［連絡先］大谷真造（クルシリヨ事務局）☎092－661－0120

日本カトリック研修センター

◆進学・就職試験受験の時期にあたり、地方から名古屋周辺に来るミッションスクールの受験生、ならびに卒業・入学など学校行事出席者とその家族関係者の便宜を図り、宿泊施設を以下のとおり特別提供します。なお、未洗者の場合はカトリック関係者の紹介を原則とします。［期間］4月10日まで［対象］受験生（進学・就職）、入学・卒業など学校行事参加者とその関係者　［料金］宿泊（1人1泊）3500円、食事（朝食500円／昼・夕食1000円）　［問合先］いずれも〒466名古屋市昭和区広路町隼人30日本カトリック研修センター研究企画部☎052－831－5037

【お詫び】
教区報2月号「くろすぼーど」の映画欄に以下の誤りがありました。「フィレト・ガンプ一期一会」（誤）「**フォレスト・ガンプ**」（正）また「くろすろーど」15号にも以下の誤りがありました。「典礼・聖歌と祈りの集い」は3月**5日**(日)、「典礼を考える集い」は3月**12日**(日)がそれぞれ正しい日程です。お詫びして訂正いたします。

3月命日の司祭

†マキシム・ボア神父（パリ外国宣教会）
一九五九年三月十九日
元新田原教会主任
†ジェームス・ドイル神父（聖コロンバン会）
一九六二年三月二十六日
元荒尾教会主任
†ユウゼーヌ・ジョリ神父（パリ外国宣教会）
一九六六年三月六日
元久留米教会主任
†フランソワ・マリ・ヴェイヨン神父（パリ外国宣教会）
一九七三年三月十二日
元唐津教会主任
†ルイ・マリ・ベリボ神父（聖ドミニコ修道会）
一九七七年三月十六日
元箱崎教会主任
†ルッチ・ミケレ神父（ミラノ外国宣教会）
一九八七年三月二日
元鹿島教会主任
†ジャン・ムルグ神父（パリ外国宣教会）
一九八九年三月二十六日
元小倉教会主任
†ジョー・オブライエン神父（コロンバン会）
一九九〇年三月二日
元手取教会
†ジョージ・ベラス神父（聖コロンバン会）
一九九〇年三月十九日
元水俣教会主任

三二情報

日本カトリック研修センター

◆進学・就職試験受験の時期にあたり、地方から名古屋周辺に来るミッションスクールの受験生、ならびに卒業・入学など学校行事出席者とその家族関係者の便宜を図り、宿泊施設を以下のとおり特別提供します。なお、未洗者の場合はカトリック関係者の紹介を原則とします。［期間］4月10日まで［対象］受験生（進学・就職）、入学・卒業など学校行事参加者とその関係者　［料金］宿泊（1人1泊）3500円、食事（朝食500円／昼・夕食1000円）　［問合先］いずれも〒466名古屋市昭和区広路町隼人30日本カトリック研修センター研究企画部☎052－831－5037

【お詫び】
教区報2月号「くろすぼーど」の映画欄に以下の誤りがありました。「フィレト・ガンプ一期一会」（誤）「**フォレスト・ガンプ**」（正）また「くろすろーど」15号にも以下の誤りがありました。「典礼・聖歌と祈りの集い」は3月**5日**(日)、「典礼を考える集い」は3月**12日**(日)がそれぞれ正しい日程です。お詫びして訂正いたします。

3月命日の司祭

†マキシム・ボア神父（パリ外国宣教会）
一九五九年三月十九日
元新田原教会主任
†ジェームス・ドイル神父（聖コロンバン会）
一九六二年三月二十六日
元荒尾教会主任
†ユウゼーヌ・ジョリ神父（パリ外国宣教会）
一九六六年三月六日
元久留米教会主任
†フランソワ・マリ・ヴェイヨン神父（パリ外国宣教会）
一九七三年三月十二日
元唐津教会主任
†ルイ・マリ・ベリボ神父（聖ドミニコ修道会）
一九七七年三月十六日
元箱崎教会主任
†ルッチ・ミケレ神父（ミラノ外国宣教会）
一九八七年三月二日
元鹿島教会主任
†ジャン・ムルグ神父（パリ外国宣教会）
一九八九年三月二十六日
元小倉教会主任
†ジョー・オブライエン神父（コロンバン会）
一九九〇年三月二日
元手取教会
†ジョージ・ベラス神父（聖コロンバン会）
一九九〇年三月十九日
元水俣教会主任

編集室から

梅の花が満開。教区報も厳しい寒さに負けず、教区報であることに手抜きせず、生き続ける。神の思し召しと読者の太陽のような温かい目と栄養分があるからだ。三月で一応一区切り。四月からも同じメンバーで努力しますので宜しくお願い致します。梅の花は満開。教区報の出版も万回目指して。

心の温かさを

一月十七日の早朝、突然の大地震が阪神地方を襲った。多くの人が家を失い、五千三百人を超える人が命を失った。予期せぬことで、誰も信じられないことであった。後に、『阪神大震災』と命名され、連日その惨状が報道された。

訳あって、その三週間後に被災地・神戸を訪れることがあった。テレビでの報道を見てある程度の被害状況は理解していたつもりだったが、きりしにまさる惨状であった。ポートアイランドから、中央区・長田区・灘区・東灘区と回って来たが、目を覆いたくなる状況であった。やはり、見ると聞くとでは大違いである。

そんな中で、二、三人の温かさに触れることができ、嬉しく思った。ポートアイランドの病院からタクシーに乗ったが、尋ねて行く番地だけしか分からなかったのに、運転手さんは親切に車を止めるだけでなく、メーターも止め、歩いて自分の事のように探してくれた。半分以上あきらめていたが、お陰で捜し出すことができた。（残念ながら倒壊し、なくなってしまっていたが…）その後、中山手教会から、三宮駅まで、倒壊した町並みの中を歩き、代行バスで青木駅まで向かおうとしたがJR、阪神、阪急それぞれ長い列ができていた。約二時間待ちとのこと。青木駅まで歩くことにし、バス待ちを整理していた整理員の方に「どの方向へ行ったらよいですか」と尋ねた時、一人のおじさんが「私も歩きますのでいっしょに行きましょう」と言ってくれた。宝塚市の方で自分の家もひび割れがしたが親戚の老人の方が被災し、避難所で生活しているのでお見舞いにきたとのこと。重たい荷物を持って見知らぬ地を歩くのは不安であっただけにその申し出と、お誘いはありがたかった。何も分からずに歩き出したが、結局二時間以上かかった。また、その道中、老夫婦が「パンと牛乳はいりませんか」と声を掛けてくれた。商売をしているのかと思ったら、青木まで歩く方に配っているとのこと。感謝のうちにいただきながら先へと進んだが、おなかと心が満たされた。ボランティアの方々の献身的な働きや、このような人の善意に触れ、被災地の惨状とともに、とてもよい経験をさせていただいた。自己中心的で人のことなど構わない、そして打算的な今の社会の中で心温まる思いがした。善意や思いやりとかは、さり気ない心からでるものである。そんな心の、心の温かさをもてるようになりたいものである。

本郷教会・川上惣一神父

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI **藤木工務店**
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

「わたしは復活であり
いのちである」
（ヨハネ11・25）

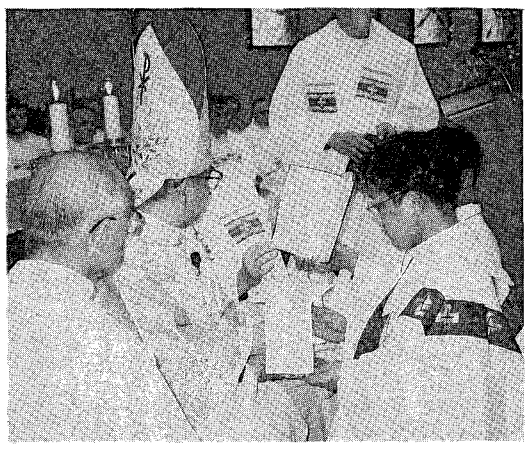
聖パウロ会　百村等神父

伊東成晃司祭誕生

神と人との架け橋

カテドラル

三月二十一日、福岡教区は大きな喜びのうちに、新司祭伊東成晃神父の誕生を祝った。多数の参列者がカテドラル大名町教会に集い、新司祭の誕生を喜びの歌声と深い祈りをもって神に感謝した。今後の活躍を期待したい。



司教よりカリスを授与される

伊東成晃神父は古賀教会の出身で三十歳（父・伊東成也さん、母・ナオミさん）。

高校卒業後にカトリック福岡神学院（旧小神学校）に入学。一年間を他の神学生と寝起きを共にし、その後サン・スルピス大神学院に入学。八年の祈り、勉学を経て司教館にて勤務。そして、昨年十二月八日に古賀教会にて松永久次郎司教より助祭叙階された。三月二十一日の司祭叙階式にはこの日を待ち侘びた両親をはじめ、出身教会の信者など多くの人々でカテドラルを一杯にした。

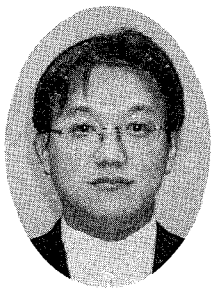
「今日こそ神が造られた日」の聖歌が流れる中、助祭用ストラ（助祭が式典で用いる）を着けた受階者が、松永久次郎司教、司祭団とともに入堂した。期待と喜びと感謝のうちに式は滞りなく進んだ。

司祭職の受諾の表明、司教に対する尊敬と柔順の約束、諸聖人の取り次ぎを願う祈りと按手。新司祭には祭服の着衣の後、両手に聖香油が塗油された。また、カリスなど司祭の任務を果すために必要な聖器具が授与された（＝写真）。

松永司教は「今日は福岡教区の神の民にとってすばらしい日である。受階者はキリストの司祭職を受けたのであるから、神と人との架け橋となり、神の恵みの分配者となるように。秘跡執行の権能を奉仕の心をもって守り行っていくように。司祭職のスタートは叙階式からである。これから歩み続ける新司祭に神の守りがあるように祈りたい」と語った。

祝賀式典では、司教から、「神からの権能を使って奉仕に生きるように」と祝辞が述べられ、参列者に対しては、「司祭の召命が続くように祈り、協力して欲しい」と話した。

信徒を代表して古賀教会信徒会長の井上元之氏が、司祭団を代表して松井忠之神父（司教館）が歓迎の言葉を述べた。



▶伊東成晃新司祭

これに対し、伊東新司祭は教区長松永司教、平田三郎司教、司祭、修道者、信徒に対して「司祭として生まれたばかり。大人の司祭として成長するように祈りと励ましをいただきたい」と語った。

式典後は、一階ホールでヨセフ松永久次郎の霊名のお祝いも兼ねたパーティが行われた。

ヨセフ松永久次郎司教
霊名祝日を迎える

福岡教区長松永久次郎司教は、カテドラル大名町教会にて前教区長平田三郎司教、司祭、修道者、信徒とともに霊名「ヨセフ」を祝った。祝いは叙階式のパーティを兼ねて行われた。

教区総代理の青木保神父（浄水通教会）が、「これからも司教と心を一つにして、神の国建設のために尽くしたい。教区発展のために激励をいただきたい」と祝辞。

各小教区から準備された「霊的花束」と「物的花束」が司祭からと信徒から渡された。

時の話題

佐藤　忠夫

長濱庄吉さんは、長崎県五島に生まれ、今年九十七歳になられる。若いときから文筆の才に恵まれ、研究熱心。人吉新報とか、福岡教区報の前身「オトズレ」などに関わって、大いに論陣をはり、今なお教会への建言を怠らない、名実ともに人吉教会の長老であられる。

この長濱さんが当時の主任司祭ハンター神父の要望に応えて、かねて関心を寄せていた人吉球磨の多くのキリシタン遺物を中心に、人吉のキリシタン史の調査研究に着手。十年近い歳月をかけて「人吉キリシタン史考」をまとめ上げられたのが昭和五十年であった。この人吉球磨、つまり相良の風土にキリスト教はどのように関わり、馴染（なじ）んできたのだろう。興味深い

歴史が教えるもの
「人吉にキリシタンがいた」

ところである。

キリシタン遺物として記された、十基にのぼるキリシタン灯籠や、数体のマリア観音像は何を物語っているのであろうか、その他南蛮鞍、キリシタン鍔、マリア徳利、袴下げのお守りなど、生活の中にじむ信仰の喜びと厳しさを同時に語りかけていると私は思わずにはいられない。

この他、郷土史家高田素次氏の「人吉の隠れ切支丹」、「マリア観音の正体」、同じく種元勝弘氏の「織部灯籠について」、また地質研究家の原田正史氏「キリシタンの灯籠の石」などの文章が興を添える。

グラビアのマリア観音像、南蛮鞍やキリシタンではなかったかと思われる相良の十八代、二十代、二十一代藩主の肖像などがカラーで掲載されとりわけ表紙の球磨川の荒波も絶品である。

この昭和五十年刊の「人吉キリシタン史考」は、信徒佐無田斌氏によって平易な文章に改められ、史実が追加されるなど、内容、外観ともに一新して世に出されたのである。歴史はつねに新しい時代に語り継がれるべきものである。就中、キリスト教カトリックに生きた古い時代の人々の生活のあり様は知るべくして知られるものではない。佐無田氏の労を多とし、人吉カトリック教会刊「人吉にキリシタンがいた」が広く読まれることを期待したい。

（人吉教会）

交わりの教会を目指して新生計画

大阪大司教区

阪神淡路大震災で多大な被害を被った大阪大司教区の教区長安田久雄大司教は、震災から一ヵ月たった二月二十八日、「阪神淡路大震災よりの大阪教区『新生』計画について」と題する文書を発表。すでに二月二日に示されていた同教区の「新生」基本方針を改めて思い出させ、司教と心を一つにして新しい大阪教区を築くよう、信徒の協力を求めた。

基本方針によれば、「再建」計画は、単に地震以前の状態に復旧することではない、とし、キリストの新しい生命（復活秘義）に与かる「新生」への計画としている。また、援助の「谷間」におかれた人たちを大切にすること、「教会」には小教区のほかに、修道院、諸事業体が含まれることなどが明らかにされている。さらに、被災した地区のみならず、他地区も同じ姿勢をもつよう呼びかけられている。

この基本方針に従って「新生」大阪教区が動き始めた。復活祭後に大幅な司祭の異動があり、信徒とともに「いっしょに」祈り、考え、実行し、反省・評価する「交わり」の共同体が再生していく。

感動の選任式

サン・スルピス大神学院

三月十四日、サン・スルピス大神学院では宣教・教会奉仕者の選任式が挙行された。

福岡教区長松永久次郎司教を主司式とし、平田三郎司教と約三十人の司祭団、修道者、神学生、大勢の関係信徒が祈る中、五人の宣教奉仕者、六人の教会奉仕者が誕生した。

松永司教は宣教奉仕者について、「神のみ言葉を読む者に選ばれる者は、読むに値する者であるように。神が人をいかに愛しているかを伝え、イエスを通して行われた神の業がよく説き明かされるように『読む人』であるように。何よりも、自分自身が神のみ言葉に忠実であるように」と述べ、教会奉仕者には、「より神に近い者として祭壇の務めに忠実であり、神と教会に仕えていく心を強めるように。無償でいただいた神の恵みを大切に生きるように」と語った。

司教の前にひざまずいた宣教奉仕者には聖書が、また教会奉仕者には感謝の祭儀用のパンがそれぞれ授与された。

なお、宣教奉仕者は、一ノ瀬輝幸（長崎）、岡秋美（長崎）、山田良秋（長崎）、川口昭人（長崎）、上田徹（大分）の五人。教会奉仕者は、中島誠志（長崎）、山本一郎（長崎）、嘉松宏樹（長崎）、日高弘（福岡）、田中重治（福岡）、牧山美好（福岡）の六人である。祈りと援助で応援したい。

（　）内は教区名。

司祭異動

大名町教会助任（新司祭）伊東成晃▽戸畑教会・直方教会助任兼務（大名町教会助任）中村信哉▽直方教会主任兼務（戸畑教会主任）浦口均▽司教秘書（直方教会主任）山下正▽日生中央教会主任（御受難会宗像修道院）鈴木忠一▽聖パウロ会福岡修道院（同箕面修道院）百村等▽同会八王子修道院（同福岡修道院）杉原寛信▽イエズス会福岡修道院（同古江修道院）三宅秀和▽同会福岡修道院（上石神井修道院）J・Lモラレス▽同会古江修道院（同福岡修道院）外川直美▽聖スルピス会本部＝大神学院（留学）白浜満＝長崎大司教区

みちくさ

近くの病院には救急車のサイレンが絶えない。病院には盆も正月もない。自分もいつこのサイレンと一緒に病院に運ばれるか分からない。今救急車に乗せられてすぐ息絶えることも不思議ではない。が、この世には未練がある。明日があることを想定して生きている。今これを書いているのも教区報がこの日に読まれることを想定してのこと。明日はもうこの世にいないかもしれない▼阪神大震災は突然の出来事であった。マグニチュード七・二の烈震で、犠牲者は五千四百人以上を数えた。今だに避難を強いられている人も多い。少々の地震でも壊れることはないとされていた高速道路、ハイテクを駆使した建物、施設が見るも無残な状態。人間の知恵の限界を知らされた出来事であった▼これも神の計画なのだろうか。人の目には分からない。確かに、「明日はどうなる」ということが分かっていれば、それなりの準備はできるが私たちは予言者でも天使でもない。だが、ありのままを受け止めることが大切。それは神の計画を素直に受け止めることになるのだから▼私たちは神のみ旨についてはよく分かる。キリストの教え、教会の教えがあるから。その中で確かなのは、「目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」（マタイ25・13）とのお言葉である。要は、今直ぐ死んでも何も心配することのない生活をするということ。心配があるなら、その日までに処理をしておくこと。死後、私はこの世のものではないが、名は残る。「あの人はいい人だった。天国にいるだろう」と言ってもらいたいものである。次のサイレンは私のかも知れない。

【S】

復活祭に＝光と水のシンボル＝

復活祭は、典礼暦年の頂点です。キリストは、苦しみと十字架の死を通して、人類の救いを成しとげられ、私たちキリスト者に苦しみと死の意味、そして生きる希望を与えてくださいました。

私たちキリスト者は、毎週、主日にそして年に一回、盛大に、この主の過越の出来事を記念し、感謝いたします。それは、この歴史における一回かぎりの出来事の中に、すべての人間にとって、人間であるかぎり直面せざるをえない根本的な問題の解決があるからなのです。

さて、復活徹夜祭の典礼において、際立ったシンボルといえば、光そして水です。このふたつは、人間の生命に深く関わっており、人間存在の根源にあるといえましょう。それ故、死、そして生命がテーマであるこの日の典礼にふさわしいものです。

復活の大ろうそくが暗闇の聖堂に光り輝くとき、「世の光」であるキリスト、「すべての人を照らす真の光」であるキリストを象徴的に示します。一同はそこから光を受けて輝きます。

イエスを捕らえにきた兵士たちは、松明や灯火を手にしていました。真の光がそこに輝いているのに、彼らは「闇に属する」ため、いわば偽りの光を手にしなければならなかったのです。

さて、灯された大ろうそくは、洗礼式の前に聖水を祝福するため、水に浸されます。そして司祭はこのように述べます。「御子イエス・キリストによって、聖霊の力をこの洗礼の泉に満たしてください……」。これは、水を通して照らされた（生命に入る）者となる象徴的な動作といえましょう。イスラエルの民は、紅海を渡り、神の民としての回復と再生を水の力によって救いとして体験したのです。この聖なる水を受ける受洗者も、水によって自ら死に、水によって生まれ変わり、そしてキリストと一つになるのです。

さらに、大ろうそくから分けられた光を受けるとき、私たちは「照らされた者」、すなわち、生命の光を受けて、その光を「人々の前で輝かす者」となるのです。

復活徹夜祭の典礼は、このように、苦悩とよろこび（アレルヤ）、光と闇、水と生命など、私たち人間にとって根本的なシンボルを用いて、私たちに示しています。

福岡カトリック神学院
森山信三神父

第1回短期キリスト教講座（福岡）
生きるとは…！
七人の講師とのべ1,000人の受講者

急激な社会の変化の中で自分らしさを失いつつある現代の人人、ともすれば殺那主義に陥り固定概念から逃れられない私たちに、あらためて投げかけられた言葉『生きるとは』。これを主題に、福岡地区で初めての「短期キリスト教講座」が開講された。


白熱する講師と受講者

三月初旬まで、6回に渡り教会へのお誘いに始まって、生涯のうちに避けては通れない様々な出来事、子供の躾や教育、夫婦、老い、死までをサブテーマに、最後は「聖書とキリスト教」で締めくくられ大好評のうちに終了した。

各講師の生き生きとした等身大の話は受講者たちの心に響き、単に有意義のひと言では片付けられない大きなものを残してくれたようである。

当初は、未洗者を対象に企画されたが、身近な問題が取り上げられていたせいか、予想をはるかに超える信者たちも参加した。差し出した手を確実につかみ、握り返してくれた人たちへどう応えていこうか。いま教会は、大いに期待されている。

参加者の「科学万能の現代ですら、否、だからこそ人間は神から離れられないと感じました」、「現代のニーズに応える素晴らしい講座だと思います。2回・3回と企画して下さい。」等という声に、実行委員会では早速、日程や講師の選考を始め、出来れば六月中にでも開催されるよう第2回目を計画中である。

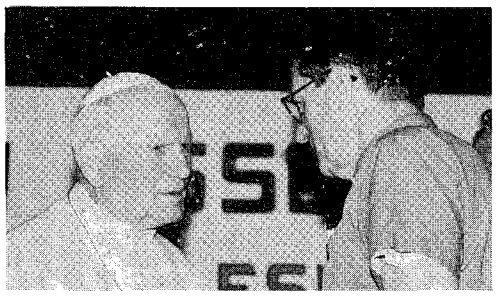
第6回「アジア司教協議会連盟総会」
教会が説く家族計画こそ
人間の尊厳に立った道

ファミリーセンター　S・ライル神父

一月十日―十九日まで「今日のアジアにおけるキリストの弟子―命に仕えること」をテーマに、二十ヶ国余りの司教の参加を得た会議でした。パパ様も十五日「世界青年の日」最終行事後の夕刻にはこの会場に到着され、講話、参加者一人ひとりとの謁見、会食と精力的に参加されました。

会議では、安楽死・中絶・避妊・遺伝子の操作など、人間の機能や生産性のみを高めようとする現代の物質・消費主義の傾向から、アジアの家族を命の聖域として守ることの必要性が提出されました。教会は近代的な医学・科学による自然な家族計画を説いてきましたが、これこそ人間の尊厳にたった道であり、神の豊かな祝福と実りがあることなどが話し合われました。

パパ様とお会いして、教皇様に対する感謝と、日本の宣教師として、家庭の福音化に専念している現状を英語で話しました。パパ様は非常に喜ばれ、大きな声で「神に感謝」と日本語で応えられました（＝写真）。私こそ神に感謝の一時でした。



リレーで繋ぐ
召命の祈り

もう数年も前から着実な歩みを続け、多くの信徒の参加を得て活動している「福岡地区召命の集い」にあやかり、熊本地区でも修女連主催の、「召命を祈る集い」が孤孤の声をあげたのは、平成六年五月であった。手取教会での夜七時のミサを皮切りに、市内の小教区と修道院を会場に、祈りのバトンを渡しながら、ミサ、ロザリオを中心に、召命を祈ってきた。二月二十四日健軍教会の夜のミサで鵜野神父様がアンカーとなり、感動的な召命物語りが繰り広げられ、一年目の幕が閉じられた。

六回ともおよそ五十人前後の参加者で、まだ小規模のリレーではあったが、それぞれに内容の豊かなものであったと思われる。福岡教区の召命の現状が披露されたり、神学生の召命体験が分かち合われたり、修道会の召命ビデオを鑑賞したり、なかでも、天使園の子どもたちの自由な参加による祈りは、大変心強く嬉しいものであった（＝写真下）。

今年度も手取、武蔵ヶ丘、帯山、島崎、健軍と既に日時も決まり、より多くの信徒・修道者の参加を呼びかけ、祈りの輪を広げていきたいと意気込んでいる。



「収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」（マタイ9・38）。

熊本地区召命担当

聖霊降臨祭
を
カテドラルで
〈堅信式も〉

教会の誕生を記念する聖霊降臨祭（六月四日）を教区行事としてカテドラルで祝うことが、二月の司祭評議会で決定した。午後二時からの教区長司式のミサの中で堅信式が行われる。対象は高校生以上。申し込みは復活祭までに神学院の森山信三神父まで。

☎092―531―6821

復活祭の過ごし方を学ぶ
教会学校
リーダー研修会

三月六日、カテドラル大名町教会にて、生命山別院のフランコ神父様をお迎えして、福岡地区教会学校リーダー研修会が行われました。「復活祭をどう伝えるか」のテーマで、典礼において頂点である聖なる三日間（聖木曜・聖金曜・復活徹夜祭）をどのように祝うか、また祝うことを通して、私たちを贖ってくださる過越の生贄であるキリストを、子どもたちにいかに伝えるかを、力強く話してくださいました。

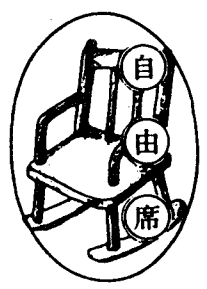
単に知識を学んだというような研修ではなく、本当のすばらしさを知っている者だけが伝えられる感動と説得力、教える者のあるべき姿を伝えてくださった一日だったと思いました。「すべてを子どもに伝えるということではなく、大人が喜びをもって、教会へ行きミサに与ると、それを見て子どもは喜んでついて来る」といわれたフランコ神父様の言葉が深く心に響きました。

神父様の言われたことを自覚し、日々の生活を通してこれから実行していきたいと思いました。

それには、来るべき今年の復活祭を本当に喜びのうちに子どもたちと共に迎え、歩み始めることができるようにと心に決め、感謝のごミサを捧げ散会しました。

本郷教会　教会学校リーダー

ヨセフ松永司教様
老司教会を公式訪問



二月五日、松永久次郎司教様が老司教会を公式訪問された。約二年ぶりである。

小雪がちらつく寒い朝であった。今までは信徒は玄関前に並んで、司教様の車が到着するのを待ち、拍手でお迎えしたのだが、今回は新任ピーノ神父様のご意向で、聖堂内で静かに祈りながら、司教様の入堂を待つことにした。これは誠に適切な措置であったと思われる。なぜなら、もし今までのように外で十分も二十分もお待ちしていたとしたら、風邪をひく人が続出したかもしれないからである。そうでなくとも、全員が外でお待ちして、到着されてから、ザワザワと聖堂に入り、着席してすぐミサが始まるのでは落ち着きのないものになる。その点、典礼博士ピーノ神父様の意向はさすがと言わざるをえないだろう。

典礼は司教様の司式で厳粛に行われ、ミサの中で、十六人の子どもたち（成人一人）の堅信式が行われた。

堅信の秘跡を受けた子どもたちの目は輝き、その父兄やミサに参列した三百数十人の信徒は、信仰の喜びを新たにしたようであった。

ミサが感激のうちに終わったあと、信徒会館で司教様を囲んで、ささやかな祝賀パーティーが開かれた。

司教様も、前回訪問されたときよりも多くの信徒が集まっていることをたいへん喜ばれ、次回訪問のときは、信徒数を千人にするようにとの励ましのお言葉をいただいた。

神に感謝。

老司教会　広報室

祈りたい時　祈るため
疲れた時　休むために
●グループ又は個人でもご利用できます
●ご希望があれば指導も受けられます
お問合せはお電話で（AM 9:30～17:00）
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CROSSROAD No.16/1995
くろすろーど
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

◆第３４回クルシリヨ

日時：５月２日（火）～５月５日（金）
場所：福岡黙想の家
指導：Fr.下町　豊重
参加費：12,000円（宿泊・食事・用品代）
携行品：ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具
申込方法：小教区配布の申込用紙を４月25日までに
連絡先：大谷真造（クルシリヨ事務局）
☎092（661）0120

◆熊本地区・召命を祈る集い

教区内のあちこちで、召命促進の努力がなされています。司祭、修道者、信徒が同じ意向のもとに、共同体として召命のために祈ります。特に、熊本市内の信徒、修道者の皆さんの積極的な参加をお願いします。

日時：5月6日（土）19時～20時
場所：カトリック手取教会
問合先：Sr.黒木　紗耶子（幼きイエズス会）
☎096（364）0352

◆糸島地球市民ふれ合いフェスタ

“地球市民ふれ合いフェスタ”の楽しい催しが計画されています。参加メンバーは、ＪＣメンバーフェスタ・各ＮＧＯ団体・青年スクールなどです。11時20分～12時20分にはバザールも開かれます。その後、バンド演奏・民族舞踊も予定されています。

日時：５月14日（日）［雨天の場合21日（日）］／場所：前原中央公園

◆典礼―聖歌と祈りの集い

日時：５月14日（日）14時～
場所：福岡黙想の家
聖歌指導：深堀　純
会費：1,000円
主催：福岡典礼聖歌研究会
問合先：福岡黙想の家　☎0940（32）3222
FAX　0940（32）3385

◆典礼研修会

日時：５月21日（日）13時30分～17時50分
場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会
テーマ：「ミサとその歴史」
講師：Fr. 土屋　吉正
参加費：500円
申込：小教区でまとめて福岡ｶﾄﾘｯｸ神学院まで
問合先：Fr.森山　信三
福岡カトリック神学院　中央区浄水通38
☎092（531）6821　FAX092（524）7373

◆広報研修会

日時：５月21日（日）13時30分～16時30分
場所：司教館別館５階
参加費：500円
申込／問合先：Fr.山元眞　教区本部事務局
中央区浄水通39　☎092（522）5139
FAX　092（523）2152

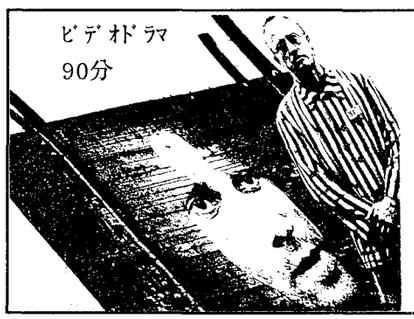
◆九州ダルク・チャリティ・ピアノコンサート

～薬物依存の回復施設ダルク支援のために～
日時：５月27日（土）＜受付13時30分、開演14時＞
場所：カテドラル大名町教会
演奏者：林　恵子
曲目：ソナタ「月光」（ﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ）他
参加費：2,000円
主催：九州ダルク／協賛：福岡カトリック司牧センター［美野島］／後援：カトリック福岡教区／申込・問合先：九州ダルク・デイケア・センター　☎092（471）5140

◆聖霊降臨祭

教会の誕生を記念する聖霊降臨祭を松永司教様を迎えてカテドラル大名町教会で行われます。また、ミサの中では合同堅信式も行われます。カテドラルに集い、心をあわせてお祝いしましょう。

日時：６月４日（日）14時～
場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会


ﾋﾞﾃﾞｵﾄﾞﾗﾏ
90分
V883
命を命に
―マキシミリアノ・コルベ―
監督　K.ジャヌッシー
¥9800
アウシュビッツをめぐる
感動と迫力のドラマ！
音響映像グループ
メディアセンター
〒466名古屋市昭和区八雲町　７０
TEL. 052-831-3196
FAX. 052-835-3127

4月

1日（土）御受難会黙想会［黙想の家～2日］
5日（水）†F.ブレンゲ［佐賀1946年］
7日（金）†C.シュミッツ［黙想の家院長 1988年］
8日（土）御受難会黙想会［黙想の家～9日］
9日（日）◆受難の主日〈枝の主日〉
世界青年の日
12日（水）†パウロ大野正恒［泰星学園校長 1985年］
13日（木）聖木曜日〈主の晩さん〉
◆聖香油ミサ〔ｶﾃﾄﾞﾗﾙ　11:00～〕
福岡教区司教座教会献堂記念日
聖週間黙想会［黙想の家～16日］
14日（金）聖金曜日〈主の受難〉大斎・小斎
15日（土）◆聖土曜日〈復活徹夜祭〉
†J.ドレル［直方1984年］
16日（日）復活の主日
17日（月）聖霊刷新セミナー①
〔カテドラル　毎月曜10:00～〕
「泥かぶら」公演
〔九州厚生年金会館13:00～〕
20日（木）◆教皇文書研究会
〔カテドラル　10:00～〕
「泥かぶら」公演（ﾒﾙﾊﾞﾙｸ17:30）
21日（金）ビリオドの集い
［黙想の家～23日］
ＳＥ・ＣＯ「春の集い」
〔聖心のｳﾙｽﾗ福岡修道院11:00～〕
「泥かぶら」公演
〔メルパルク13:00～、17:30～〕
22日（土）バングラデシュ・チャリティ・ｺﾝｻｰﾄ
〔城南市民ｾﾝﾀｰ　18:30～〕
23日（日）◆堅信式［本郷］
北九州正平協講演会
〔小倉教会14:00～〕
25日（火）聖マルコ福音記者
司祭のための諸宗教対話研修会
［生命山　17:00～27日14:00］
†A.レウトル［新田原1944年］
29日（土）ウォーカソン　'95（小神～大神）

◆　司教日程

5月

1日（月）労働者聖ヨセフ
聖霊刷新セミナー③
〔カテドラル　毎月曜10:00～〕
2日（火）聖アタナジオ
クリシリヨ［黙想の家～５日］
3日（水）聖フィリッポ・聖ヤコブ使徒
5日（金）†F.ルマリエ［八代1945年］
7日（日）召命祈願日
修女連総会・講演会［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ］
8日（月）結婚講座①［熊本手取教会
毎月曜・水曜］
10日（水）†F.チリ司教［福岡教区長1930年］
11日（木）結婚講座①［福岡：カテドラル
毎木曜・土曜］
13日（土）◆九州ダルク開所式［司教館］
14日（日）母の日・笹丘／老司教会バザー
糸島地球市民ふれ合いフェスタ
15日（月）†ヨハネ棚町正刀［茶山1968年］
21日（日）広報の日〈指定献金日〉
広報研修会〔司教館　13:30～〕
典礼研修会〔ｶﾃﾄﾞﾗﾙ　13:30～〕
24日（水）扶助者聖マリア
「泥かぶら」公演〔ももちパレス 17:30～〕
26日（金）聖フィリッポ・ネリ
第34回朝祷会全国大会
［熊本～28日］
「泥かぶら」公演〔ももちパレス 13:00～、17:30～〕
27日（土）ダルク・チャリティーコンサート
〔カテドラル　13:30～〕
28日（日）主の昇天
29日（月）聖霊刷新セミナー⑧
〔最終回10:00～〕
30日（火）聖ジャンヌ・ダーク
31日（水）聖母の訪問

†　司祭命日

1955年8月14日第3種郵便認可毎月1日発行　第457号

参加しませんか

◆四旬節黙想会ご案内

～主の愛を心に刻む十字架の黙想をあなたに静かな祈りのときと生活の霊的刷新のとき～

⑤4月8日（土）11時～4月9日（日）16時
指導：Fr.鵜野泰年／会費：7,000円

⑥4月13日（木）17時～4月16日（日）昼食後〈聖なる過越の三日間と主の復活〉
指導：Fr.マテオ／会費：14,000円

申込・問合先：福岡黙想の家
☎0940（32）3222　FAX 0940（32）3385

◆聖香油ミサ

聖木曜日は司祭職と御聖体の秘跡制定の記念日です。教区内のすべての司祭が集まり、司教を中心として聖香油ミサが捧げられます。信徒の参加が求められます。

日時：4月13日（木）11時～
場所：カテドラル大名町教会

◆聖霊による刷新セミナー

聖霊による刷新セミナーは、新しい歌を歌う信仰の喜びを実感し、祈りの生活を刷新する恵みの機会となります。それは「祈りの学校」＜新しい「カトリック教会のカテキズム」（2689）＞と呼ばれ、多くの人々にとって教会への忠誠と深い霊的かかわりを体験するものとなっています。

この聖霊への目覚めについての呼びかけをあなたは感じますか？　霊的な深い喜びを祈りの中で体験したいと望まれますか？　祈りとキリスト信者の生活は切り離せないものです。この機会に賛美の歌と祈りの集い、７週間の聖霊による信仰生活刷新セミナーに参加してみませんか？

日時：4月17日～5月29日・毎月曜日10時～12時
場所：カテドラル大名町教会
内容：①4月17日「神の愛」（Fr.畠基幸、Fr.マテオ）
②4月24日「救いのみわざ」（Fr.牧山勝美、Fr.マテオ）
③5月1日「新しい生命」（Fr.マルコ、Fr.マテオ）
④ 5月8日「神の賜物の受領」（Fr.ライル、Fr.マテオ）
⑤5月15日「聖霊の満たし」（Fr.マッケイ、Fr.ライル、Fr.マテオ）
⑥5月22日「聖霊のうちでの成長」（Fr.ドワイヤー、Fr.ライル、Fr.ガブリエル）
⑦5月29日「〈ミサ〉キリストの証人」（松永久次郎司教、Fr.マテオ、Fr.畠、Fr.ライル、Fr.マッケイ）

◆演劇のご案内

『泥かぶら』　真山美保　作・演出

～昔、顔の大変みにくい少女がいました。あまりのみにくさに、人々の嘲笑のまとになり、石を投げられたり、唾をはきかけられたりしました。

今日も、わけもなく石つぶてを浴びせかけられ、嘲られた口惜しさで荒れ狂っています。そこへ、旅の老法師が通りかかり、「きれいになりたい！」と慟哭する“泥かぶら”に、美しくなる方法を教えてくれました。

自分の顔を恥じないこと――。
どんなときにも、にっこり笑うこと――。
人の身になって思うこと――。

この三つのことさえ守れば、村一番の美人になれると言うのです。少女の心は激しく揺れ動きました。そして・・・。～

こうして始まる物語を、今年創立45周年を迎える新制作座が熱演します。人間としての本当の美しさ、こころのあり方を考えさせられる、見逃せない公演です。

◎公演日程
4月17日（月）九州厚生年金会館（北九州市）17時30分～
4月20日（木）メルパルクホール（福岡市）　17時30分～
4月21日（金）メルパルクホール（福岡市）　13時～、17時30分～
5月25日（木）ももちパレス（福岡市）　17時30分～
5月26日（金）ももちパレス（福岡市）　13時～、17時30分～

◎チケット申込・問合先
㈶新制作座文化センター　福岡事務局
☎092（752）4791　FAX 092（752）4910

◆北九州正平協講演会

「戦時下における日本のカトリック教会」

戦後50年を迎える今年、社会でも教会でも過去を振り返り、反省し、将来に対する責任を持って今の歩みを見つめ直そうとしています。今回の講演会がこの歩みの一助になれば幸いです。みなさんのたくさんの参加をお待ちします。

日時：4月23日（日）14時30分～16時30分
場所：カトリック小倉教会（小倉北区香春口1-3-1）
講師：Fr.西尾　正二（日本カトリック宣教研究所所長）
主催：北九州カトリック正義と平和協議会
後援：北九州信徒使徒職協議会
連絡先：Fr.中村　彰（小倉教会）
☎093（921）0093　FAX093（921）0139

◆聖書百週間

百週間かけて聖書を全部通読する会が復活祭（4月16日）後から手取教会で始まります。

問合先：平田　悠貴子　☎096（344）3039

◆松永司教様の教皇文書研究会

日時：4月20日（木）10時～11時
場所：カテドラル大名町教会
参加費：500円
主催：福岡地区婦人会

◆ＳＥ・ＣＯ～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ

「春の集い」

日時：4月21日（金）11時～14時
場所：聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院
お話：Fr.山元　眞（教区本部）
申込・問合先：島　092（521）1544、山下　092（574）3787、平山092（952）1340

◆福岡地区婦人会総会と講演

日時：4月24日（月）10時～
場所：カテドラル大名町教会
講師：Fr. 山内　清海（長崎）
費用：1,000円
問合先：山口　紀子　☎092（921）4532

福岡黙想の家

◎黙想の家スケジュール
4/1（土）～4/2（日）四旬節黙想会（Fr.ガブリエル）
4/3（月）～4/4（火）雙葉学園新任職員研修
4/5（水）～4/6（木）　――　休館　――
4/7（金）　日本聖公会修養会
4/8（土）～4/9（日）四旬節黙想会（Fr.鵜野）
4/13（木）～4/16（日）聖週間黙想会（Fr.マテオ）
4/21（金）～4/23（日）ピリオドの集い
4/24（月）～4/26（水）ショファイユの幼きイエズス修道女会会議
5/2（火）～5/5（金）　クリシリヨ
問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940（32）3222　FAX0940（32）3385

◆熊本ボランティアセンター講演会

熊本ボランティアセンター創立一周年記念として講演会が行われます。一般参加の方も大歓迎です。ぜひ、ご参加ください。同時に、運営事務会も開かれます。

【講演会】
日時：4月30日（日）13時～14時30分
場所：カトリック手取教会
参加費：無料

【運営事務会】
日時：4月30日（日）11時30分～15時
場所：カトリック手取教会

◆バングラデシュ・チャリティ・ピアノコンサート

バングラデシュ・チャリティ・ピアノコンサートを開催します。ピアノの美しい音色をお楽しみ下さい。収益金は、バングラデシュのカラムディ村の奨学金として使われます。

日時：4月22日（土）18時30分～
場所：城南市民センター　福岡市城南区片江5-3-25　☎092（862）2141
入場料：1,000円
問合先：今給黎　靖子　☎092（591）1129

◆結婚準備セミナー

（カトリック・ファミリーセンター）

【福岡】5月11日～6月3日毎木曜日・土曜日（全8回）場所：カテドラル大名町教会／問合先：カトリック・ファミリーセンター
☎092（541）6207　FAX092（552）5022

【熊本】5月8日～5月31日毎月曜日・水曜日（全8回）場所：カトリック手取教会／問合先：カトリック手取教会
☎096（352）3030　FAX096（324）6749

生命山

◎生命山スケジュール
4/25（火）～　4/27（木）　司祭のための研修会
7/23（日）～　7/29（土）　黙想会（Fr.クラウディオ）
8/4（金）～　8/12（土）　黙想会（Fr.フランコ）
8/18（金）～　8/26（土）　黙想会（Fr.フランコ）
申込・問合先：生命山カトリック別院
〒865-01　熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7
☎0968（85）3100　FAX0968（85）3186

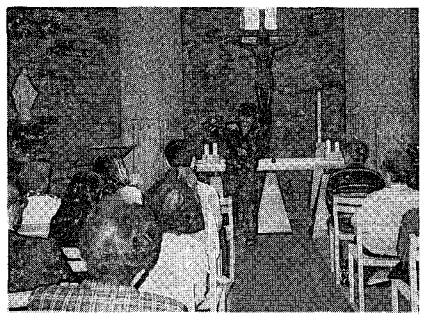
詩編のことばをかみしめて

―典礼聖歌と祈りの集い―

春の日ざしが感じられる三月五日の午後、はじめて宗像の森にある「福岡黙想の家」を訪れました。

深堀純氏（サン・スルピス大神学院教授）が復活祭の聖歌の指導をされました。典礼聖歌の多くを作曲された高田三郎氏の熱い思いがよく伝わった指導でした。

また、山元眞神父様（司教館）のお話しがありました。あっという間に三時間が過ぎました（＝写真）。いろいろな場所から大勢の人が集まってきて一つの場所と時間を共有し、勉強できたり、感銘を受けたりできるのは、教会という共同体と、そこに集まる人という結びつきのおかげでしょうか。



たまには自分の教会以外の方々と一緒に時を過ごすのも悪くはないことではありませんか。ときにはおざなりに歌い流してしまう聖歌も、言葉を大切にかみしめて歌うということを思い出させてもらいました。また、自分の教会の古いオルガンが、黙想の家のあのすばらしいオルガンだったら、もっと心をこめて歌えるかも知れないのに、という欲がわいてきてしまったのが私の「おまけ」でした。

箱崎教会　小柳美枝子

召命を祈る徹夜祈禱会

三月十八日から十九日にかけて、召命を祈る祈禱会がサン・スルピス大神学院において行われた。

今年で七回目を数えるが、毎年お見かけするお顔も多くなり、この会も定着してきた感がある。召命のために熱心に祈ってくださる方々にいつも力づけられ、励まされている。

「全身を耳にして神様の声を聞きましょう」という聖パウロ小神学校の杉原寛信神父様のお話で今度の祈禱会は始まった。午後九時から一時間ごとに市内の司祭、修道者そして信徒の方々が集い、聖体の前で、それぞれのスタイルで祈りを捧げた。延べ百人ほどの参加者は、ロメロ司教（エルサルバドルで軍の迫害を受ける）のビデオや、神学院紹介のビデオを鑑賞して時を過ごし、また午前霊時から全員で沈黙の祈りを捧げた。

早朝には松永司教様も駆けつけてくださり、召命祈願のミサで閉会した。

来年も多くの方々がじっくりと神様のみ声を受けとめるため、大神学院に足を運んでくださることを祈り、期待したいと思う。

召命を共に祈る会（M）

阪神大震災 被災者に捧げたチャリティーバザー

二月二十六日、手取教会を会場に開かれた阪神大震災救援チャリティーバザーは、教会の前庭を埋め尽くす程の盛況を極めた。

熊本クリスチャンボランティアセンターがルワンダ難民救援のチャリティーバザーの三月実施に向けて準備を開始していた矢先、突然の阪神大震災である。当然、バザーの対象を切り替え、熊本地区信徒協・社会参加部の共催を願い、五つの小教区に協力を仰いだ。

当日、教会の前庭に立ち並んだのみの市の品々は購買力を心配する程の量であった。

謹か一時間半で店じまいとなる程売りに売れた。

各小教区の信徒・修道者が同じ目的の下に集い協力し、フィリピンなど国籍を越えた協力態勢もあり、ボーイスカウトや趣旨に賛同された多くの市民の参加があったことが当日の溢れるばかりの活気を生み出したのだと思う。

謹か二時間で予想を上回る百三十五万円余りの救援金が集まったことの裏に、協力者方が被災者にいかに熱い思いを抱いておられたかを見た。

事務局長　Sr.黒木紗耶子



被災者のことを思って気持ちを込める

神道一口メモ③

森山敬三

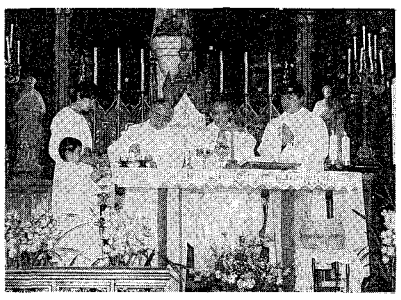
神道が国家神道となったのは、明治天皇以降である。この時代、天皇崇拝を主軸として今までの神社が再編成されて、新たに神武天皇を祭る橿原神宮と宮崎神宮、桓武天皇を祭る平安神宮、吉野朝の天皇などの神社が創建された。その一つである靖国神社は、上智大学生の参拝拒否から問題となり、当時の文部省は、「参拝は宗教的行為ではなく、忠誠心を養うための教育上の行為である」とした。かくて神道は、諸宗教の上に君臨した。

生きた信仰にふれる

今村信徒発見記念ミサ

二月二十六日、「今村信徒発見記念日」に今村教会では本郷小教区共同体と合同で、信徒発見記念ミサが捧げられました。信徒発見百二十五周年記念式典以来毎年二月二十六日を今村・本郷両小教区合同でお祝いしています。二カ月程前から「今村信徒発見を記念する祈り」を毎日ミサ後に唱えて気運を高めつつ当日を迎えます。

この記念ミサ（＝写真）は、郷土出身の神父様方が毎年交代で司式してくださいます。今年はおよそ五百人の信徒の参列のもと、二十数人の侍者を伴って、鵜野泰年神父様の主司式により川上惣一神父様と中浜一男神父様の共同司式による共同ミサが盛大に捧げられました。鵜野泰年神父様は説教の中でご自分の生い立ち、幼少時代の神様への憧れ、受洗から司祭に叙階されるまでのお話をされ、深い感銘を受けました。



ジョアン又右衛門殉教者の墓の上に建立されたこの荘厳な教会堂で捧げられる記念ミサに与りながら、カトリック信者である喜びと誇りを感じ、祖先から受け継いだ信仰を毎日の生活に活かし、愛の実践に努めていきたいと心が燃え立ちました。

今村教会　平田千秋

聖ヨゼフ幼稚園

幼稚園のできごと

今から約五十年前の昭和二十一年のこと、地域の方々のご尽力により、軍用地の払い下げを受けました。戦争中は今の皇ケ崎公園には、日本軍の砲台があり、その下には兵舎が立ち並んでいました。周囲はまだうっそうとした森で、キツネやタヌキが徘徊していたそうです。それらの兵舎を利用して、託児所、老人ホーム、施療所、修道院が開設されました。

戦後すぐで、経済的にも貧しく、生活再建のために母親は働きに出ました。そのような中で子どもたちをみてほしいと地域の人に頼まれました。最初はフランス人のシスターと日本人の先生の二人で、年齢もまちまちな子どもたち十人が集まり外遊びや紙芝居、おやつをして過ごしていたそうです。その頃、まだカトリック教会もなかったので、芦屋にあった米軍基地の司祭や兵士たちは、シスターたちの存在を喜び、交流が始まりました。米軍は戦争が長引くと考えて、物資や薬品をストックしていましたので、施療所をしていると知って、薬品を寄付してくれたり、託児所の子どもたちのためにお菓子を持って慰問にまで来てくれたりしたそうです。子どもたちもお返しにとジープに乗せてもらって基地を訪れ、歌や踊りで兵士たちを慰問したそうです。これらの施設を創設したフランス人の院長は、特に聖ヨゼフに厚い信心があり、託児所も聖ヨゼフの名をつけて、ご保護を願いました。また、子育てに苦労しているお母様方のために、ルルドのマリア像を道端において、常に支え、祈ってくださるようにしました。五十年後の今も、そのマリア像は子どもたちとお母様を優しく見ていてくださいます。創立の頃を思い返しますと、多くの方々の温かい思いが伝わり、感謝の気持ちで一杯になります。

園長　Sr.渡辺かをる

第三十三回福岡教区クルシリヨに参加して

平成六年五月二日より五日まで三泊四日の日程で参加いたしました。今回、戸畑教会からは私一人の参加で、少々心細い感もありましたが、各教会より参加した三十七人はすぐに連帯感で結ばれ、私もその中で信仰、聖霊についてのことを再度考えさせられ、心を新たにすることができたと思います。

高齢の方から学生まで、幅広い信者の集いでしたが、皆互いに助け合い、力を合わせて課程を進み、最終日には別れを惜しみながらも、再会を約束して家庭に戻って行きました。

その後何度か同窓生と再会する機会もあり、その度にクルシリヨでのことを話し、そして自らの生活を反省したりもしました。クルシリヨの参加で初めて気づいたこと、再度認識したことは、生活の中で、より信仰を強めるひとつの機会となっていました。

まだ参加されていない方々に、ぜひ第三十四回クルシリヨへのご参加をお勧めいたします。

戸畑教会　丸山智成

訃報

G・ピーノ神父様（老司教会）の御母堂レジナ・カッツァニーガ様が三月二十一日イタリアにて帰天。享年九十歳。永遠の安息を祈りましょう。

BOOK 読みは専科

★人吉にキリシタンがいた
長濱　庄吉著



二十年前に人吉カトリック教会の信徒・長濱庄吉氏が調査執筆した「人吉キリシタン史考」をもとに、その後判明した新資料や事実を挿入した新しい人吉におけるキリシタン史がまとまり、「人吉にキリシタンがいた―新人吉キリシタン史考」として出版された。

人吉―相良藩―におけるキリシタン研究資料としては第一級の価値をもっている。

A5判二〇〇ページ。希望者は千五百円で購入可能。申し込は人吉カトリック教会
☎0966・22・3892

◇★キリシタン史考◇
H・チースリク著



今年の四旬節教書で、郷土の殉教者の歴史を確かめ、その顕彰を心掛けるよう勧められているが、ここに時宜にかなった書物が手軽な文庫本で出版された。

著者はキリシタン史の研究で有名なイエズス会のチースリク神父様。「日本のキリシタン史」について、たびたび起こる質問や実際の問題点に適切に答えるための豊富な資料を提供し、九州大名の受洗や生月、天草、筑前、筑後の集団改宗の実態なども記されている。

聖母の騎士社　一、〇〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

新しく誕生した伊東しんぷさまにききました

Q　しんぷさまの出身教会は？

A　古賀教会です。

Q　ご兄弟は何人ですか？

A　十人で、男七人、女三人です。わたしは七番目です。

Q　いつごろ、しんぷさまになろうと思いましたか？　A高校三年生のころです。

Q　どうして？

A　かみさまから、おてつだいをしてください、と呼びかけられたように感じたからです。

Q　それから、どうしたのですか？

A　カトリック神学院で大神学校に入る準備を一年間しました。

Q　叙階式のときはどんな感じがしましたか？

A　当日はお恵みが大きすぎて感じきれなかった気持ちです。初ミサのたびにからだが熱くなってくるような感動がわいてきました。

Q　どんな神父さまになりたいですか？

A　自分がなりたい司祭ではなく、みんなが求める司祭になりたいと思います。

Q　どういうことですか？

A　こまめに人と付き合い、人の要求にこまめに応えられる神父です。さびつかないように、いつも動いていたいと思います。

Q　子供たちに何か伝えたいことは？

A　できれば神父さまやシスターになってほしいと思います。神さまはいっしょに働いてくれる人をさがしています。神さまといっしょに遊びたい人も大かんげいではないかな。



出身の古賀教会で初ミサをする伊東神父さま

木かげ

出た！

伊東成晃しんぷさま

それはまだ私が東京のホテルでガードマンをしていた頃のこと、いつものように私は夜のパトロールに出ました。時は午前三時、屋上から三十階までの巡回でした。いつものようにエレベーターを降りて屋上の扉を開けたその時、何やらいつもとは違う異様な気配を感じました。うなじの辺りがズーンとして身体全体が引っ張られるような感じがしましたが、いつものように歩きはじめました。風がビュービュー吹いて帽子が飛ばされそうなので、頭を押さえながら辺りを見回すと、屋上のへりの辺りがぼーっと光っています。何かなあと思ってよく見ると、白い炎のようなものがたくさん屋上に取り巻いていて、その炎のようなものの中にこれまた白い人のようなものが立っています。「で、でたー！」と思いました。こ、これが幽霊というのでしょうか、言葉では表せない遭遇です。どうしようかと考えている間も足だけがなぜかビルの端の方へ動いていきます。その屋上にはフェンスも何もないことはよく知っていました。このまま行けば落ちてしまいます。私は胸のメダイをぐっとつかんで建物の中へ逃げ帰りました。ふーっとひと息ついて何事もなかったように無線で「屋上異常ありません」と連絡を続けました。

あれは何だったのでしょうか。大都会をさまよう亡霊たちだったのでしょうか。とにかくあの時「怖いものなんて何もないさ」といつもの調子でいたら、今頃は『草葉の陰』の人になっていたような気がします。それ以来人間にとって『慢心』は一番危ないと身に沁みて感じるようになりました。司祭職を頂いた今、この『慢心』には極力注意しなければと肝に銘じています。『慢心』というバケモノに取りつかれる時、人間としての命ばかりか司祭としての生命も失いかねないとそう思います。幽霊に出くわしても回心するなんて何とも貧しい話ですが、そこから教訓を得られたのですから私にとってはよかったと思います。生涯この『慢心』に取りつかれないようにまた本物の幽霊にも出くわさないように祈りながら慎重に司祭としての道のりを歩んで参りたいと思います。

「一本の木の物語」

N・ロマノワ　作
G・スピーリン　絵
文化出版局・一三〇〇円



木の切り株に訪れる森の動物達を描いた味わい深い心温まる物語です。虫、熊、小鳥、人間。それぞれが、この切り株を家にして自分のものにしていく。でも、本当は誰のものでもなく、自然の大な恵みの一つなのだ：：と静かに語りかける絵本です。

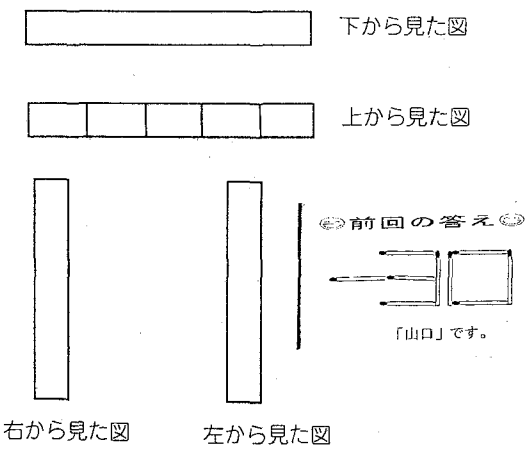
お詫びと訂正

三月号の四旬節教書の小見出し「五、具体的勧め」の十五行目「これからのことを思い起こし：：」は、「これらのことを思い起こし：：」のあやまりでした。お詫びして訂正いたします。

編集後記

いよいよ桜のシーズン。昔桜を切って怒られたことがあった。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」。そんな文句におどらされた。とは言え、伸び過ぎて人の迷惑になれば切るしかなかろう。人は桜のためにあるのではない。桜が人のためにあるのだ。こんな元気なことを言っている間はまだ頑張れる。本当の人間、生かされている人間でいよう。本当の人間でなければ、もしかしてさ.く.ら.？

●さあ～この「漢字」は何でしょう？



日本カトリック研修センター

◎聖書の司牧的活用

テーマ：聖書の分かち合い（7ステップ）／日時：4月27日（木）16時～4月30日（日）13時30分＜3泊4日＞／場所：日本カトリック研修センター／費用：25,000円／定員：25名

◎福音刷新コースⅠ

テーマ：家庭と信仰／日時：5月11日（木）16時～5月14日（日）13時30分＜3泊4日＞／場所：日本カトリック研修センター／費用：25,000円／定員：25名

☆問合先：日本カトリック研修センター研究企画部
〒466　名古屋市昭和区広路町隼人30
☎052(881)5037　FAX052(831)5317

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ」（ヨハネ15・16）

聖パウロ会　谷口　不二男神父

"マリアの心で生きよう"

司祭職・聖体の制定を 聖香油ミサで記念

四月十三日、聖木曜日にカテドラル大名町教会で「聖香油ミサ」が行われた。この日は司祭職制定の記念日にあたり、福岡教区で働くすべての司祭・司祭が参集した。「主をたたえよう」の入祭の歌が歌われる中、松永久次郎司教・平田三郎司教と司祭団が入堂した。


聖香油を聖別する松永司教

聖香油ミサの説教で松永久次郎司教は、教皇ヨハネ・パウロ二世より送られて来た書簡を司祭団に伝えるべく、「主イエスがその母マリアから生命を受け、従っていかれたように、司祭もそれぞれの母から人としてこの世に生命を受け、召し出しを支えられ従って来た。実に司祭と婦人との関わりは大切であり、その職をはたすにも婦人の手助けが必要である。分別をもって女性と関わるべきである。いずれにしても、司祭も婦人も聖母マリアの心を生きなければならない」と語った。

カテドラル

復活の信仰を本ものに
～カテドラル復活徹夜祭～

聖木曜日、聖金曜日に続いて復活徹夜祭の荘厳な典礼が福岡教区五十六の小教区で行われ、洗礼式が執行された。カテドラル大名町教会では六人が松永久次郎司教から洗礼を授かった。

「キリストの光」―「神に感謝」―

高く掲げた復活のろうそくに神秘的な光が輝き、先唱者に導かれて、信者たちは暗い聖堂に入った。（＝**写真**）

大ろうそくが内陣に安置され、信者たちが手に点したろうそくを掲げての復活賛歌によって光の祭儀は最高潮となり、厳粛な雰囲気のうちにミサは進行していった。

続くことばの典礼の中で松永久次郎司教は、復活して私たちの間に生きておられるキリストを信じること。また、マグダラのマリアに言われたように、見たこと、つまり信じたことを知らせに行くように。人に伝えながら自分が深められ、その信仰が本ものになっていくことなどを分かりやすく諭した。



また、司教は復活の大ろうそくをもって水を祝福し、洗礼式を執り行った。六人が喜びの洗礼を受けた。

聖香油ミサの後、司教をはじめとする司祭団は一堂に会し、金祝司祭を祝って歓談した。



金祝

席上、教区で働く金祝司祭が紹介された。金祝司祭は、T・フィッシャー神父（人吉教会主任＝**写真**）である。

松永司教は「その福音宣教の故によく働いてくれたことを感謝します。これからも健康に留意して永く司祭職を果してください」と語った。

フィッシャー神父は「これまで来れたのは神様の恵みと皆さんの力添えがあったからです。これからも福音のために頑張ります」と語っている。

フィッシャー神父は健康上の理由により、祝宴には出席出来なかったが、代理のM・マッコンネル神父が司教より祝辞と記念品をいただいた。

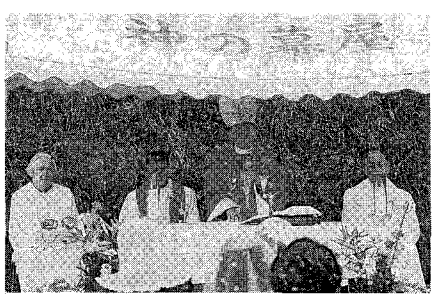
再び点したろうそくを手にして、三百人余りの信者が洗礼の約束を更新し、喜びのうちに感謝の典礼が続けられていった。

花岡山殉教祭
先人たちの眠る墓前にて

三月二十六日午前十一時、熊本市「加賀山マリアみや殉教碑」前で、殉教を讃える記念野外ミサが、松永久次郎司教と地元の司祭ら三師との共同司式で厳かに捧げられた。前日からの雨も上がり、大気も清められて、野外ミサに絶好の日和となり、地元をはじめ福岡など、各地より信徒約二百五十人が参列した。

殉教祭の慣例では、まず最初に、参加した子どもたちが墓前に草花を供えた後、聖水が散水されることになっている。今年は十人の女子高校生たちによって、清楚な花が供えられ、松永司教によって、十五人の殉教者が眠る墓域に聖水が注がれた。

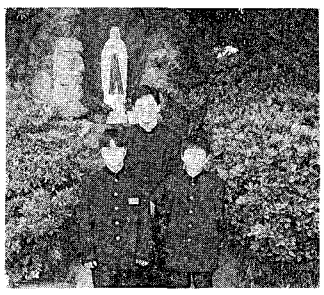
ミサ中の説教で司教は熱意をもって諭した（＝**写真**）。



「花岡山殉教者、即ち、小笠原玄也とその妻加賀山マリアみや、その子女九人、そして侍女四人の合わせて十五人のこの一族の生涯に思いを馳せる時、それは酷く劇的で、死の陰がつきまとう茨の道であったかのように思われがちである。しかし迫り来る殉教を前に彼らが書き残した遺言書などをひもとくとき、意外な事実に驚かされる。この中で分かることはいつも神の愛に強められ、いかに日々を生き生きと過ごしていたかである。殉教の行き方に私は強い感銘を受ける。多くの人にこの生き方を分かってほしい」。

司教の話は時間を全く感じさせないものであり、参加者の胸をうった。式典は十二時二十分、滞りなく終了した。

福岡カトリック神学院新入生紹介



福岡カトリック神学院は、二人の新入生（田代一真・笹丘教会出身＝**写真左**、江藤誠二・本郷教会出身＝**同右**）を迎えた。全員で九人。将来の司祭を目指して歩んでいる。

今後とも、祈りと援助をお願いしたい。

福岡カトリック神学院
院長・森山信三

時の話題

吉村　恵美子

はじめに崎津教会を紹介したい。教会は天草の下島河浦町の一角にある。入り江の周りは小高い山に囲まれ、海岸沿いに家が立ち並んでいる。人情は厚く、豊かな自然に恵まれ、近海の新鮮な魚の味は格別である。

町のシンボル的存在である教会の歴史は古く、一五六九年にルイス・アルメイダ神父により初めて教会が建てられ、この地から天草全土へキリスト教が栄えた。

後に禁教令が出されると信者たちは隠れキリシタンとなり、信仰は確実に子孫へ伝えられた。

二百四十年後、禁教令が解かれて再び神父を迎えた。現在の教会は今から五十年前、踏み絵が行われた場所に建てられた。今では観光客も多い。

受け継がれゆく信仰

激しい迫害にも耐え、先祖代々守り続けてきた信者たちの信仰は深く、テレビのない頃は夕方になると、あちこちの家から祈りの声が聞こえたという。特にマリア様への信心が厚く、教会周辺にはいくつかのマリア像も建てられている。そして、八月の聖母の被昇天祭には、長年マリア像をかつぎ、聖体行列が恒例になっていた。しかし、十年位前から崎津でも急速に人口が減り、昔四百人いた信者は半分以下。いつの間にか行列も中止されていた。

ところが平成元年に、地元の漁協青年グループから、村の活性化、「村おこし」をねらい、「崎津みなとフェスティバル」を計画するにあたって、『マリア様の行列を』との要望が出された。そのためには、行列のための人員確保が第一の問題であった。

そこで、未洗者の方々の協力を得て、①布教という観点から。②世界の平和のために祈るため。③地域とのつながりの重要性などを考慮の上、『世界平和祈願祭』というテーマで協力を決めた。

ここ数年、行事の都度、反省し、反省点を翌年に生かすことにより、より充実してきた感がある。

今後も、小さい行列ではあるが、神の愛とマリア様の存在を人々に伝えるために参加し続けたいものである。

（崎津教会）

みちくさ

若い夫婦が子連れでやってくる。親子でやってくるのは嬉しいものである。ある時こんなことがあった。親と話しているうちに子どもが母の膝から降りて、よちよち歩きをし、食べられない物を口に入れようとした。話していた母親は、すぐその様子に気づき「○ちゃん、だめよ」とたしなめる。また、こんなこともあった。同じ子が何かにつまずいてころびそうになった。母親はすぐさま、その子を抱きかかえるという早業をみせた。本当に母親の洞察力、観察力には驚いてしまう。いつも子どもが安心して生きていけるようにと神様から特別に賜わった力なのだろう▼子どもを気づかう母親には頭がさがる。子どもと関わっている間は自分は安心しないだろうが、しかし育てることの喜びはあるはずだ▼イエス様もマリア様の胎に宿り、そして生まれ、育っていかれた。母マリア様の声は母胎におられた時から聞いておられたことであろう。そして親子だから声も似ていたに違いない。性別は異なるが、私も母の声に似ていることをときどき感じる▼母に委ねられたイエス様の幼少の頃、賢く育てられたに違いない。が、知恵のみでなく、心には愛が充満していたことだろう。人のためになることの喜び。それは後に言われたように「与えることは受けることに勝る喜び」のそれだったろう。母親の姿は子にとっては、いつも人間として理想的な姿である。そこからあふれ出るものがその子の人生を豊かにするのである。自分は愛されている、生きていていいのだ。その安心と自信が人を喜ばせてくれる。人類の母、理想的な母マリア様に願いを託しながら生きていこう。

【S】

福岡教区現勢報告
1994.1.1～12.31

1．カトリック者総数　３１，２１２人
信徒総数　30,584人（男：13,339／女：17,245）

2．教役者　（邦人・外国人）

司　教	（２人・０人）
司　祭	
教区	（36人・０人）
他	（15人・47人）
助　祭	（１人・０人）
修道士	（４人・２人）
修道女	（420人・16人）

3．教区神学生

大神学生	５人
小神学生	７人

4．在籍信徒数ベスト10

①小倉	２，５５０人
②新田原	１，８６５人
③大名町	１，５４８人
④手取	１，２９２人
⑤久留米	１，２５０人
⑥西新	１，２１４人
⑦光丘	１，２０９人
⑧湯川	１，１９２人
⑨黒崎	１，０９８人
⑩今村	９８８人

5．求道者ベスト5

①大名町	３８人
②手取	２７人
③浄水通	２０人
③笹丘	２０人
④黒崎	１７人
⑤八王子	１３人

6．成人受洗者ベスト5

①手取	２７人
②佐賀	２５人
③大名町	２２人
④浄水通	１３人
④小倉	１３人
⑤黒崎	１２人

年	幼児洗礼	成人洗礼	洗礼総数	求道者	信徒総数	不明者	死亡
1990	318	314(95%)	632	330	29,415	1,499	207
1991	312	238(53%)	550	450	29,557	852	200
1992	390	273(68%)	663	400	30,352	831	240
1993	321	286(87%)	607	329	30,474	849	234
1994	254	273(82%)	527	333	30,584	877	226

教区内司祭年代（1995年5月1日現在）

年代	教区司祭	宣教・修道司祭	計
２０代	1	0	1
３０代	8	6	14
４０代	6	8	14
５０代	4	11	15
６０代	13	19	32
７０代	6	16	22
８０代	1	3	4
計	39	63	102

成人洗礼の増加を願う

今年二月下旬に日本司教団のアド・リミナがあった。アド・リミナは、ラテン語で「使徒の墓へ」という意味で、司教は使徒の後継者として五年に一度、ローマを公式訪問することになっている。その際各司教は、教皇と個人謁見する。松永司教は教皇と謁見した際に、平田前教区長の健康についてのほか、教区の総人口、信者の数、洗礼数、異宗結婚の数とその結果、司祭・修道者の召命の現状について尋ねられた。教皇は、特に成人洗礼の少なさについて寂しく思われたそうである。

帰国後、松永司教は次のように語っている。「日本では『福音宣教において年毎の洗礼の数は問題ではない』という共通した考え方があるように思います。しかし、進歩的な考えも持っておられる年老いた牧者から、一対一の場で数のことの問答が続きますと何ともいえない気持ちになりました。あの寂しい表情が何かを物語っているように見えたからです。そこで、次のアド・リミナまでの五年間、いわゆる愚か者の一人になって毎年洗礼の数を数え、その数が増えることを願う人になりたいと思います。その数が一つでも増えることを喜びとする人になりたいと思っています。神父様方、信徒の方々もこの心に共感し、この考え方を共有してくださるよう、お願いしたい。」

成人洗礼は横ばい

教区の年間テーマ「21世紀のために教会を整える」を念頭に置きながら、教区教勢のおもな項目のみを紹介する。

信徒総数は年毎に僅かながら増加している。また、求道者数は減っているが、実際に洗礼を受ける成人の数はほとんど変わっていない。94年の洗礼総数は激減しているが、それは幼児の受洗者が少なかったからである。

成人洗礼が増えるためにはどうしても教会に来ていただく必要があると考える。そのためには、司祭がただ教会の中で声を出すだけでは足らず信徒が声をかけて実際に教会を紹介する必要がある。さらに、教会を紹介するためには教会共同体や司祭の側にもそれなりの受け入れ態勢が整っている必要もある。信徒が喜んで紹介できるような、共同体作りが求められる。

講座を利用する

各小教区でも求道者の要理が行われているが、後に示すように、地区レベルでの「キリスト教講座」も行われている。ここに紹介したもの以外に、熊本地区や、水俣、人吉などの小教区でも一般を対象とした講座がある。共通の問題点は参加者が少ないこととアフターケアーが十分でないこと。ただし、参加者からは好評を得ている。信徒の方が声をかけ、一緒に参加してはどうだろうか。

'95春の講座
人生・キリストについて学ぶ
～信徒も未信徒も共に～

■**第10回「カトリック人生講座」**　[日時] 5月11日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時／7月13日まで毎週木曜日（全5回）[場所] 佐賀カトリック幼稚園講堂[テーマ・講師] ①死に問われた「生」・Fr.ターディフ ②キリスト教と東洋の出会い・本田正昭 ③生きるいのちのすばらしさ・Sr.泉キリ江 ④「ばら」からのメッセージ・高木寛 ⑤★一般公開「文化講演会」愛をこめて生きる【次項参照】Sr.渡辺和子 ⑥バス日帰り研修「長崎巡礼の旅」 ⑦自らを見つめ直す場として・平川義雄住職 ⑧私は何のために生まれてきたか・Fr.アレグリーニ ⑨天使について・稲垣良典 ⑩心でつくる地域社会・永尾光義 ⑪ビデオ鑑賞「ロメロ」・Fr.ターディフ「受講料」3000円（⑥参加者は別途3000円）[問合先] 牧山満安☎0952－23－4754 [主催] 佐賀カトリック教会「人生講座」実行委員会

★**「実生講座」開講10周年記念文化講演会**　[日時] 6月4日（日）19時30分～[演題]「愛をこめて生きる」[講師] Sr.渡辺和子[会場] 佐賀市文化会館イベントホール[入場料] 500円（当日会場入口にて）[問合先・主催] 右項に同じ

■**第2回八代短期キリスト教講座「生きがいを探そう」**　[日時] 5月12日（金）19時～21時／6月9日まで毎週金曜日（全5回）[場所] カトリック八代教会聖堂[講師] ①Fr.山元眞 ②Sr.泉キリ江 ③潮谷義子 ④日向常子 ⑤Fr.ノーリス [問合先] 長濱聰☎0965－32－4065 [主催] 熊本地区信徒使徒職協議会

■**福岡地区「聖書講座」使徒言行録を読む**　[日時] 5月12日（金）19時～21時／7月14日まで毎週金曜日（全10回）[場所] カテドラル大名町教会1階ホール [テーマ・講師] ①使徒言行録について・松永久次郎司教 ②約束の聖霊と聖霊の降臨・Fr.山元眞 ③足の不自由な人の癒しと議会の取り調べ・Fr.山元眞 ④使徒たちに対する迫害・Fr.牧山勝美 ⑤ステファノの選出とその殉教・Fr.高見三明 ⑥サマリア、フィリポとエチオピアの高官・Fr.牧山勝美 ⑦サウロの回心・Fr.川上惣一 ⑧ペトロとコルネリオア・Fr.西田邦洋 ⑨ペトロの報告、アンチオキアの教会、迫害・Fr.森山信三 ⑩バルナバとサウロ、宣教に出発する・Fr.赤倉稔 [受講料] 5000円（一回800円）[申込・問合先] 氏名と電話番号、所属教会をお知らせください。教区本部☎092－522－5139、FAX523－2152 [主催] 教区聖書委員会

■**聖霊による信仰生活刷新セミナー（1995）－祈りは新しい心のいのちである－**　[日時] 毎週月曜日10時～12時 5月29日まで [テーマ・講師] ④神の賜物の受領・Fr.ライル Fr.マテオ ⑤聖霊の満たし・Fr.マッケイ、Fr.ライル、Fr.マテオ ⑥聖霊のうちでの成長・Fr.ドワイヤー、Fr.ライル、Fr.ガブリエル ⑦ミサ／キリストの証人・松永久次郎司教、Fr.マテオ Fr.畠、Fr.ライル、Fr.マテオ [場所] カテドラル大名町教会 [問合先] Br.床島藤吾（司教館）☎092－522－5139

■**松永司教様の教皇文書勉強会**　[日時] 5月18日（木）10時～11時45分 [場所] カテドラルセンター3階司教執務室 [参加費] 500円 [主催] 福岡地区婦人会 [問合先] 山口紀子☎092－921－4532

■**第2回短期キリスト教講座「生きるとは」**　カトリックを紹介する講座。友人、知人の方をお誘いください。今回は昼の部のみ。ベビーシッターあり。[日時] 6月13日（火）10時～11時45分／7月18日まで毎週火曜日（全6回）[場所] カテドラル大名町教会1階ホール [参加費] 全3000円（一回1000円）[テーマ・講師] ①カトリック教会へようこそ・Fr.アレグリーニ ②命にとって大切なもの・倉元涼子 ③いじめについて・野島一彦 ④青少年とその心・奥村晋 ⑤ホスピス病棟の現場から・Sr.泉キリ江 ⑥聖書とキリスト教 Fr.牧山強美 [問合先] Sr.西田（平日13時～18時）☎092－715－1061、教区本部事務局（平日10時～12時）☎092－522－5139、FAX523－2152（24時間）[申込先] チラシの申込書に記入の上、各教会に提出するか、郵送もしくはFAXにて教区本部事務局まで [締め切り] 5月末日（受講料は当日受付にて）[主催] 短期キリスト教講座福岡実行委員会

静かなひととき
主との交わりをあなたに！
☆婦人会・小グループの静修の計画等、ご相談下さい。
6月・7月中旬は日程に余裕があります。
ディレクター：畠　基幸
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松３－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

青年黙想会に参加して

熊本地区青年会

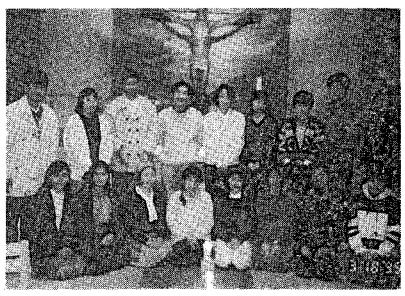
三月十七日から十九日の三日間にわたって、熊本地区青年会主催の黙想会が、福岡黙想の家にて畠基幸神父様のご指導のもとに行われました。

「あなたは、冷たくもなく熱くもない」というヨハネの黙示録のみ言葉をテーマにしたこの集いに、遠くは名古屋から、また鹿児島から参加した方もありました(＝**写真**)。

まず、参加者が無事到着したことを主に感謝し、賛美と祈りをおささげして、和やかな雰囲気のうちに黙想会を始めることができました。

講話を担当してくださったのは、名古屋の青年会の秋元さんで、『パノラマ』の考え方をもとに、神の愛、回心、キリストの十字架、キリストの御血、という四つの大きなポイントからお話をしてくださいました。畠神父様のお話で、四旬節に相応しく、主の御受難と十字架の出来事の深い意味、そして何よりも私たち自身の回心ということを学ぶことができました。また、神は、まず何よりも愛そのものでおられること、私たちを無条件に愛してくださっていることを深く感じ取ることができました。

手取教会　島田佳可



身も心もみ旨のままに

誓願式

聖心のウルスラ宣教女修道会本部修道院で、三月二十五日、松永久次郎司教様を迎えて十人の司祭団の共同司式で初誓願式(一人)と終生誓願式(二人)が行われた。初誓願の松永みかさんには、司教様から修道服と会憲が、終生誓願のシスター友寄とシスター加藤には記章の十字架が手渡された。三人は聖母と共に自己のすべてを神に奉献することを誓った(＝写真)。当日は家族、友人が遠方からも集い、共に祈り、喜び、感謝と感動を分かち合った。



松永司教様は説教の中で、神にすべてを奉献する誓願の尊さと、家族をはじめ、教会共同体の祈りの支えの大切さを説き、心温まる励ましの言葉を述べて、参加者に感動を与えた。

この日の喜びを、初誓願のシスター松永みかさん(老司教会出身)は「神様の限りない温かさ、憐れみ深さ、広い大きな愛の中に包まれ、神様の手に優しく守られているひよこのように幸せと感謝でいっぱいです」と語り、終生誓願のシスター友寄(二日市教会出身)は「『神は恵みと憐れみに満ち怒るに遅く慈しみ深い』という詩編のことばを実感し、主が招いてくださった喜びを味わっています」と述べ、シスター加藤(亀山教会出身)は「イエス様が終生、私の伴侶となってくださる。主にすべてを委ねます。神様への信頼を増し、身も心もみ旨のままに働きますように祈りながら」と話した。

聖心ウルスラ修道院

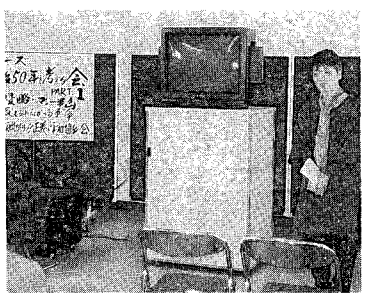
戦後五十年の節目に

―正義と平和協議会―

福岡地区カトリック正義と平和協議会は、日本カトリック司教団の教書「平和への決意」に唱えられている、「戦後五十年の節目にあたって、過去の歴史を教訓として受けとめ、そこから平和を築いていくための光をくみ取ろう」という精神に沿って、今年の中心となる活動を皆さんと共に「戦争」すなわち「平和」を考えていくことに致しました。

皆さんには、シリーズ「戦後五十年を考える」という案内で紹介させて頂きたいと思います。その第一回目として三月十九日、大名町教会で、映画「教えられなかった戦争」を上映致しました。ここに参加した方の感想を紹介させて頂きます。

「戦争がなぜ起こったのかを検証し、それをなくすためにどうすればよいか、英知と活動を一体化する―まさに正義と平和―。そうしなければ若者たちは生き延びられないだろう。そうした意味も含めて、『日の丸』と『君が代』も合わせて鑑賞したい。有意義な企画に感謝します」(69歳男性)。



「私が感じたことを述べてみたいと思います。私たちの知らない時代にあれほど酷いことが行われていたなんてとても信じられない。でも、ビデオを見て心を痛めました。時代が流れたとはいえ、余りにもひどく感じたのですが、そのようにされた人たちが他にもいるのではないでしょうか。もっと知ってもらいたいと思います。これからの時代を生きていく人にいい勉強になるように本当のことを述べることも必要だと思います」(37歳女性)。

大名町教会　佐田一兵



神道一口メモ④

森山敬三

神道で理想とされるのは、明浄正直である。明るく、浄く、正しく、誠をもって生活する。おはらいやみそぎは、汚れた心身を浄くするためになされる。死者は汚れたものとして、葬式に参列したあとは塩で清める。明治十五年には、神官は「国家の宗祀」である神社奉仕に専念するために祭祀と宣教は分離され、神官は祭祀のみを行い、中でも神葬祭は禁止され、これは昭和二十年まで続いた。

自由席

一期一会

城島　暁

寒さもようやくゆるみかけた春分の日、カテドラルにおいて伊東成晃神父様の叙階式に参列する機会に恵まれた。司祭職出発の門出を祝い、司式された松永久次郎司教様をはじめ平田三郎司教様、司祭団、修道者、信徒たちでカテドラルは大きな喜びにつつまれた。一人の若者がキリストと出会い、呼びかけに応え、自分の一生を神と人とに捧げ尽くす決心を公に表す叙階式に感動とさわやかさを多くの人は感じるだろう。それは神との出会いを大切にした若者の生き方を見ることによってではないだろうか。神と人との前で司祭職に精進することを公に約束された伊東神父様に聖寵あらんことを。

感動に満ちた式に参加しながら、ふと「一期一会」という言葉を思い出した。一生に一度の出会い、縁を大切にするという茶道の心得であるが、見方によっては福音的な言葉ではないだろうか。聖書を開いてみた。そこには、人との出会いを望む御方の静かな叫びが全編につづられている。

「私は門の外に立って叩いている。私の声を聞いて戸を開くなら、私はその人のところに入ってくる」(黙示録)。

「愛する者が、戸を叩くのを私は聞く。愛する者は戸の穴から手をさしこんだ。そのとき、急に私の心は躍った」(雅歌)など、心にしみいるばかりである。

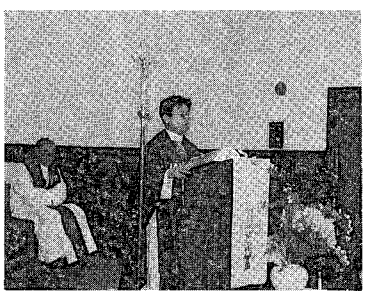
出会いをもとめてこられる御方と奇しき縁をぜひ大切にし、出会った歓びを、教会に何か慰めを期待してくる未洗者の人々に伝えたいものである。それは信徒使徒職の第一歩であり、利己的現代社会へ福音をもたらす小さな一歩になるかもしれない。

(浄水通教会)

古賀教会で初ミサ

叙階は神の恵みそのもの

三月二十六日九時三十分から、伊東成晃神父の初ミサが出身教会の古賀教会で行われた(＝写真)。



新司祭誕生の喜びにわく聖堂には、新司祭のご両親をはじめ小教区の信徒があふれ、また、シスターや一昨年司祭に叙階された中村信哉神父のご両親も参加され、一同は共に感謝のミサを捧げた。

ミサ中、はかり知れない神の恵みに感謝し、栄光を讃える歌声は、聖堂内にこだました。

続く祝賀会では、信徒代表の祝辞や、花束贈呈の後、新司祭のお礼の言葉があり、「一日も早く神のみ手に良く馴染む、使いやすい神の道具になりたい」との抱負が述べられた。

ミサの後の祝賀パーティでは、婦人会の方たちの心尽くしの手作りケーキやオードブルを頂きながら、時のたつのも忘れて、司祭誕生と初ミサ参加の喜びを分かち合った。

また、個別に祝福を希望する人や家族が、新司祭の前にひっきりなしに列を作った。

主任司祭のF・ハーン神父は、「神様はいろいろな方法で召し出される。叙階は神の恵みそのものです」と語った。

伊東神父が、聖霊の恵みと力によって支えられ、聖なる使命が終わりまで全うされるように、そしてこの古賀教会を召命の苗床として、後に続く多くの司祭が生まれるようそれぞれに祈願しつつ、十二時過ぎに解散した。

古賀教会　井上元之

BOOK 読みは専科

★聖書についての一〇一の質問と答え

レイモンド・E・ブラウン著　裏辻　洋二訳



ブラウンは現代のすぐれた聖書学者として、カトリック、プロテスタントの聖書学者のあいだで世界的に知られ、高く評価されている。

著者は長年聖書を講じてきた中で、いつも出るような質問を整理し、質問の趣旨を正確につかみながら、聖書学をもとに答えている。

教理を教える人、聖書に親しんではいるが、この疑問がと思う人にぜひ勧めたい。

女子パウロ会　一五〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 大御そ 理影の 石石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

5・6月の行事
※ゴチックは司教日程

5月

2日　クルシリヨ（～**5日**）
7日　召命祈願日
　教区修道女連盟総会・研修会
9日　教区顧問会
10日　佐賀「カトリック人生講座」（7月13日まで毎木曜日）
12日　福岡地区「聖書講座」（7月14日まで毎週金曜日）
　八代短期キリスト教講座（6月9日まで毎週金曜日）
13日　九州ダルクフォーラム（開所式）
14日　母の日
　笹丘／老司教会バザー
21日　広報の日（指定献金日）
　広報研修会
　典礼研修会
26日　第34回朝禱会全国大会（熊本～28日）
27日　九州ダルク・チャリティコンサート
28日　主の昇天（祭日）
29日　聖霊刷新セミナー（最終回）

6月

4日　聖霊降臨祭（祭日）・合同堅信式［カテドラル14時］
11日　三位一体（祭日）
13日　福岡地区「短期キリスト教講座」（7月13日まで毎週火曜日）
　教区内全司祭研修会（～**15**）
18日　キリストの聖体（祭日）
　父の日
　戸畑教会堅信式
23日　イエスのみ心（祭日）
24日　洗礼者聖ヨハネの誕生（祭日）
25日　聖ペトロ使徒座への献金日
　久留米教会堅信式
29日　聖ペトロ・聖パウロ使徒（祭日）

福岡黙想の家

▼5月2日(火)～5(金)　クルシリヨ
▼6(土)～7(日)　九州奉仕者会
▼12(金)～14(日)　ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
▼14(日)　典礼・聖歌と祈りの集い
▼19(金)～21(日)　ピリオドの集い
▼19(金)～28(日)　修道女のための8日間の黙想（指導Fr.マテオ）
▼20(土)～21(日)JCNA・ワークショップ
▼29(月)～31(水)　日本福音ルーテル教会婦人連盟研修会

■熊本地区・召命を祈る集い
［日時］5月6日(日)19時～20時［場所］カトリック手取教会［問合先］Sr.黒木(幼きイエズス会)☎096－364－0352

■結婚準備セミナー【福岡】
［日時］5月11日～6月3日毎木曜日・土曜日(全8回)［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092－541－6207【熊本】［日時］5月8日～31日毎月曜日・水曜日(全8回)［場所］カトリック手取教会［問合先］手取教会☎096－352－3030

■九州ダルクフォーラム［日時］5月13日(土)13時～16時30分［場所］福岡メディカルホール（博多区博多駅前1－4－4／殖産・安田ビル12階［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092－471－5140

■典礼・聖歌と祈りの集い
［日時］5月14日(日)14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎092－403－2－3385

■シリーズ「戦後50年を考える」　①［日時］5月14日(日)14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［内容］勤労女子挺身隊であった韓国人、柳替伊さん、朴小得さんと語る。②［日時］6月18日(日)13時30分～16時30分［場所］カテドラル大名町教会1階［内容］従軍慰安婦問題を考える（予定）［主催］福岡地区カトリック正義と平和協議会［協賛］戦後責任を問う「関釜裁判」を支援する会・従軍慰安婦問題と取り組むキリスト者の会［問合先］佐田一兵☎092－933－6545

■北九州地区教会学校リーダー研修会　［日時］5月15日(月)10時～15時［場所］カトリック小倉教会／会館2階集会室［テーマ］新カテキズムと私達の信仰生活［講師］櫻井尚明神父（福岡サンスルピス大神学院）［会費］1000円（弁当は別途500円）［申込み］5月7日までに各教会でまとめて［問合先］湯川教会Sr.杉本☎093－922－7997FAX932－0322

■典礼研修会　5月21日(日)13時30分～17時30分［場所］カテドラル大名町教会［講師］土屋吉正神父(イエズス会)［テーマ］ミサ－その意味と歴史［参加費］500円［申込］原則として小教区毎にまとめて福岡カトリック神学院森山神父(カトリック神学院)☎092－531－6821

■広報研修会　5月21日(日)13時30分～16時30分［場所］カトリック福岡司教館5階会議室［テーマ］映画－95年広報の日テーマ［内容］「深い河」試写予定［参加費］500円［申込］電話またはFAXにて教区本部まで［締切］5月15日(月)［問合先］山元眞神父(教区本部)☎092－522－5139

■九州ダルク・チャリティ・ピアノコンサート～薬物依存の回復施設ダルク支援のために　［日時］5月27日(土)14時～［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［演奏者］林恵子［曲名］ソナタ［月光］他［お話し］山元眞神父他［参加費］2000円（学生、身障者の方は無料）［主催］九州ダルク［協賛］美野島司牧センター［後援］カトリック福岡司教区［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092－471－5140

ミニ情報

■松永司教様同行により聖地巡礼10日間　［日時］9月12日(火)～21日(木)10日間［場所］聖地イスラエル［旅行代金］30万円（福岡発着・全食事付・添乗員同行）［募集人員25名・先着順に受付］［問合・申込先］近畿日本ツーリスト北九州支店／二田茂行☎0933－551－2182／FAX521－1774

■教区ハンドブック95発行　信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事業所の住所等の情報を集めた小冊子・B6判47ページ・非売品。復活祭に発行。ぜひ一家に一冊お持ちください。献金をお願い致します。なお、カレンダーの行事予定は、3月28日現在のものです。新規、変更などがあり得ますので、毎月発行される「教区報」を参照してください。（本部事務局）

◆追加訂正箇所　関係者の方々にはご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。【訂正】7ページ9行目「14時30分」→「14時」・14行目「笹山」→「笹丘」・17ページ20行目「ボア」→「ボネ」・28ページ最終行「ユンヨウヨン」→「ユンヨウヨク」・39ページ15行目「Saturnino」→「Saturnino」・25行目「祈りの集い」を24行目に・47ページ12行目「谷口菊代」→「櫻本京子」・48ページ15行目「谷口菊代」→「櫻本京子」・19行目「1－16」→「1－16－1」・51ページ13行目「横澤澄子」→「鶴野篤子」［追加］18ページ6行目「聖地献金」28ページ最終行「W・キッペス　聖マリア病院付き」

■糸島地球市民ふれ合いフェスタ　楽しい催しが計画されている。参加メンバーは、JCメンバーフェスタ・各NGO団体・青年スクールなど。11時20分～12時20分にはバザールも開かれる。その後、バンド演奏・民族舞踊も予定されている。［日時］5月14日(日)雨天の場合21日(日)［場所］前原中央公園

■映画「深い河」上映　遠藤周作原作の同名小説が映画化された。6月中旬福岡ソラリアシネマにて上映［問合先］教区広報担当山元眞神父☎092－522－5139

■聖歌研修会　［日時］6月18日13時～15時30分［場所］カトリック大楠教会［聖歌指導］深堀純［参加費］3000円［問合先］大楠教会☎092－521－6946

■SE・CO（奉仕と分かち合いのボランティアグループ）第5回SE・COバザー　［日時］6月18日(日)10時30分～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園（福岡市南区塩原）［問合先］Sr.富山☎092－512－0033

■一日黙想会　（神の呼びかけを聞いてみたい方）［日時］6月25日(日)11時～16時［場所］戸畑ノートルダム修道院（北九州市）［講師］岩永義人神父（小倉教会主任）［対象］女子青年［主催］北九州地区女子修道会［問合先］援助修道会Sr.塩路☎0933－62－1－5670

5月命日の司祭

†フェルナンド・チリ司教
（パリ外国宣教会）
一九三〇年五月十日
初代福岡教区長
†フランソワ・ルマリエ神父
（パリ外国宣教会）
一九四五年五月五日
元八代教会主任
†ヨハネ棚町正力神父
一九六八年五月十五日
元茶山教会主任

信仰

月十七日現在）ので、確定的なことは言えない。

ただ一連の報道で思うのはこの宗教集団の是非について「信仰」という点からの言及が、私の知る限り、ないことである。もしかすると私たちは、この宗教集団を「偽宗教集団」と暗黙のうちに決めつけていて、その結果「信仰」からの問いかけの必要性を感じないのかもしれない。

つまり、真の信仰とは何かについての共通理解がなければ、討論はかみ合わないし、この重大な問題に対して正しい判断はできないと思う。

現代社会には、依然として「信仰と理性の分離」の考え方が残っている。

前途の討論でジャーナリストたちは、互いに相手の主張を「非理性的」、「不信仰的」として認めず、受け入れようとしない。これでは「信仰の領域と理性の領域の分離」のなかでの討論、「信仰と理性」の対決の構図である。

カトリック教会においては信仰は神の啓示に対する応答である。神の啓示はこの世界に生きる具体的な人間に向けられているので、信仰は全人間的と言うとき、人間のすべての営みに関わるということで、人間の中で「信仰」を「理性」から分離して単独に考えることを意味しない。また私たちは信仰を通して人間が理性の働きを越える何かを体験することを知っている。そしてそれが人間の理性の働きを損なわないばかりか、人間の自然な在り方と認めることができる。つまり「信仰と理性」は人間の内にある分離できない一つの現実である。

こうした共通理解に立って「信仰派」は信仰が理想に矛盾するものではないことを認め、「理性派」も理想が信仰を無視するものではないことを認め、そこでよりかみ合った討論となるのではないだろうか。

この騒ぎを機会にもう一度真の信仰、真の宗教についての理解を深めたい。

大神学院　櫻井尚明

編集室から

マリア様の心、それは青空。私たちを包む広い青空。マリア様の心、それは樫の木。子どもは大きな声で歌う。大人も遠慮しないで歌おう。マリア様を賛美して。良いことがきっとある。マリア様の使命は私たちのお取り次ぎ。やさしいからこそ、それがお出来になる。私たちの使命もいろいろ。中でも教区報の編集。神と人とを取り次ぐ手段になればいいが。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi　**藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

第34回クルシリヨ　派遣される人々

私は神を愛し信頼します

福岡地区の公的行事として、クルシリヨ（使徒職錬成会）がある。今回も福岡黙想の家で五月二日から五日までの三泊四日を多数の参加者が過ごした。松永久次郎司教は参加者と祈りを共にし、励ました。

澄み切った青空、緑の中の黙想の家を後に感慨のまだ覚めやらぬ面持ちで、第三十四回福岡教区クルシリヨの参加者は小教区へと派遣された。

クルシリヨが、松永司教をはじめ、教区の多くの人から物心両面の援助に支えられ、無事に終了できたことをスタッフ一同と共に感謝の念を表している。

ここに参加者の声を添えて報告としたい。

「十五年来の参加希望がかなった。まだまだここ（クルシリヨ）に居たい。」（主婦）

「子どもにお金では買えないお土産を持って帰ろうと心に誓って来たが、本当に目には見えないが素晴らしいものを準備出来た」（夫婦）

「人生の今にこのような機会を得られ、もうかったような感じがする。今後に対する心構えが変わりそう」（若い会社員）

笑いあり、感激あり、そして涙もあった素晴らしい出会いの三日間となった。

「クルシリヨ」という聞き慣れないネーミングから、「苦しいよ」との解釈があったり、また民間企業が行っている、鬼の特訓○○日というようなスパルタ式精神改革をイメージした人もいるようである。

実際は、恵まれた環境のもと、三食それもバランスのとれた新鮮な材料の食事付。これで昼寝でもついたら大変（中には上手にした人も…）。



神の恵に満たされた人たち

今月のみことば

あなたは行って、神の国を言い広めなさい
（ルカ9・60）

鳥栖教会　R・マグリン神父

時の話題

平田　悠貴子

「マリア様は『はい』と応えられました。彼女はそう応えて何も失わなかった。」J神父様はこの言葉を巧みに使います。

かつて、聖書使徒職北東アジア大会に参加して欲しいと頼まれた時に、断れずに「はい」と言ってしまったことがあります。大会が近づくにつれ、英語がわからなくて困っているみじめな自分の姿が浮かびました。いまさら断るわけにもいかず、途方に暮れ、「私はいったい何をしに行くのでしょうか。神様、おまかせします」。おまかせした後はすっかり楽になり、参加して見つけたものは、聖書一〇〇週間でした。東京代表のKさんは、聖書一〇〇週間の集いについて説明してくれましたが、み言葉を本当によく味わっている彼女の生き生きした信仰に触れ、ショックを受けたのです。「私も彼女のような喜びを味わいたい！」。とにかく、その主催者であるマルセル・ルドールズ神父様（パリ外国宣教会）にお目にかかるために、また集いの様子をみたくて上京しました。

聖書一〇〇週間

聖書一〇〇週間とは全聖書を通読する集いで、そのために約一〇〇週間かかります。参加者は補助テキストにしたがって自宅で聖書を読み、感じたことを集会で述べます。よく祈ってしっかり聖書を読むように、支え合うように勧められますから、個人の成長はもちろんのこと、共同体が成長します。現に私はみ言葉を十分味わい、喜びに満たされた共同体を見ました。

手取教会の四旬節の黙想指導がルドールズ神父様でしたので、この集いのことを直接に聞くことにもなりました。皆に聞いてわかったことですが、誰もが一度は聖書を全部読みたいと思っているのですが、一人では困難なこととあきらめていたのです。私たちも一〇〇週間をやりたいという欲求が日に日に強くなっていきました。そして五十人の仲間が、五月から一〇〇週間にはいります。すでにあちこちから問い合わせや、テキスト注文がきていますが、神様はこの集いが広まっていくのをお望みなのでしょう。

聖霊が力強く導いてくださいますよう祈ります。

（手取教会）

ネットワーク作りに信徒の参加を！

～九州で初めてのダルクが活動開始～

五月十三日、九州ダルクの開所式とフォーラムが福岡市博多区の福岡メディカルセンターで開かれた。「九州ダルクを支援する会」の名誉会長松永久次郎司教の代理として山元眞神父、担当司祭のM・コース神父はじめ、医療、行政、司法、教会関係者など約百二十人が参加。全国のダルクから二十二の「仲間」もかけつけた。

DARC（ダルク）は、ドラッグ・アディクション・リハビリ・センターの略で、薬物依存回復施設のこと。そのデイケアセンターがこの四月に美野島司牧センター内に設置された。全国では東京、横浜、茨城、名古屋、大阪などに続いて八カ所目。九州では初めての施設になる。米国で始まったアルコール依存症者の自助グループから派生した団体で、シンナーや覚せい剤への依存からの脱皮と回復を目指す。

覚せい剤などは刑事事件とも結びつくだけに、薬物依存への偏見が強いが、最近ではせき止めや精神安定剤などに含まれている鎮痛剤や鎮静剤などの依存症も増えているという。病気であることが認識されておらず、依存症者のほとんどは、精神病院や刑務所



心の自由を得るために

的な支援が求められ、市や県など、行政から援助も求めている。教会も彼らを支えていきたい。「支援する会」会費は年間一口6000円。

問合先☎092－471－5140／代表大木文夫

ただ三日間のカリキュラムを一口で説明することは難しく、これは参加してのお楽しみ、というのが誤解の一因かも知れない。

今回は司祭、神学生の参加もあってか非常に盛り上がった。むろん、参加は信者であれば誰でも出来る。

福岡教区クルシリヨも二十七年、四半世紀を過ぎた。松永司教が励ましの言葉で述べられたように、「継続は力である」。毎年やって来る大型連休を有意義に過ごしたらどうだろう。

風が吹いて、木が揺れるのを見て聖霊だと感じる、そんな素直な心になれるのではなかろうか。

司牧をより豊かに

司牧懇談会

四月二十六日、福岡サン・スルピス大神学院（院長高見三明神父）で司牧懇談会が行われた。

これは大神学生が司牧実習に通う教区内（福岡市内）の教会の主任司祭が、送り出す大神学院の教授たちと定期的に設ける懇談会である。大神学生も出席することもあるが、今回は主任司祭と教授の間で行われた。

今回の議題は司牧の現場で働く司祭が実習の神学生を観て「司祭養成において何が大切と思うか」であった。それぞれに現実を踏まえながら忌憚（きたん）のない意見が交換された（＝写真）。



まず、先にまとめられた実習神学生の現場で気づくことと意見が係の司祭（櫻井尚明神父）によって発表された。その中で、主任司祭と教会学校の責任を負わされる神学生及びスタッフとの綿密な連絡がほしいこと、カリキュラムの充実のための手段と方法を探ることなどがあげられた。

次に、神学生に対する主任司祭の要望が出された。自分がすることに積極的な姿勢で取り組んでほしいこと。その姿が大切であること。典礼においても、主任司祭がすることを参考に自分なりの研究をし、司祭への準備を培うことなどが言われた。

大神学院の教授は、神学校で培われるものが実践の場で生かせるよう配慮し、生涯を召命に応える生き方にできるよう尽力することを語った。真剣な、しかし和やかな雰囲気の懇談会であった。

みちくさ

ある時、幼稚園に電話がかかった。「園長先生ですか。○商事ですが、株式投資してみませんか。園長先生ですから資産はお持ちだと思いますが」。「私は宗教法人の園長です。しかも神父ですよ。資産はないし、株は必要ではありません。ただ四×三・十二円は持っていますが」。「でも神父さんだって利益は求められるでしょう」。「幼稚園を維持していくために誠実に努力していますが、個人的には利益は求めませんよ。それより、『永遠の生命の株』は要りませんか」。「なんですかそれは」。「天国に入るための株ですよ」。「信仰に入れということですか」。「そうです」。「考えておきます。ありがとうございました」。話は終わった▼神父の中に株をしている人はいないだろうし、資産家もいないだろう（と思う）。まず神父にさせた神がそれを望む訳はない。イエス様は全ての造り主であり支配者だから資産家のはずだが、あえて貧しさをとられた意味を神父たちは学んでいるはず。とはいえ、教え諭されたイエス様は、この世のものの用途や用法について賢かった▼幼稚園や教会に勤める神父の心、それはこの世のものについて賢く生きられたイエス様の心であろう。求めなければならない利益は私益ではなく、公益である。それは教会維持のため、幼稚園維持のため▼求めれば確かに与えられる。その方法も知っている。だが、世の人々が求めるのと同じ仕方で自分のために利益を求めれば大変なことになる。自分に与えられている永遠の生命と自分を通して与えられる永遠の生命の維持はできなくなるだろう。それにしても、永遠の生命の保険料は払っているのだろうか。【S】

人生の大切な損得

長期間の工事を終えて新道が完成した。車の流れがスムーズになり、時間が大幅に短縮された。新道が開通するまでは、小川沿いの曲がりくねった細い道を、ゆっくりとしたスピードで、対向車に気を遣いながら、時間をかけて通っていた。かつてこの細い道を通るたびに、新道が早く完成しないものかと願ったものだ。しかし、この細い旧道、時間がかかり、対向車が来るたびに互いに譲り合い、不便さを感じていた道にも、一つの楽しみがあった。それは、この道の途中にあるお寺の門前に、日替わりで掲示されていた短いことばを読むことだった。通り過ぎる一瞬に読める短いことば。大切な響きがあり、先を急ぐのに対向車が多く、なかなか前に進めずイライラしている時など、その短いことばが、いらだつ気持ちを静めてくれたものだ。静めるというより、むしろ自分に対して反省の思いを抱かせてくれた。

先日、久しく通っていなかったこの旧道を通る機会があった。お寺があったことも、門前に短いことばが掲げられていることも忘れていたくらいに久しぶりだった。次のことばが目にとまった。

損か得か
それは人間のはかり
うそかほんとうか
それは仏様のはかり

このことばに考えさせられた。振り返らせられた。人間は損得の計算をし、それにのっとって行動することがしばしばではないだろうか。意識して、或は無意識の内に。

司祭となって十年近くが過ぎた。深い恵みを受けて叙階された時、神と人々への奉仕のために、自分を捧げ尽くそうという熱意に燃えていたはずなのに、恥ずかしいことだが、時の流れの様々な場面で人間的に損得の計算をしていることが多々あった。

信仰者として、イエス様から「あなたは得をしている、あなたは損をしている」と言われるのは、どんな時だろうか。どんな事柄においてだろうか。人間的には損をしても、イエス様から「得をしている」と思われて生きたい。

本当に得した人生、それはどんな人生だろうか。

司祭、修道者として、信仰者として、人としての召し出しを大切にして生きたい。損か得か、うそかほんとうか、イエス様のはかりは…

聖パウロ会　杉原寛信神父

熊本クリスチャン・ボランティアセンター
設立「一周年記念」

センターは、また私はいったいこの一年間、何をしたのでしょうか。試行錯誤も甚だしく、ほんとうの意味では今からのスタートと思えます。

会員有志によって用意された手作りの食卓は温かく、ビタミン愛の調味料の隠し味が参加者の心を次の一年へと導く役割をはたしたようです。

全国のカトリックボランティア連絡協議会会長である広岡洋子さん（＝**写真**）の講演



「カトリックボランティアの心」は胸に深くしみ込み、共感いたしました。兵庫県宝塚市にお住まいの広岡さんは、阪神大震災で被災した方々への炊き出しボランティアを今も続けておられます。教会の中だけに止まらず、地域の人を巻き込んでするという姿勢が、彼女によい意味で宗教色を感じさせない、幅広い人格にあふれたリーダーであると思いました。基本的にボランティアは、生き方そのものであるとの言葉に、ともすると月に一度か二度ほどボランティアをしたと自己満足している者は、目覚めさせられました。

「しんどい社会をあたえられている人間であることからは逃げられない」。神の声を祈って聴いて行う者がボランティアであると示され、させていただいているのだから、『月謝を払ってボランティア』をしてこそ、人間は皆等価であることを知る、といったお話でした。

未熟な私たちですが、神様に信頼されていることに応えて、ボランティアの心を持ち続けていきたいと思います。

センター会員　矢部由子

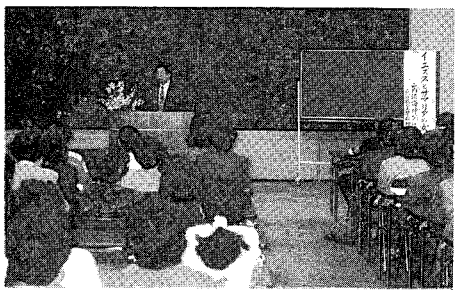
福岡地区婦人会総会
女性の役割の大切さ

福岡地区婦人会の第十二回目の総会が四月二十四日、カテドラルセンターで開催されました。あいにく、曇り空の少し肌寒い日でしたが、八十九人の参加があり、午後には百人に増えました。

総会では、それぞれの議題終了後、佐賀地区から来られた二人の方が「福岡地区婦人の活動を参考にと思い、参加しました」と述べられ、交流を深めることができました。

十一時からは、地区婦人会指導司祭堤要吉神父様によるミサが大聖堂で行われ、未洗者二人の方が飛び込みで参加されて、共にミサにあずかれたのはとても嬉しいことでした。

午後からは、長崎の山内清海神父様による「イエスとサマリヤの女」の講演（＝**写真**）



があり、ヨハネ四章におけるイエス様とサマリヤの女のくだりをユーモアを交えて、易しく解説されました。よく理解でき、受講者から、また聞きたいとの声がありました。それから、「人は何のために生きるのか、イエスを真似る

人の救いのために
クララ会で誓願式

四月二十八日、心地よい春の日差しの中、聖クララ会修道院（院長スールマリー・セントクレール丸山喜美子）にて荘厳誓願式が挙行された。

松永久次郎司教様、二人の司祭、クララ会姉妹、親族、小郡教会信徒、フランシスコ在世会員が多数見守る中、スールマリア・フランシスカ松下幸子（鹿児島鴨池教会出身）が荘厳誓願を宣立した。

松永司教様は「信徒使徒職が叫ばれ、活動を重んじる時代にあってこそ、聖域の中でキリストのように生き、祈りと犠牲で支える観想修道会のシスターの存在が必要」と語った。そして荘厳誓願宣立の意思を表明したシスター松下は、連願によって聖人たちの取り次ぎを祈った後、ろうそくを持った姉妹に伴われ、上長の前に進み、「私を余すところなくお渡しします」と宣言した（＝**写真**）。



喜びと感謝の歌が姉妹たちによって捧げられ、祝福の祈りに続いて、司教様から指輪と冠が授与された。

式の後、参列者は誓願宣立の証人として記帳を行い、生涯シスター松下の奉献を主がお受けくださるよう、祈りをもって支えることを約束し、その喜びを分かち合った。

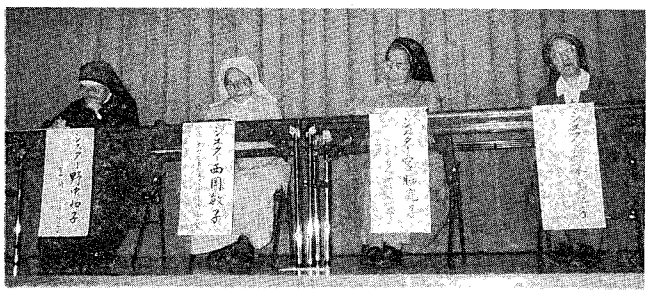
小郡教会　村川啓一郎

「神体験」の重要性を強調
～教区修道女連盟～

教区修女連は五月七日、カテドラルセンターにおいて定期総会及び「奉献生活」をテーマとする研修会を開いた。これは、昨秋開催されたシノドスに日本代表として参加された佐藤敬一司教様（新潟教区長）を迎えての研修会であった。

司教様は、カリスマについて、教会の組織の中に安住の場をもっている修道会の絶えざる自己刷新の必要について奉献の土台がイエスの御父への子としての生き方にあること、成功にのみ価値を置く現代の考え方の危険性についてなど指摘し、キリストの十字架の栄光の意味を明らかにされた。特に現代の「神体験」の欠如を憂えて、シスターたちの教会の中での重要な役割を強調された。

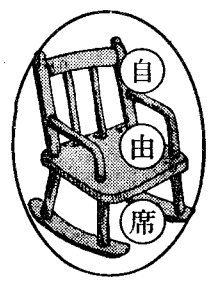
午後は、四人のパネラーによって使徒職を通して奉献を生きる体験が述べられた（＝**写真**）。



「教育」をシスター宮脇寵子（カノッサ会）、「社会福祉」をシスター野中和子（聖母の騎士）、「教会奉仕」をシスター杉本美佐子（天使の聖母会）、「院内の高齢シスターへの奉仕」をシスター西岡敏子（マリアの宣教者フランシスコ会）が分担した。それぞれの奉献の恵みに支えられた積極的な生き方がフロアにも伝わってきた。

奉献の使命をよりよく果たしたいという百四十四人の参加者の真摯な熱望が、十分に満たされた一日となったことに感謝しながら終了した。

（浄水通教会）



ボランティアってなに？

島　義二

四月二十一日、SE・COの春の集いが聖心のウルスラ宣教女修道会のホールで、山元眞神父様をお迎えして催された。講話の題は「ボランティアってなに？」であった。

VOLUNTEER（英）、VOLONTARIO（伊）は自発的にある仕事を受け取る人。語源はVOLUNTAS（ラ）VOLONTA（伊）で意志、望みの意を表す。

聖書の中でのボランティアは、「わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである」（ヨハネ5・30）。クリスチャンのボランティアの心は「主の祈り」の中に見ることが出来る。自分の意志ではなく、主の御心を行うことがボランティアということになる。新興宗教がハルマゲドンをかざして騒ぎたてているが、本来この世はすばらしいものであり、お互いに助け合い、分かち合いをして平安を祈ろうとしている。

子どもの頃、母親が自分の家でつくったものを隣り近所の人に分けてあげるため、その使いに行かされた。相手の家の人に大変喜ばれ、それが子どもの心にとても嬉しく感じた。ボランティアの心はこうしたことから育まれてくるのではないだろうか。宗教とは何か。神様の御意志が実現するようにと祈るのではあるが、本当に大切なものは目には見えないものである。

神父様のお話は聖歌を交えてさわやかであり、参加者の心が一つに結ばれた。いつも見えないところで活動しているSE・COの会員は勇気づけられた。参加者三十五人。

静かなひととき
主との交わりをあなたに！
☆小グループ・個人指導・ご相談ください。
AM9：30～PM5：00（受付）　ディレクター：Fir富　基幸
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

女連盟／後援：福岡地区信徒使徒職協議会

◈地球のみんなのアートフェスタin 北九州
《北九州国際障害者芸術祭》

近年、障害ある人々が社会のいろいろな分野に進出し、自己存在の価値を実現することの重要さが認められるようになってきました。しかし、芸術活動は障害ある人にとってはまだ未開拓の新しい自己表現の領域であると考えられます。この芸術祭は国際的な規模で2年に一度開催されます。日時：7月22日～25日／会場：北九州市内各会場／主催：「地球のみんなのアートフェスタ in 北九州」実行委員会／共催：北九州市／問合先：事務局☎FAX093-533-5633

◈第12回「出会いの集い」

楽しいひとときを神学院ですごしましょう！／日時：7月30日（日）10時30分～16時30分（15時30分からフォークミサ）／テーマ：出会いをもとめて／講師：Fr. 山元眞（お話しとスライドとミサ・教区本部）：吉川信雄氏（レクレーション・光丘教会）／場所：聖スルピス大神学院［福岡市城南区松山1-1-1☎092-864-4203／参加費：1,000円（昼食代含む）／対象：20歳以上の独身男女／申込・問合先：峯幸子☎092-861-0443／奥村浩子☎092-925-5841／安部良子☎092-512-4028（大神学院への問い合わせは当日以外はご遠慮下さい）／申込締切：7月24日／主催：カトリック福岡司教区カナの会／後援：福岡地区信徒使徒職協議会・家庭委員会・青少年委員会

◈フランス教会視察研修旅行

日時：9月4日～15日／団長：深堀敏司教（高松教区長）／参加費用：308,000円（東京・成田発）／参加条件①小教区、または教区で何らかの役割を持って教会共同体に関わっておられる方②小教区主任司祭または関係する司祭の紹介状（形式は自由）③視察・研修目的であり、観光・買物目的でないことをご了承いただきます／問合先：カトリック多摩教会／Fr. 宮下良平☎0423-74-8668

◈第4回全国カトリック聴覚障害者の会
《名古屋大会》

全国の皆さん、ぜひ来てください！　お待ちしています！
日時：9月15日～17日／問合先：青山純子（事務局）☎FAX052-917-2001

◈福岡地区祈りの集い

二人・三人集って祈ることを強く望んでおられる主に、心を燃やし、霊に満たされ、清められ、いやされ、強められるように一人でも多く祈る魂をお待ちしております。

1.定期の集い

日時：毎月第1・3月曜日①11時30分～13時30分②18時30分～20時30分／場所：①午前－ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会控室②午後－ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会小聖堂

2.不定期の集い

毎月1回マテオ神父様の日程に合わせて日曜日に集います。
時間：13時15分～16時15分／場所：司教館別館5階
主催：聖霊による刷新福岡地区奉仕会
問合先：Br.床島（教区本部☎ 092-522-5139）

ミニ情報

◈大分聖書展

「新共同訳聖書」発行を記念して1987年から毎年開催。曾野綾子氏と本田路津子氏の「記念講演会」「小磯良平聖画展」聖書に関する「ミニ講演会」「聖書セミナー」など、さらに幼児児童参加による「書と絵画作品展」など多彩な企画も予定されている。／日時：6月15日（木）～20日（火）／会場：大分市トキハ会館2階催場／入場無料／問合先：大分教区本部☎0975-32-3397

◈教区ハンドブッグ95発行

信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事業所の住所等の情報を集めた小冊子・B6版47ページ。ぜひ一家に一冊お持ちください（1冊00円の献金）。なお、カレンダーの行事予定は、3月28日現在のものです。新規、変更などがあり得ますので、毎月発行される「教区報」を参照してください。なお、先月号で追加した28ページ最終行W・キッペス「聖マリア病院付き」は、「聖マリア短期大学」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。／問合先：教区本部　☎092-522-5139

◈カトリック新聞テープ版のご案内

カトリック新聞各巻の内容を全て収録。
費用：年間6,000円（ﾃｰﾌﾟ代・通信費などの実費）／問合先：ＣＩＣ（ｶﾄﾘｯｸ・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ・ｾﾝﾀｰ）代表：清水 晴乃　☎03-3947-5318

CROSSROAD No.17/1995
くろすろーど
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

6月

1日（木）◈教皇文書研究会［カテドラル　10:00～］
4日（日）◈聖霊降臨祭・合同堅信式［カテドラル　14:00～］
Sr. 渡辺和子講演会［佐賀市文化会館　19:30～］
7日（水）助祭・司祭候補者認可式［大神学院　16:30～］
9日（金）聖書講座⑤　毎週金曜日7月14日まで［カテドラル　19:00～］
八代キリスト教短期講座(最終回)［ｶﾄﾘｯｸ八代教会　19:00～］
11日（日）三位一体の主日
13日（火）◈教区内全司祭研修会［カテドラル ～15日］
短期キリスト教講座　毎週火曜日7月18日まで［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ19:00～］
14日（水）◈深堀仙右衛門司教帰天10周年追悼ミサ［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 18:00～］
15日（木）佐賀「ｶﾄﾘｯｸ人生講座」　毎週木曜日7月13日まで［佐賀カトリック幼稚園　10:00～/19:30～］
18日（日）キリストの聖体
◈戸畑教会堅信式
大名町教会「家庭の日」
老司教会聖体行列
新田原教会聖体大会・講演会
聖歌研修会［大楠教会　13:00～］
「戦後50年」を考える Part 3［カテドラル　13:30～］
SE・COバザー［聖心のｳﾙｽﾗ幼稚園　10:30～］
19日（月）◈定例司教総会［東京 ～24日］
21日（水）†トマス平田好［門司港1938年］
†ドミニコ深堀仙右衛門［教区長　1985年］
23日（金）イエスのみ心
25日（日）聖ペトロ使徒座への献金
◈久留米教会堅信式
集まりませんか？（女性のための黙想会）［戸畑ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ修道院　11:00～］

7月

2日（日）◈多久教会ｽﾃﾝﾄﾞｸﾞﾗｽ祝福式
3日（月）聖トマ使徒
†フランシスコ・X 平田正喜［老司1994年］
4日（火）短期キリスト教講座　毎週火曜日7月18日まで［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ19:00～］
6日（木）聖マリア・ゴレッティ
佐賀「ｶﾄﾘｯｸ人生講座」　毎週木曜日7月13日まで［佐賀カトリック幼稚園　10:00～/19:30～］
7日（金）聖書講座⑨　毎週金曜日7月14日まで［カテドラル　19:00～］
11日（火）聖ベネディクト修道院長
16日（日）殉教者についての講演会［カテドラル　10:30～］
20日（木）†ヤコブ 平田勇［西新　1980年］
†W・シュルツ［吉塚　1987年］
22日（土）地球のみんなのアートフェスタ in 北九州《北九州国際障害者芸術祭》［～25日］
24日（月）北九州地区シーグキャンプ［～27日］
25日（火）聖ヤコブ使徒
†Ｊ・ラグレブ［門司天使園　1982年］
†Ｊ・ブルトン［呼子1957年］
26日（水）聖ヨアキムと聖アンナ
28日（金）†Ｌ・ルリエ［聖小崎育児園　1970年］
30日（日）第12回「出会いの集い」［聖スルピス大神学院　10:30～］
31日（月）聖イグナチオ・ロヨラ
†ヨハネ 平田惣五郎［浄水通　1989年］

【6月続き】
25日（日）熊本地区・召命を祈る集い［武蔵ヶ丘教会　10:00～］
27日（火）◈教区顧問会［司教館14:00～］
29日（木）聖ペトロ・聖パウロ使徒

◈　司教日程　†　司祭命日

参加しませんか

◆松永司教様の教皇文書研究会

日時：6月1日（木）10時～／参加費：500円／場所：カテドラル大名町教会／内容：ヨハネ・パウロ2世使徒的勧告「信徒の召命と使命」を読んでいます。司教様のご都合で毎回、次回の日程が決まります。／問合先：山口紀子　☎092-921-4532
主催：福岡地区婦人会

◆聖霊降臨祭

教会の誕生を記念する聖霊降臨祭が松永司教様を迎えてカテドラル大名町教会で行われます。
また、ミサの中では合同堅信式も行われます。カテドラルに集い、心をあわせてお祝いしましょう。日時：6月4日（日）14時～／場所：カテドラル大名町教会

◆第2回八代キリスト教短期講座「生きがいをさがそう」開催中

「一体、わたしは何が欲しいのだろう？　わたしを充たしてくれるものは何なのだろう？」それぞれが心の声に耳を澄まし、人生の意味を問いなおすひととき…。この講座はあなたをお待ちしています。お気軽にどうぞ。時間：19時～21時／場所：カトリック八代教会／テーマ・講師：④6月2日／弱いときこそ素晴らしい・日向常子⑤9日／生きがいとは何か・Fr. ノーリス／問合先：八代教会☎0965-32-4065

◆「人生講座」開講10周年記念文化講演会

日時：6月4日（日）19時30分～／演題：愛をこめて生きる／講師：Sr. 渡辺和子／会場：佐賀市文化会館イベントホール／入場料：500円／問合先：牧山満安☎0952-23-4754

◆第10回「カトリック人生講座」開催中【佐賀】

多くの方のご協力と応援のお陰で「カトリック人生講座」は10周年を迎えることができました。これを機会に本講座を「原点に戻そう」と思い、初期に取り上げた「生と死」など、人生の根源的自問自答を改めて見つめ直すことにいたしました。深みのある生き方を求めておられる方が一人でも多くご参加くださいますよう、ご案内いたします。時間：朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時／場所：佐賀カトリック幼稚園講堂／テーマ・講師：⑥6月11日／バス日帰り研修「長崎巡礼の旅」⑦15日／自らを見つめ直す場として・平川義雄住職⑧22日／私は何のために生まれてきたか・Fr. アレグリーニ⑨29日／天使について・稲垣良典⑩7月6日／心でつくる地域社会・永尾光義［最終回］13日／ビデオ鑑賞「ロメロ」・Fr. マルコ／問合先：牧山満安☎0952-23-4754

◆第2回短期キリスト教講座「生きるとは」

本当の幸せとは何でしょう／自分を大切にするとはどんなことでしょう／自分を愛するとはどんなことでしょう／暖かい家庭の基になるものは何でしょう／人は何のために生きているのでしょう／ともに考え、ともに学ぶため、この講座は、あなたをお待ちしています。友人、知人の方をお誘いください。ベビーシッターあり。日時：6月13日～7月18日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分／場所：カテドラル大名町教会1階講堂／受講料全3000円（1回1000円）／テーマ・講師：①カトリック教会へようこそ・Fr. アレグリーニ②命にとって大切なもの・倉元涼子③いじめについて・野島一彦④青少年とその心・奥村晋⑤ホスピス病棟の現場から・Sr. 泉キリ江⑥聖書とキリスト教・Fr. 牧山強美／問合先：Sr. 西田☎092-715-1061（平日13時～18時）／教区本部☎092-522-5139（平日10時～12時）

◆深堀仙右衛門司教帰天10周年追悼ミサ

ドミニコ深堀仙右衛門司教様が1985年6月21日に亡くなられて10年になります。命日の一週間前になりますが、教区内全司祭研修会で司祭がカテドラルに集まりますので、14日に帰天10周年の追悼ミサを行います。信徒の皆様もご一緒にお祈りくだされば幸いです。／日時：6月14日（水）18時／場所：カテドラル大名町教会

◆SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ　「第5回SE・COバザー」

日時：6月18日（日）10時30分～14時／場所：聖心のウルスラ幼稚園（福岡市南区塩原4-25-20）／問合先・Sr. 富山☎092-512-0033

◆聖歌研修会

日時：6月18日（日）13時～15時30分／場所：カトリック大楠教会／聖歌指導：深堀　純／会費：無料（教区報5月号で参加費3,000円としていましたが誤りです。お詫びして訂正いたします）／問合先：大楠教会　☎092-521-6946

◆シリーズ「戦後50年」を考えるPart 3
「戦後補償の実現をめざして」

戦後50年を迎える今年、社会でも教会でも過去を振り返り、反省し、将来に対する責任を持って今の歩みを見つめ直そうとしています。今回の講演会がこの歩みの助けになれば幸いです。みなさんのたくさんの参加をお待ちします。
日時：6月18日（日）13時30分～16時30分／場所：カトリック大名町教会4階会議室／講演：①「民間基金」になぜ反対なのか。解決の道は？［講師：鈴木裕子（女性史研究家）］②侵略戦争賛美（追悼・感謝）決議に反対を［講師：奥村悦夫（侵略戦争賛美決議に反対する全国ネットワーク）／主催：福岡地区カトリック正義と平和協議会／戦後責任を問う「関釜裁判」を支援する会／連絡先：美野島司牧センター：Fr.M・コース
☎092-431-1419

◆熊本地区・召命を祈る集い

教区内のあちこちで、召命促進の努力がなされています。司祭、修道者、信徒が同じ意向のもとに、共同体として召命のために祈ります。特に、熊本市内の信徒、修道者の皆さんの積極的な参加をお願いします。／日時：6月25日（日）10時ミサ／場所：カトリック武蔵ヶ丘教会／問合先：Sr.黒木紗耶子（幼きイエズス会）☎096-364-0352

◆集まりませんか？

この度、若いかたがたと一緒に祈りの一日を計画しましたのでおいで下さい。小倉教会の岩永神父様においでいただき、将来について広い心で考え、ご一緒に祈りたいと思います。／日時：6月25日（日）11時～16時／講話：Fr.岩永義人（小倉教会主任）／場所：戸畑ノートルダム修道院／参加費：1,000円（含む昼食・茶菓代）／対象：女子青年／申込・問合先：北九州地区の最寄りの修道会またはSr. 塩路まで（援助修道会黒崎修道院・祈りの集い連絡係☎093-621-5670／申込締切：6月18日／主催：北九州地区女子修道会（宮崎カリタス修道女会／コングレガシオン・ド・ノートルダム／聖母訪問会／天使の聖母宣教修道女会／援助修道会）

◆殉教者についての講演会

福岡教区の殉教者の生涯をたどり、私たちの信仰を振り返ってみましょう。「キリシタン大名高山右近の影響で洗礼を受けた加賀山隼人は、関ケ原の合戦で勇敢に戦った武将でもあった。仕えていた細川忠興の領内でキリシタン禁令が実施され、再三にわたる棄教のすすめを拒んで、1619年豊前小倉で斬首により妻、娘と共に殉教した。現在隼人を含む188名の日本殉教者の列聖運動が進められている。」／日時：7月16日（日）10時30分～15時（閉会後、希望者のためにミサ）／テーマ：加賀山隼人と娘みやの殉教／講師：Fr. 溝部脩（サレジオ会）／場所：福岡カテドラルセンター大名町教会講堂／参加費：1,000円（弁当申込みの方は別途500円）／申込先：深堀　純　〒814-01福岡市城南区神松寺3-7-31☎092-801-5351（小教区毎にまとめて申込みください）／申込締切：6月末日／主催：福岡教区修道

福岡黙想の家

◎6月のスケジュール
2(金)～4(日)　聖霊刷新・祈りの会
5(月)～7(水)　A．P．ジャパン集会
10(土)～11(日)　レジオマリエ福岡クリア
18(日)～19(月)　聖母カテキスタ会
24(土)～25(日)　泰星聖書研究グループ黙想会
26(月)～27(火)　山口・島根地区司祭黙想会
問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940-32-3222　FAX　0940-32-3385

生命山

◎生命山スケジュール
7/23(日)～29(土)　黙想会（Fr.クラウディオ）
8/　4(金)～12(金)　黙想会（Fr.フランコ）
8/18(金)～26(土)　黙想会（Fr.フランコ）
申込・問合先：生命山カトリック別院
〒865-01　熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7
☎0968-85-3100　FAX　0968-85-3186

召命を祈る
―熊本地区―

「熊本地区召命を祈る集い」は五月六日、手取教会において〈召命祈願日〉のミサをもって始まった。司式は教区の召命担当森山信三神父であった。聖堂は召命を祈る信徒・修道者でいっぱいで、特に若者が目立った。ミサの中で森山神父は自己の召命に触れながら、神が先に呼び出してくださるという召命の性格を説明した。

ミサ後、神学院の現状について話し、中高生の年齢で識別したり決断することの難しさなど、養成上の問題点にも触れた。

特に皆の興味を引いたのは召命学校が始まった十数年前には、小神学生が四十人もいたという古き良き時代の話だった。またいつかこのような時を与えてくださるよう祈りたいと願う私たちは、教区の司祭の現状、この状態がそのまま続いた場合の統計などを聞いた時、司祭の不足は緊急問題であることを実感するとともに、召命のために祈り続けたいという熱い思いに駆られた。



今年度は、熊本地区の五つの小教区で「召命のミサ」を中心に据え、多くの信徒・修道者の参加を得て祈っていきたいと思っている。

次の集いは六月二十五日武蔵ケ丘教会で行われる。

「熊本地区召命を祈る集い」
代表　Sr.黒木紗耶子

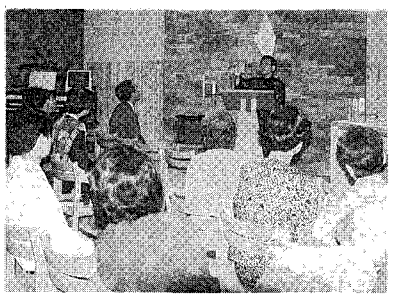
典礼・聖歌と祈りの集い

黙想の家で定期的に行われる福岡典礼聖歌研究会の、「典礼・聖歌と祈りの集い」も今回（五月十四日）で、第十九回を迎えることができました。

毎回「主の祈り」から始まり、教会の祈りで終わるひと時。典礼は神への賛美であって、歌うことにより、心を動かし、理解し、深く祈ることができます。

また、共に祈り、共に歌うことは励みにもなり、信仰のあかしともなって、信仰がより一層深められていくのが感じられます。

今回は畠基幸神父様のインドでの体験談が、写真とテープでもってユーモラスに紹介されました（＝**写真**）。



また、聖歌指導者である深堀純先生が、ラテン語、グレゴリオ聖歌、ミサなどの典礼に関する豊富な知識をもって教えてくださいました。

この場では、リラックスして典礼を学び、深め、分かち合い、時間がたつのも忘れるほどになります。

今回の参加者は前回に比べると少ないようでしたが、一人一人の大きな声が聖堂いっぱいに響きわたりました。

福岡教区の財産である深堀純先生の声で、聖堂の椅子がいっぱいになるほどの参加者が増えるよう願うものです。

黒崎教会　徳永登代子

神道一口メモ⑤
森山敬三

伊勢神宮は、もともと地方神で外宮の豊受大神が祭られていたところに、五世紀ごろから、伊勢は大和朝廷の東国経営のための拠点で、また海上交通の要地であるため、ここに天皇の祖先神として天照大神が内宮に祭られた。七世紀、天武天皇はこれを天皇の守護神とし、それはまた日本の最高神ともなった。持統天皇から明治天皇に至るまでは勅使のみの参拝で天皇ご自身の参拝は行われなかった。

戦後五十年を考える
福岡正平協

五月十四日から大名町教会で「戦後五十年を考える」パート2として、勤労女子挺身隊であった三人の韓国人、柳替伊さん、朴順福さん、朴小得さんと語らいの場をもつことができました（＝**写真**）。

お話を聞くうちに、三人には共通のいきさつがあることが分かりました。

数え年十二、三歳のころ、学校の先生から、日本に行けば生け花や裁縫を習い、女学校も卒業できる……と勧められたそうです。先生を神様のように信じていた彼女たちは天皇陛下のために働けると思い、成績の良い生徒から選ばれたので、親の反対を押しきって日本に来ました。

ところが話とは大違い。習い事はたった一回で、あとは十分な食事もなしに男性並の重労働を強いられ、酷使されたそうです。その賃金も未払いのため、現在裁判をおこしていると聞いています。



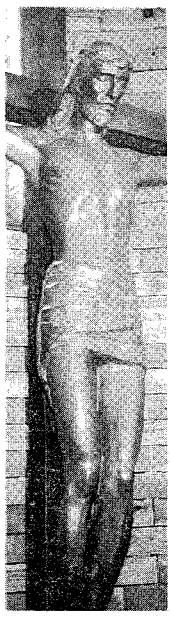
「日本人に恨みはありませんか」との質問に、朴順福さんは「全然ありません。何も分からないで日本に連れて来られたのですから」と答え、集会後のお茶の席では「私は今でも自分を日本人だと思っています。歌が好きで、今の韓国の歌は知りませんが、当時の歌はたくさん歌えます」と話されていたのが印象的でした。大名町教会　佐田一兵

訃報

片岡仁志神父様（高宮教会助任）の御母堂イサベリーナ片岡サク様が五月七日午後、長崎にて亡くなられました。享年八十八歳。

永遠の安息のためにお祈りください。

聖霊の恵みのおみやげ
第34回クルシリヨに参加して



このクルシリヨに参加出来たことを心から感謝します。私は参加するについて締め切り間際まで悩みました。なぜなら今の私は休みがとれず日曜日に教会に行くのが精一杯で子どもと遊ぶ機会がなく、せめて連休ぐらいはどこかに連れて行きたいという気持ちがあったからです。

しかし、「今回どうしてもクルシリヨに参加したい」という気持ちが強く、「行きたいなあ」と妻に言うと、ひと言「行ってきたら」と言われて安心して参加しました。今回皆さんの祈り、そして家族の祈りの支えがあってこそ、今の私があるということをこのクルシリヨを通じて気づきました。このような人たちに支えられ、楽しく心から祈ることが出来ました。そして驚いたのは、先輩クルシリスタ（既に参加した人）の支えでした。他にも、修道院、小教区、教育関係施設からの霊的花束が研修会の部屋を埋めつくすほど戴いたことでした。これだけの人が見守ってくださっていると思うと、どうしても熱が入りました。また子どもにも聖霊の恵みのみやげがたくさん出来ました。私は新たに洗礼を受けた気持ちを味わうことが出来、心からすがすがしい気持ちになりました。

この感動を忘れずにこれからの信仰生活を、よき信者として頑張りたいと思います。

これからも神様の手足になるよう誠実に生きていけるよう、くじけることがないよう皆さん支えてください。

吉塚教会　中村武司

幼稚園のできごと

福岡雙葉小学校付属幼稚園

福岡市中央区の緑に囲まれた静かな丘に建っている福岡雙葉学園。

設立母体である幼きイエス会（サンモール修道会）は三百三十年程前に、フランスでニコラ・バレ神父によって設立されました。

日本には明治五年に五人のシスターが派遣され、以来、東京には四谷、田園調布、横浜、静岡に姉妹校が建ち、福岡には昭和八年に中学・高等学校が、昭和二十六年に幼稚園がはじまりました。各校とも「幼きイエス会の教育がめざすもの」を基盤とし、幼・小・中・高それぞれの発達段階に従って展開し教育しています。

幼稚園では、学園の中で一番小さな子どもたちの明るい声がみちています。幼少の頃から神の存在を知り、神を愛し、神に創られた人間として互いに愛し仕えあうという心の育成を大切にしながら心身の調和ある成長を願っています。

四月初めには仮園舎の祝福をしていただきました。窓を開ければ目にしみる木々の緑、都会とは思えない位、自然に恵まれています。子どもたちは今まで小学校玄関前の聖母像に挨拶して幼稚園にきていましたが、それができなくなり少しがっかりしているのではないかと思っていたら、始業式の朝でした。講堂に入るため、高校の正門を入った所の聖母像前で丁寧に挨拶している子どもたちをみた時、子どもたちの心に習慣的でなく、神に向かう心が育っていることを思い感謝しました。

価値観が多様化されている現代社会の中で人間本来のあるべき姿、神が望まれる姿に成長していくのを助けることができるようにと、祈りのうちに与えられた使命を果たしていきたいと願う毎日です。

幼稚園主任
Sr.加藤正子

BOOK 読みま専科

★おもしろ信仰カルテ
―神の国のおとぎ話・神様編―
ニル・ギレメッテ著
織田　千尋訳

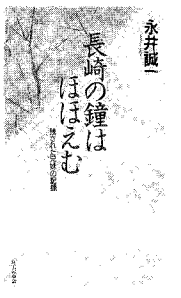


この本の神の国のおとぎ話は第二十九話で構成されています。実にユーモアたっぷりで、しかも一話ごとに味があり、読者の心を引きつけ、神様の計らいに感動と勇気を、そして心温まる愛の心を与えてくれます。キリスト者すべてに贈られるこの書から、心に残った感動を誰かに伝えたくなるに違いありません。

サンパウロ　一二五〇円

◇　◇

★長崎の鐘はほほえむ
残された兄妹の記録
永井誠一著



死を前にして、原爆の悲惨と神と人への愛を書き綴った父、永井隆氏と、原爆で亡くなった若き母の思い出は少年の日の著者の胸に清らかに美しく消えない。涙が目を洗い、心を洗う。

お父さんは、お母さんを亡くした悲しみにじっと耐えてお母さんの分までぼくたちのことを考えているのを知り涙が出た（本文より）。戦後五〇年にあたって、ふたたび原爆の悲劇をくり返さないようにとの願望をこめた、父と幼い兄妹の生活記録である。

女子パウロ会　八五〇円

ジャパン建築
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石石他 / 理影の / 大御そ }
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

教会学校の先生たちも勉強しています

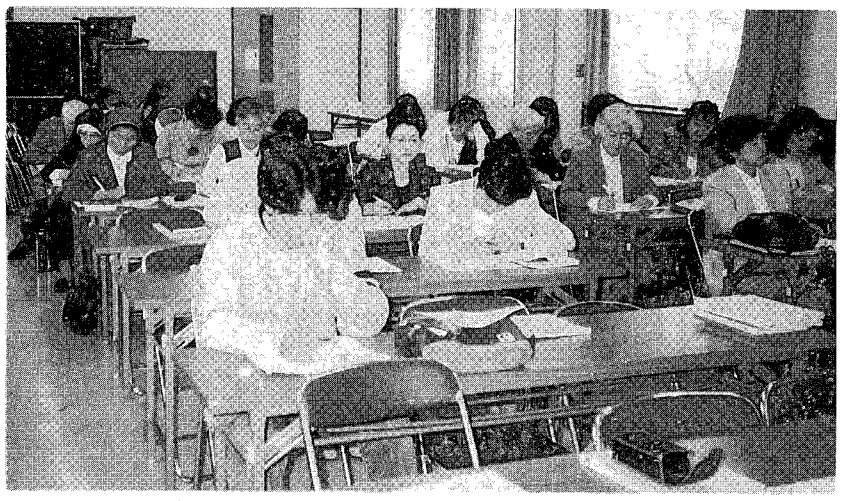
春のまったなか、少しはださむさを感じるうすぐもりの空の下で、今年度初めての教会学校のリーダー勉強会が開かれました。予想していた通り、参加者の大半がお母さんリーダーの方で、その中にいくにんか、シスターがまじって参加していました。

最初のプログラムは、櫻井（さくらい）神父様のお話しでした。そのテーマは公教要理、つまり、神さまのおしえでした。カテキズムともいいます。いかにも学者らしい風格の、その神父様が話して下さった内容から、とても時間内には語りきれないほど中身が濃いということが、ひしひしと伝わってきました。しかし、逆に興味をそそられるほど、素晴らしい内容だということも感じました。午後からのプログラムでは、午前の部での講話についての分かち合いを行いました。四十二人の参加者でしたが、午後には三十人位になり、三つのグループに分かれて、それぞれのグループごとに行いました。グループのふんいきは、それぞれに少しちがいがあったようです。しかし、意見を交わさないまま時間を過ごしたところはひとつもありませんでした。だから全員がそれぞれ、何かを得ることができたと思います。

その後、櫻井神父様へみんなでしつもんをしました。分かち合いの時に出てきたぎもんについての答えを聞くことができました。アンケートの用紙には、この日の感想を書きました。そして終了の聖歌と祈り。

この日の中で何より印象に残ったのは、歌に始まり、歌に終わったことです。僕が教会学校のリーダーをやっていく上で忘れてはならないと思うのは、祈ることと歌うことです。それをあらためて感じました。また、がんばるぞ！

湯川教会　中村　貴也

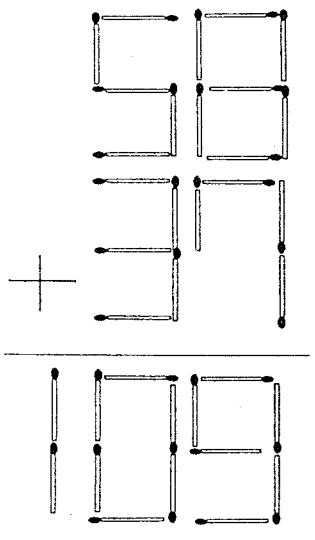


いっしょうけんめい勉強する教会学校の先生たち

編集後記

天に昇られたイエス様。また降りて来てお話しをお聞かせください。じめじめした世の中に、からっとした話をして、爽やかな風をください。教区報にもいい風が通りますように。紙面にいい香りが残りますように。紙面が死面になりませんように。

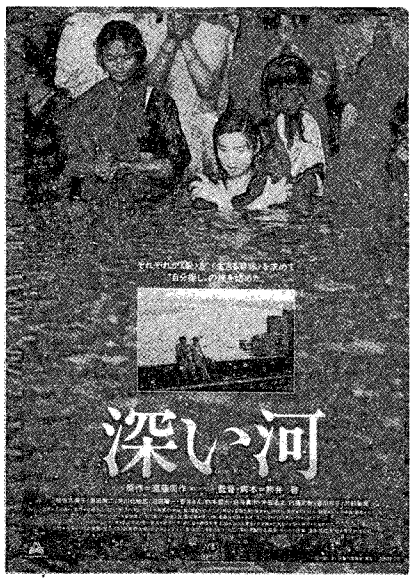
【クイズ】



マッチの数字58+37＝109は、まちがっていますが、マッチを1本だけうごかして正しい計算にしてみましょう。

☆前回の答え☆
「山」デシタ！

6月24日（土）より
福岡ソラリアシネマにて
全国共通特別鑑賞券1,400円発売中
問合先・申込先:「深い河」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
092-712-7373　教区本部にも有り



聖地巡礼の旅　10日間
1995年9月12日（火）～21日（木）
福岡発着イスラエル　旅行代金：300,000円
ナザレ・ガリラヤ湖畔・エルサレム・ベツレヘム・エマオ他
松永久次郎司教同行　募集人員40名
企画：カトリック福岡司教区
問合先：近畿日本ツーリスト北九州支店　☎093-551-2182
担当：二田・有村

らくがきコーナー（好きなものを描いてください）

ピース・ソング・フェスティバル
in Hiroshima '95



平和の歌を
作ってみませんか！？
応募締切■1995年6月末日
開催日時■1995年8月5日
開催場所■エリザベト音楽大学
主　催■広島教区平和年推進委員会
●応募する方は、必ず詳しい募集要項をお取り寄せください●
応募先・問合先■広島市中区幟町4-42
広島カトリック青少年情報センター
☎FAX 082-211-3413

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ——安心を創る
FUJIKi　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

人の子は失われたものを捜して救うために来たのである。（ルカ19・10）

二日市教会　堤　敏雄神父

新カテキズムへの心の準備

福岡教区司祭研修会

ローマの教えが基盤

各種委員会から諸問題も提起

六月十三日から十五日まで福岡教区カテドラルにて、教区内全司祭の研修会が開かれた。参加人数は五十余人。テーマを新しいカテキズム（要理）とし、神学に精通する札幌教区司祭の荒木関巧（あらきせきたくみ）神父を招き、講話を聞いた。

教区内の全司祭を対象にした今回の研修会は、講話を聞きながら考えることに重きがおかれたもので、三日間の濃い内容を消化していった。

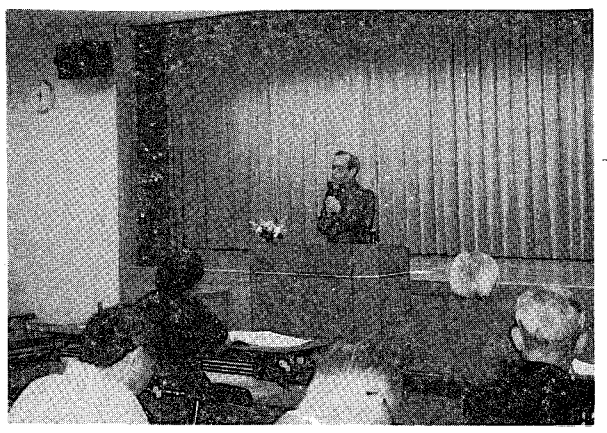
キリストの代理者ヨハネ・パウロ二世教皇の名のもとに出された「カトリック教会のカテキズム」が日本語に翻訳されて司教団から出されるのは本年度末の予定。その間、確かなものとして伝える神父を招いて開かれたこの研修会では、集まった司祭団の目が輝いていた。

先に、講話で話す内容の要約が全司祭に配られており、それに基づいて荒木関神父は四回に分けて静かに話した。

これは、一九八五年、臨時シノドス（全世界司教代表会議）は、全教会共通のカテキズムを教皇に要望して後、ラッツインガー枢機卿のもとに委員会が構成され、一九九二年十一月、フランス語で、「カトリック教会のカテキズム」が出版されたもの。

内容は、今までの信仰の遺産を何一つ捨てることなく、第二バチカン公会議、典礼改革、新教会法の成果を取り入れ、現代社会のさまざまな問題に対して積極的に答えようとしているもの。ただ、完全な日本語になり、全信者に伝えられるまでには、まず神学用語の問題がある。現代人の言葉やメンタリティ、諸文化が考慮され、今までの教会用語、神学概念によって「救いの真理」が十分理解されるかどうか吟味されなければならないのである。

新しいカテキズムは四部から成り立っている。第一部は、信仰の対象としてのキリスト教の秘義についての解説。



講話に聴きいる司祭たち

第二部は、キリスト教の秘義が典礼行為によって祝われ恵みが分かち与えられていくことを述べている。

第三部は、キリスト者の生活について、こまかな実践倫理規則に先立って、根本的に重要な「聖霊に生かされた生活」について述べている。

第四部は、祈りの歴史を聖書によって辿（たど）り、次いで主の祈りについての説明。キリスト者の生活が祈りの生活であることが強調されている。

荒木関神父は、「今までと変わったところはありません。ただ、東方教会の霊性の影響があるようです。特に、第一部の聖霊による教会の誕生と導き、及び第四部の『キリスト者の生活の祈り』にそれが見られます」と語った。

教区長松永久次郎司教は、「現在の教会の在り方を理解し、教会の心を持って宣教・司牧にあたってほしい。今回の研修が実りあるものとなるよう十分に吸収してほしい」と司祭団を励ました。

この研修会では、講話の他に「教区の未来を考える会」の代表司祭から福岡教区内におけるさまざまな問題の提起がなされた。司祭・修道者の召命に関して、小教区司牧評議会規約についてなど山積している。いずれにしても、司祭と信徒が協力しあって進めていくべきものばかりである。

尚、十四日の午後六時より同教会で、**故ドミニコ深堀仙右衛門司教帰天十周年追悼ミサ**が松永司教司式のもとに厳かに執り行われた。

時の話題

「改築」へ向けて船出

長濱　聡

小舟がはるかな港へ向けて漕ぎ出した。漕ぎ手は少数、しかも船頭以下かなり老いている。いつ港へ着けるか分からない。行く手を星が導き、追い風が後押ししてくれることを信じての船出である。

教会施設老朽化が着実に進んでいる。私たちの小教区でも、信徒の集会所、司祭館の寿命はもう長くない。

建替えの準備にとりかからなくてはならない。八代教会は一八九〇年、宣教師によって再興され、その後も長く外国の信徒の援助に支えられてきた。しかし、ようやくここ数年、まがりなりにも経済的自立が果たせるようになった。

そこで先の二つの施設の建て替えを目指して、船を漕ぎ出すことになったのである。

航海一年目の観測では、思わぬ追い風もあって、予定地点を越えて走っている。しかしそれにしても、なんと目指す港の遠いことか！　数十年の道程になりそうである。

今年、殉教者の遺骨がマカオから日本に帰ってきた。その中に八代の十一人分も入っている。まだ八代に里帰りしたわけではないが、ちょっと足を伸ばせば行ける所だ。殉教者など、足元にも近寄れないはるかな人と思っていた。

しかし今、彼らの生きた証拠を間近にし、彼らが私たちと同じ水で育ち、同じ山河を見て祈ったことを思うと、三百年の時差を飛び越えて私たちに寄り添ってくる。

聖堂の前に十一人の殉教記念碑が建っている。しかし同時に、この碑は、十一人を支えひっそりと死んでいった、当時の名もなき信徒たちの顕彰碑でもある。

列福が待たれる殉教者、共に生きた当時の信徒、明治の再興以後の信徒たちが漕ぎ手に加わって、現在の百四十人と共にはるかな港を目指す。もう老いることのない彼らが加われば、港は意外に近いのかもしれない。（八代教会）

52成人に感動と喜び

＝合同堅信式＝

六月四日、カテドラルで、福岡教区の合同堅信式が盛大に行われた。松永久次郎司教は、聖霊をうけてキリストの証し人として生きる第一歩となるこの日を「生涯忘れられない日にしてほしい」と受堅者たちを励ました。



福岡地区の信徒、修道者、司祭が司教を中心にして一堂に会する姿は、聖書のペンテコステの場面を彷彿とさせ、まさに聖霊降臨の主日にふさわしいものとなった。前日からの雨もあがり、聖霊が降るために天が開かれた、そんな青空のもと堅信式の典礼は滞りなく進んだ。今回受堅したのは、光丘七人、二日市二人、本郷一人、笹丘三人、西新五人、古賀六人、浄水通九人、大名町十一人、高宮七人、合わせて五十二人の成人で、一度にこれだけのキリストの証し人が誕生する姿は、まさに圧巻であった（＝**写真**）。

出席者の一人は、「人間社会に何かと暗い影が落ちる今日こそ、光の子である私たちキリスト者の出番であるといえないだろうか。信じ合うこと、愛し合うこと、命の尊さといったような至極あたり前のこと、本当に大切なことが分からなくなってきている今、私たちは本当に大切なものを護り、伝えるために世に戦いに出なければならない。私たちはこの日の感動と喜びを胸に、初代教会の弟子たちのように雄々しくキリスト者として生きたいものである。私たちの中に眠っている力を呼び覚ますもの、それは『神のいぶき』に他ならない。私たちはこの神のいぶきをおなか一杯吸い込むために自分の心を開かなければと考える」と語った。

司祭候補者認可式

六月七日に、聖スルピス大神学院聖堂にて、前福岡教区長平田三郎司教（糸島教会）の主司式のミサの中、司祭・助祭候補者認可式が行われ、長崎大司教区四人の神学生が司祭職への決意を公に表明し、その決意が教会に公に受け入れられた（＝**写真**）。



平田司教は説教の中で、司祭職への神の招きに信頼をもって応えていくことや、将来働き場をよく考えて準備することの大切さを説き、「司祭養成の場である神学校において、霊的にも知的にも現代社会の要求に応えうる司祭になるために、中途半端な態度ではなく、真面目に誠心誠意、司祭職の準備に励んでください」と力強く訴えた。

助祭・司祭候補者認可式は毎年聖霊降臨の主日後の水曜日に行われ、神学科一年生が将来、聖なる叙階を受けて、教会において奉仕の務めを果たすに相応しい者となるよう準備するとの決心を公に表明し、それを教会が公に受け入れる式である。

みちくさ

神との連絡。「もしもし、鈴木さんのお宅ですか」。「違います」。「失礼しました」。恥ずかしい思いをする間違い電話。また、番号は合っているのに「そんな人はいません」と言われることもある。自分の思い通りの連絡がとれないのが電話。それでも便利で効果的な電話▼よく、神様と電話ができたらなあと思ったりする。そしたら、いろいろ聞いて問題解決も早いのにと思ったりする。しかし思うだけで、実際に神様のみ声を聞いたらいったいどうなるのだろうか。司教様に電話するのにも緊張するのに、神様ともなれば、心臓が飛び出してしまうかもしれない。どんな言葉を使い、どんなふうに話したらいいのか。確かに神様は、私たちの心に話しかけたり、み言葉を通して語られる。しかし、『生の声』では耳に入らないと思うから、人はわがままでいることが出来るのかもしれない。悪いことをしたら「許してください」と言えば静かに許してくださるのかもしれない▼今も生き続けられるイエス様の声はどんな声だったか。イエス様と寝起きを共にした人、イエス様と語った人、イエス様から声をかけてもらった人に一度聞いてみたいものだ。それは天国に入るまでは無理だろうが、もし天国に入れなければ永遠に聞けなくなる。それは寂しいことだ。「大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた」（マタイ13・2）。彼らは、イエス様の魅力的な声をじかに聞いた。そこに居合わせなかった私たちは、信じることでイエス様のお声を聞く。しかし救いのための連絡をするのに、もっと声を聞かねばならない。しかもはっきりと、間違いなく。【S】

教会のやる気

「福岡ダイエーホークスはやる気があるのか！」。そうボヤキたくなる今日この頃である。自分が応援している人や団体が低迷しているのを見ると「やる気があるのか」とつい口走ってしまう。愛していればなおさらである。

毎日学生と顔を突き合わせているとついつい同じ言葉を発してしまう。「やる気があるのか」。賢い学生たちは間髪を入れずに返答する。「その言葉をそっくりお返しします」。口に出さずとも、心の中でそうつぶやいている。

やる気とは「物事を積極的に進めようとする目的意識」である。すべての物事、人、団体には目的がある。この目的を意識しなければ積極的には取り組めない。やる気は必要だ。必要だけれどもやる気がない。どうすればやる気が起こるのか。いろんな人がいろんな方法でやる気を起こさせまた継続させようと四苦八苦している。やろうとする気力だけをむやみに助長し、利用しようとする弊害もある。ただ、「やる気があるのか」と吐いてもなかなか「やる気」は起こらない。お互いにそう吐くだけでは、愛が冷めていくだけである。

自己の本来の目的を正しく認識し、それを実現するための具体的な手段が明確にされこの目的と目の前の手段との関わりが自己の内面でしっかりと結びついた時、やる気が本物となっている。

「カトリック教会はやる気があるのか」そう吐くのは大罪か。愛すればこそそう問いたい。でも誰に？　まずはカトリック者である「私」に対してだ。私たち教会もその構成員である「私」も重大な目的を持っている。積極、かつ具体的に取り組むために、目的と手段、その関係をたびたび確認したいものだ。しかし、「慣れ、あきらめ、怠惰、様様な事情がある。そんなにあせるな。冷静に。賢明に。」少しずつとやる気が足踏みしている。それが現実である。でも、それは言い訳である。

「私が愛したように愛し合いなさい」。「やる気はあるか」。キリストは十字架につけられて命を与えられた。私たちのために。何を私の返答としようか。

今、私のまわりで飢えている人がいる。「主よ、私はあなたが飢えている時たべさせませんでした。明日、遅いかもしれませんが私の持っているパンをお持ちしましょう。」

サン・スルピス大神学院
牧山強美神父

刷新の必要性を強調

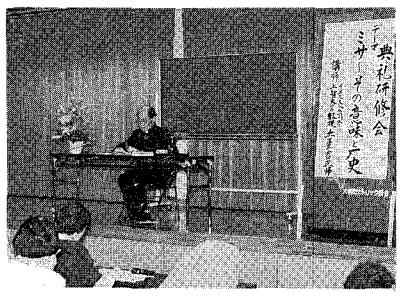
典礼研修会

五月二十一日、福岡教区典礼委員会（委員長　森山信三神父）主催の典礼研修会が、カテドラル大名町教会講堂で十三時三十分から開催された。

テーマは、「ミサ―その意味と歴史―」。講師はイエズス会・土屋吉正神父。参加者は司祭、修道者、信徒合わせて百四十人（＝**写真**）。

人間とは何か、信仰とは何かという原点に立って、典礼の本質をみつめ、祭司の民であるキリスト者にとって、「まことに尊く大切な務めである」ミサを、絶えず刷新していくことの必要性を、聖書の教えと教会の歴史を振り返りながら強調された。また、「良い典礼を作るには、まず私たちが福音のことばを実践することにより、それをどのように表現すればよいかが解ってくる。豊かな表現力を持つ日本語に、福音の考え方、思想を吹き込むことによって、典礼のことばもより豊かにすることができる」。更に「典礼の刷新には、私たちが信仰の恵みを生きているかどうかを絶えず反省し、個人的、共同体的回心が必要であり、ここに典礼刷新の精神がある」と述べられ、質疑応答の後、十七時三十分に閉会した。

古賀教会　井上元之



聖霊による信仰生活刷新セミナーに参加して

四月十七日から毎月曜日、七回にわたり、大名町教会にて、「聖霊による信仰生活刷新セミナー」が行われた。

第一週・神の愛、第二週・救いのみわざ、第三週・新しい生命、第四週・神の賜物の受領、第五週・聖霊の満たし第六週・聖霊のうちでの成長第七週・（ミサ）キリストの証人、のテーマにそった講話を七人の神父様から聞き、参加者がグループに分かれて、毎回分かち合いの時間がもたれた。セミナーで、聖霊の働きについて多くの事を学び、三位一体の理解が深まった。中でも牧山勝美神父様の「言葉として分かったことがもっとよく分かるように聖霊が導いてくださる」という話を聞き、これまで聖書の言葉を知識として、頭で感動を覚えても、心の奥深くでとらえることが少なかったのだが、生活の体験を通して、自分自身の中で神の生きた言葉として、変容させ成長させてくださること、また、苦しい時に出会ったみ言葉は、神が聖霊を通して支え、共にいてくださる証しであることを感じた。

分かち合いでは、洗礼による経緯や、長年の信仰生活の中で喜び、悲しみ、苦しみから得た話を聞き、自らを省みるよい機会となった。

初めて会った人々と深い交わりを持つことができ、共にキリストの体を分かち合う兄弟なのだと改めて実感した。人生の半ばで失明し、苦難を乗り越え、信仰に明るく生きるある参加者の、電話ボランティアとして活躍中の証しは、考えさせられた。

最終日は、松永久次郎司教様によるミサが捧げられ、参加者の多くが、生かされている恵みに気づき、心豊かになるセミナーであった。

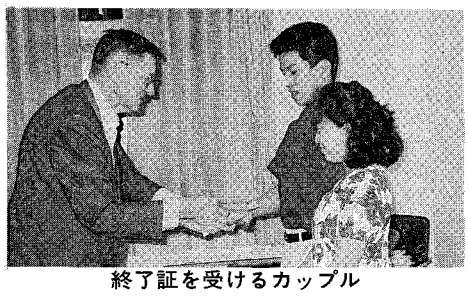
浄水通教会　毛利富貴子

結婚準備セミナー銀祝を迎えて

（その一）

結婚準備セミナーは「カトリックや一般の若者の結婚の良い準備となるように」「神の結婚に対するメッセージや恵みを社会に仲介し、現代社会の福音化に応えたい」との目的と願いをもっています。

一昨年六月、読売ＴＶはこの結婚準備セミナーを取材して全国に放映。北海道から九州までの反響は「うちの子どもにも是非このような結婚準備セミナーに参加させたい」「このような結婚準備セミナーを行うには、主催者側としてどうすればよいか」「もっと詳しい内容を知りたい」といったものでした。現代は教会挙式を望む若者が増えています。結婚準備セミナーに参加して、信仰に生きる先輩夫婦の率直な体験談を聞き、二人で結婚に対する期待や夢、夫婦の責任について語り合って、「困難や試練にあう時にも愛と誠実をもって協力し合い、離婚は絶対しないようにしたい」と言ってくれます。


終了証を受けるカップル

若者の性は乱れ、中絶が簡単に行われている現実に対して、「いのちといのちの誕生に結びつく性の尊さ」「妊娠のために備わっている女性の性のリズムと、このリズムを生かして、夫婦が新しいいのちを望んで迎える『自然な家族計画』の豊かな実り」も紹介しています。「いのちは神秘で素晴らしい。これはまさに神業ですね」「女性は新しいいのちを生み出す力を持っていて素晴らしい。男性として女性を尊敬し大切にしたい」「こんな素晴らしい家族計画の方法があるとは知らなかった。兄弟や友人にも知らせたい」と反応し、自然な家族計画関係の本やビデオまで求めるノンクリスチャンもいるほどです。

ファミリーセンター
ショーン・Ｍ・ライル神父

〈続次号〉

召命学校ご案内

今年も福岡カトリック神学院と聖パウロ小神学校で、司祭・修道者の召命を祈願し、「召命学校」と題して、錬成会が行われる。教区や修道会の聖職者の誕生が減少している中で、司祭および信徒が現状を認識し、一人でも多くの志願者を送り出すことが強く望まれる。この錬成会で、「司祭になりたい、修道者になりたい」という少年が増えることを期待するものである。

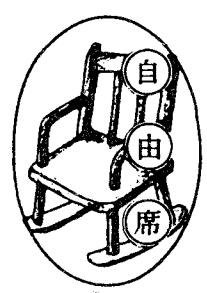
召命学校

対　象：小学校４～６年生男子（中学生希望者も可）
日　時：８月17日㈭午後３時～19日㈯　昼食後
場　所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
定　員：30人
申込み：福岡カトリック神学院　森山信三神父
☎092－531－6821　FAX092－524－7373

召命錬成会

対　象：小学校３～６年生男子
日　時：7月21日㈮ 午後4時～23日㈰ 午前10時30分
場　所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参費：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
◎申し込み締め切りは７月15日です
〒810 福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ小神学校 ☎092－531－0924

信仰共同体の家『アガペー』



安部藤任

U神父様に同行して、阪神大震災で壊れた御像の修理の手伝いに行った。法隆寺近くののどかな所で、古い家並みは江戸時代を思わせた。玄関に『アガペー』と書かれた表札がまず目に入った。障害者の私のために、車椅子が通れるように玄関やトイレにスロープが作ってあった。

Aさんの家をアガペーとしたのは十年前からで、今共に生活しているのは六人。さまざまな事情をもつ人たちだ。

貧しい生活だがいつも明るかった。信者さんやボランティアの人が朝から集まって来られ、共に祈り、働き、話し、食事する様子は信仰共同体の見本を垣間見た気がした。

普段は近所の工場のご厚意で、靴下やランジェリーを安く卸して頂いたものを、皆で包装して売って運営費の足しにしておられる。忙しい身で全盲の人々に編み物を教える奥さん。一時間も離れた自分の家で私を入浴させ、焼き鳥で歓迎してくださった息子さん夫婦。障害に耐えて、他人との生活を甘んじ受けておられる御主人。家族全員が訪れる人に安らぎを与えている。自閉症の青年を連れて来た母は、「一カ月泊まっていくわ！」と、自分の家みたいに伸び伸びしていた。

生活費は？と聞くと、「困ったときに祈っていると、不思議とどこからか援助の手が差し延べられるのです」と笑っておられた。御像の絵付けを少しだけ手伝ったこの家での体験は、私たちに深い感銘を与えた。

（大楠教会）

ぜいたくな時間を
ゆっくりと…
＊個人黙想可（いつでもどうぞ…一泊３食６千円指導料無料）
＊祈りの日（毎週火曜日11AM～３PM）無料・昼食サービス（ミサ・聖時間etc）
7月11日・25日，８月全週，９月５日はお休みします。
福岡黙想の家 〒811-41 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松３－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

〝幸せをつくる人に〟

佐賀「文化講演会」

佐賀カトリック教会では「人生講座」開講十周年を記念し、ノートルダム清心女子大学のシスター渡辺和子名誉学長を招き、六月四日、佐賀市文化会館イベントホールに於いて市民を対象に「文化講演会」を開催した。

シスター渡辺は、「愛をこめて生きる」と題し、『時間にこそ愛をこめよう』と呼びかけ、四百人の聴衆を前に、約一時間半、歯切れのよい語り口で講演した。大要次の通り。「時間の使い方はそのまま命の使い方につながる。外国で時間を尋ねるはずの紳士が単語をとり違えて『時間とは何ですか』と質問したという笑い話があるが、時間に追われる現代人への問いかけでもある。ゆっくり人の話を聞けない若者がふえてきた。速い事を美徳と思い込んではならない。皿一枚並べるにも祈りをこめる心がけが大切だ。木を伐るのに忙しくて、斧を顧みる暇のなかった樵の嘆きを座右の教訓としたい。



愛する人のために自分の苦しみを捧げながら神へのとりなしを願う（天との契約）という祈り方もある。

宗教というものは苦しみを取り除いてくれるものではない。信仰は苦しみを受けとめることを教える。

マザーテレサは自分の周辺のカルカッタで働くことを望まれた。『生活の中にもっと優しさをとり入れ、幸せをつくる人になってください』。

おだやかながら語り口の巧みさと、豊富な体験をもとに数々のエピソードを引き合いに、磨き抜かれた人格の輝きは聴衆を魅了した。

（佐賀教会・牧山満安）

老司教会バザー　豪雨の中で大盛況

五月十四日ミサ後、恒例のバザーが開催された。

あいにく当日は朝から最近味わったことのないほどの豪雨が降り続いた。前日、雨を予測して昨年より二張多い十二張のテントをセットして万全に備えたが、思いがけない豪雨のせいで、参加者は約五百人にとどまり、近所の人々とのふれあいも幾分さびしく感じられた。

しかし、信徒会館内の友愛品や手作り品コーナーは、外が雨のせいもあって大混雑、予想外の売り行きだった。

外ではテントの中での餅つきが大好評。十一時半頃からバザーが終了する寸前まで続けられた。金魚すくいも子どもたちに大もて。新田原や大崎教会を通して取り寄せられた新鮮な野菜や鮮魚も飛ぶように売れた。

今年は変わったイベントがいくつもあった。阪神大震災救援のための「お楽しみ券」コンビの漫才、下町神父様の腹話術、紙芝居、最後に山元神父様のギター伴奏でフォークソングの大合唱。雨のため聖堂で行われたが、爆笑と清らかな歌声は雨を吹き飛ばすかのように響き渡った（＝写真）。共同体の「ふれあい」も、バザーのおかげで実り多いものとなった。



神道一口メモ⑥

森山敬三

八幡宮は応神天皇を祭ったものである。その総本山は宇佐神宮、その菱形池の辺りに神が現れ「われは誉田天皇広幡麻呂なり」と告げられたことにより、八世紀前半創建された。八六年には京都に石清水八幡宮が勧請された。源義家がここで元服し、八幡太郎と称したことから清和源氏の氏神となり、広く武家の守護神として発達した。奈良時代には皇室の宇佐に対する崇敬は、伊勢神宮以上であった。

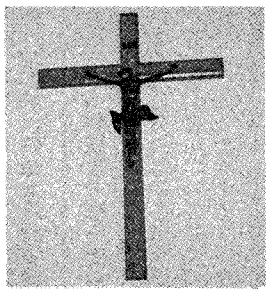
クルシリヨに参加して　〝聖霊のはたらき〟

福岡黙想の家で開催された第二十四回クルシリヨを支えてくださった多くの方々に心から感謝いたします。

私がクルシリヨへの参加を決心したのは、先輩参加者の一言からでした。「ぜったいいいから行ってみたら！」と声を掛けていただいたものの自分の気持ち、しかも心の奥底にある信仰の問題を人前で話すことに抵抗があり、なかなか決心がつきませんでした。

と「ビンゴゲーム」は初めての試みであったが、賞品の自転車など、好評だった。

フィナーレを飾ったのは山元眞神父様と下町豊重神父様



ところが、その先輩参加者は「聖霊が話させてくれるから大丈夫」ときっぱりおっしゃるのです。それなら私も聖霊のはたらきを体験してみようと参加を決心しました。

スタッフの皆さんには、参加者一人ひとりが充分にクルシリヨを体験できるように心配りしていただき、多くの方のお祈りにも励まされながら感激のうちに終了することができました。これまでなんとなく過ごしてきたキリスト信者としての生活に、一筋の光りが当てられた気がしています。その光りが絶えることのないように神様に信頼して祈っていきたいと思います。

クルシリヨの感動を言葉で表すのは難しいもので、より多くの方々に体験していただきたいと祈るばかりです。来年のゴールデンウィークにクルシリヨの予定を入れてみてはいかがですか？　聖霊のはたらきで、またとない感動を味わうことができるに違いありません。

大名町教会　松本　泉

訃報

聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院院長シスター・マリア・エンリカ・ボンバナ様が五月二十八日に福岡徳洲会病院にて帰天。享年七四歳。

厳律シトー会・伊万里の聖母修道院のシスター・マリア・ジェラルダ上田夏野様が五月三十一日に同修道院で帰天。享年七五歳。

シスター方の永遠の安息をお祈りください。

幼稚園のできごと

八幡カトリック幼稚園

北九州の緑地帯、山や公園に囲まれた所にある当園は、神様の話に目を輝かせる子どもたちにとって、目に見えない神様を肌で感じられる恵まれた環境にあります。四季折折、移り変わる自然に触れながら、驚いたり質問を投げかけてきます。冬は枯れたかのような木から芽が脹み新芽を開き、春には桜や草花が咲き始めると同時に、小さな生命も活動を始めます。子どもたちは虫を見つけると釘づけになり、なかなか教室に入ってきません。

「だんご虫も神様が造ったの？」と、丸くなったり、たくさんの足で歩く様子に見入っています。秋になると、どんぐり、椎の実、松ぼっくりと自然からの子どもたちへの贈り物は、つきることがありません。落ちた木の実は子どもたちの宝物で教室のホーリーコーナーに山ほどささげられています。自然の息吹を肌で感じ、小さな生命に心を向けながら子どもたちの心も育てられていくのを感じます。

縦割り保育の中で、年長児は何も分からない年少児を上手にお世話している様子に感心させられます。また、同年齢でも自分よりゆっくりペースの友だちの作品をみて、「遅かったけどここが難しかったけね」と思いやることばに、ほっとしてうれしそうなKちゃん。いつも線だけでなぐり描きの絵を描くBくんに「いろんな色があってきれいだね」との友だちからの褒めことばに、小さな声で「ありがとう」という。

教師はなんとか形になるよう導かねば、などと傲慢な心をもってみている中で、子どもはそれぞれ神様からいただいたよい面を自然に見つけ、感心したり、喜んだりしているのです。

真の教師の姿を子どもに学びながら、思いやりの心をもって広げ育てるお手伝いができたらと願う毎日です。

ご会葬御礼

聖心のウルスラ宣教女修道会会員故シスター・マリア・エンリカ・ボンバナの葬儀に際しましては、ご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき、心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させて頂きましたのでご了承くださいますようお願い申し上げます。

実は拝眉の上お礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

一九九五年六月

福岡市南区塩原四丁目二十五番二十号
聖心のウルスラ宣教女修道会
管区長シスター・M・G・フェラリス

ご寄付お礼

故シスター・マリア・エンリカ・ボンバナ様の香典返しとして聖心のウルスラ宣教女修道会管区長シスター・マリア・ジョバンナ・フェラリス様より司祭養成のためにご寄付をいただき心よりお礼申し上げます。

一九九五年六月

福岡カトリック神学院
院長　森山信三

BOOK 読みは専科

★弱さと神の慈しみ ―テレーズとともに生きる―

伊従君子訳・編



テレーズが「神の慈しみの愛」に身を捧げて百周年を記念して贈るメッセージ！

イエス様を愛したテレーズの一二七節に及ぶ手記。正に彼女の純粋な心、謙虚な姿勢の中に、私たちを高めてくれる感動の書。

定価　六二〇円

〈テレーズの本（姉妹編）〉

☆わがテレーズ愛の成長
定価　一〇〇〇円

☆テレーズの約束
定価　一五〇〇円

☆テレーズを求めて
定価　一七〇〇円

サンパウロ

★わたしの聖書物語

J・シャベール、F・ムービリエ著
今道瑤子、脇田晶子訳



聖書は、ほんとうに歴史の詰まった図書館のようだ。神とヘブライ人との歴史を物語る本。やわらかく美しい絵も魅力的。何千年にもわたって人びとに語りつたえられた聖書は、一人ひとりに語りかけられた神さまの言葉ですが、聞いた私たちもだれかに語り伝えるべきもの。聖書の重要な場面を選んで、現代的に語っている。小学上級。

女子パウロ会定価二〇〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石理影の大御そ 石他 } 素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

7・8月の行事
※ゴチックは司教日程

7月
2日　光丘カトリック会館落成式
9日　多久教会ステンドグラス祝福式
4日　福岡「短期キリスト教講座」（18日まで毎週火曜日）
6日　佐賀「カトリック人生講座」（13日まで毎週木曜日）
7日　福岡「聖書講座」（14日まで毎週金曜日）
16日　殉教者についての講演会
22日　地球のみんなのアートフェスタin北九州「北九州国際障害者芸術祭」（25日まで）
24日　北九州地区シーグキャンプ
30日　第12回「出会いの集い」
8月
5日　青少年広島平和巡礼（～6日）
6日　平和旬間（～15日）平和祈願ミサ［各小教区］
13日　福岡教区平和祈願祭（ミサ）［カテドラル］
15日　教区墓地ミサ
26日　福岡地区婦人会感謝ミサ

福岡黙想の家

▼7月1日(土)～2(日)　岡山地区・グループ黙想会
▼3(月)～5(水)　伊都キリスト教会修養会
▼6(木)～7(金)　岡山地区グループ黙想会
▼10(月)～13(木)　御受難修道会共同体の日
▼21(金)～23(日)　久留米信愛女学院・職員黙想会
▼24(月)～29(土)　コンベンツアル聖フランシスコ修道会黙想
▼31(月)～8月9日(水)修道女のための8日間の黙想会

☆★☆　**平和祈願祭**　☆★☆

8月13日（日）14時～カテドラルにて戦後50周年を記念して「福岡教区平和祈願祭」が催されます。14時から司教司式ミサが在日外国人の方々と一緒に挙行されます。「ミサ・インターナショナル」講演会等も企画されています。詳細は次号にて。

■**第2回短期キリスト教講座・「生きるとは」開催中**　カトリックを紹介する講座。友人、知人の方をお誘いください。

今回は昼の部のみ。ベビーシッターあり。［時間］10時～11時45分／7月18日まで毎週火曜日［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・テーマ・講師］④7月4日・青少年とその心・奥村晋⑤11日・ホスピス病棟の現場から・Sr.泉キリ江⑥18日・聖書とキリスト教・Fr.牧山強美［問合先］Sr.西田（平日13時～18時）☎092－715－1061、教区本部事務局（平日10時～12時）☎092－522－5139［申込先］当日受付にて［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会

■**第10回「カトリック人生講座」開催中**　［時間］朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［日時・テーマ・講師］⑩7月6日・心でつくる地域社会・永尾光義⑪7月13日・ビデオ鑑賞「ロメロ」Fr.ターディフ［問合先］牧山満安☎0952－23－4757［主催］佐賀カトリック教会「人生講座」実行委員会

■**福岡地区「聖書講座」使徒言行録を読む　開催中**［時間］19時～21時［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・テーマ・講師］⑨7月7日・ペトロの報告、アンチオキアの教会、迫害・Fr.森山信三⑩7月14日・バルナバとサウロ、宣教に出発する・Fr.赤倉稔［受講料］一回800円［申込先］当日受付にて［問合先］教区本部☎092－522－5139、FAX522－2152［主催］教区聖書委員会

■**講演会　加賀山隼人と娘みやの殉教**　［日時］7月16日（日）10時30分～15時（希望者のためミサあり）［講師］Fr.溝部脩（サレジオ会管区長）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［参加費］一〇〇〇円（当日会場にて・弁当別途五〇〇円）［申込先］深堀純☎092－801－5351（修道院、小教区毎にまとめて）［主催］福岡教区修道女連盟［後援］福岡地区信徒使徒職協議会

■**結婚準備セミナー**　【福岡】第61回［日時］8月31日～9月28日毎木曜日・土曜日（全8回）［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092－541－6207【熊本】［日時］9月4日～26日毎月曜日・火曜日（全8回）［場所］カトリック手取教会［問合先］手取教会☎096－352－3030

■**祈りの集い**　御聖体顕示してお祈りします［日時］7月23日（日）14時～16時［対象］16～30歳の未婚信者女性［会費］無料［場所］マリアの宣教者フランシスコ修道会熊本第二修道院［申込・問合先］同右Sr.山内☎096－324－1771

■**第12回「出会いの集い」**　［日時］7月30日（日）10時30分～16時30分（フォークミサあり）［場所］大神学校［テーマ］出会いを求めて［講師］Fr.山元眞［対象］20歳以上の独身男女［会費］一〇〇〇円（昼食代含む）［申込・問合先］峯幸子☎092－715－0374

■**イエスさま大好きな子集まれー**　お友だちと一緒にお祈りしたり歌ったり、山に登ったりしながら、イエスさまのやさしい心に触れ、楽しく過ごしましょう　［テーマ］イエスさまの平和ってどんなこと？［日時］8月1日(火)13時～3日(木)昼頃［対象］小学5年生～中学生［指導］Fr.伊東成晃［会費］一五〇〇円［持参品］ベール、洗面用具、筆記用具、ナップサック、水筒、防止、シーツ一枚［場所］福音の光修道会「ナザレの家」・福岡市博多区光丘2－3－44［問合先］同右　Sr.平節美☎092－581－1613

■**青少年広島平和巡礼**　戦後50年を迎えて、過去を素直に振り返り、世界の人々と和解し、平和への決意を新たにしたいと思います。［日時］8月5日(土)9時小倉教会集合～6日(日)19時同教会解散［団長］Fr.中村彰［内容］「和解」戦後・被爆50周年広島教区平和行事参加［参加費］四〇〇〇円（交通費・宿泊費含む）［申込締切］7月2日(日)［申込・問合先］Fr.中村彰（小倉教会☎093－921－0093）

■**祈りと講話の集い**　教区内の方々の小さな黙想のお手伝いができればと思い、計画してみました。①［日時］8月22日(火)9時～16時［対象］一般男女どなたでも②［日時］8月26日(土)9時～16時［対象］若い方々（例えば教会青年会とか、学生など）［指導］Fr.新井延和（カルメル会宇治修道院）［会費］無料・但し弁当ご持参ください。なお、弁当（500円）ご希望の方は8月20日までにお知らせ下されば、まとめて近所の寿司屋さんに注文します。［場所］福岡カルメル会修道院・福岡市西区今宿上ノ原3番（JR、地下鉄・今宿駅下車）［申込締切］8月20日［申込・問合先］同右☎FAX092－807－7361

偉大なことを見せるために

本欄に「自分の召命について何か書いてほしい」と、編集長からの依頼があり、曲がりなりにも「召命を育てる」ために奉仕する身であるために、その招きに応えることにした。自分が「召命の道」を歩み始めた動機について、私には「はっきりこうだ」と言い切れるようなものはないが、親友であった一人の同級生の死が、そのきっかけになっているような気がする。彼は中学一年の夏から、原因不明の高熱におかされはじめた。五人のお医者さんが一丸となって治療にあたってくださったが、その甲斐もなく、その秋に、当時の私は駆り立てられていたように思う。神さまの存在を半ば疑っていた私は、「司祭になりたい」という気持ちではなく、「神さまが本当に存在するのかどうか、自分の中で白黒をつけたい」。「神さまが本当に存在されるのであれば、それなりの生き方をすべきだ。そうでなければ別の生き方をすればよい。しかしそのためには、先ず一生懸命、神さまについて勉強してみよう」という気持ちが、小神学校に中学二年から編入するという進路へ自分を仕向けてくれたような気がする。

あれから二十年近くの歳月が過ぎ、司祭叙階の恵みをいただいて早や五年になる。これまでの自分の召命を振り返りながら、私は「いちじくの木かげ」にいたナタナエルの召命（ヨハネ1・43―51）を思い起こしている。「いちじくの木かげにいる」という表現は、神を真剣に探し求めて、瞑想している者の態度、心構えを表しているそうである。神を真剣に探し求めるナタナエルに近づき、声を掛け、「もっと偉大なことを見させる」ために、彼を導いてくださったイエスさま。そして、疑いを抱いていた私までも見守ってくださったイエスさま。現代のナタナエルたちを、あなたのみ手に委ねます。

サン・スルピス大神学院
白浜　満神父

ミニ情報

■**第32回カトリック社研セミナー「戦後50年、カトリック学校教育に問う―新世紀への提言―」**　経済成長至上主義が吹き荒れた戦後50年。知育偏重、いじめ、登校拒否…荒み歪んだ教育現場にミッションスクールが希望の灯であり続けるために必要なものは何か。パネルディスカッションを交え、ご一緒に考えたい三日間。［日時］8月18日(金)～20日(日)［場所］横浜雙葉学園［申込締切］8月10日［申込・問合先］カトリック社会問題研究所・相良☎FAX03－3362－4659

■**映画「深い河」上映中**　遠藤周作原作の同名小説が映画化された。福岡ソラリアシネマにて（☎092－733－7373）上映中［問合先］「深い河」プロジェクト☎092－712－5297・教区本部・聖パウロ書院にも全国共通特別鑑賞券があります。一四〇〇円。

編集室から

夏が来た。バテないように昨年よりも健康に気をつけないと。もう昨年の私ではないのだ。今年の夏を過ごす私は一年、年をとっているのだ。だんだんと白髪が…後ろ髪を引く髪も少なくなっているというのに…。若い時代が恋しい。夏は好きだった。それにしても着実に近づいて来る天国に夏はあるのだろうか。もっとも、『地獄は常夏』だろうが。

7月命日の司祭

†ジョセフ・ブルトン神父（パリ外国宣教会）
一九五七年七月二十五日
元呼子教会主任

†ルネ・ルリエ神父（パリ外国宣教会）
一九七〇年七月二十八日
元聖小崎育児園園長

†ヤコブ平田勇神父
一九八〇年七月二十日
元西新教会主任

†ジョルジュ・ラグレブ神父（パリ外国宣教会）
一九八二年七月二十五日
元門司天使園園長

†ウイリアム・シュルツ神父（スカボロ外国宣教会）
一九八七年七月二十日
元吉塚教会主任

†ヨハネ平田惣五郎神父
一九八九年七月三十一日
元浄水通教会主任

†フランシスコ・ザビエル平田正喜神父
一九九四年七月三日
元老司教会主任

☆聖地巡礼の旅［10日間］
1995年9月12日(火)～21日(木)
福岡発着イスラエル　旅行代金30万円
ナザレ・ガリラヤ湖畔・エルサレム他
松永久次郎司教同行　募集人員40人
企　画：カトリック福岡司教区
問合先：近畿日本ツーリスト北九州支店
☎093-551-2182　担当：二田・有村

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

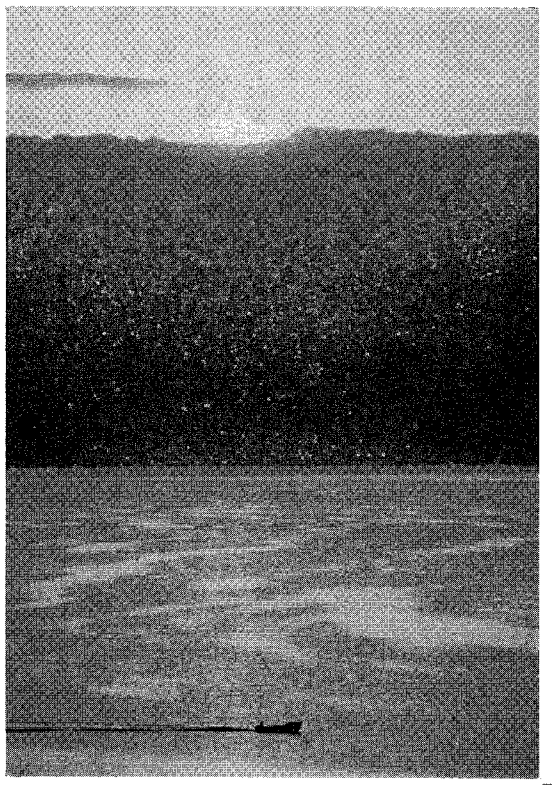
いつも喜んでいなさい

（一テサロニケ5・16）

健軍教会　鵜野泰年神父

平和への決意を新たに

戦後50年にあたって



全小教区で平和祈願ミサ

カテドラルでは《平和を祈る集い》

今年は戦後五十年。八月六日から十五日までの平和旬間に、教区内の全小教区で八月六日に「平和祈願ミサ」が捧げられる。福岡地区では、同地区正平協との共催で十三日に「平和を祈る集い」が開かれ、講演会で平和について考え、滞日・在日外国人と共に平和を祈るミサがカテドラルで捧げられる。熊本地区では「永久聖体礼拝」が始まる予定。

戦後五十年にあたって日本カトリック司教協議会は今年二月に司教団教書『平和への決意』を発表した。これは「戦後五十年の節目にあたって、過去の歴史を教訓として受け止め、そこから平和を築いていくための光をくみ取ろう」としたもの。さらに六月に開かれた司教総会では、『核兵器廃絶のアピール』文を発表し、唯一の被爆国である日本の司教団として「すみやかに核兵器の実験を停止」することなどを呼びかけ、具体的な平和作りへ向けて活動を開始した。このアピール文は各国の政府や司教協議会に送られた。（六面に全文掲載）

平和祈願ミサ

今年の平和旬間の八月六日教区内の全小教区では先の司教団教書『平和への決意』に基づき、平和を祈願するミサが捧げられる。

福岡地区では同十三日にカテドラルで「平和を祈る集い」が開催される。午後一時から東京教区の青木静男神父の講演「戦時下の教会、今、そしてこれから～司教団教書『平和への決意』より」が、二時三十分から司教主司式による平和祈願ミサが滞日・在日外国人と共に捧げられる。

聖歌、朗読、共同祈願は、英語、スペイン語、タガログ語、韓国語などで行われる。教区典礼担当から各小教区に典礼の役割等の要請がなされているが、福岡教区では初めての大きなミサ・インターナショナルになる。国籍を越えて共に世界の平和を祈るということに意義があり、多くの信徒、修道者、司祭の参加が望まれている。講演会は福岡地区正平協が共催する。

永久聖体礼拝を企画

熊本地区では平和旬間の最終日、八月十五日から永久聖体礼拝が企画されている。熊本地区信徒協主催で熊本市内の五つの小教区が合同で開催する。月曜日から金曜日までの朝八時から夜八時まで、健軍教会の小聖堂に聖体が顕示される予定。平和を願って聖体の前で祈りが捧げられる。

時の話題

『召し出し』を真剣に考える

宮本　康志

ここ数年間、私は毎年十一月三日に福岡のサン・スルピス大神学院で開かれる召命の集いに参加させていただいております。小教区の子どもたち（小生の息子も含め）と父兄五、六人で出かけております。九州内外より多数の子どもと保護者が集まり、盛大に開催されます。松永次郎司教様を初め、十数人の神父様による野外合同ミサが最初に執り行われますが感動的なものであります。展示物、講演会そして広場の斜面を舞台とした劇など、すべて神学生を中心として見事に運営されています。司祭職への招きを大きなテーマとしてその意義、現況、活動報告などがなされます。

また、熊本県下のカトリック教会参加の少年少女サマーキャンプが例年、夏休みに入った第一週の金、土、日に開かれます。各県下の教会を回ったり、一昨年は津和野巡礼として遠出しましたし、昨年は阿蘇と天草で小グループでのキャンプを計四回も行なったり致しました。その都度指導司祭を初め、シスター方、そして神学生の皆様には並々ならぬご指導ご援助をいただいております。

以上のような行事を通して召命への取り組みがなされています。「召し出し」という言葉を聞いて、私はいつも脳裏に浮かぶ事柄がございます。

私の尊敬する信者のご息女姉妹がシスターとしてアフリカで布教活動に活躍しておられます。一度、帰国されお話を伺う機会に恵まれまして、現地の様子をスライドを通して拝見致しましたとき、今更ながら同世代の女性が遠くアフリカの環境劣悪な中で働いておられるお姿に深い感銘を覚えました。

今年もまた、サマーキャンプと召命の集いの季節が間近に迫って参りました。あらためて私たちは「召命」というテーマについて深く考えなければと思います。

（島崎教会）

「宣教の拠点に」

宿願の会館できる

光丘

光丘教会（主任司祭ジャック・バイヨ神父）では、信者の長年の念願であった光丘カトリック会館の落成式が、七月二日に行われた。

会館は、RC二階建て、延べ床面積約二二九坪、一階は舞台つきホール、事務室、会議室、執務室、厨房、和室、二階は六部屋ある教会学校の教室、図書室、司祭館となっている。

会館建設については、近年の会館老朽化および信者の学習や集会等の不便から一九九三年に建設委員会（委員長平田繁秋氏）が発足した。その後、信者をはじめ多くの方々の努力、司教様や藤木工務店の協力により、この日を迎えることができた。



▲松永司教様による祝別
▼カトリック会館全景



当日は集中豪雨だったが、二時から松永久次郎司教様をお迎えして、落成式、祝賀会が行われた。祝別式の後、司教様は挨拶の中で、「立派な司祭館が出来たが、こんどはこの教会の中から司祭を育てて欲しい。学習室では、御言葉をしっかり勉強しよう。この会館をなごやかな会館として有効に利用しよう」と述べられた。

祝賀会では、日曜学校の子どもたち、シスター方等のアトラクションがあり、婦人部の手作りの料理等、信徒全員でこの喜びを分かち合った。

殉教者が描かれた

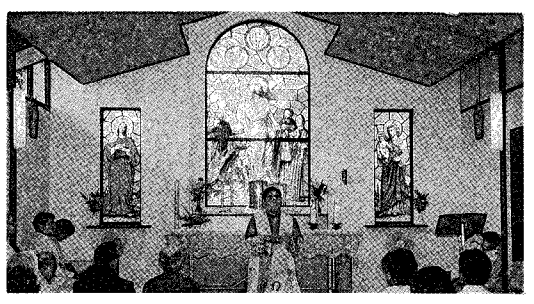
多久教会のステンドグラス

創立三十三年を迎える佐賀県内で最も若い多久教会にステンドグラスが入った（＝写真）。

七月九日、松永次郎司教が祝福式を挙行した。県内の教会から、多くの人が参列した。このステンドグラスを多久教会にふさわしいデザインにしようと考案したのは、主任司祭のA・テンペリーニ神父。祭壇の後部中央に十字架を背にした復活のキリスト。イエス様の右手に多久教会の保護の聖人である聖フランシスコ・ザビエル。イエス様の左手には日本人最初の司祭として叙階された福者セバスチャン木村殉教者とトマス籠手田。イエス様の足元にトマス籠手田の妻マリアが描かれている。祭壇の左右にはイエス様を抱いたヨゼフと聖母マリアが描かれている。

このステンドグラスは東側に面しており、朝日で美しく荘厳に映える。

多久教会の信徒（会長　中川義幸氏）は「一同このステンドグラスに描かれた殉教者を模範とし、ステンドグラスに恥じない者でありたい」と決意を新たにした。そしてステンドグラスの作成につき、援助してくれたイタリアの信者と関係者に感謝の意を表した。また巡礼者を迎える気持ちを強くしている。



みちくさ

幼稚園の応接室にいた。ある年長の女の子。職員室での用事を済ませた後、ドアの空いていた応接室の私を見つけて、「園長先生はいつもここにいるの？」「ときどきね」「あれ、この人誰？」「この幼稚園を建てた人。大工さんじゃないよ」「ふーん」と眺め赤い帯をした写真の人の胸の十字架を見て、「それをしているとドラキュラが逃げるんだよね」という。「でも、男の人は噛みつかないんだって」「どうして」「だって、男の人の血はおいしくないんだって。タバコを吸ったり、髪を洗ってもリンスはしないし、風呂に入っても体はこすらないし、運動もしないし、苦いコーヒーは飲むし…」「それ、○ちゃんのパパ？」「そう」▼幼い子はなんでも興味あるようで、人のこともよく観ている。この子も正常に成長しているようだ。この頃から相手の立場とか自分の在り方とか考えることができるようだ。自己の意思表示もできる。教えられることも自分なりに納得しようとする。また、人を嫌わず、どんな人にも気を許し、ついて行こうとする姿がある。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ決して天の国に入ることはできない」（マタイ18・3）と言われたイエス様の言葉には、純粋無垢な、まだ受け身でありながら、積極的に行い、何が起こるかわからないけど先に歩もうとする姿を子どもに観て、大人に対しても、自分の損得を考えずに、相手中心に関わりながら、積極的に物事に取り組んでほしいとの望みがあるように思える。子どもの澄み切った目に映るものが、本当に澄み切ったものばかりであることを望まずにはいられない。

【S】

喜びと悲しみの中で

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」（一テサ5・16）。

☆**傷ついた御像の面影**

五月のはじめ、私は壊れた御像を修理するために、いつも私の手伝いをしてくれている車椅子のAさん夫婦を伴って、阪神に出かけた。たくさんある御像の中に、カルメル会から来た等身大の聖母子像があった。顔は幸い傷ついていなかったが、体はぐしゃぐしゃになっていた。聞くところによると、そのマリア像はカルメル会のシスターの身代わりになってくださったのだという。私たちはジグソーパズルを組み立てるようにしながら、大切に、丁寧にマリア像を修復した。西宮のカルメル会を訪ねた時、そこの院長様は「身代わりになったマリア様」のいきさつを詳しく話してくださった。

☆**身代わりになったマリア様**

運命の一月十七日五時四六分。その時、シスターたちは朝の念禱をしていた。激しい揺れの中で、聖堂の正面に、高く安置していたマリア像が猛烈な勢いでシスターの席に倒れ込んだのである。ところが、本来ならば、そこに座って祈っているはずのシスターが、その日に限って体の調子が悪いということで、院長様の許可を得て、自室で休んでいた。もしそこにシスターがいたとすれば、間違いなく即死していたはずである。

シスターたちは感謝の祈りを捧げた。院長様は倒れ込んだマリア像を、シスターの身代わりになってくださったマリア様としていつまでも保存しておきたいということで、このたび私がそのマリア像を修復することになったという次第である。

☆**生きるも死ぬも あなたとともに**

院長様は私たちを心からもてなしながら、思いがけない話をしてくださった。

あのマリア像が倒れ込んだあの惨劇の瞬間、シスターの年老いたご両親は自宅で、つぶれた家の下敷きになって即死されたというのである。

九十歳近くになっておられたお二人は、生前「出来たら二人で一緒に天国に行きたいね」と、口癖のように言っておられたという。

奇跡的に生き残った、シスターの思いはいかばかりだったでしょう。

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」（フィリピ4・4）。

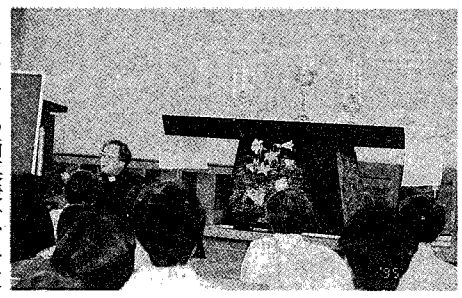
鵜野泰年神父

〝聖体は生活の糧〟

聖体大会開催

新田原教会

六月十八日、キリストの聖体の祝日に、新田原教会（主任司祭竹森勇神父）ではサン・スルピス大神学院の高木善行神父様を迎えて聖体大会を開催した（＝写真）。



あいにくの雨模様で、予定していた聖体行列は中止となったが、ミサ（早朝ミサをなくし、メインのミサと聖体大会に臨んだ）後、高木神父様の「聖体について」をテーマにした講演が行われた。

高木神父様は、「聖体は信者の生活の糧である。聖体によって生かされる日々を送ろう。またキリストを証しする家庭にできるよう励もう」と話し、『心と環境』についても、「平成新人類と呼ばれる現代の若者には〝やる気〟が見られないという声を耳にすることがあるが、心（頭）の中に関心を抱くにはそれなりの環境と理解が必要であり、信じることが大切である」と説いた。歯切れよい神父様の講演に聴衆は魅了された。

参加者の一人は、「久しぶりの講演に酔いしれました。耳から心に入ってくる本物を大切に保存し、自分がそうできるよう頑張りたいと思います」と語った。

講演の後、聖体賛美式が荘厳に行われ、好評のうちに大会を終了した。

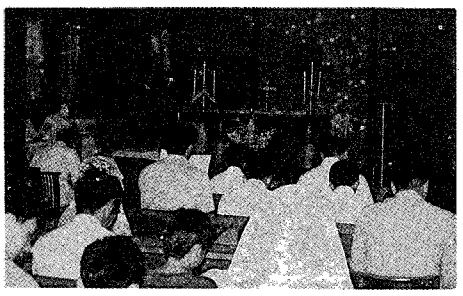
パウロの心を生きて

聖パウロ修道会お祝い

典礼では使徒聖パウロは六月二十九日に聖ペトロと共に祝われる。

聖パウロ修道会福岡修道院（院長戸村修神父）では、翌三十日に聖パウロを祝った。

毎年の行事とはいえ、教区長松永久次郎司教、近隣の教会から神父たち、修道会のシスター、ミッション学校の神父、その他多くの関係者、近隣の人々が集って祈りを共にした（＝写真）。



第一部では、聖堂でまず戸村修院長が、修道会の目的遂行のために祈りを捧げてほしいと挨拶。同修道会神学生が先唱する「教会の祈り」と院長が司式する「聖体賛美式」が荘厳に捧げられた。式中松永司教は聖パウロの言葉を思い起こさせ、「過去のことを謙虚に認め、本当の信仰宣言をし、キリストの福音に生きたパウロを模倣して生活するのがキリスト者である。パウロに与えられた神の恵みを賛美し、キリストと共に築いていった教会を私たちも大切にしながら、信仰の喜びを味わえるよう生きていこう」と話した。

第二部では百村等神父（同修道院）の収集している「聖パウロ切手」が展示された修道院三階で会食が催された。招かれた鵜野泰年神父（健軍教会）が「家庭的な雰囲気を大切にしている聖パウロ会が今後とも大きな影響を与えるべく神の祝福があるように」と述べ、乾杯の音頭をとった。所狭しと集まった人々は歓談しながら和やかな一時を過ごした。

なお、聖パウロ会では今年叙階五十周年を迎える司祭が一人、二十五周年を迎える司祭が一人、ブラザーが七人いる。そのうち小川孝志ブラザーが福岡修道院に在職している。

結婚準備セミナーを担当して

（その二）

前回は結婚セミナーのあらましや反応について述べましたが、喜びや感謝を素直に表明する参加カップルによって彼らに奉仕するスタッフも励まされ、喜びや希望、充実感をいただいてきました。

これこそ私たち信徒に出来る具体的な福音宣教と実感しています。困難や不安を感じることもありますが、聖霊に寄り頼み、気持ちを新たにして祈りと希望のうちに、今日まできました。



熱き心で参加者に話すスタッフ

愛し合って結婚しようとしているカップルは、神の愛も素直に受け止める特別な恵みをいただいています。自分の信仰に疑問や反感を持っていた幼児洗礼のある信徒は「神が愛であるということを、結婚セミナーを通して実感しました。私にとって素晴らしい回心の時でした」と言いました。教会は初めてというある人は「教会でこれほど具体的に結婚について学ぶことが出来るとは思っていませんでした。まだ知らない人に是非参加を勧めたいです」「私たち若者にも素晴らしかったけれど、両親にも参加させたいです。セミナーから帰って両親によく説明してあげました。年配の夫婦のためにも開かれるといいですね」などなど。

スタッフは、「このセミナーによって私たちの方が恵みをたくさんいただきます。それに、若者がこれほど喜んでくれるのですからありがたいことです」と言います。信徒一人ひとりが自らの使命に目覚めて生き生きと奉仕する時キリストの生きた細胞となって福音のための使徒的活動も豊かになり、神のみ国のためのよい働き手となることを確信しています。現在、この形式のセミナーは、口コミで広がり、二十個所余りです。

神に感謝。

ファミリーセンター
ショーン・M・ライル神父

■結婚準備セミナー

【福岡】第61回［日時］8月31日～9月28日毎木曜日・土曜日（全8回）［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092-541-6207

【熊本】第48回［日時］9月4日～26日毎月曜日・火曜日（全8回）［場所］カトリック手取教会［問合先］手取教会☎096-352-3030

〔召命学校ご案内〕

福岡カトリック神学院では、司祭の召命を祈願し、「召命学校」と題して、錬成会が行われる。教区の聖職者の誕生が減少している中で、司祭および信徒が現状を認識し、一人でも多くの志願者を送り出すことが強く望まれる。

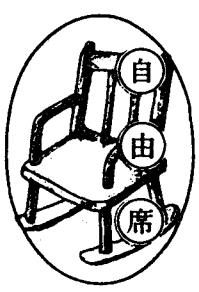
この錬成会で、「司祭になりたい」という少年が増えることを期待するものである。

＝召命学校＝

対　象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日　時：8月17日㈭午後3時～19日㈯　昼食後
場　所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
定　員：30人
申込み：福岡カトリック神学院　森山信三神父
☎092－531－6821　FAX092－524－7373

八月十五日の思い出

白濱清太郎



私のふるさとは五島列島の端っこの小島で、二十五戸位の小さなカトリックだけの集落だった。五十年ほど前は電灯、ラジオ、電話、ガス、水道など全くない自給自足の貧しい村だったが、教会は珍しいレンガ造りで、村人の誇りだった。

こんな小さな島でも戦争の波が押しよせ、若者は次々と徴用、または戦場に駆り出され、しかも家ごとに神棚を設けさせ、朝夕の礼拝を強制されていた。戦況は、おもわしくなく朝夕「大東亜戦争の祈り（日本国への祝福と兵隊が役割を十分に果たすこと、世界平和のための祈り）」を唱えていた。そのうちに私も長崎に動員された。

八月九日、原爆で燃え上がる長崎市内の炎は遠くふるさとの小島より望見された由。長崎で被爆し、小島に傷だらけで帰りついたのが八月十二日の夕方だった。やがて八月十五日、その日に限って敵機の爆音もなく、天主堂（ミドウとよんでいた）に村人が集い、お祝いのため、お祈りを捧げて、今日はなんと静かな空だろうと家路についたものでした。

その日の午後、村役場に連絡があり、村のおとしよりたちが和船を漕いで本町へ行き（往復三時間）はじめて戦争が終わったことを知った。早速、島へ引き返し、奇しくも被昇天の大祝日にマリア様のお恵みだと、村人はミドウに集まり、ロザリオを唱えてマリア様を賛美した喜びは、五十年たった現在も私の頭にはっきりと残る八月十五日の思い出である。

（黒崎教会）

ぜいたくな時間を
ゆったりと…
＊個人黙想可（予約制・一泊3食6千円・霊的指導・カウンセリングetc）
＊祈りの日（毎週火曜日11AM～3PM）無料・昼食サービス（ミサ・聖時間etc）
8月全週，9月5日はお休みします。
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

テサロニケ、アテネ、コリントで・松永久次郎司教⑯10月27日・パウロ、取調べを受ける・Fr. 森山信三⑰11月3日・パウロとアグリッパ王・Fr. 赤倉稔⑱10日・パウロ、ローマに向かって出発する・Fr. 中村彰⑲17日・映像で見る「使徒言行録」・Fr. 山元眞／**聖書週間特別講演会19日・イスラエルの民の過越・Fr. 高見三明⑳**24日・ローマにおけるパウロの宣教・Fr. 浦俊雄／問合先・申込先：教区本部 ☎092-522-5139 FAX. 092-523-2152

◆第8回熊本短期キリスト教講座
《生きがいをさがそう》

日時：9月22日～11月3日毎週金曜日（全7回）午前の部10時～12時／午後の部19時～21時 場所：カトリック手取教会会館2階ホール／参加費：講座全体で1000円／テーマ・講師：①性と愛の成熟について・Fr. 吉山登②施設の窓から見た家庭・野田聰③現代人の幸せとは・Fr. 川添猛④人生の岐路・高倉美和牧師⑤「ばら」からのメッセージ・高木寛⑥生きるいのちのすばらしさ・Sr. 寺本松野⑦カトリック入門記・石崎富士一／イエスの死と復活に生かされる日々・藤井恵美子／★ベビーシッターあり／問合先・申込先：カトリック案内所☎096-322-7948（木曜・祭日休み）当日申込み可／主催：熊本地区カトリック教会

◆第4回全国カトリック聴覚障害者の会
《名古屋大会》

全国の皆さん、ぜひ来てください！　お待ちしています！
日時：9月15日～17日／問合先：青山純子（事務局）☎FAX052-917-2001

◆チョイス・ウイークエンド

青年諸君！あなたの生きる目的、希望は何ですか？そしてあなたは何者ですか？共に語り合ってみませんか。参加を決める前に説明会を開きますので問い合わせて下さい。日時：9月22日（金）19時～24日（日）17時／場所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）／問合先：深堀純・邦枝 ☎092-801-5351

◆生と老い・死をみつめる会

①日時：9月24日（日）13時～16時／講師：下稲葉康之先生（栄光病院ホスピス長）／場所：アクロス福岡／②日時：10月29日（日）14時～16時／講師：大木松子牧師（小さい星伝道所・バングラデシュを支援する会会長）／場所：カテドラル4階／問合先：大山美穂子 ☎FAX. 092-713-8523

◆第5回　パイプオルガン・チャリティー・コンサート

日時：10月7日（土）15時～／場所：カテドラル大名町教会聖堂／チケット：〈前売〉小学生以上1000円〈当日〉1200円／出演：宮田浩久（チェロ）古賀智恵子（伴奏）平田孝子（オルガン）／主催：ぶどうの樹の会／チケット取り扱い：聖パウロ書院（水曜日定休）問合先：相良☎092-781-5496 高木☎092-851-9467

◆青年のための召命錬成会

日時：10月14日（土）16時～15日（日）昼食後／場所：聖パウロ小神学校／対象：青年男女（高校生以上）／参加費：2000円／申込み・問合先：Fr. 森山信三（福岡カトリック神学院：福岡市中央区浄水通38）☎092-531-6821

◆聖歌研修会

日時：10月29日（日）13時～15時30分／場所：カトリック大楠教会／聖歌指導：深堀純／会費：無料／問合先：大楠教会　☎092-521-6946

◆結婚準備セミナー

愛による決断によって、二人で新しい家庭を築いていく上での結婚生活には、喜びと共に責任も伴います。福岡と熊本で結婚準備セミナーが開かれています。日程については、本紙教区報8月号第2面参照。

◆第32回カトリック社研セミナー
「戦後50年、カトリック学校教育に問う―新世紀への提言―」

経済成長至上主義が吹き荒れた戦後50年。知育偏重、いじめ、登校拒否…荒み歪んだ教育現場にミッションスクールが希望の灯であり続けるために必要なものは何か。パネルディスカッションを交え、ご一緒に考えたい三日間。
日時：8月18日（金）～20日（日）／場所：横浜雙葉学園／申込締切：8月10日／申込・問合先：カトリック社会問題研究所・相良☎FAX. 03-3362-4659

◆カトリック新聞テープ版のご案内

カトリック新聞各巻の内容を全て収録。
費用：年間6,000円（ﾃｰﾌﾟ代・通信費などの実費）／問合先：ＣＩＣ（ｶﾄﾘｯｸ・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ・ｾﾝﾀｰ）代表：清水 晴乃　☎03-3947-5318

CROSSROAD No.18/1995

くろすろんど II

わたしの情報は　みんなの情報

CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

8月

1日（火）◆教区顧問会［司教館14:00～］
　イエスさま大好きな子　集まれ！
　［福音の光修道会ナザレの家］
4日（金）†M.ボヌカズ［田川 1991年］
5日（土）青少年広島平和巡礼［～6日］
6日（日）主の変容・平和旬間［～15日］
　平和祈願ミサ［各小教区］
　†E.ベノア［門司港 1962年］
8日（火）†P.マルケシーニ
　［待労病院 1980年］
12日（土）†A.ブルトン司教
　［第二代教区長 1954年］
　†J.オサリバン
　［熊本地区長 1983年］
13日（日）◆福岡地区〈平和を祈る集い〉
　［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 13:00～16:00］
　教区和田墓地開放［～15日］
14日（月）†ミカエル木村義巳
　［馬渡島1967年］
15日（火）聖母の被昇天
　教区和田墓地ミサ［14:00］
17日（木）召命学校［ｶﾄﾘｯｸ神学院～19日］
19日（土）†ステファノ川口康頼
　［小神学校校長 1991年］
20日（日）福岡地区信徒協役員会［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ］
22日（火）祈りと講話の集い
　［カルメル会 9:00～16:00］
23日（水）ﾕﾆﾊﾞｰｼｱｰﾄﾞ福岡大会［～9月3日］
26日（土）福岡地区婦人会感謝ミサ
　［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ］
　祈りと講話の集い
　［カルメル会 9:00～16:00］
27日（日）教区信徒協役員会
　［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ14:00～］
　祈りのつどい［ﾏﾘｱの宣教者ﾌﾗﾝｼｽｺ修道会熊本第二修道院 14:00～］

9月

3日（日）†P.コトレル
　［熊本地区で宣教 1928年］
8日（金）聖マリアの誕生
10日（日）カトリック国際協力の日［献金］
12日（火）◆司教聖地巡礼［～21日］
15日（金）敬老の日
　福岡地区信徒協研修会
　［カテドラル10:00～16:00］
　北九州地区信徒協ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ大会
　†A.ヒューゼ［司教館1944年］
16日（土）熊本地区信徒協委員会
　［手取～17日］
17日（日）典礼・聖歌と祈りの集い
　［黙想の家14:00～17:00］
　†P.オジョニ
　［ロザリオの園 1982年］
21日（木）聖マタイ使徒福音記者
22日（金）聖書講座⑪　毎週金曜日11月24日まで［カテドラル19:00～］
　熊本短期キリスト教講座①
　毎週金曜日11月3日まで［手取10:00～12:00／19:00～21:00］
　チョイス・ウイークエンド
　［カトリック神学院～24日］
23日（土）秋分の日
　◆助祭叙階式［新田原13:00］
24日（日）不動山殉教者慰霊祭
　「生と老い・死をみつめる会」
　［アクロス福岡 13:00～16:00］
26日（火）◆司祭評議会［司教館10:30～］
　◆教区顧問会［司教館15:00～］
29日（金）聖ミカエル他大天使
　†Y.ヴィオン［司教館1969年］

10月

1日（日）◆大名町教会堅信式
　第2回宗教者平和の祈りの会
　［生命山14:30～17:30］
3日（火）†E.ラゲ［司教館1929年］
6日（金）聖書講座⑬　毎週金曜日11月24日まで［カテドラル19:00～］
　熊本短期キリスト教講座③
　毎週金曜日11月3日まで［手取10:00～12:00／19:00～21:00］
7日（土）ロザリオの聖母
　第5回パイプオルガン・

【10月続き】
チャリティーコンサート
[カテドラル14:30～]
10日（火）体育の日
むなかたTEN・TENまつり
[黙想の家]
14日（土）青年のための召命錬成会
[聖パウロ小神学校～15日]
15日（日）老司教会聖母行列
大名町教会バザー
16日（月）◆教区司祭黙想会［～20日］
北九州地区教会学校リーダー研修会［小倉教会10:00～15:00］
17日（火）†M.J.グリーン［玉名1994年］
18日（水）聖ルカ福音記者
22日（日）世界宣教の日（献金）
◆大楠教会堅信式
茶山・西新教会バザー
23日（月）†J.B.ドラビ［黒崎1967年］
27日（金）†J.ベルトラン
［門司港1987年］
28日（土）聖シモン・聖ユダ使徒
29日（日）教区和田墓地ミサ［14:00～］
新田原教会大バザー
「生と老い・死をみつめる会」
［カテドラル14:00～16:00］
聖歌研修会［大楠教会13:00～］
31日（火）†ヨセフ糸永一［今村1992年］

◆　司教日程　†　司祭命日

参加しませんか

◆イエスさま大好きな子　集まれ！
お友だちと一緒にお祈りしたり歌ったり、山に登ったりしながら、イエスさまのやさしい心に触れ、楽しく過ごしましょう／テーマ：イエスさまの平和ってどんなこと？／日時：8月1日（火）15時～3日（木）昼頃／対象：小学5年生～中学生／指導：Fr. 伊東成晃／会費：1500円／持参品：ベール、洗面用具、筆記用具、ナップサック、水筒、帽子、シーツ1枚／場所：福音の光修道会「ナザレの家」福岡市博多区光丘町2-3-44／問合先：同Sr. 平節美☎092-581-1663

◆平和祈願ミサ
日時：8月6日（日）／場所：教区内各小教区

◆福岡地区《平和を祈る集い》
福岡地区の司祭、修道者、信徒のみなさん、子供たち、侍者のみなさん…カテドラルに集まって平和のために祈り、平和への決意を新たにいたしましょう！！！日時：8月13日（日）13：00～16：00／**第1部［講演］**13：00～カテドラル1階講堂／テーマ：「戦時下の教会、今、そしてこれから」～司教団文書「平和への決意」より～地区正平協主催シリーズ**「戦後50年」を考えるPart 4**★子供たちは、講演の間、カテドラル4階で「平和の絵」を描き、ミサの時に奉献します／14：15～ミサ準備（聖歌の練習等）／**第2部［平和祈願ミサ］**14：30～カテドラル聖堂／主司式：松永司教・福岡地区司祭共同司式／(1)講演について・講師：Fr. 青木静男（東京教区司祭）小教区の司牧や東京教区の広報部長を経て、現在、東京教区靖国神社問題実行委員会事務局長。昨年秋、名古屋の研修センターで行われた司教研修会で「政教分離と教会の対応」の講師を務めた。・内容：戦時下の教会、そして現在の状況を見つめながら、将来に向けて平和のために何ができるか、を司教団文書「平和への決意」を元に考える。(2)ミサについて：聖歌、朗読、共同祈願は、英語・スペイン語・タガログ語・韓国語・日本語等を用いる。＊司牧センター・大名町教会の英語ミサグループの協力／当日のミサ献金は「海外援助」のため

◆召命学校
福岡カトリック神学院で、司祭の召命を祈願し、「召命学校」と題して錬成会が行われる。聖職者の誕生が減少している中で、司祭および信徒が現状を認識し、一人でも多くの志願者を送りだすことが強く望まれる。この錬成会で「司祭になりたい」という少年が増えることを期待する。お祈りください。／対象：小学4年生～6年生男子（中学生希望者も可）／日時：8月17日（木）15時～19日（土）昼食後／場所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）／参加費：2000円（交通費は自己負担）／申込み・問合先：Fr. 森山信三
☎092-531-6821　FAX. 524-7373

◆祈りと講話の集い　「神を賛美する人々」
教区内の方々の小さな黙想のお手伝いができればと思い、計画してみました。①日時：8月22日（火）9時～16時／対象：一般男女どなたでも
②日時：8月26日（土）9時～16時／対象：若い方々（教会青年会とか、学生など）／指導：Fr. 新井延和（カルメル会宇治修道院）／会費：無料・但し弁当持参／弁当希望者は8月20日までに要連絡／場所：福岡カルメル会修道院・福岡市西区今宿上ノ原3番（JR、地下鉄今宿駅下車）／申込み締切：8月20日／問合先：同上☎FAX. 092-807-7361

◆祈りの集い「野のゆり」
ビデオを見た後、1時間聖体を顕示して祈ります。／日時：8月27日（日）14時～16時／対象：独身女性（16～30歳の信徒）／会費：無料／場所：マリアの宣教者フランシスコ修道会熊本第二修道院／申込み・問合先：Sr. 下瀬☎096-352-4005

◆福岡地区信徒協主催　95年度研修会
日時：9月15日（金・敬老の日）10時～16時／場所：カテドラル大名町教会／テーマ：21世紀を目前にして－殉教者の信仰に学ぶ／講師：Fr. 結城了悟（長崎26聖人記念館々長）／問合先：井上元之☎0940-33-8122

◆典礼・聖歌と祈りの集い
日時：9月17日（日）14時～17時／場所：福岡黙想の家／聖歌指導：深堀純／お話：Fr. 畠基幸／会費：1000円／主催：福岡典礼聖歌研修会／問合先：福岡黙想の家　☎0940-32-3222　FAX. 0940-32-3385

◆聖書講座「使徒言行録を読む」後期
人類の遺産・神からの手紙、聖書を読みませんか。お気軽にどうぞ。時間：19時～22時50分／場所：カテドラルセンター1階講堂／受講料：全10回5000円／1回800円／特別講演会1000円／テーマ・講師：⑪9月22日・エルサレムでの使徒会議・Fr. 春山勝美⑫29日・テモテ、パウロに同行する・Fr. 平田寛⑬10月6日・エフェソ、マケドニア、ギリシャで・Fr. Z.イエル⑭13日・エルサレムでのパウロ捕縛・Fr. Z.イエル⑮20日・

福岡黙想の家

◎8月のスケジュール
7／31（月）～8／9（水）　修道女のための8日間の黙想会
11（金）～20（日）　幼きイエズス会黙想
20（日）～26（土）サレジオ会黙想
27（日）～31（木）休　館
31（木）～9／8（金）オブレート会宿泊・黙想会

◎9月のスケジュール
10（日）浄水通教会婦人会黙想
13（水）ミカエル会
14（木）～15（金）聖母カテキスタ会黙想
御受難きょうだい会黙想
16（土）～17（日）後援会員の集い
〈奉仕・黙想〉
17（日）典礼・聖歌と祈りの集い
22（金）～24（日）マリッジ・エンカウンター・福岡
29（金）～30（土）伊都キリスト教会・研修

◎10月のスケジュール
2（月）～6（金）パリミッション黙想会
10（火）むなかたTEN・TENまつり
14（土）～15（日）泰星学園職員黙想会
16（月）～20（金）福岡教区司祭黙想会
22（日）～28（土）サレジオ会黙想

問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940-32-3222　FAX　0940-32-3385

生命山

第2回宗教者平和の祈りの会
－戦後50年にあたり－

私共は一昨年10月3日「第1回宗教者による平和の祈りの会」を持ちましたが、戦後50年にあたる今年、再び各宗教者の方々と共に平和の祈りを行うよう計画しました。
日時：10月1日（日）14時30分～17時30分
場所：生命山カトリック別院
〈プログラム〉
◎戦後50年をかえりみて、世界における戦争、不正の状況
◎黙祷
◎世界平和のための各宗教者の祈り
【黙想会】
①8月4日（金）～8月12日（土）
＜8泊9日＞／指導：Fr. フランコ
②8月18日（金）～8月26日（土）
＜8泊9日＞／指導：Fr. フランコ
時間：①～②共通、初日17時～最終日ミサ
参加費：45,000円
問合先：生命山カトリック別院
〒865-01　熊本県玉名郡菊水町蛸浦1391-7
☎0968-85-3100　FAX　0968-85-3186

「あつまりませんか」

一日黙想会を終えて

六月二十五日、北九州地区の五つの女子修道会が協力してコングレガシオン・ド・ノートルダム修道院（戸畑）を会場にし、女子青年の一日黙想をしました。

忙しい毎日の出来事を背負いながら、気強く社会に向かっている十六人の女子青年がこの祈りの会に参加されました。

すでに何回か黙想会に参加された方もあったのですが、初めて経験するという方も多くいらっしゃいました。午前中は聖書を読みながら祈りと分かち合い。午後からは、小倉教会の岩永義人神父様の講話。神父様は、生きた召命の道を淡々と話され、会衆の心に訴えられました。その後各自は聖堂で一日を回想し、いただいた光を大切にしていけるよう祈りました（＝**写真**）。

最後のお茶の時間は食堂に集まり、お互いの自己紹介をしましたが、いろいろの感想が自然に飛び出しました。

「日頃、本当の意味で話し合える人が周りにいない！」「周りには若い信者がいない！……」「初めて会ったのに、



ち合う使命を感じました。

北九州地区　女子修道会

イエス様と共に

老司で聖体行列と賛美式

創立以来十九年間続けられてきた聖体行列と賛美式が六月十八日（聖体の主日）に実施された。

ミサの終わりの「拝領祈願」のあと、主任司祭（ピーノ神父）から「聖体行列の意義」と「平和と宣教」についての話があり、行列に移った。

駐車場に設けられた聖体安置台まで進み、神学生による「聖書朗読」、信徒による「平和のためのメッセージ」（カトリック司教団から出された『平和への決意』の結びの部分）が読まれ、その後、共同祈願の形で、三人の少女による「平和への祈り」が唱えられ、献香が行われた。行列は少女のまく花びらを浴びながら粛々と進んだ。

賛美式に続いて、行列に移り、中庭の「無原罪のマリア像」前まで進み、聖書、「宣教のためのメッセージ」が読まれ、「宣教のための祈り」が唱えられた。

行列は聖堂に戻り（＝**写真**）



聖体安置の後、「タントゥム・エルゴ」が歌われ、司祭の祈り、聖体による祝福、賛美の祈りが唱和され、厳粛なムードの内にすべてが終了した。

今にも降りだしそうな曇天であったが、行列の間は降らず、無事に終了出来たのは、正に神のお計らいだと思われる。神に感謝！

老司教会　本松純一

神道一口メモ⑦

森山敬三

神道は教義も戒律も経典もない宗教である。しいて経典を求めれば『古事記』と『日本書紀』である。その両者は色々の点で相違している。そして天地創造から天孫降臨などの壮大なスケールの神話をふくんでいるが、それは人間の魂の救済を問題にしない。神道は実体があいまいで、容易に仏教、儒教、道教と結びつき、日本人の精神の血肉のようなものになっている。特異な民族宗教である。

顧みられない子どもを皆で支える

SE・COバザー

六月十八日の父の日に、今回はフィリピンの飢えと病に苦しむ子どもを皆で支えることと、阪神大震災の義援金をも兼ねるバザーが聖心のウルスラ幼稚園で行われました。

曇り空ながらも薄日が射す中、十一時開場。各コーナーは毎年のことながら長い行列ができる程の盛況でした（＝**写真**）。



会員の創作手芸品、手作りの菓子、漬物などが大繁盛。食堂はプロの味そのもの、カレーが好評でした。子どもコーナーは若いお母さん方の感性で、さすがに人気上々。

午後からは待望の下町神父様特別出演の腹話術と紙芝居に、子どもたちはお母さんと一緒に夢中になって聞き入っていました。

いつもながら、信者、未洗者の方が奉仕と分かち合いの心で一つに結ばれた和やかな一日でした。

浄水通教会　島　義三

民間薬物依存リハビリ施設『ダルク』

一九八六年、今から十一年前、カトリック聖職者の理解と支援をえて、薬物依存から回復した人たちとその仲間により、初めて東京の荒川区に開設された。

ダルクはシンナー、覚せい剤、大麻、コカイン、睡眠薬、精神安定剤、鎮痛剤、咳止シロップ等の薬物によって依存症（自身の意志の力によってコントロール出来なくなること、生きることがどうにもならなくなってしまうことが分かっていても、また気づいていても薬物、アルコールを強迫的に摂取してしまう行動を繰り返すこと等）に陥った仲間を薬物依存から回復する手助けを目的として作られた日本で唯一の民間薬物依存者のリハビリ施設である。

ダルクに来る仲間たちのほとんどが思春期の十代にシンナー吸引を体験している。こうした問題行動少年たちの多くは青年期になんらかの動機によって薬物を止めていく。だが、その一握りの青年たちは薬物依存に陥り、自己を破壊し、家庭崩壊の危機を作り出してしまうほどに薬物依存という病気が進行し続けるのだ。本人も家族も、社会のほとんどの人が、アルコールを含めた薬物依存が病気であることを知る機会が今の社会には無いと言っていいだろう。ダルクが全国的に必要とされた要因がここにある。



若き生命のために温かい手を

九州ダルクが開設されて三カ月になろうとしている今、新聞等の紹介によって九州全県から相談の電話や講演の依頼が増えている。

福岡県内の仲間が四人入所し、入寮希望者が女性二人、男性二人がいる。経済的に困難な入寮希望の仲間には今日の命がかかっているのだ。

私も着のみ着のまま八年前にダルクに辿り着き、救われた一人としてダルクに救いを求める仲間を無条件で受け入れることができたらと思う。

本人、家族、医療はじめ、社会が必要としているダルクに多くの人々の理解を通して薬物依存者が辿り着けるように、ダルクのあることを知らせてください。

お金がなく困っています。ダルクを助けてください。

九州ダルク責任者　大木文夫

☎092-471-5141（ダルク専用）

幼稚園のできごと

人吉カトリック幼稚園

新学期を迎えて一段落した頃、あたたかい太陽の光につつまれて、幼稚園の庭には色とりどりの花が咲き、子どもたちの元気な声とともに新しいいのちの喜びを賛美しているかのようでした。そこでさっそく宗教教育の手始めとして、子どもたちに「いのち」についてお話しました。そして一学期も終わりに近づいたつい二、三日前、みよちゃん（年長の女の子）からこんな作品をいただきました。

「なんでおはなさんはきれいなの。わたしたちにもわからない。でもかみさまはわかるのかな。わたしたちにもわからない。でもだれがしているのかな。」

これは絵本作りといって、先生が用意した一枚の絵の下に、自分でイメージしたことばやおはなしを自由に書くのです。私は思わず感謝の心でいっぱいになりました。私はすっかり忘れていたのに、みよちゃんの心の中に、確かに「いのち」のことばは伝わっていたのですね。そして誰も知らないうちに心の中に深く根をおろし、お恵みのうちに成長し、文字を使ってこんなに美しい花を咲かせることが出来ました。まだ五歳の小さな女の子に、一体どなたがこのような不思議なわざをなさっているのでしょうか。

当園は今年で創立八十一年目を迎えました。まわりは緑の山々に囲まれ、清らかな球磨川の流れと共に、本当に美しい自然に恵まれたところです。園児は現在二百四十人。人吉球磨地方には、カトリック幼稚園は当園しかありません。託された使命の大きさに保護者の皆様のあたたかいご協力をいただきながら、心を一つにして励んでおります。登園時、また降園時、必ずマリア像の前で立ちどまり、お祈りをしている子どもたちの後ろ姿に、限りなく尊いものを感じる今日この頃です。

園長　岡田郁子

★ゆるしの力



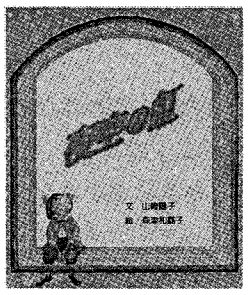
幸田和生著

人には思わず顔を背けたくなるような自分自身を見いだす瞬間がある——これこそ、罪びとである自分の発見だ。人はそこから立ち上がることができるだろうか？　こんな人間にもかかわらず、生きるに値すると言ってくれ、受けとめてくれる誰かが、いるだろうか？　人と人、神と人との関係回復に向けて、イエスのメッセージを聞こう。

ゆるしの秘跡についてもちょっと触れているが、ともにいてくださるイエスのゆるしを実感させる内容。

女子パウロ会定価一〇〇〇円

★夜空の虹



◇　◇

山崎　陽子文

森津和嘉子絵

内気な粘土の人形アンナはほかの人形や愛するカナリアからも相手にされません。アンナの優しい心を知っているのは、屋根裏のネズミ、ムームだけ。でもアンナは、ネコにねらわれたカナリアを自分の命をかけて助けます。

本当の友情と愛することのすばらしさを教えてくれる、人形アンナの物語。

女子パウロ会定価一三〇〇円

BOOK 読みは専科

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

核兵器廃絶のアピール

わたしたち日本カトリック司教団は、今年二月『平和への決意―戦後五十年にあたって』を発表し、「キリストの光のもとに戦争の罪深さの認識を深めて、明日の平和の実現に向けて全力をつくす決意を新たに」①いたしました。その中で、「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任がある」②ことを確認し、具体的に「武器輸出の禁止、核廃絶、軍事費の削減等の実現のための活動を展開する」③ことを提示しました。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、広島と長崎を「人間は信じられないほどの破壊ができるということの証しとして存在する非運を担った、世界に類のない町」④と定義されました。人類史上初の核兵器の犠牲となったこの二つの町をもつ日本にあって、日本のカトリック教会は、核兵器をはじめ科学兵器を含むすべての兵器を廃絶するよう、世界の人々に訴える責任と義務があると考えます。

一九四五年八月六日と八月九日、広島と長崎は人間がつくった原子爆弾によって、生命が一瞬のうちに無に帰すという悲劇を体験しました。あの日以来、広島と長崎は、原子爆弾が地球人類を絶滅させる非人道的な無差別大量殺傷兵器であることを証言し続けています。しかし、この五十年間核兵器は質量ともに増強され、いまだに核兵器の実験が続けられています。日本のカトリック教会は、すべての核保有国に対して、核兵器が非人道的でありかつ悪であることを訴え、できうる限りすみやかに核兵器の実験を停止し、核兵器を廃絶するよう求めます。

核兵器をはじめあらゆる兵器の製造と使用を中止するよう訴えることは、聖書と教会の教えに従うことでもあります。旧約の預言者は「馬を支えとし、戦車を頼る者は災いだ」（イザヤ31・1）、「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」（イザヤ2・4）と語っています。「剣をさやに納めない。剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ26・52）という主イエス・キリストのことばも思い起こします。

「都市全体または広い地域をその住民とともに無差別に破壊することに向けられた戦争行為はすべて、神と人間自身に対する犯罪であり、ためらうことなく堅く禁止すべきである。」⑤「軍備競争は、平和を確保する安全な道でもなく、それから生ずるいわゆる力の均衡も、確実で真実な平和ではないことを人々は確信すべきである。…不安の圧迫から世界を解放して真の平和を打ち立てるためには、精神の改革から出発して、新し道を選ばなければならない。」⑥「新しい道」とは、紛争や対立を戦争や武器によってではなく、平和的手段で解決することです。

「平和を祈る者は、一本の針をも隠し持っていてはならぬ。自分が―たとい、のっぴきならぬ破目に追いこまれたときに自衛のためであるにしても―武器をもっていては、もう平和を祈る資格はないことが、平和の祈りの前提条件である。」⑦自らも被爆し、被爆者のために献身した永井隆の精神を、わたしたちひとりひとりの精神としたいものです。

「長崎を最後の被爆地に！」この悲願を世界の人々と共有できるよう、平和の使徒として働く決意を新たにしつつ、あらためて、各国政府とすべての善意の人々に向かって、次の事項を訴えます。

1. すべての核保有国が核兵器の実験を停止し、核兵器を廃絶すること
2. すべての国家が武器の取り引きと開発を禁止すること
3. あらゆる軍備の縮小

さらに上記の事項に関して、日本のカトリック司教協議会は、諸国のカトリック司教協議会に対して以下のことを要望します。

1. 上記の提案に対する賛意の表明
2. 上記の提案実現のための祈り
3. 上記の課題実現へ向けての、日本のカトリック教会との対話と意見交換

一九九五年六月二三日
日本カトリック司教団

注 ①日本カトリック司教団『平和への決意―戦後五十年にあたって』（カトリック中央協議会）3頁
②同書8頁
③同書14頁
④『教皇ヨハネ・パウロ二世訪日公式メッセージ（平和アピール）』サンパウロ＝旧中央出版社）68頁
⑤第二バチカン公会議『現代世界憲章』80
⑥同憲章81
⑦永井隆『平和の塔』（サンパウロ＝旧中央出版社）7頁

《平和を祈る集い》

平和への決意～過去・現在・未来をみつめながら



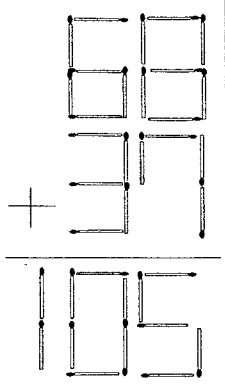
8月6日（日）各小教区で【平和祈願ミサ】
8月13日（日）13時～16時
カテドラルで【平和祈願ミサ】

福岡地区《平和を祈る集い》

第1部［講演］ 8月13日(日) 13：00～ カテドラル1階講堂
講師：青木静男神父―東京教区司祭
「戦時下の教会、今、そしてこれから」～司教団文書「平和への決意」より～
―シリーズ「戦後50年」を考える Part4―
★子供たちは、講演の間、カテドラル4階で「平和の絵」を描き、ミサの時に奉納します。お家で描いたものを持ってきても結構です。
14：15～ ミサ準備（聖歌の練習等）
第2部［平和祈願ミサ］ 14：30～ カテドラル聖堂
主司式：松永司教／地区司祭共同司式 ★ミサ献金は海外援助のため：英語ミサとスペイン語ミサグループといっしょに
福岡地区の司祭、修道者、信徒のみなさん、子供たち、侍者のみなさん…
カテドラルに集まって平和のために祈り、平和への決意を新たにいたしましょう！

【クイズ】

☆前回の答え☆
109の9を5にして58の5を6にする



編集後記

「青空」という字の隅（すみ）を切ると、「澄（す）み切った青空」という人がいる。私たちの心の空はどうか。まず、青空なのか。墨（すみ）がついている空か。汚れている部分を切り捨てれば、「墨切った美しい空」になろう。青空のもと、いつもすがすがしい気分でいられたらいいのだが。

☆9月号は休刊です。昨年同様8月と9月は合併号です。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三 福岡支店長 長山和博

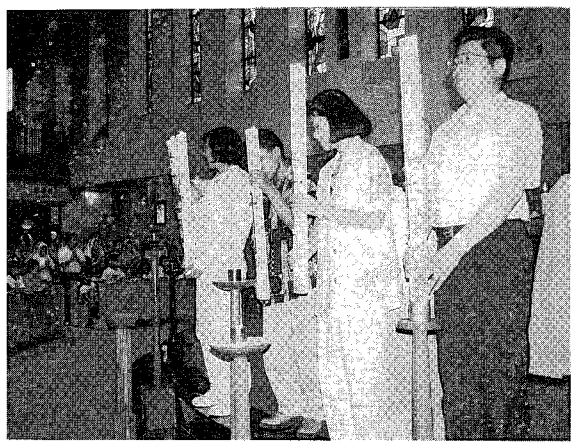
カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

平和願う心はひとつ

国際色ゆたかに 平和祈願ミサ

第二次世界大戦終結五十年目を迎えて、福岡教区カテドラル大名町教会では、八月十三日日曜日、アジア諸国、南米ペルーの信徒たち大勢が参加して、世界の平和を祈るミサが捧げられた。



カテドラル

ミサに先立って、カテドラルの講堂では、福岡地区正義と平和協議会主催の講演があり、東京教区の青木静男神父が「戦時下の教会・今・そしてこれから」と題して話した。また、講演のあいだに子どもたちは、ミサの中で奉納する「平和に関する絵」を描いた。

国際色豊かなミサ

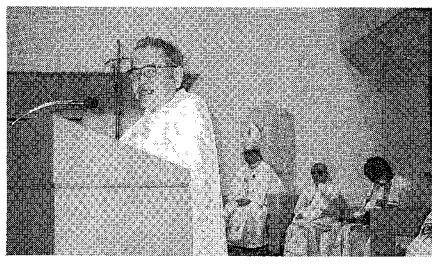
十四時三十分、「エルサレムよ、ほめたたえよ」の詩編聖歌が堂内に響きわたると、松永久次郎司教と福岡・筑後地区の共同司式司祭たち三十人が入堂、ミサが始まった。

大聖堂は二階のギャラリーまで、満席の信者で溢れ、熱気に満たされていた。言語・国籍を異にする信徒たちが一堂に会した様は、まさに、主は一、信仰はひとつ、願いもひとつ、の観を呈していた。

式次第にしたがって聖歌、祈願、朗読が日本語のほか、英語、スペイン語、タガログ語でなされ、福音は、日本語と韓国語で朗読された。

説教では、講師の青木静男神父が再び立ち、司教団教書『平和への決意』をベースにして、「アジアで二十四万人もの生命が奪われた、かつての皇国史観に基づく日本の侵略戦争と当時の立場、つまり愛国心の表明として受け入れた行為が結果として戦争を肯定し協力したことになったが、今、過去の過ちを糾弾するよりも、政治が福音に反していないかと見張り役の立場にたって、出来る範囲で運動に参加を」と呼びかけた。

各国語でいっせいに信仰宣言がなされ、五カ国の代表による共同祈願に続いて、パンとブドウ酒、子どもたちの絵と各小教区の復活のろうそくが奉納された（‖写真上）。



政治の見張り役をと青木師

閉祭を前に司教は、「ゆるしを願い、またゆるす心を。地上の平和を望まれる天の父の働きに、心と力を合わせましょう」と呼びかけ、一同は国籍を越え、心を一つにして神からの平和を祈願した。

熊本市内の五つの教会が、輪番で『永久聖体礼拝』をはじめた。これは、戦後五十年を機に、世界平和を祈念してのもの。一般の信者が中心となって行うのは稀である。

（二面に関連記事）

福岡教区 各地区で墓地ミサ

北九州地区

北九州カトリック納骨堂では、聖母被昇天の八月十五日午後一時から野外ミサが行われた。連日の猛暑の中、市内の各教会から、過去最高の約四百人の信徒が集まり、五人の司祭の共同司式により荘厳にミサが捧げられた。



ミサ前には約五百人の参加のロザリオの祈りがあった。

ミサの中で司教は、「今日は聖母の被昇天の祭日。日本では終戦五十周年であり、盆です。意義あるこの日に亡くなった人たちのためにマリア様と諸聖人の取り次ぎを願って祈りましょう。そしてフェルナンド・チリ司教様の納骨を新しく納骨される人と一緒にしましょう。地上で生きる私たちは諸聖人に倣った生活をし、霊的向上に努めましょう。互いに助け合い、祈りながら過ごしましょう。そのためにも尊敬する聖人、親しくなりたい聖人をつくりましょう」と語った。

ミサ後、納骨式が司教の手で行われた。その間参加者はロザリオを唱えた。式後司教は参加者に対し、夏の暑い日に多くの信徒・関係者が集まったことを労い、今後も亡くなった聖職者・信徒のために祈りを続けるように勧めた。

佐賀地区

八月十五日は、聖母被昇天の祝日、お盆、終戦記念日などで忘れられない日である。民族の大移動ともいわれる里帰りもこの時期である。

お盆は、冥界の先祖との触れ合いの時で、先祖が現世の子孫の家を訪れ、歓待され、再び冥界へ帰ってゆくと考えられている。教会では十一月が「死者の月」で、特に亡くなった人々のために祈るが、日本の風習に合わせ、また聖母被昇天の祝いに重ね合わせてお盆にも、家族や親戚ともども先祖のお墓に参るのが慣わしとなっている。

佐賀カトリック教会においても、その日、郊外の金立町にある教会墓地に信徒約五十人が集まり、敷地内の納骨堂でM・ターディフ神父を中心に慰霊のミサを捧げた。

なお、敷地内の墓碑数は現在百十六基で、すでに余地はなくなり、昨年新築した納骨堂の箱数は総数一二八箱、その中の契約済分は二十六箱となっている。

熊本地区

八月十三日、午後六時より熊本カトリック納骨堂でマッケイ神父（武蔵ケ丘教会）の司式により、墓前ミサが捧げられた。直前に小雨が降り始め、納骨堂内でのミサとなった。堂内は照明設備がなく、ろうそくと非常用ライトで祭壇をてらし、また大変な暑さの中、六十数人の信者は吹き出る汗をタオルで拭きながらミサに与かった。古代教会では洞窟の中でろうそくの光のもとミサがたてられていた、という神父の説教が印象的であった。

ミサ後遺族は墓前で祈りを捧げ、雨の中を足早に帰路についた。

時の話題

中村　正明

夏の三日間、鳥栖市の社会教育センターで中・高生サマーキャンプを行った。そこは山里の静かな夏でも涼しい所である。佐賀県内の教会に呼びかけたが佐賀、鳥栖教会のみだった。参加者六人。参加者が多いと成功、少ないと失敗というように数にとらわれていたが、「祈っていますよ」と言われ、神のみ旨と思い、行うことにした。テーマは「隣人愛」で、阪神大震災について話し合い、ボランティアのこと、大震災が起きた時の心のもち方などを考えた。

ある人は、「ボランティアをしているうちに、自分がボランティアをされているのに気づいた」と話した。ビデオ『生きてこそ』を見て、人間が極限の状態に置かれた時、

中・高生に時の大切さを

そこで神を見いだせるか否かで、気持ちの力強さ、希望の有無が違ってくるのを考えさせられた。（このビデオはぜひ中・高生に見せて欲しいと思う）

さて、どの教会でも中・高生の勉強会、研修会には、集まりが悪くて苦労している。学校の部活、補修授業などで時間がとれないからだろう。しかし一番必要な時にこの教育が受けられないと、大人になっていく過程で多くの人が教会から離れることが多い。実際に、小学生時代に教わるものと、この中・高生の時に教わるものとでは内容が異なるとなれば、中・高生時代に教育されずに過ごした大人の信者（年齢にして）は、いわゆる逸脱した信者でしかない。それは取り返しのつかない結末を生み出す。例えば、キリスト教的結婚観やキリスト教的社会観の逸脱から起こる事柄が考えられる。

だから中・高生時代にしっかりとした教育を受けさせてやりたい。そのためにも、毎週でも、あるいは月に一回、または二カ月に一回の参加などで自分の時間の重要度を教会に向けていくように心掛けて欲しい。価値観の多様性を認めるが、キリスト信者であればキリスト教的価値観で生きていくことこそ、神に真実を貫くことになることを決して忘れてはならない。

一度このことについて関係者と話し合い、知恵を出し合って、良い方向に持っていきたいと思う。（鳥栖教会）

今月のみことば

神よ、あなたのようにすぐれた神はあるのでしょうか。（詩編77・11）

司教館　山下　正神父

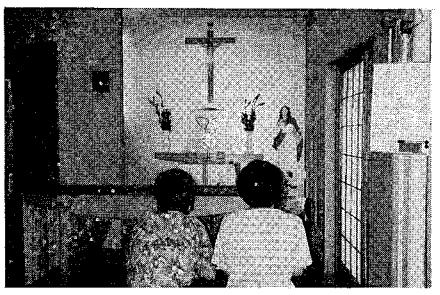
みちくさ

「年をとると子どもにもどる」と聞かされる。人間の記憶には三歳までのことはほとんど残されていない。四歳位になるとわずかに残り、五歳位からだんだんとはっきりしてくる。三歳児のその時には、昨日のことは覚えている。少なくとも幼稚園の教師の名前や一緒にする祈り、順番、などはよく覚えていて、習慣になっている。この当たり前のことが大人になると忘れられるというのは実に寂しいことである。教師は愛する子ども（三歳児でなくても）についてはよく把握し、その家族のことまで周知している。そして物事に対処するのだが、人間の記憶がその時その時にコンピュータのように、消されないものであったらどうだろうか？あんな失敗した。こんな失敗もあった。数え切れないほど恥ずかしいことがあるはずだ。それを全部覚えていたら、生きていくのに疲れてしまう。プレッシャーの人生になってしまう。逆に喜びだけの記憶ならどうだろう。有頂天の人生になってしまうのか。覚えているのは、苦しみ悲しみのほうが多かろう▼「人をゆるす」とか「自分をゆるす」というが、いずれの場合にも、ゆるすためには、その対象を記憶から抹殺することだ。出来ようか。「私はゆるします」といっても記憶には傷として残る。だからせめて、そのことについては口にすまい。口にしたら悪口になってしまう。すべての醜さが年とともに忘れられたらよい。赤ちゃんの頃の無垢な状態になれないものか。すべての人が自分と周りの失敗を記憶から取り去られるようになれたらよいが。【S】

「永久聖体礼拝」で願う祈りによる平和

健軍教会で八月十五日に「永久聖体礼拝」が始まった。これは戦後五十年を機に世界平和を祈念するためのもの。

熊本市の五つのカトリック教会の信徒と神父が、キリストの体である聖体の前で、できる限り長期間の祈りをささげ続けるこの礼拝は、いままで日本の一般の教会ではなかったことだけに興味深い。聖体礼拝とは、キリストの聖体を入れた顕示台を前にして祈ることであるが、常にこれを絶やさないのが永久聖体礼拝。今回の発案者は、熊本地区長のH・オッカロール神父。「戦後五十年を機に、一過性の行事ではなく、世界平和のための永続的な取り組みを。私たちにできることは祈ることで、平和は祈ることから生まれる。週二、三時間ならだれでも参加できる」と語っている。



ミサの時間を除いて毎日午前八時から翌朝六時まで、信者二人ずつが一時間交代で祈りを捧げる。手取（月・金）健軍（火）、島崎（水）、帯山・武蔵ケ丘（木）の各教会が輪番で行う。

初日の八月十五日は、午後七時からのミサの後、鵜野泰年神父（健軍教会）が顕示台を持ち、教会内部を行列。小聖堂に聖体が安置され、永久礼拝がスタートした。

続けている講師の曹洞宗・平川住職の、院内奉仕活動の話は宗派を越え、聴く人々に共感を誘うものがあった。

本講座が、十年間継続できた理由を、A・アレグリーニ神父様は『教会の考え方や、聖書に照らして教えを紹介する講座の趣旨が評価された』と語っている。

佐賀教会　牧山満安

殉教者の心に触れて

七月十六日、大名町カテドラルで行われた「加賀山隼人と娘みやの殉教」と題する講演会（教区修道女連主催・福岡地区信徒協後援）は、百三十余人の参加者の心を激しく揺り動かした。講師は、サレジオ会管区長・日本殉教者列福調査歴史委員で、キリシタン史、特に豊前・豊後のキリシタンの専門家である溝部脩神父で、「福岡キリシタン年表」など、豊富な資料をもっての懇切丁寧な話であった。

現在、日本司教団によって一八八人の日本殉教者の列福運動が推進されているが、福岡教区の二十数人の殉教者のうち、今回は小倉の加賀山隼人、熊本で殉教された娘みやについて、その生き方・殉教の模様を細やかに、情愛をこめて話された。溝部神父自身、小倉や熊本の殉教地を歩き回り、彼らの信仰に思いを馳せ、熱い共感を抱いておられることが聴衆にも伝わった。

三人の主君に仕え、貧しい人の友であった隼人の「時勢に流されず」、永遠に目を向けた生き方、主人玄也と子どもたちを信仰に導き、「捨て難き宗旨故」に「女の身でありながら、殉教の恵みに浴する」と喜ぶみやの生きざまに深い感動を覚え、涙を禁じ得ないほどであった。

修女連会長　シスター黒木紗耶子

第十回人生講座終る

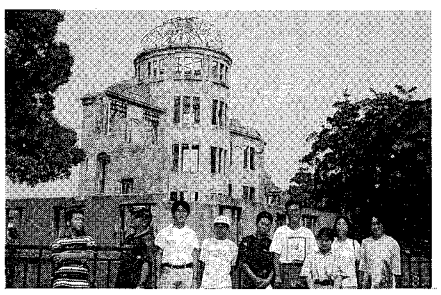
―佐賀教会―

佐賀教会では、五月十一日から七月十三日までの毎週木曜日、同幼稚園講堂で、朝夕の二回、主婦や勤め人を対象に、「カトリック人生講座」を開催したが、最終回の講座終了後、M・ターディフ主任神父様から参加者に、修了証と記念カードが贈られた。

今年は「人生講座」開講十周年を記念して、六月四日に佐賀市文化会館で、シスター渡辺和子清心女子大学名誉学長による、一般公開の「文化講演会」も行った。

講座の講師陣には、県内外から協力を仰ぎ、学者二、修道女二、社会人、行政二、司祭二、住職一の構成であった。病院内でボランティア活動をしています」という教皇ヨハネ・パウロ二世のことばは今でも私たちの心に残っています。戦後五十年たって、歴史も知らず、正しい歴史観も持たない若者が増えています。私たちはこの巡礼で最初の被爆地広島と軍都広島という、いわば被害者と加害者の両面から広島の歴史を見直しました。猛暑の中で、平和公園・平和記念聖堂を何度も歩き、「暑い、きつい」巡礼となりました。

担当司祭　中村彰神父



暑い広島平和巡礼

―教区青年委員会―

今年は戦後五十年ということで、広島教区では今年を平和年として一年を通して様々な取り組みをしています。毎年平和旬間に行われている平和行事もピース・ソング・フェスティバルや平和フォーラム、アジアの司教を囲んでの座談会等盛り沢山のプログラムがありました。参加者も例年より多く、平和祈願ミサでは聖堂に入り切れないほどでした。福岡教区からは私たち巡礼団（＝**写真**）十二人と数人の信者が参加しました。

「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです」

聖モニカ祭で追悼式

―福岡地区婦人会―

八月二十六日、午前十時、カテドラルで福岡地区婦人会主催の「聖モニカ祭」が開催され、感謝のミサと、この一年間に亡くなった会員とその家族、恩人・友人らのために追悼式が行われた。

「婦人会会員の祈り」に続き、松永久次郎司教と四人の司祭による共同ミサが始まった。司教は当日の福音に合わせて、〝わたしたちが母として、妻として「仕える者」にならなければならないこと、各自の立場で仕えることは、世の中の幸せに貢献していくことである〟と話され、また婦人会の保護者聖モニカの模範にならい、「彼女が息子アウグスチヌスの回心のために祈ったように、親は子どもたちに先立って祈らなければならない」と祈りの大切さを強調された。

追悼式では、七十一人の故人の名前が静かに読みあげられ、『神ともにいまして』の歌とともに、故人の写真の前で、司教様をはじめ参加者一同が献香し、改めて故人をしのびながら、心を合わせて永遠の幸福を祈った。

今回参加したある会員は、「カトリック信者としての生き方、天国への思いなどの話を司教様からお聞きし、近親者を亡くしたこともあって、さらに深く身にしみました」と語った。

この集いは毎年、聖モニカの祝日に合わせて行われているが、故人の死を悼み、祈る時、普遍の愛と神との一致を感じさせる。さらに多くの方々の参加を望みたい。

ジルバで出会いの集い

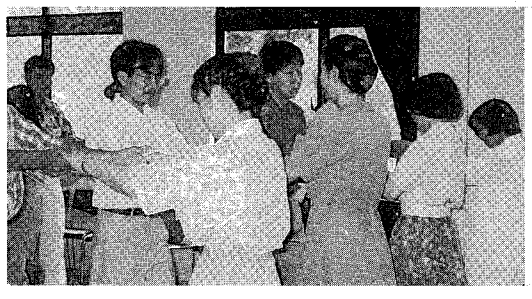
―教区カナの会―

猛暑の七月三十日、福岡教区カナの会は「第十二回出会いの集い」をサン・スルピス大神学院で行った。今回も地元の小教区は勿論のこと、遠く鹿児島、宮崎、佐賀、北九州から独身の男女三十人余りが集まった。

前回（昨年十一月）の集いで熊本や福岡にカップル誕生の知らせや、時々開いてほしいという参加者の声に、徒労に終わることの多いお世話係りも勇気づけられ、一年を待たずの開催となった。

まず、福岡教区事務局長の山元眞神父様の楽しいお話しで、創造主である神のみ業の偉大さ、その中に生かされる一人一人の人間の素晴らしさに気づく出会いがあった。

続いて、ユニークだったのは、光丘教会信徒の吉川伸雄氏（社交ダンス講師）の指導で参加者全員がジルバを踊ることになった。初歩のステップから丁寧な手ほどきが始まると「一、二、三、四、そこで手を取って」とプロの吉川氏の華麗なステップと掛け声にホールの中は笑い声と熱気に満ちた「出会い」がひろがっていた（＝**写真**）。



最後に、今日の出会いを感謝して祝福と派遣のミサが大神学校の祭壇を囲んで行われた。

笹丘教会　峯　幸子

イレーヌ・バイヨ様帰天

J・バイヨ神父様（光丘教会）のお母様が八月二十六日にフランスのアンジェで亡くなられました。享年八十七歳でした。永遠の安息をお祈りください。

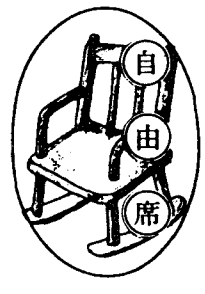
福岡カトリック神学院基金へのご寄付

故ミカエル深堀義久様の香典返しとして、深堀ヒロ様より金一封をいただきました。故人の永遠の安息をお祈りしご報告申し上げます。

一九九五年八月　福岡カトリック神学院　森山信三

子育ての分かち合い

深堀和枝



今の子どもを取り巻く環境を考えると、受験中心の教育物質優先の風潮、子どもの心を蝕む情報の氾濫など、子どもたちを福音から遠くに連れていかれそうな不安にかられます。

昨年の春、黒崎教会の有志十人ほどで各々が子育ての経験を分かち合い、霊的に成長し、信仰を持って生きる喜びを子どもに伝えていきたいと「子育ての分かち合い」グループを作りました。活動の一貫として、幼児教育、モンテッソーリ教育の専門家である援助修道会のシスター下条に講演をお願いしました。

テーマは「今、親に問われていること」で、受験、オウム、いじめなどの現代社会の問題を具体的にお話をしていただきました。

講演の後に感想を一言ずつ書いていただきました。参加した中高生は、「まだまだ私にも成長が残っていることを知って、うれしかったです。これからも神様の前では小さな子どものように素直になりたいと思いました」と喜びに満ちた感想。また、「幼児期における神体験の話はもっと多くの方に知ってほしい。大人が信仰教育をするというよりも、親が子どもの中に潜む神を発見すること！」と幼児教育を実践されたシスター下条に感銘された方など、感謝の言葉も数多くありました。

次回の集まりにはこの講演を基に、素敵な分かち合いができそうです。

（子育ての分かち合いグループ）

黒崎教会

黙想の家人生講座開講のお知らせ

新しい息吹きとして黙想の家・人生講座を開きます。
月一回、毎週火曜日の「祈りの日」の午前中（10時より）
身近なテーマを中心に講師や近所の方々を招いて集まります。
11月は14日（第二火曜日）。午後は十字架の道行、ミサ、etcです。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CROSSROAD No.19/1995

くろすろーど II

わたしの情報は　みんなの情報

CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

10月

1日（日）◆大名町教会堅信式
第2回宗教者平和の祈りの会
［生命山14:30～17:30］
3日（火）†E.ラゲ［司教館1929年］
6日（金）聖書講座⑬　毎週金曜日11月24日まで［カテドラル 19:00～］
熊本短期キリスト教講座③
毎週金曜日11月3日まで［手取10:00～12:00／19:00～21:00］
7日（土）ロザリオの聖母
第5回パイプオルガン・チャリティーコンサート
［カテドラル 14:30～］
8日（日）典礼を考える集い
［カテドラル 14:00～］
一日静修［マリアの宣教者フランシスコ修道会・熊本第一修道院 9:00～］
10日（火）体育の日
むなかたTEN・TENまつり
［黙想の家］
14日（土）青年のための召命錬成会
［聖パウロ小神学校16:00～15日］
15日（日）老司教会聖母行列
大名町教会バザー
16日（月）◆教区司祭黙想会［～20日］
北九州地区教会学校リーダー研修会［小倉教会10:00～15:00］
17日（火）†M.J.グリーン［玉名1994年］
18日（水）聖ルカ福音記者
20日（金）◆聖書講座⑮［講師：松永司教］
22日（日）世界宣教の日（献金）
◆大楠教会堅信式
茶山・西新教会バザー
23日（月）†J.B.ドラビ［黒崎1967年］
27日（金）†J.ベルトラン［門司港1987年］
28日（土）聖シモン・聖ユダ使徒
29日（日）◆教区和田墓地ミサ［14:00～］
新田原教会大バザー
「福岡生と老い・死をみつめる会」［カテドラル14:00～16:00］
聖歌研修会［大楠教会13:00～］
31日（火）†ヨセフ糸永一［今村1992年］

◆　司教日程　†　司祭命日

11月

1日（水）諸聖人　2日（木）死者の日
3日（金）文化の日
召命の集い［大神学院］
聖書講座⑰　毎週金曜日11月24日まで［カテドラル 19:00～］
熊本短期キリスト教講座最終回
［手取10:00～12:00/19:00～21:00］
CLC九州大会［湯布院～5日］
MEｳｨｰｸｴﾝﾄﾞ［黙想の家～5日］
†F.ボア［授助修道会黒崎修道院1977年］
4日（土）聖カロロ・ボロメオ
教皇ヨハネ・パウロ2世霊名祝日
11日（土）結婚セミナー①【福岡】
［カテドラル全8回～12月9日］
みこころﾎｽﾋﾟｽ一周年記念講演会
［熊本市民会館大ﾎｰﾙ18:30～20:30］
演劇「大友宗麟」
［小倉市民会館 18:30開演］
12日（日）◆今村教会堅信式
大楠教会バザー
福岡地区信徒協代表者会議
［カテドラル 13:30］
Sr. 渡辺和子講演会
［佐賀県医師会ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ14:00］
演劇「大友宗麟」
［小倉市民会館 13:00開演］
19日（日）戦後50周年平和記念講演会
［福岡雙葉学園 10:30～12:00］
教区青年錬成会
［雙葉学園・司教館 9:00～17:00］
聖書特別講演会［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ 14:00］
教区信徒協役員会［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ14:00］
21日（火）聖マリアの奉献
◆神学院祭［大神学院10:30～］
23日（木）勤労感謝の日
北九州地区信徒協研修会［小倉］
高田三郎典礼聖歌研修会
［カテドラル 9:30～17:00］
24日（金）聖書講座最終回
［カテドラル 19:00～］
26日（日）王であるキリスト・年間最終主日
◆伊万里教会堅信式
「福岡生と老い・死をみつめる会」［カテドラル 14:00～16:00］
27日（月）†S.ｾﾞｳﾞｪﾘｰﾆ［唐津1962年］

先：カトリックファミリーセンター☎092-541-6207 FAX 092-552-5022

◆演劇「大友宗麟」

戦国時代、九州六ヵ国に君臨し、キリシタンを保護して海外に夢を馳せた大友宗麟。理想の国「ムジカ」を求めた宗麟と、正室奈見との確執。〈男の夢〉と〈女の誇り〉が火花を散らす。心のやすらぎを求めた宗燐が見たものは…。昭和20年10月、北九州で誕生した劇団青春座が、東京公演の成果を世に問う、創立50周年記念第二弾。北九州演劇祭'95参加「大友宗麟・遠き海へ～神の国を求めた九州の戦国大名」2幕6場日時：①11月11日（土）18時30開演②11月12日（日）13時開演／場所：小倉市民会館全自由席前売2500円［当日3000円］前売ペア券4000円学生1500円チケットは北九州市内プレイガイドまたは劇団青春座へ☎093-941-3768

◆〈文化講演会〉現代の忘れ物

日時：11月12日（日）14時～／場所：佐賀県医師会メディカルセンター／講演テーマ：現代の忘れ物／講師：Sr. 渡辺和子／入場料：1000円（チケットは10月より販売予定）／主催：ロザリオ後援会／問合先：ロザリオの園☎0952-62-0303

◆聖書週間（11月19日～26日）

ーみことばから生活へ、生活からみことばへー

聖書週間特別講演

日時：11月19日（日）14時／テーマ：イスラエルの民の過越／講師：Fr. 高見三明（サンスルピス大神学院院長）／場所：カテドラル／受講料：1000円

◆本島等氏講演会

終戦50周年のこの年に、あなたも平和について真剣に考えてみませんか？　教区青少年委員会では、下記のように、教区青年錬成会を兼ねて、前長崎市長の本島等(もとしまひとし)氏の講演会を開催します。多数ご参加ください。テーマ：日本の100年～過去の歴史を振り返り、今の、これからの平和を考える～／日時：11月19日（日）10時30分～12時(受付10時～)講演後、主日のミサがあります／対象：どなたでも/参加費：大人1000円、中・高生500円、小学生以下無料（当日受付にて）／場所：福岡雙葉学園講堂（福岡市中央区御所ヶ谷1）＊車でのご来場はご遠慮ください。駐車場はございません。バスご利用は、博多駅からは、駅前3番（城南線）乗り場より、10・11・16・17・18・19・54・56番バスで、天神からは、協和ビル前乗り場より、42・57番、大丸前乗り場より、20・25番バスにて、いずれも『動物園入口』もしくは『教会前』バス停にて下車、徒歩約3～5分。＊収容人員に限りがありますので、多数ご来場の際は、入場をご遠慮していただくことがあります。ご了承ください。上履きをご用意ください。＊参加費による収益の一部は、世界の平和と核廃絶のため、本島等氏が設立を予定しております『本島等平和研究所』（仮称）と戦禍で苦しんでいる子供たちのために寄付させていただきます。／問合先：Fr.中村彰（小倉教会）☎093-921-0093 FAX093-921-0139

◆ミサを歌おう！◆

ー高田三郎先生を迎えて典礼聖歌講習会ー

日時：11月23日（木・勤労感謝の日）9時30分～17時／場所：カテドラル／講師：高田三郎氏／会費：500円／持参品：典礼聖歌集・昼食／主催：教区典礼委員会、教区信徒使徒職協議会＊どなたでもご自由にご参加ください＊詳細は教会、修道院にご案内します

日本カトリック研修センター・プログラム

⑩典礼研修コースII

ー集会司式者・聖体奉仕者ー

内容：信徒による集会祭儀の司式。病者・高齢者などの聖体授与の奉仕者育成を目指す。その背景となる神学や典礼を学ぶ。〈福音刷新コースⅠⅡⅢの参加を薦める。／日時：11月2日（木）16時～6日（月）13時30分／対象：信徒、修道者、司祭／定員：30名／参加費：35000円／申込み方法：申込み金10000円を郵便振替（口座番号00890-6-112940）または、現金書留等で申込書と共に、原則として実施日の10日前までに下記へ送付して下さい。なお、郵便振替の通信欄に①**コース名②氏名③所属教区名／修道会名**を書き込むことにより申込書に代えることができます。
問合先：名古屋市昭和区広路町隼人30　日本カトリック研修センター研究企画部　☎052-831-5037 FAX831-5317

◆カトリック新聞テープ版のご案内

カトリック新聞各巻の内容を全て収録。
費用：年間6,000円（ﾃｰﾌﾟ代・通信費などの実費）／問合先：CIC（ｶﾄﾘｯｸ・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ・ｾﾝﾀｰ）代表：清水 晴乃　☎03-3947-5318

参加しませんか

◆アレグリーニ神父の「聖書を読む会」開催中
一般の方を対象に、毎回テーマを決めて関連する聖書を読み、一緒に考えていこうという会です。もちろん、信者の方も大歓迎です。日時：毎月第一木曜日（~96年4月）10時~11時30分／19時30分~21時（内容は午前と同じ）講師：Fr.アレグリーニ／場所：カトリック佐賀教会／会費：無料／問合先：カトリック佐賀教会☎0952-23-4754

◆聖書講座「使徒言行録を読む」後期開催中
人類の遺産・神からの手紙、聖書を読みませんか。お気軽にどうぞ。時間：19時~20時50分／場所：カテドラルセンター1階講堂／受講料：1回800円／特別講演会1000円／日時・テーマ・講師：⑬10月6日・エフェソ、マケドニア、ギリシャで・Fr. Z.イエル⑭13日・エルサレムでのパウロ捕縛・Fr. Z.イエル⑮20日・テサロニケ、アテネ、コリントで・松永久次郎司教⑯27日・パウロ、取調べを受ける・Fr. 森山信三⑰11月3日・パウロとアグリッパ王・Fr. 赤倉稔⑱10日・パウロ、ローマに向かって出発する・Fr. 中村彰⑲17日・映像で見る「使徒言行録」・Fr. 山元眞／聖書週間特別講演会19日・イスラエルの民の過越・Fr. 高見三明⑳24日・ローマにおけるパウロの宣教・Fr. 浦俊雄／問合先：教区本部☎092-522-5139 FAX 092-523-2152

◆第8回熊本短期キリスト教講座開催中
《生きがいをさがそう》
日時：11月3日毎週金曜日まで／午前の部10時~12時／午後の部19時~21時／場所：カトリック手取教会会館2階ホール／参加費：講座全体で1000円／日時・テーマ・講師：③10月6日・現代人の幸せとは・Fr. 川添猛④13日・人生の岐路~聖書に生かされて・高倉美和牧師⑤20日・「ばら」からのメッセージ~ばらに学ぶ人生・高木寛⑥27日・生きるいのちのすばらしさ~「死を見た人の叫び」より・Sr.寺本松野⑦11月3日・カトリック入門記・石崎富士一／イエスの死と復活に生かされる日々・藤井恵美子／★ベビーシッターあり／問合先・申込先：カトリック案内所☎096-322-7948（木曜・祭日休み）当日申込み可
主催：熊本地区カトリック教会

◆第5回　パイプオルガン・チャリティー・コンサート／日時：10月7日（土）開場14時30分・開演15時／場所：カテドラル大名町教会聖堂／チケット:〈前売〉小学生以上1000円〈当日〉1200円／出演：宮田浩久(チェロ)古賀智恵子（伴奏）平田孝子（オルガン）／主催：ぶどうの樹の会／チケット取り扱い：聖パウロ書院（西鉄グランドホテル前）水曜日定休(平日10時~18時)／問合先：相良☎092-781-5496　高木☎092-851-9467 **＊車でのご来場はご遠慮ください。**

◆一日静修
テーマ：イエス様との親しさ／日時：10月8日（日）9時［受付］~16時［解散］／対象：16~30歳の独身女性／指導：Fr. マテオ（御受難会・福岡黙想の家）／会費：500円／持参品：聖書・筆記用具／場所：マリアの宣教者フランシスコ修道会熊本第一修道院／申込み・問合先：Sr. 藤井☎096-352-4005／申込締切：10月1日（日）

◆青年のための召命錬成会
日時：10月14日（土）16時~15日（日）昼食後
場所：聖パウロ小神学校／対象：青年男女（高校生以上）／参加費：2000円／申込み・問合先：Fr. 森山信三（福岡カトリック神学院：福岡市中央区浄水通38）☎092-531-6821

◆教会学校リーダー研修会
日時：10月16日（月）10時~15時30分（9時~受付）／会場：カトリック小倉教会／テーマ：メディアを通してのカテケジス（仮題）／講師：Fr.晴佐久昌英（東京教区青梅教会主任）／会費：1000円／問合先：Sr. 杉本美佐子［湯川教会］☎093-922-7997 FAX 931-0322

◆福岡「生と老い・死をみつめる会」
①日時：10月29日（日）14時~16時／講師：大木松子牧師（小さい星伝道所・バングラデシュを支援する会会長）・講演と分かち合い／②日時：11月26日（日）14時~16時／講師：井上重子（平岡介護福祉専門学校講師）・講演「家庭でできる介護の在り方」と分かち合い／場所：カテドラル大名町教会4階会議室／問合先：大山美穂子☎FAX. 092-713-8523

◆聖歌研修会
日時：10月29日（日）13時~15時30分／場所：カトリック大楠教会／聖歌指導：深堀純／会費：無料／問合先：大楠教会 ☎ 092-521-6946

◆第2回新田原教会大バザー
昨年実施し、大盛況であった第1回ﾊﾞｻﾞｰに引き続き、今年も来たる10月29日に第2回ﾊﾞｻﾞｰを実施いたします。手探り状態の昨年のﾊﾞｻﾞｰよりメニューもチョッピリ増えて、あの心躍る興奮を再び体験しましょう。今回は「出合い、そしてときめき」をキャッチフレーズに、皆さまとの再会を心待ちにしながら、準備を整えています。新田原教会では信徒会館の建設資金等のために信徒一丸となってこのバザーの成功を願っています。10月29日はぜひ新田原へお出でください。

◆朝霧けむる高原で温泉ミサにあずかろう！
隣人や兄弟との分かち合いの中に、主との出会いを望んでおられる九州や全国の兄弟の皆さん、今年もまたその出会いの時季となりました。第21回CLC九州大会を別府の奥座敷、湯布院温泉で行います。新しくCLCで分かち合いを望まれる方をはじめ、メンバーの方々の多数の参加を切に願っています。温泉と分かち合いで、身体も心もリフレッシュしましょう。日時：11月3日（金）17時~5日（日）13時／場所：大分県湯布院『聖マリア修道院』／参加費（2泊3日）：大人15000円、学生12000円／申込締切：10月20日／大会主催：九州CLC連絡会／申込み・問合先：黒木直美（事務局：行橋市泉中央4-7-16）☎ FAX 09302-4-1814

福岡黙想の家
◎10月のスケジュール
2（月）~6（金）バリミッション黙想会
10（火）むなかたTEN・TENまつり
14（土）~15（日）泰星学園職員黙想会
16（月）~20（金）福岡教区司祭黙想会
22（日）~28（土）サレジオ会黙想
◎11月のスケジュール
1（水）~5（日）サダナ黙想　練成会
3（金）~5（日）マリッジ・エンカウンター福岡
6（月）~10（金）コロンバン会黙想
11（土）~12（日）レジオ・マリエ北九州クリア黙想会
14（火）~　人生講座〈午前10時~12時〉
19（日）~25（土）サレジオ会黙想
27（月）~30（木）御受難修道会共同体の日
問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940-32-3222　FAX　0940-32-3385

◆SE・CO秋のスケジュール
①ガレージセール／日時：11月4日（土）11時~13時（日取り変更の予定あり）／場所：SE・COの家ガレージにて②大楠バザー参加／日時：11月12日（日）／場所：大楠教会③共に過ごそう会［日帰りバス旅行計画中］／日時：11月26日（日）（日取り変更あり）④Fr. 下町豊重のお話／日時：12月3日（日）14時~16時／●手作り品作業日：第2、第4水曜日10時30分より／問合先：龍☎092-581-6838・山下☎574-3787・山本☎595-3132・Sr. 富山☎512-0033

◆みこころホスピス講演会
みこころホスピスセンター主催の一周年記念講演会。日時：11月11日（土）18時30分~20時30分／場所：熊本市民会館大ホール／講演テーマ：在宅、家で死にたい！／講師：川越厚（賛育会病院長）／入場料：一般1500円（前売1000円）学生700円（前売500円）／入場券取扱所：熊本県看護協会・熊本カトリック案内所・鶴屋デパートWing館6階プレイガイド／問合先：みこころホスピスセンター☎096-352-7181

◆結婚準備セミナー【福岡】第62回
日時：11月11日（土）16日（木）18日（土）25日（土）30日（木）／12月2日（土）7日（木）9日（土）19時~21時20分（プログラムによって時間が延長される日があります）会場：カテドラル大名町教会1階ホール（駐車場あり）問合

生命山
第2回宗教者平和の祈りの会
—戦後50年にあたり—
私共は一昨年10月3日「第1回宗教者による平和の祈りの会」を持ちましたが、戦後50年にあたる今年、再び各宗教者の方々と共に平和の祈りを行うよう計画しました。
日時：10月1日（日）14時30分~17時30分
場所：生命山カトリック別院
《プログラム》
◎戦後50年をかえりみて、世界における戦争、不正の状況
◎黙祷
◎世界平和のための各宗教者の祈り
問合先：生命山カトリック別院
〒865-01　熊本県玉名郡菊水町蜷浦1391-7
☎0968-85-3100　FAX　0968-85-3186

聖書講座を受講して

本年度の聖書講座は使徒言行録が選ばれた。松永久次郎司教は講座の冒頭、「私たちはその時代の延長に生きている…」と言われたが、確かにそのとおりで、全く手の届かないところの話ではなく、時代こそ著しく移り変わっても立場は同じと言える。福音書に見る限り、キリストにつき従っていた弟子たちは、何か頼りなげで鈍く、「それはどういうことですか、たとえその意味は何ですか」などと聞いたりしているが、使徒言行録では、「あなたがたの上に聖霊がくだると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダとサマリヤ全土で、また地の果てに至るまで、私の証人となる」とのみ言葉通り、主役であるペトロとパウロはもとより、一度しか登場しないその他の弟子たちの働きも、それぞれ躍如として鮮明に印象づけられている。

また福音書では、聖霊は将来与えられるはずのたまものであったが、ここでは使徒たちが聖霊と信仰に満ち、教会の働きと共に強められ、また彼らの働きの中に、これは聖霊の恩恵だった、介入だったと明らかにわかる事例が読み取られる。

使徒言行録に記されているしるしや不思議な業は別としても、現代の私たちも聖霊と密接な関わりを持ち、聖霊に生かされている信仰を実感できるのでは、と思った。

因みに今年度前期の受講者は、一回以上の出席が信徒五十五人、シスター二十六人。そのうち全回出席者は、信徒十四人、シスター九人であった。

大名町教会　鈴木美子

第2回短期キリスト教講座

六月十三日から七月十八日まで、毎週火曜日、午前十時から、第二回短期キリスト教講座が開催された。この講座は、一月から行われた第一回の講座がとても好評でしたので、皆様の要望に答えて開かれました。

内容としては、心と体の健康。最近、問題視されているため、思春期やターミナル・ケアを取り上げました。講師の方にも、医者や大学教授、看護婦など、様々でした。

毎回、平均して八十人が参加し、一度でも出席された方を合計したら百九十余人になりました。

日頃、関心ある問題や実際に取り組んでいる事柄だったらしく、参加した方はとても熱心に聴いておられました。

講座に参加した方の感想や要望を機会を見つけて聞きましたが、次ぎのような内容でした。

「このような講座は、私たちにとって自分の考え方、生き方、価値観を見直したり、修正するきっかけになりました。今後もぜひ続けてほしい」

「この講座を楽しみにしています」。

これからも行われる講座への参加をお勧めいたします。

会場は大名町教会です。

実行委員会

神道一口メモ⑧

森山敬三

『皇統譜』による第一代の神武天皇から数代は、現代の学界では存在しない天皇となっている。十代の崇神天皇か十五代の応神天皇の頃より実在の可能性が大きい。神宮皇后は何らかの象徴といわれる。二十五代の武烈天皇には世継がなかったので、越前の三国から、応神天皇の第五代の孫といわれて、継体天皇が選ばれた。ここで王朝は変わったと思われる。万世一系というのは少し無理であろう。

月一回の富の里老人ホーム訪問

―福岡地区婦人会―

福岡地区婦人会では月に一回、富の里老人ホーム(福岡)を訪問している。七月二十五日に行われた時の参加者に尋ねた。河野愛子さんは次のように語った。

「福岡へ転居してほぼ四年。すっかり地元の人になり、子どもたちも大体手を離れる時期になりました。そんな時、かねてより考えていたボランティアができるようになりました。何か大きな力が働いて富の里へと押し出したような気がします。今では何の抵抗もなく、月一回の訪問をしています。我が家は転勤の多い核家族。体の不自由な高齢者とのお付き合いはないので、老人ホームへの訪問には不安がありましたが、今では一緒に行かれる先輩のお知恵を借りながら、楽な気持ちで参加しています。いろいろ考えさせられることがあって、本当にいい経験をさせていただいています。今一番気になっていることは、お年寄りの方々が、靴をぬいでゆっくりくつろげる所がベットの上しかないということです。せめて一カ所でも畳の部屋があって、ゆっくり足をのばしたり横になったり出来たらいいなと思います」。

聖体を前に聖書を祈る集い

祈りのつどい『野のゆり』が七月二十三日、熊本県島崎のマリアの宣教者フランシスコ修道会熊本修道院で開かれた。『野のゆり』は「祈りの機会がもっと度々あれば」という去年の一日静修参加者の声に応え、今年一月から始まった。この集いでは毎月祭壇に顕示された聖体の前で聖書の個所を各自沈黙のうちに祈る。時間は三十分から四十五分、一時間と延長してきた。

「初めの頃は一時間が長く感じられたが、回を重ねるうちにそう感じなくなってきた」

「眠くなってしまうこともあるが、一時間あると、眠気がさめてもまだ祈る時間があるのがいい」と参加者。

今月はルカによる福音の放蕩息子のたとえ話から①父親が息子に財産を分けてやる時②帰って来た息子を見つけた時③最後に「喜び合うのは当たり前ではないか」と言っている時、それぞれの場面を想像して、父親の表情を中心によく観るようにして祈り、後で分かち合った。

「息子の性格を知っていて良からぬことに使うのがわかっているのに、どうして財産をわけてやったのか」「心配して張りつめていた父親が、自分の姿を見て泣き出しそうになっている。その時息子は罪を本当に自覚した」「両手を広げて迎える父の姿、勘当しようと思ったこともあったが、嬉しい気持ち」。

一人で読んでいた時には気づかなかった父の姿が次々と出され、様々な目で読む面白さをそれぞれに体験した。

次回は十月八日、マテオ神父(御受難会)の指導で行われる。

諸宗教対話の里 生命山へ巡礼

―西新教会―

七月三十日、西新教会(主任平田敬神父)の信徒四十六人が、生命山へ巡礼した。

作務衣姿のシスターの迎えをうけて、まず掲示板が目につく。「自分の信仰を深めると共に、相手の信仰をも尊敬し、共に手を携えて人間の平和と救いのために働きましょう」。心に響く言葉である。

諸宗教の対話を目的とする



この生命山には、様々な信仰の人、無宗教の人たちも訪れる。ここには三修道会から一人ずつシスターが派遣され、司祭たちに協力している。

福岡司教区幼児教育連盟 心に残る研修大会

暑さの厳しい八月二十一日―二十三日にわたり、カトリック福岡司教区幼児教育連盟主催の第十九回教職員研修大会が行われた。

二十一日の午後、熊本・佐賀・福岡の各地から幼児教育に携わる司祭・シスターを含む三百四十六人が北九州市八幡のロイヤルホテルに参集。

「幼子を私のもとに来させなさい」との聖書の言葉から開会宣言がなされた。三日間を通して「生命を育てる」というテーマで、森一弘司教様の基調講演があった。

一日目は、創世記の「人はひとりでいるのは良くない―相応しい助け手を与えよう」という個所から話された。人間は創造の始めから、何かを求めて飢え渇く存在であり、面と面を合わせ、心を重ねて、喜びや悲しみ等、真実に触れ合い「愛されている」「受容され肯定されている」と感じる時、充実して生きることが出来る存在である。

二日目は、現代の経済発展を最優先する社会情勢と、それを基盤とした教育システムによる人間性の喪失や空洞化を、身近な事例を挙げて話され、家庭の中でも、お互いのきずなが薄れ、心の飢えを感じている子どもたちの現状が話された。その後、二十分科会に別れて、森司教様の講演から、幼児のふさわしい助け手として、近くにいる各自が感じたこと、喜び、反省、決心等が話し合われた。

三日目は、教区長松永久次郎司教様も参加された。九時から全体会でまとめの発表があり(＝**写真**)、全員で感謝のミサを捧げた。参加者のみんなが、心の触れ合いを見つめ直す三日間であった。

行橋カトリック幼稚園　竹下　晴子



祈りの家「本堂」は濡れ縁つきの和室で、石庭の向こうには美しい自然が広がる。ミサはザベリオ会のクラウディオ神父様司式で、茶道の雰囲気の中で捧げられた。お話では、ここにはテレビはなく、大自然の中で神と対話できる最高に恵まれた祈りの家であるとのこと。

昼食後、小聖堂で聖体を訪問、ロザリオを唱えてから玉名教会へ向かった。

聖体訪問のあと冷たい飲み物の接待をうけ、涼しい木陰でしばし憩いながら、出迎えてくださったルイジ神父様から教会の話などを聞いた。

酷暑のさ中ながら、さわやかな巡礼の旅であった。

田村　明子

新たな旅立ち 聖マリア病院創設80周年

聖マリア病院(久留米市・井手道雄院長)が創設80周年を迎え、八月五日に、同市の「創世」で記念式典が開催された。式典は松永久次郎司教主司式の感謝ミサで始まり韓国からの来賓、司祭など、関係者が多数参列した。

同病院は大正四年にカトリック信徒の井手用蔵氏が開設した井手内科医院に始まる。カトリックの愛の精神に基づく医療活動が目的。

阪神・淡路大震災の折にはいち早く救援医療のボランティア活動を開始し、その存在は広く全国に知られることとなった。前病院長の井手一郎氏は一九九一年にローマ教皇より聖シルベストロ騎士団長勲章を受章している。

BOOK 読みは専科

★わたしの魂は渇く

山内清海神父著



神学生や修道女の教育、および司牧活動に努力を傾注してきた「キリスト教的哲学者」である著者が還暦を迎えるのを記念して編まれたものである。

内容は三編の講演実録と『詩編』第四十二および第八についての黙想的な注解から構成されており、読者は前半でいわば広場で語りかける著者に、後半ではひとり祈り、黙想に沈潜する彼に会うことができる。

定価一四〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

イエス様の平和ってなあに

福音の光修道会
シスター平　節美

イエス様の平和ってなあにというテーマで八月一日から三日まで、福音の光修道会のナザレの家で小さな祈りの集いを開きました。対象は小学五年生から中学生でしたが、中学生ともなると部活動に重点が傾くのか参加者が少なくてとても残念でした。小学生は三年生ながら行きたいとのことで参加し、五年生を中心にした十一人が集いました。

指導の伊東成晃神父様は、ルカ福音書の罪の女などのたとえ話や太陽と北風の寓話なども引用して、許し合うこと、互いの心を大切にすることによって得られる平和を一貫した流れで話してくださったので、子どもの心に染みた様です。

一人の子どもは『この祈りの集いも一つの平和になったと思う』と感想文に書きました。サン・スルピス大神学院の藤淵神学生も手伝ってくださり、子どもの良き遊び相手でもあり、歌の指導もしてくださって一段とたのしいものになりました。

二日目は、筑紫野市にある天拝公園で野外ミサがあり、昼食後は天拝山に登ったり、公園のアスレチックのロープウェイで競争したり、炎天下でも元気一杯でした。最初はぎこちない面もありましたが祈りと生活を共にすることによって少しずつ連帯の心が芽生えて喜びの中に終わっていくという大人と変わらない恵みが体験できたのではないでしょうか。連日の猛暑の中で、神様のみことばを聴き、自分を他の人に開けてゆく共同生活を過ごした子どもたちは、目には見えないけれど、きっと心とからだが豊かになったことでしょう。今回参加できなかったお友だちは次回ぜひ参加してみてください。

CYGキャンプに参加して

飯塚教会4年　元山華穂子

二泊三日でCYGのキャンプがあった。

その中で、一番、うれしかったことは、友達ができたことだった。教会の友達としか話せなかったのに、今では、班の人と話せるようになった。

砂のちょうこくをつくるとき、貝を集めたり、協力しあって、つくった作品は、とてもじょうずにできた。

貝はきれいだったし、海もきれいだった。

この自然を造った神様にかんしゃをしなくてはならないと、心に思った。

キャンプファイヤーがあった日、初めてCYGを知った日、三年生のとき、遊び半分で、来てたのに、四年の今では、神様にかんしゃできるようになった。

自然の中で、つくったごはんは、すごくおいしかった。きもだめしは、こわくなかったけど、なかなか楽しかった。

帰る日、なぜか日がたつのが、はやいような気がした。「友達と別れるのがいやだ。まだここにいてもいい」という気持ちがすこしあった。

あと二年もたったら、このCYGともさよならだ。

だけど、神様のことは、わすれないようにしようと思う。

召命学校95

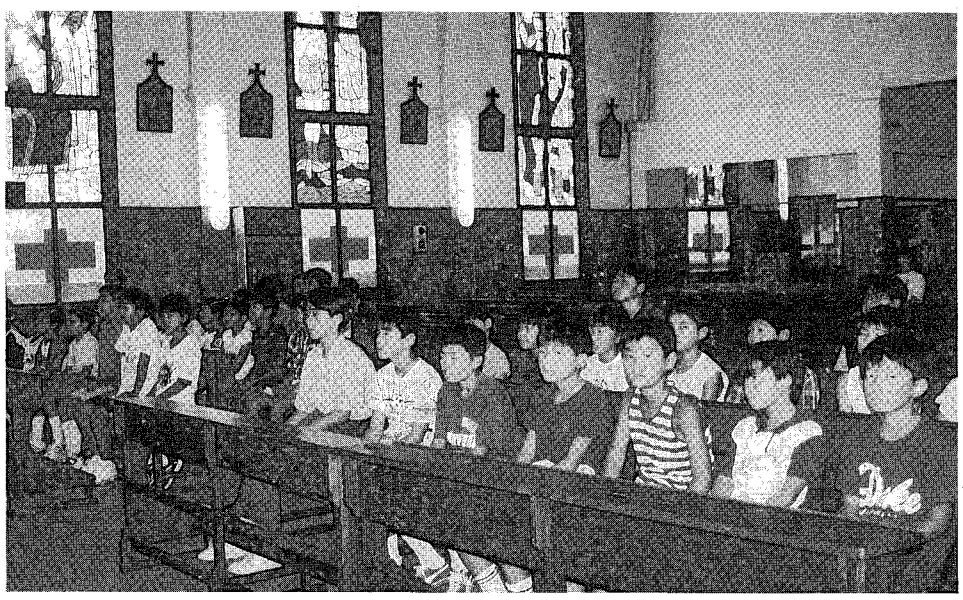
カトリック神学院
森山信三神父

酷暑の中、今年も召命学校が八月十七日から十九日まで二泊三日の日程で行われた。九州各地から三十三名の小中学生が集い、神学生たちとともに有意義な時を過ごした。

今年は戦後五十年ということで、平和を祈り、また戦争についての話を聴き、分かち合う時をもった。

参加者の作文から―「平和というのは、差別、いじめ、争いのないことだと思う。日本は五十年、平和だったし、またあのころにくらべて進歩してきているから、これからもずっと戦争をせずに、やっていけると思う。でも、差別や、争いがあるかぎり、日本の平和はまだまだだと思う。」

キリストは、「平和を実現する人々は幸い、その人たちは、神の子と呼ばれる」と言われた。平和は、わたしたち一人一人が築き上げていくべきものであろう。真の平和をもたらすキリストの弟子が、一人でも多く育っていくことを心から願う。



⇨ミサ前のきんちょうのひととき―浄水通り教会で―『召命学校』参加のみなさん

召命を求めて

パウロ会で召命錬成会
聖パウロ会　百村等神父

夏休み初日の七月二十一日から二十三日にかけて、聖パウロ会福岡修道院では、例年どおり、小・中学生を集めて召命錬成会が行われた。

今年の参加者は小学三年生から中学三年生までの子どもたち（うち兄弟で参加したのが四組）で、福岡教区が十二名、大阪教区から三名、東京教区から二人、合計十七名であった。他教区からの参加者は、出張宣教のブラザーたちのさそいに応えたもので、将来はもっとこの枠を広げたいと思っている。

子どもたちにとってはビデオやゲーム、スポーツ、そして食事が最大の楽しみであろうが、足かけ三日にわたるスケジュールは、大人のお仕着せでなく、在院の中学生志願者たちが自主的に決め、歓迎のあいさつ、ゲームのリーダー、励ましのことばなど、それぞれ話し合いで分担し合った。

召命錬成会というからには祈り、講話などが中心になることは確かだが、聖パウロ会では、これを子どものレベルで行い、堅苦しくない、楽しい集いになっている。だれでも気軽に参加できる錬成会を通して、子どもたちが神の声を聞き分け、将来自分も神と教会のために役立つ者になりたいという気持ちを育ててくれるようにと願っている。

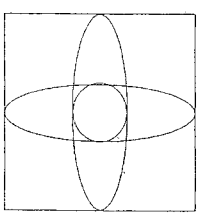
雨のためお目当てのバーベキューや花火ができなかったが、参加者はみな、楽しく思い出深いひと時を過ごした。

食事のために協力してくださったボランティアの方々に心から感謝している。

教会学校リーダー研修会

10月16日（月）に小倉教会で、北九州地区の教会学校リーダーを対象にした研修会が開かれる。今回は晴佐久昌英神父（東京教区・青梅教会主任）を講師に、メディアを通してのカテケジスについて考える。9時から受け付け、会は10時から15時30分まで。会費一〇〇〇円。[問合先]シスター杉本（湯川教会）☎0933－922－7997

●ひと筆書きできるかな？



編集後記

秋の味覚。サンマ、なし、ぶどうなどいろいろ。つい食事が楽しみになる。と太ってくる。冬に冬眠するわけではないから、秋に太るほど詰めてもしかたがない。教区報の仕事もその時期の出来事を伝えるものだから、ないものまでは詰め込めない。旬の味覚を味わってもらうために苦労する。おいしい匂いを逃さぬように注意しながら頑張ろう。注意サンマんにならないように。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

一粒の麦が地に落ちて
死ねば、豊かな実を結ぶ。
（ヨハネ12・24）

手取教会　H・オッカロール神父

小教区委員会規約の骨子
ほぼまとまる
来年度教区行事も

教区長の諮問機関である司祭評議会が九月二十六日に司教館別館5階で開かれた。評議会は毎年度九月と二月に開かれている。今回は二年前からの懸案事項であった信徒会規約の教区基準となる規約が主な諮問事項。規約に関しては意見がほぼまとまり、近日中に教区長から発表される。その他、来年度の教区行事が検討された。教区長の認可を得て、発表される。

教会委員会や信徒会、運営委員会などの教会組織の規約作成にあたって、基準となる教区の規約がないか、との問い合わせが、相次いで複数の小教区から教区本部になされた。約二年前のことである。

福岡教区には、そのような規約はなく、教区長は以上の問い合わせを受けて、基準となる教区規約の必要性について司祭評議会に諮問。評議会でその必要性が認められ、草案作りが本部事務局に依頼された。

事務局では、まず日本の他教区にそのような基準があるかどうかを問い合わせたが、回答を得た教区はいずれも先の基準のようなものはなかった。そこで、教区内の小教区に現行の教会委員会等の規約を事務局に送付してもらうように依頼。十三の小教区から教会委員会や運営委員会、信徒会などの規約が送られてきた。それを基に福岡教区の基準となる規約の案を作成。教区内の全司祭に配布した。

司祭個人や司祭のグループで検討を重ねて来たが、その過程で小教区の信徒や、信徒使徒職協議会に意見を求めた地区もあった。寄せられた意見を基に何度も修正案が出され、年二回の司祭評議会でも検討が重ねられた。

小教区では、その歴史や伝統の違いにより、小教区の運営組織やその名称が異なっており、基準となる規約作りは当初の予想に反して困難を極めた。途中、この基準を「信徒会」のものとするか、「教会委員会」のような上部組織のみのものとするかなど、複雑な問題も生じてきた。

そのようなことから、教会法に規定されている主任司祭の諮問機関である「小教区司牧評議会」の設置も検討されたが、教区長は時期尚早と判断し、この案は却下された。

今回の評議会では「小教区委員会規約」として教区長から諮問され、それについての評議員の意見が集約され、最終案がほぼまとめられた。

この案は教区長に提出されて近日中に決定、発表される予定である。

「小教区委員会規約」と来年度の行事予定は次号で発表。

時の話題

益田　典子

八月十五日、聖母被昇天祭から、健軍教会の小聖堂で、土、日曜を除く毎日聖体礼拝が市内五つの教会合同で行われています。

二カ月を経た今、延べ人数は千人を越えています。七月はじめ、教会の担当者が集まり、実行するまでの時間は短かったのですが、オッカロール神父様（武蔵ヶ丘教会）のご指導で絶え間ない礼拝が続いていることは本当に神様の偉大なみ業をみる思いがします。

健軍教会の聖櫃を安置した小聖堂は大聖堂に隣接しています。教会で結婚式、葬式があっても礼拝を続けることができるという理由で、市内の教会の中から選ばれました。熊本市の中心から東に位置し西の島崎教会からはバスなどで一時間近くかかります。

礼拝者は市電、JR、バスを利用して通って来ます。真夜中の時間帯の方々のため、仮眠ベッドも準備されています。聖体のうちに真に現存されるイエス様の前に、沈黙の時間を過ごし、礼拝します。

永久聖体礼拝

の朝各教会に配られます。これは大変な作業ですが、自分が書き込んだ時間帯には責任をもって臨みます。真夜中には仕事を持っている方も積極的に礼拝しています。これも大きなお捧げものでしょう。

現代こそ祈りがもっとも必要な時ではないでしょうか。

討論やおしゃべりや計画の時間ではなく、ご聖体のイエス様を礼拝することで、私たちの生活は聖霊の光に照らされ、聖体をいただくのにふさわしい者として聖化されていくと思います。

「自分の衣を洗い清める者は幸いである。その人たちはいのちの木についての権利を受け、門を通って都に入ることができるのである。…これらのことを証しするかたがこう仰せになる。『そうだ、私はすぐに来る。』アーメン、主イエスよ、来てください」（黙示録22・14、22）

（健軍教会）

神への奉献を新たに
―教区司祭黙想会―

95年度の教区司祭黙想会が十月十六日から二十日まで、宗像の福岡黙想の家で開かれた。出席者は病気療養中の司祭を除く全ての教区司祭。黙想指導は、コンベンツアル聖フランシスコ修道会副管区長の川下勝（かわしもまさる）神父。

川下師は八回に亙る説教で、修道生活の起源と歴史を説明。特に会の創立者、アシジの聖フランシスコの精神と会の変遷を興味深く語った。参加司祭は自己を見つめ直し、神への奉献を新たにした。

司祭職へ向けて
サレジオ会　二助祭誕生



サレジオ会神学生、グエンミンラップさん、北川純二さんの助祭叙階式が九月二十三日、新田原教会にて、福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教司式で行われた（＝**写真**）。

当日は、台風14号接近で激しい風雨に見舞われたが、近隣からも信者が多数出席して聖堂を埋め尽くした。

司教はミサの中で「助祭とはキリストから選ばれ、キリストの司祭を助けるもの、キリストの司祭的祭りに与かりそのお世話をするもの、下積みの仕事を受け入れて、救いのみ業に協力する奉仕者となる。それが助祭の心である。

新しい助祭は今日、この事を受け入れるのである。そして助祭は司祭となることを義務づけられている。また、司祭になっても、仕えるという助祭の心は一生続けられるものである」と語った。

助祭叙階の儀では、受階者の呼び出しがあり、確認、そして約束などが行われた。受階者は、祭壇前にひれ伏し、叙階の恵みを求める連願が全会衆とともになされ、深い感動を与えて終了した。

喜びにわく新田原教会は、霊的花束を送りささやかな茶話会を催して感謝と喜びを共にした。

新田原教会

小倉で誓願25周年祝う
聖パウロ会元田修道士

被昇天の聖母・小倉教会で八月十三日、当教会出身の聖パウロ会修道士ドミニコ元田勝博さん（45歳）修道誓願宣立二十五周年記念ミサが執り行われた（＝**写真下**）。

小倉教会で洗礼初聖体を受け、堅信後すぐにパウロ会に入会したため、信徒との交わりが薄かったが、今回、司祭・運営委員会の働きかけで実現した。



二十六歳の終生誓願の時、小倉教会から贈られたというセピア色の霊的花束を手に、「初誓願、終生誓願にたくさんのプレゼントをいただきましたが唯一残っているのは私の部屋の祭壇にあるこの色紙一枚です」と語り、青少年たちと交流を深めながら召命の仕事にも励んでいること、召命は教会からメッセージを受け取り、家庭で願い祈ってこそ生まれることを強調した。

また、祭壇から「あなたが天国に帰るまで私を叱咤激励してください」と母親スミエさん（74歳）に語りかける姿は、一人の修道士の召命を完成させる長い道のりが、喜びとともに試練でもあることを感じさせ、信者一同感動のうちに大きな拍手を送った。

新しい霊的花束や記念品贈呈後、「司祭より一つ多い三つの誓願を守ってこられたブラザー元田さんを誇りに思います」と主任司祭が祝辞を述べた。ミサ後、信徒会館で賑やかに祝賀会が開かれた。



パウロ杉山昇修道士帰天

享年七十五歳

通夜はカテドラル一階講堂で十月十五日午後七時から、葬儀および告別式は十六日午後一時半に、カテドラル一階聖堂にてしめやかに行われました。

福岡教区のために奉献の生涯を過ごされた杉山修道士を忘れることなく、永遠の安息を祈りましょう。

聖ヨゼフ会修道士パウロ杉山昇様が十月十三日十三時十三分に、新田原病院で帰天されました。

みちくさ

「神父様、私は神様を信じています。私は二回死にかけました」。（自殺でもしようとしたのかな？）「実は十六歳の時、塗装関係の仕事で高い所に上り、ちょっと油断して転落してしまいました。意識が戻ったのは、自分の遺体を取り囲む家族を天井から見ている自分に気づいた時。しばらく見ていたら、天井に吸い込まれて行きました。そして、暗いトンネルを通って行くと、向こうの方に光が見えています。そこは一面花畑。途中、外国人に会いました。彼は『あなたはまだ若いから戻りなさい』と言いました。そのとき私は生き返ったのです。今思えば彼はイエス様で、私は死んでかれの前まで行ったのです▼それから、なんとまた私は死んでしまったのです。というのも、四十三歳の時、いつものように高い所で仕事をしていました。前晩に祝い事があって、翌日は二日酔い。それでも仕事をしたのですが、油断し、まっさかさま。その後は十六歳に味わったものと同じ。私は神もあの世も信じています。教会のためにできることを言ってください」。今年の夏は教会と幼稚園の園舎をとても安く塗ってもらった▼これは奇跡といえるものだろうか。奇跡は本当にあるのだろうか。教会で『奇跡である』と決定するまでには、諸条件を満たさねばならないが、神の力を信じるものにとって、その力が発揮された時、より以上に宗教心に燃えることができる▼旅路といわれる日々を捧げながら私たちは生きている。でも、自力で天国に入ることは困難。神の憐れみが力となって人は天国に入れるのだ。神に頼って、自分が天国に入れる奇跡を願おう。

【S】

典礼の刷新とミサ典礼書

地域や民族の違いだけでなく、時代が変われば、同一民族の中でも言葉、習慣、フィーリングなども少しずつ変化して行く。典礼を各時代の、また各地域の人々にとってより親しみやすいものとするために、典礼の式文や表現様式の見直し、改善は、繰り返されなければならないものなのである。しかしその根底を流れている典礼の内的な要素は福音に基づくものであり、普遍的なものである。ピオ十二世教皇回勅「メディアトル・デイ」によって明らかにされた、このような典礼の外的要素、内的要素の区別と一体性を熟考してみると、私たちキリスト者には、典礼の外的要素を「生きている人間」に親しませる継続的な改善と同時に、「人間を生かす典礼」の内的な要素に、私たちの心を近づける絶え間ない自己刷新の努力が不可欠である。この二つが一つになるとき、真の意味での典礼刷新が可能である。

一九七八年に発行され、現在使用されている日本語版ミサ典礼書は教皇庁が十年間という限定期限付きで、その使用許可を与えたものである。そこには、ラテン語の規範版の翻訳の域を出ない第一段階の日本語版ミサ典礼書を目指して、改善の努力を続けてほしいという、教皇庁の願いが伺える。このような諸民族の習慣・伝統・精神性などを考慮した典礼の適応（順応）は第二バチカン公会議によって打ち出された教会の方針である（典礼憲章三七―四十）。

ところで、全国の司祭を対象にして典礼プロジェクト・チームが今までに行ったアンケートの結果に目を通すと、改善を求める個所の指摘は決して少なくない。ミサ典礼書の改善のために、司教協議会では、約三年間の準備期間を設定し、また公式祈願文・奉献文・式次第の三つの部会に分けて、全国の司祭を主体にした研究会を積み重ねて行く方針を承認した。そのための具体的な動きがこれから活発化して行くに違いない。典礼への奉仕は、洗礼を受けたすべての信者の権利と義務であり、また準備段階から、すでにその奉仕は始まる。一部の専門家に任せるのではなく、全国の司祭、また信徒もこのような研修会に積極的に参加し、一丸となって二十一世紀の日本の教会のためのミサ典礼書を生み出して行きたいものである。

サン・スルピス大神学院
白浜　満

殉教者の信仰に学ぼう

福岡地区信徒使徒職協議会



九月十五日、福岡地区信徒使徒職協議会（会長・井上元之）主催の地区研修会が、カテドラルで開かれた。教皇書簡「紀元二〇〇〇年の到来」の趣旨に添って、大聖年を迎える準備の第一段階として、テーマは「21世紀を目前にして、殉教者の信仰に学ぶ」。講師はキリシタン史に造詣の深い、日本26聖人記念館館長結城了悟神父。司祭、修道者、信徒を合わせて一四二人が参加した。

第一話は、「殉教者の王であり、頭であるキリストを見つめて」。殉教とは教会に実現されるキリストのご受難であり、その継続である。私たちの苦しみ、動きはすべてキリストのご受難に結ばれている。殉教者は一人であっても孤独ではない、いつも教会が共にいる。

第二話、「私たちの兄弟である日本の殉教者」。殉教者は、私たちと同じ弱い人間であったが、自分の弱さを認めて、良く祈る人、キリストによりかかった人たちであった。多くの日本の殉教者の生きざまが、如実にそれを物語っている。

第三話、「私たちもキリストの証人」。殉教者は私たちの道連れであり、いまも一緒に教会を造っている人たちである。私たちは与えられた使命を果たし、時のしるしを見て、聖霊の導きを求めながら21世紀に向かって歩もう。

感銘深いお話を心に刻みながら、感謝のミサを捧げた。

典礼・聖歌と祈りの集い
二十回を迎えて

黙想の家

五年前に始まった「典礼・聖歌と祈りの集い」が、九月十七日で大きな節目を迎えました。

福岡黙想の家の鈴木忠一神父の意向を受けて始められたこの集いは、この度二十回を迎え、参加者はこれまでに延べ七五〇人。福岡地区はもとより熊本、佐賀、更に長崎、広島、名古屋からもあり、毎回初めての参加者も含めて、短い時間の中で、また楽しい雰囲気のうちに典礼聖歌を心ゆくまで歌い、そして祈り続けております。

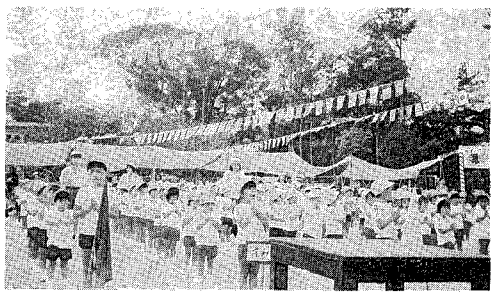
これまでに第一回から連続参加の大名町、古賀教会をはじめ、福岡、北九州地区内のほぼ全教会から参加されていることを心から感謝します。

「典礼聖歌」も歌われ始めて二十年になり、「カトリック聖歌」と同じように、やっと慣れ親しまれてきたようで初参加者から「よい指導があるので、下手でも声を出して歌えた」との喜びの声を聞くと、これは神様が一番喜んでおられるのだと感じます。

これからも一年に三、四回開きます。どうぞひとりでも多く参加され、聖堂一杯に主への賛美の歌・祈りが響き渡りますように。

福岡典礼聖歌研修会事務局

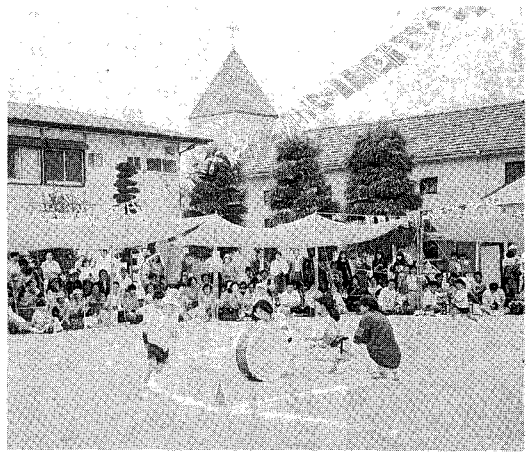
カンバレノ
教区内で園児運動会



九月から十月にかけて、教区内の教区立及び修道会立の幼稚園、保育園で園児の運動会が開催された。天候に恵まれ、子どもたちは元気に楽しい一日を過ごした。

運動会は、多くの園行事の中でも園を他者に紹介する最も大切なものである。したがって教職員と園児の保護者は一致協力して事に臨み、宣伝効果を期待する。園児も運動会を境に大きく成長する。まず、体を動かし、自分の感覚をコントロール出来るようになる。そして、動きを通して他者との関係をよく把握出来るようになり、社会性を培うことが出来る。積極的に物事に取り組むことが出来るようになるなど、期待は大きい。

カトリック関係の運動会は祈りに始まり祈りに終わる。初めて参加する人々は宗教的な雰囲気の中で行われる行事に胸を打たれ、何かを感じ取るという。「福音の場の一つ」とされる運動会に神の祝福は確かにある。


大声援に励まされて

聖書の舞台を旅して ①

この夏、聖地巡礼「聖書を知る旅」に参加した。この巡礼は司祭養成の一環として四年に一度実施されるもので、今年は記念すべき第一回目である。大神学校から司祭一人と十六人の神学生、八人の修道者・信徒が参加した。七月十七日から八月十九日まで共に典礼に参加し、今の思いを分かち合いながら、聖書のみ言葉の照らしのもとに歩んだ三十四日間であった。

エジプト、ヨルダン、そしてイスラエルと、出エジプト記に近い道すじをたどり、エルサレムには十五日間滞在した。鳴り響く教会の鐘の音、人々の祈りの声が心にしみわたる。

「エルサレムよ、あなたの城門の中に、私たちの足は立っている」（詩編122・2）

イスラエル、パレスチナ、ここに幾度となく繰り返されてきた血ぬられた歴史。心から祈ろう。人々が待ち望んでいる平和が、必ず実現することを。

「エルサレム…そこにすべての部族、主の部族は上ってくる」（詩編122・3～4）

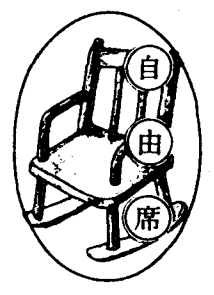
「聖書を知る旅」が私のうちに残してくれたもの、それは、神は生きておられるという強い確信である。神を知ること、そして愛すること、この二つは決して分けることが出来ない。この巡礼の終わりは、神を知るための新たな旅の始まりでもある。もっと深く神を愛するために。

この巡礼を通して、神からいただいた恵み、そして多くの人々の真心に、感謝の思いでいっぱいである。

福岡教区大神学生　牧山美好


フランス聖書・考古学研究所にて

吹雪のトラピストは今甦る



島　義三

読みま専科に今村修道士の「あの日トラピストは吹雪だった」が出ていた。

思えば一九二九年、来日早早の米国人教師が北海道旅行を計画した。通訳を兼ねて同行しないかと誘われ、二つ返事で引き受けた。三月始め、猛吹雪の中を函館から当別へ、さらに馬橇で丘の上の修道院にたどり着いた。

フランス人のテオファーノ神父様に迎えられ、薄暗いランプの下で修道生活のお話を伺った。最初の言葉は「神は愛です」。深夜、ミサの鐘が鳴り、神父様が私たちを起こしに来られた。震えながら聖堂に向かった。パイプオルガンが荘厳に鳴り、イエス様のご像が光に浮かび上がっていた。私は雲の上にいるような気持ちであった。

それから四十六年後、ハワイ大学の名誉教授となっていた、故アンダーソン博士は、日本教育百年史を出版した記念に文部省の招待で来日、更に私を訪ねて来福された。彼の希望で大橋カトリック幼稚園の運動会を見学し、故マードレ・ボンバナ園長との最初で最後の出会いをもった。

「神は愛である」（ヨハネ一・4・8）のみ言葉が私の心の中に再び甦った。

トラピスト修道院高橋副院長様より、故テオファーノ神父様が一九五三年、神に召されたこと、今村修道士は九五歳で修道院の生き証人であること、良い季節に来函をとのお返事をいただいた。私にとっては、まさに「吹雪のトラピスト今甦る」である。

（浄水通教会）

'95/12月　待降節黙想会ご案内

①1日(金)15:00～2日(土)15:00　②2日(土)16:00～3日(日)16:00
③8日(金)15:00～9日(土)15:00　④9日(土)16:00～10日(日)昼食まで
⑤15日(金)15:00～16日(土)15:00　⑥16日(土)16:00～17日(日)16:00
⑦22日(金)15:00～24日(日)16:00
指導司祭：①⑥来住神父　②③⑤畠神父　④ガブリエル神父　⑦マテオ神父

福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

結婚セミナー二十周年に 司教様よりメッセージ

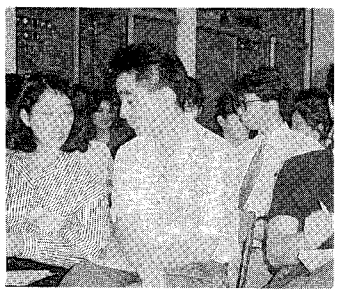
熊本の結婚セミナー（担当M・ライル神父）は二十周年を迎える。松永久次郎司教はこれに対し、メッセージを送った。その概要は次の通り。

「地道にこの運動を支えることで、神のみ旨の実現と数多くの家庭の幸せのために働いて来られた多くの方々の、静かで長続きする熱意に深い敬意を表するとともに、心から感謝したいと思います。

結婚とそれによって成立する家庭は人生の中で最も基礎的なものの一つです。神は人間創造に当たって最初に、男と女を祝福してくださいました。結婚と家庭は今日でも、人生における大切なお恵みの場としての働きを続けています。人間はそこで生まれ、そこで育ちます。そこで両親の愛に包まれ、人の愛を学び、神の愛を信じることを学びます。本来すばらしい家庭なのですが、これを正しく美しく生きるためには困難もあります。今日の社会では特にそうです。神の贈り物である家庭生活を生かし、価値ある実りをあげるよう力を尽くさねばなりません。それを助けるために結婚セミナールがあります。

この運動に協力してくださった方々に感謝します。そしてこのよき働きを堅実に続けてくださるよう期待します。これからもよろしくお願いいたします」。

ライル神父は、司教のメッセージを受け、喜びながら、「信徒の協力によってこれまでやってこられました。これからも続けます」と意気込んでいる。

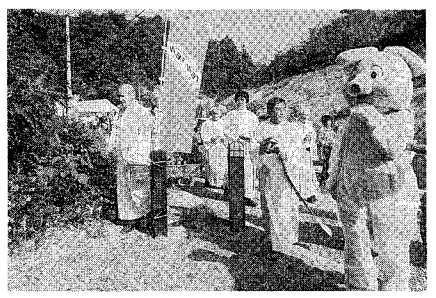


平和を願って テンテン祭

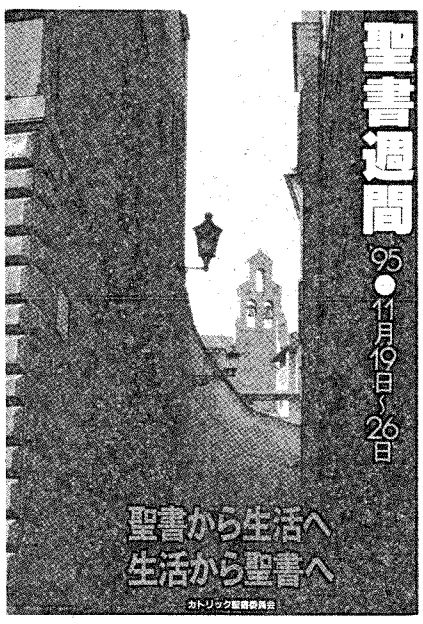
カトリック福岡黙想の家（宗像市）では十月十日、恒例となった「むなかたテンテン祭」を開催した。これは黙想の家後援会会員、カトリック教会の協力を得て、地元住民の理解と親睦を計るため、毎年開かれているもの。

無風快晴の秋空のもと、昨年を上回る人出となり、二千人強であった。子どもたちは移動動物園、竹馬、綿菓子、魚釣りゲームなどで楽しんだ。評判の良いカレーや各国料理も並んだ。シスターのお店、海外援助を目的とするグループの店も参加した。呼び物の餅つきには、滝口宗像市長と畠神父も加わって盛り上がりを見せた。

館内ではロザリオの聖母のミサの後、マテオ・ベッダー神父による人生講座が、へそ広場では、下町神父の腹話術やフィリピンの人たちによる歌と踊り、地元子ども会のコーラスも披露された。



最後は、今年初の試みの平和行列を行い、ルルドで平和のための共同祈願を八人の司祭と共に捧げた。



戦後50年を機に 日比交流
―老司教会―

老司教会では、かねてから戦後五十周年の「平和祈願」にふさわしいイベントとしてフィリピンとの交流が計画されていたが、八月二十六、七日の両日に実施した。

マニラのパラニャケ教会からサンダロ神父様と秘書のコーラさんの母娘が、八月二十五日夜福岡空港に降り立ち、老司教会に直行。初の訪日にもかかわらず、事情により、正味二日間の交流となった。

翌二十六日は午後四時頃まで、カテドラルや百道、大濠公園などを観光、夕べのミサ後、三人を囲んでバーベキュー大会が催された。互いにことばは不自由なのだが、会話が結構はずんでいるのには驚きもし、心こそ通じるのだ、と感心させられた。

二十七日（日）はサンダロ神父様の司式で、英語、ラテン語、日本語を交えた、国際色豊かなミサが荘厳に展開された。

水田信徒会長のブロークン英語を交えた、ユーモア溢れる「ごあいさつ」は、お互いの気持ちをなごませるのに、大きな効果があった。サンダロ神父様も心温まる歓待を感謝し、「今後は姉妹教会としてお互いに成長してゆくときき、心と体にどのように変化がおきるのか。とまどいと寂しさときらめきの思春期の生活全体のなかで、性を、精神面と医学面からわかりやすく語る手紙集。

中学生を対象にしているが高校生も大学生も、また家庭で子どもに教育をする大人も参考にしてもらえると思う。

本書は初めて性に直面する子どもに性の基礎知識をのべることを目指している。近刊やなせたかし他11人の共著。

女子パウロ会　一三〇〇円

神道一口メモ⑨

森山敬三

文献によれば『日本書紀』に仏法に対して「神道」という言葉が初めて使われている。天皇も始めはスメラミコトと呼ばれ、後に大王（おおきみ）と称されるようになった。天皇の言葉が用いられるのは、推古天皇十五年（六〇七年）製作の法隆寺薬師寺如来光背に「大王天皇」とあるのが始めとされるが、これは天武朝の時の刻印といわれ、倭が日本に、大王が天皇として定着するのは八世紀初めである。

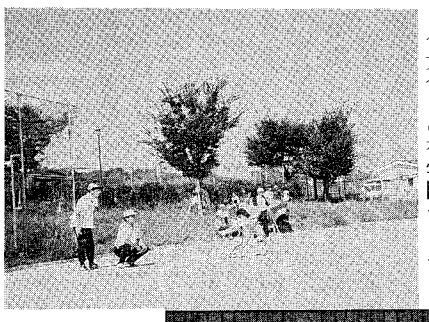
幼稚園のできごと

聖マリアの園

当園から見える新田原は、野菜畑、果樹園が広がり、のどかな景色が続きます。澄んだ空気に教会のアンジェラスの鐘が響く時、園児たちは、小さい手を組み合わせて十字架のしるしをすると、「めでたし」の祈りを唱え始めます。周囲の恵まれた環境の中で、子ども一人ひとりの心の芽が確かに育まれているのが感じられます。ある日のこと、年少児の部屋で、Mちゃんが着替えをしていたところへ、元気なAちゃんが駆けてきて、「先生、トイレでSちゃんがおもらししたよ」「すぐ行くからまってて」「先生いいよ、Mちゃんを見てて。私が行くから」。そう言いおわって、AちゃんはSちゃんのかばんの中からビニール袋に入っているパンツを取り出して、トイレで待つSちゃんのもとへ走りだしました。Sちゃんを手際よく着替えさせると、ぬれたパンツをきれいに洗い、元のビニールに入れてかばんにしまいました。間もなく、Sちゃんがそっと部屋に入ってくると、その不安気な様子に気づいたAちゃんは駆けよって手をつなぎ、ニコッとしました。わずか三歳の子どもの飾り気のない、純真な一連の行為から、温かい気持ちになったと同時に感激しました。

年長組の会話を聞いていた時のこと。「このバチ、使っていいよ。私、バチがなくてもできるから」と遊戯のバチが手元になくて今にも泣き出しそうになっていた男の子に、近くの女の子が、こう言ってバチを提供していたのです。子どもの心は小さいことにも敏感に反応し、周囲のことを気遣っています。子どもの思い、言葉、行為から日頃忘れかけていたものを発見させられる毎日です。

（新田原）

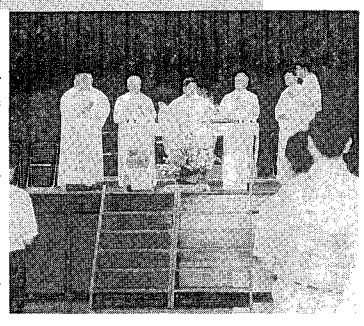


れの九月十五日、八幡西区の市立グランドで行われ、十二小教区から十九チームが参加して熱戦をくり広げた。

今大会には神学院チームも加わり、女性・子ども混成チームのリーグ戦もあった。

一位　新田原教会Aチーム
二位　天神町教会チーム
三位　黒崎教会Bチーム

★筑後地区教会親善スポーツ大会が、九月十日に大刀洗町立勤労者体育センターで行われた。大会に先立ち、教区長松永久次郎司教様主式による



ミサが挙行された（＝写真）。参加者は筑後地区の六教会と鳥栖教会から約五百人。

ミサ後のソフトボール大会予定が、雨のため、勤労者体育センターで大人がソフトバレーボール、子どもはドッジボール大会となった。

大人の部優勝は鳥栖教会。子どもの部優勝は今村教会。優勝者には、優勝カップ、トロフィー、賞状、司教様のサイン入りボールが贈られた。

各地で 親善 スポーツ大会

★北九州地区信徒協恒例の親睦ソフトボール大会は、秋晴

BOOK 読みは専科

★あらしをしずめた イエスさま
飯島敏子 文
内海 博 絵



あらしを静めたイエスの聖書物語。

とつぜんのあらしに荒れ狂う湖。弟子たちは恐れおののき、船で眠っておられるイエスさまに助けを求めた。「静まれ、黙れ！」とのイエスの一言で静けさが戻る。あらしも静めるイエスさまとは？

子どもたちに天地万物を治める神の御ひとり子イエスの権威と、愛そのものであるイエスさまはわたしたちの必要な願いをお聞き下さることをこの物語りは示している。

女子パウロ会　一二〇〇円

◇　◇

★輝く君に届けたい 11通の手紙
―愛と性について―

少年少女がひとりの男性ひとりの女性に成長してゆくとき、心と体にどのように変化がおきるのか。とまどいと寂しさときらめきの思春期の生活全体のなかで、性を、精神面と医学面からわかりやすく語る手紙集。

中学生を対象にしているが高校生も大学生も、また家庭で子どもに教育をする大人も参考にしてもらえると思う。

本書は初めて性に直面する子どもに性の基礎知識をのべることを目指している。近刊やなせたかし他11人の共著。

女子パウロ会　一三〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石の大御所 / 理想の石影 / 他石 }
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

11・12月の行事

※ゴチックは司教日程

11月

3日　召命の集い
聖書講座⑰
熊本短期キリスト教講座（最終回）
4日　聖カロロ・ボロメオ
教皇ヨハネ・パウロ二世霊名祝日
10日　聖書講座⑱
12日　今村教会堅信式
福岡地区信徒協代表者会議
大楠教会バザー
17日　聖書講座⑲
19日　小郡教会堅信式
聖書週間（～26日）
戦後50周年平和記念講演会
教区青年錬成会
聖書特別講演会
教区信徒協役員会
21日　神学院祭
聖マリアの奉献
23日　北九州地区信徒協研修会
高田三郎典礼聖歌講習会
24日　聖書講座最終回
26日　王であるキリスト・年間最終主日
伊万里教会堅信式

12月

3日　水巻教会堅信式
待降節第一主日
宣教地司祭育成の日（指定献金日）
8日　無原罪の聖マリア（カトリック神学院創立記念日）
12日　臨時司教総会（～15日）

福岡黙想の家

▼11月1日(水)～5日(日)サダナ黙想・錬成会
▼3(金)～5(日)マリッジ・エンカウンター福岡
▼6(月)～10(金)コロンバン会黙想
▼11(土)～12(日)レジオ・マリエ北九州クリア黙想会
▼14(火)人生講座
▼19(日)～25(土)サレジオ会黙想
▼27(月)～30(木)御受難修道会共同体の日

■福岡地区「聖書講座」使徒言行録を読む　開催中［時間］19時～20時50分［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［日時・テーマ・講師］⑰11月3日・パウロとアグリッパ王・Fr.赤倉稔⑱10日パウロ、ローマに向かって出発する・Fr.中村彰⑲17日・映像で見る「使徒言行録」・Fr.山元眞⑳24日・ローマにおけるパウロの宣教・Fr.浦俊雄［受講料］一回800円［申込・問合先］当日・教区本部☎092―522―5139、FAX523―2152［主催］教区聖書委員会

■聖書週間特別講演会　［日時］11月19日（日）14時［テーマ］イスラエルの民の過越［講師］Fr.高見三明（聖スルピス大神学院院長）［受講料］1000円［会場］カテドラル大名町教会1階講堂

■アレグリーニ神父の「聖書を読む会」開催中　一般の方を対象に毎回テーマを決めて関連する聖書を読み、一緒に考えていこうという会です。もちろん、信者の方も大歓迎です。［日時］毎月第一木曜日（～96年4月）10時～11時30分／19時30分～21時（内容は午前と同じ）［講師］Fr.アレグリーニ［場所］カトリック佐賀教会［会費］無料［問合先］カトリック佐賀教会☎0952―23―4754

■第8回熊本短期キリスト教講座《生きがいをさがそう》開催中　［日時］11月3日(金)午前の部10時～12時［テーマ］カトリック入門記［講師］石崎富士一／午後の部19時～21時［テーマ］イエスの死と復活に生かされる日々［講師］藤井恵美子［場所］カトリック手取教会会館2階ホール★ベビーシッターあり［問合せ・申込先］カトリック案内所☎0962―32―7948（当日申し込み可）［主催］熊本地区カトリック教会

■SE・COの秋のスケジュール　①大楠バザー参加［日時］11月12日(日)［場所］大楠教会　②ガレージセール［日時］11月4日(土)11時～13時［場所］SE・COの家ガレージ　③下町豊重神父のお話［日時］12月3日(日)14時～16時●手作り品作業日（第二、第四水曜日10時30分～）［問合先］龍☎092―581―6838・山下☎574―3787・山本☎595―3132・Sr.富山☎512―0033

■みこころホスピス講演会　みこころホスピスセンター主催の一周年記念講演会。［日時］11月11日（土）18時30分～20時30分［場所］熊本市民会館大ホール［テーマ］在宅、家で死にたい！［講師］川越厚（聖育会病院長）［入場料］一般一五〇〇円（前売一〇〇〇円）学生七〇〇円（前売五〇〇円）［問合先］みこころホスピスセンター☎096―352―7181

■結婚準備セミナー【福岡】　第62回［日時］11月11日（土）16日(木)18日(土)25日（土）30日（木）12月2日(土)7日(木)9日（土）19時～21時20分（プログラムによって時間が延長される日があります）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール（駐車場あり）［問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092―541―6207、FAX552―5022

■演劇「大友宗麟」　戦国時代、九州六カ国に君臨し、キリシタンを保護して海外に夢を馳せた大友宗麟。［日時］①11月11日(土)18時30分開演②11月12日(日)13時開演［場所］小倉市民会館［チケット］自由席前売り二五〇〇円（当日三〇〇〇円）前売りペア券四〇〇〇円・学生一五〇〇円／チケットは北九州市内プレイガイドまたは劇団青春座へ☎093―941―3768

■死者のために祈る日　今年も死者のために祈る日を次のようにいたします。どなたでもどうぞおいで下さい。ご一緒にお祈りいたしましょう。［日時］11月12日（日）13時30分～15時30分［場所］カトリック黒崎教会［主催・問合先］援助修道会黒崎修道院☎093―621―5670

■文化講演会　［日時］11月12日（日）14時［場所］佐賀県医師会メディカルセンター［テーマ］現代の忘れ物［講師］Sr.渡辺和子［入場料］一〇〇〇円［主催］ロザリオ後援会［問合先］ロザリオの園☎0952―62―0303

■大楠教会バザー　今年も山海の珍味あり、カラオケ大会あり、ゲームあり、いろんな出店ありでたいくつさせません。楽しみにお出でください！［日時］11月12日（日）9時ミサ後［場所］カトリック大楠教会☎092―521―6946

■本島等氏講演会　終戦50周年のこの年に、あなたも平和について真剣に考えてみませんか？［日時］11月19日（日）10時30分～12時（受付10時～）講演後、主日のミサがあります［講師］本島等（前長崎市長）［テーマ］日本の一〇〇年～過去の歴史を振り返り、今の、これからの平和を考える［場所］福岡雙葉学園講堂（福岡市中央区御所ケ谷1）［対象］どなたでも［参加賞］大人一〇〇〇円、中・高生五〇〇円、小学生以下無料（当日受付にて）★車でのご来場はご遠慮ください。駐車場はございません。★収容人員に限りがありますので、多数ご来場の際は、入場をご遠慮していただくことがあります。ご了承ください。★上履きをご用意ください。［問合先］カトリック小倉教会Fr.中村彰☎093―921―0093FAX921―0139

■ミサを歌おう！―高田三郎先生を迎えて典礼聖歌講習会　どなたでもどうぞご参加ください。［日時］11月23日（木・勤労感謝の日）9時30分～17時［場所］カテドラル大名町教会［講師］高田三郎［会費］五〇〇円［持参品］典礼聖歌集・昼食［主催］教区典礼委員会、教区信徒使徒職協議会詳細は教会のポスターをご覧ください。

■集まりませんか！　晩秋の一日静かに祈り、耳を傾ける時間を過ごしましょう。若松教会の西田邦洋神父様にお出でいただき、ミサも捧げることができるのでより充実した祈りの時を過ごせると思います。［日時］11月26日(日)10時～16時［場所］戸畑ノートルダム修道院（明治学園）［説教・ミサ］Fr.西田邦洋［対象］女子青年［参加費］一〇〇〇円（含む昼食・茶菓代）［主催］北九州地区女子修道会［申込締切］11月19日［申込・問合先］北九州地区女子修道会祈りの会連絡係Sr.塩路（援助修道会黒崎修道院☎093―621―5670）

■福岡「生と老い・死をみつめる会」　［日時］11月26日(日)14時～16時［内容］講演「家庭でできる介護の在り方」と分かち合い［講師］井上重子（平岡介護福祉専門学校講師）［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［問合先］大山美穂子☎FAX092―713―8523

ミニ情報

■1995年福岡市民クリスマス　どうぞ皆さんおいでください。［日時］12月11日(月)［場所］福岡市民会館大ホール《メッセージ》Fr.下町豊重（カトリック大楠教会）《クリスマスを歌う》福音歌手　森祐理（元NHK歌のお姉さん）［問合先］☎092―731―1805（事務局）

■CHOICE（チョイス）　《For The Single Young Adult》チョイス・ウィークエンドは徹底的に「自分と出合う」集いです。チャレンジしてみよう！［日時］1月13日(土)～15日(祝)［場所］カトリック福岡黙想の家［参加費］一五〇〇〇円（ご相談下さい）［条件］21歳～35歳までの男女（独身者）［問合先］深堀純・邦枝☎092―801―5351

11月命日の司祭

†スヴァノニ・ゼヴェリーニ神父（ミラノ外国宣教会）
一九六二年十一月二十七日
元唐津教会主任
†フレデリック・ボア神父（パリ外国宣教会）
一九七七年十一月三日
元援助修道会黒崎修道院付

編集室から

明日も神の恵みがあることを信じて生きよう。



過ぎた夏のこと、ある神学生がスピード違反で御用。「帰省中ですか」と警察に尋ねられ、神学生曰く「いや、人間です」。名（迷）答である。

ことばは、不思議なものである。人を笑わせ、また悲しませる。意味軽薄なことば、意味深長なことばがある。なにげないことばが人の心を強く捉えたり、懸命に準備したことばがあっけなく聞き流されることもある。

ことばは生きている。ことばは、語る人の中に生きていて、やがてそこを出て、聞く人に向かう。そのことばが、聞く側の既に持っていることばに呼応し、ことばの組み合わせに何らかの力を加える際にはじめて、聞き手の心にも生きはじめる。前述の神学生の話は、「寄生虫」ということばを思い浮かべることのできない人には意味不明の会話にすぎない。相手のことばを理解するとは、聞く場合だけでなく、語りかける場合にも必要とされるものなのだ。相手のことばを無視して語りかけられることばは空回りしてしまう。

キリストは、生きた神のことばである。このみことばが、空しく人の心を通り過ぎてしまっていないだろうか。どんな形でも、とにかく伝えればよいというのでは、伝達者としては不賢明である。キリストというみことばがそれ自体どういう意味を持っているのか、何を伝えたいのかまず客観的に追究する必要がある。

「コトバ」

そこに聖書を読み、学ぶ理由がある。そこから、各時代、文化、状況、つまり、今この時点で、私たちにまた私に、そのことばは具体的に何を意味しているのかという省察が求められる。神学の出番はそこにある。だから、神学は自らの置かれている状況を無視したり、他の学問に無知であることはできない。相手の心にあることばに組み込まれるような形でみことばが伝えられる必要があるからである。

「沈黙は金なり」ともいう。最近の私の嫌いなことばのひとつである。伝え、伝えられる生きたことばが何もなければ、何も伝わらない。ことばが不可欠だと思う。神は沈黙せず、みことばを私たちに遣わしてくださった。私たちがことばをあきらめ、ことばが不在していながら、キリスト者であり続けることが果たして可能なのだろうか。近頃の私の問いである。

サン・スルピス大神学院
牧山強美神父

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　**藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

これらのことを賢いものに隠して、幼子のような者にお示しになりました。
（マタイ11・25）
ハーン・フランシス神父

召命の集い

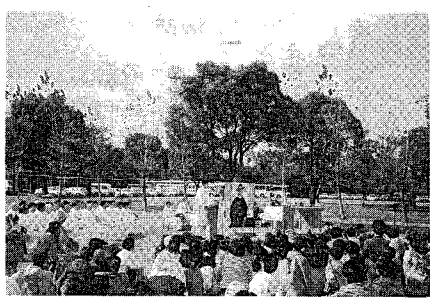
大神学院に千四百人賑う



十一月三日、恒例の「召命の集い」が福岡サン・スルピス大神学院（院長　高見三明神父）で行われた。九州各地からの参加者は子ども・大人合わせて千四百人を越えた。テーマは「イエスさまになる日」。関係者は一年かけて準備したものを披露し、参加者を魅了した。

召命の集い（実行委員長　上田徹神学生）の日は特異日といわれるほど天気がよく、普段は静かな広い敷地もたくさんの笑顔で埋め尽くされる賑いを見せた。

前福岡教区長平田三郎司教は「召命祈願ミサ」の中で、松永久次郎司教に代わってミサを挙行できることに感謝し、一年かけて準備しこの日を迎えた大神学生を労った。説教は松田聡史助祭。大きな板に描いたダミアン神父の話をし、聴衆に「人のために自分を捧げる人になってほしい。特に司祭・修道者はたくさんの人たちに待たれている。神のことを話し、人の心を導く人になってほしい」と語り、大人にも「家庭こそが、聖職者の苗床である。祈りの姿勢を見せながら子どもの召命の芽を育ててほしい」と述べた。共同司式の五十人ほどの司祭も、心を一つにして後継者の誕生を祈った。ミサの終りには、平田司教から「世の人々は魂の潤い、心の泉を求めている。彼らを導く人が一人でも多くこれが、『感じて動く』本当の感動なのでしょう。



ある人が言いました。

「私は奇跡なんかどうでもいい。このように何かが人を動かすことを見ると、確かに神がいると感じられる」と。

癌告知を体験し、高齢者のお母さんを最後まで自宅で介護する息子、また『死の準備教育』を病院、看護学校、修道院などあちこちで行う宗教家。彼の語る言葉は、ひとつひとつ、人々の心に深く響きます。私たちの教会の主任司祭、見終わってすぐ、「次の黙想会に来てもらいましょうか」「国に持って帰りたいからダビングしてください」。

（武蔵ケ丘教会）

時の話題

須古　澪

『感動とは、感じて動くと書くんだなあ』と、書家相田みつを氏は、言っています。人を動かすものは、理屈ではなく感動、だから理動という言葉は辞書にはないのだそうです。同じ物を見ても感じる人と感じない人とがあるのは視力の差ではなく、それを受け止める心の差、というのです。

ある民放テレビのドキュメンタリー大賞に選ばれた『道ゆきて』。今、私の周りで静かなブームとなっています。

たまたま、ある人が借りた一本のビデオテープ。次々に波紋が広がり、不思議にその時のテーマにぴったりということで、キリスト教講座の教材にまでなってしまいました。

ある禅僧の一年間を追い続けた作品ですが、見終わって

「感じて動く」

先ず、このようなテーマ、人にスポットをあてた制作者ってどんな人だろう、と思いました。『生と死』『老人介護』『ターミナルケア』『宗教』『諸宗教の対話』、どれもが今、大きな関心事ですが、僧侶金子真介さんはそのすべての体験者、実践者なのです。しかし、制作者が彼の存在を知り、単に彼そのものを世に紹介しようと考えただけではないということは、いろいろな場面で分かります。

金子さんと出会った大抵の人は感動するでしょう。でも、制作者は「すごい」と思っただけで終わらず自分の中に持っていたテーマを、ビデオ製作という形で、彼を使って表現しました。それを見て感動した人々が、大賞に選び、それを見た人々が、また、あの人この人に見せたいと…。

小教区委員会規約の骨子きまる

各小教区の実情に適応を

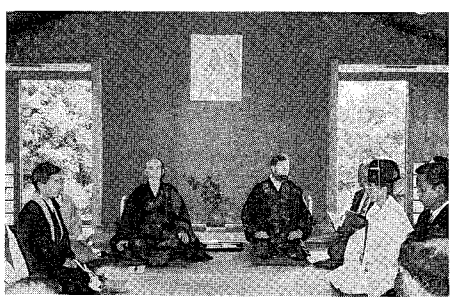
小教区委員会規約の骨子となる教区基準が九月の司祭評議会を経て教区長から承認され、十月二十三日付けで発表された（二面に全文掲載）。同規約には委員会規約の基準となる目的、構成、審議事項、任期などが示されている。小教区での適応が望まれる。

宗派の垣根越え

生命山カトリック別院で平和の祈り

今年は、太平洋戦争の終結から50年を経過しました。その間、戦争を知らない子どもは増え続け、戦争を知る世代は減り続けてきました。けれど、どれだけ歳月が重なろうとも、平和は尊く、戦争が愚かであることに変わりはありません。戦後半世紀の節目を迎えた今、平和に勝る幸せはないことを改めて深く認識し、二度と戦争のない世の中となるため、宗教者のできることについて、ともに考えるとともに祈り、平和の礎を築いていきたいと念じています。このような意向により、第一回に続き、第二回宗教者平和の祈りの会をよびかけました。これに応え、仏教、プロテスタント、木本、立正佼成会、カトリックの僧侶、牧師、神父の他信徒も含め七十人が出席しました。

戦後五十年、日本は戦争被害者であるとともに、加害者であり、自国の罪過をわが身の罪として、ゆるしを乞い、また現在、世界中で起きている戦争、その犠牲者の上に思いをはせました。この日鎮魂曲「万灯火」（まとうび）の横笛のしずかな調べの中に平和への祈りが捧げられました。



神様の呼びかけに応えたい

青年のための召命錬成会

十月十四日から十五日にかけて、篠栗の聖心のウルスラ宣教女修道会「祈りの家」で召命のための錬成会が行われた。

七人の参加者にスタッフが一階の各教室には各地の教会から寄せられた作品が展示された。

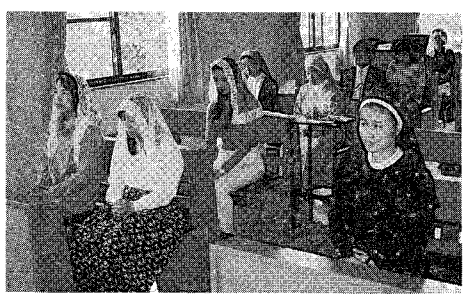
閉会式では、院長高見神父が参加者に感謝の意を述べ、「これからも共に祈り、できることをしていきましょう」と召命への協力を願った。

参加者は神の祝福の一日が送れたことを感謝した。

出るようにこれからも祈り合おう」と激励の言葉があった。

昼食後グランドで、聖ペトロの気持ちを題材にした神学生の演劇が行われた。観劇の後、小学生・中学生のレクレーション、聖体賛美式、ビデオ鑑賞（『ジャーニー』という題で神学生の聖地巡礼をもとに製作されたもの）があった。

八人という、スタッフの方が多い集まりとなったが、小人数ながらも中身の濃い黙想会ではなかったかと思われる（＝写真）。



しのび寄る秋の気配を感じながら、ひっそりとした山の中で、新鮮な空気を胸一杯吸いながら、参加者一同、神様の呼びかけ、その息吹を感じることができた。

一日目は、葛島神学生の召命体験の話があった。十数年の間、教壇に立って、中学生とまさに格闘しながらの教師時代の生活、そして召命を受けるに至ったいきさつ、さらに現代の教会において欠けていると思われる点などを率直に指摘し、参加者一同、大いに考えさせられた。

二日目は、一時間の聖時間と散策、ミサと続き、大きな喜びのうちに散会した。来年はもっと多くの参加があり、神が主のぶどう畑で働く人を増やしてくださるよう祈りたい。

教区の功労者帰天

シスター・レネ金光みよ子様

聖母訪問会修道女。

十一月一日、新田原修道院にて帰天。享年七二歳。

沖縄県西表修道院の開設者。三年前から新田原修道院で療養していた。

通夜は新田原修道院聖堂、葬儀は新田原教会聖堂にて、しめやかに執り行われた。

永遠の安息を祈りましょう。

みちくさ

事故で植物人間となった人がいた。家族の者は、延命装置をつけた彼を看病した。ルルドの水で額や手を拭いてあげた。病院に集まっては、「もしも彼が亡くなったら残ったものはどうなるの」などと、本人の意識はないものと決めつけ、枕元で平気で財産の用途などを口走っていた。何カ月か経った頃、彼の心電図の動きが平常な人と変わらないようになっている。図らずも、生命のエネルギーが脈々と高まってきたのである。そしてついに目を開け、口を開いた。医者は、「私はあと数カ月の命だと言いました。けれどこんなになって、奇跡のようです」と自分の診断を撤回した。本人も横たわっている間、「もうだめだ」と思っていたという。そう思っていたのだ。しかし、体は動かずとも意思は働いていたのである。当然、枕元で話されていたことは記憶されていたのである。この話はある正常なシスターから聞いたことだから真実味はある。ルルドの水が効を奏したのだろうか▼科学で解決できないことは多くある。科学は、事実を人が理解できるように説明すべく苦闘する。しかるに、神は時々科学では追いつけないものを人に与えて、ご自分の存在を示される▼ルルドの水の本家マリア様も神から人知を越える恵みをいただき、聖霊によってイエス様をお産みになった。信じる人にとっては、これ以上の恵みはない。主の誕生。永遠の延命装置をもっておられ、私たちとともに今を生きてくださる。そして耳元でささやかれ、今を生きることを意識させてくださる。私たちの魂の心電図は大丈夫だろうか。

【S】

生活の中のクリスマス

戦後五十年という大切な節目の年、平成七年、振り返ると、阪神大震災をはじめオウム真理教関連の事件、中国やフランスの核実験再開などの問題で、社会が、人々の心が激しく揺れ動いた一年であった。特にオウム真理教関連の恐ろしいニュースは、日本人の心を宗教不信に陥れた。「宗教の指導者たちが率先して悪を行い、人々を惑わし社会を狂わせている。宗教って何なのか？」このような醒めた雰囲気が漂う中で、今年もクリスマスが近づいている。

宗教(religio＝羅)とは、目に見えない神を人間に示し人間を神に結ぶ(religare＝羅)役割をするものであると考えれば、キリストの誕生の時に天使たちが歌った「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心にかなう人にあれ」(ルカ2・14)という栄光の賛歌は意義深い。

父なる神の栄光のために、御子は人となり、御旨のままに十字架上で命をささげ、人間の心を神に結び合わせてくださった。この神の子を迎えて、共に生きる人に真の平和が与えられる、これがクリスマス・メッセージである。

当初、クリスマスのミサだけに用いられていた栄光の賛歌は、六世紀のはじめごろから、次第に主日のミサにも用いられるようになったと言われている。クリスマスの意味を思い起こし、一年を通して毎週の生活の中に生かすために、有意義な典礼的工夫である。クリスマスとは、語源的にみれば「キリストのミサ」ということになる。ミサは確かにパンとぶどう酒の形色のもとにお生まれになるキリストの誕生の祝いであるが、同時にキリストの死と復活の再現でもある。

キリストのミサ(クリスマス)は、すべてを人間の救いのためにささげたキリストの全生涯の縮図であり、その愛の凝縮である。幼子イエスを私たちが日々の生活の中に迎えて、キリストとともに愛に成長することがクリスマスの心であると思う。社会が暗いと不平をこぼすよりも、進んで小さな明かりを灯す生き方を心がけていきたい。

サン・スルピス大神学院
白浜　満神父

小教区委員会規約

第一条　本会はカトリック○○小教区委員会と称し、事務所を○○教会に置く。

第二条　(1)本会は主任司祭の指導のもとに、○○小教区共同体の宣教司牧活動を推進することを目的とする。

(2)本会は上記の目的達成のため、主任司祭とともに関連する諸事項について審議し、主任司祭の同意または了解のもとに必要な決定を行う。

(3)本会はまた、決定されたことが小教区の諸活動団体等を通して、円滑に実施されるよう配慮し、監督する。

(4)主任司祭は、小教区の宣教司牧にかかわる重要な事項に関してはこの委員会の意見を聞かねばならない。またその意見を賢明かつ慎重に検討し、それを活かすよう努めねばならない。

第三条　本会は次の者によって構成される。

(1)主任司祭及び助任司祭

(2)小教区の信徒代表一名もしくは二名

(3)小教区会計担当者

(4)小教区地区内にある修道会の代表者一名(但し小教区の状況による)

(5)小教区内の地区長及び諸活動団体の代表者(但し小教区の状況による)

以上の他に、主任司祭任命の委員を若干名おくことができる。

第四条　(1)委員の任期は二年とする。但し再選を妨げない。三期を上限とする。

(2)信徒代表は信徒会のあるところでは信徒総会で、他の場合は他の適切な方法で、会計担当者は当該委員会でそれぞれ選ばれ、主任司祭が任命する。任期中に欠員が生じた場合は当該する選出方法でこれを補わなければならない。この場合、後任者の任期は先任者の任期の残留期間とする。

第五条　委員の改選は年度初めの復活祭前後に行うこととする。但し、該当時期が主任司祭転任直後にあたる場合、翌年度に持ち越すことができる。

第六条　会議の開催にあたっては、議長、副議長、書記をおく。

第七条　主任司祭は一カ月もしくは二カ月に一回、小教区委員会を開催する。必要があれば、この他に臨時委員会を開催することができる。各委員も必要または適切と考える場合、主任司祭に臨時委員会の開催を要請できる。

第八条　本会は小教区の宣教司牧活動について、主として下記の事項を審議し決定する。

(1)教区主催の行事等に関する小教区の協力態勢

(2)小教区の年間行事に関する事項

(3)小教区における具体的宣教司牧活動に関する事項

(4)小教区内諸活動団体より提出された事項

(5)その他の事項

第九条　本会は主任司祭のもとにおける小教区の宣教司牧活動に関しての最高の審議・調整機関であって、他の諸団体等の諸活動を推進し調整する。但し必要に応じて他の諸団体との合同会議を持つことができる。

第十条　(1)本規約は福岡教区内における小教区委員会の在り方の基本を示すものである。従って、各小教区委員会を構成するにあたっては、この基本をできるだけ守りつつ、各小教区の実状に適応したものを作らねばならない。

その後、教区長の承認を得て実施するものとする。規約改正に関しても同様である。

(2)本規約は一九九六年四月一日より準備の整った小教区から順次実施する。

以上

解説

この規約ができるまでの経緯は先月号で述べた。以下、いくつかの条項について簡単に解説する。［本部事務局］

①本規約の性格―　第十条に示されているように、この規約は、教区内における小教区委員会の在り方の基本を示すもの。この規約はいわば「骨子」となるもので、この規約を基に各小教区での現状の規約の見直し、および調整が望まれる。

②会の名称について―　「小教区委員会」としているが、小教区によっては名称が異なることもある。

③会の目的―　第二条に示されているように、小教区委員会は「主任司祭の指導のもとに、小教区共同体の宣教司牧活動を推進する」。

④主任司祭との関わり―　主任司祭もこの委員会の構成メンバーであるが(第三条)、共に審議し、決定の際は主任司祭の同意、了解が求められる。

⑤聞くことの重要性―　宣教司牧にかかわる重要な事項に関しては、主任司祭はこの委員会の意見を聞き、それを賢明かつ慎重に検討し、意見を活かすよう努める必要がある。

⑥「信徒代表」―　第三条第二項の「小教区の信徒代表一名もしくは三名」とは、通常「信徒会長」「教会委員長」「運営委員長」などと呼ばれている小教区の信徒の代表者を指す。正副を考慮し一名もしくは二名としている。

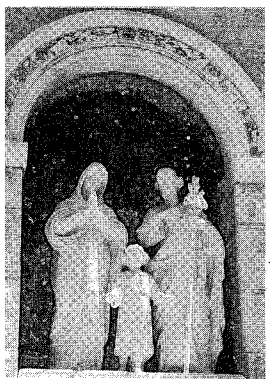
⑦任期―　三期六年が上限。小教区のよっては委員になり手がいなくて悩むところ。本当になり手がいないのか、今一度検討する余地あり。任期を厳密に守ることは、本会の目的である宣教司牧活動を推進して行くために重要なことと考える。

⑧委員の改選時期―　年度初めの復活祭前後。現状では、改選時期が小教区によって異なっているため、信徒協などの超小教区活動が円滑に進まないことが生じている。改選時期を統一することで以上の問題がなくなる。

＊十月に教区内の全司祭に配布したものに若干の訂正が加えられている。今回掲載分が正式な規約となる。

聖書の舞台を旅して ②

七月三十一日、私たちはエルサレムを離れ、地中海沿いの道をたどりながら、イスラエル北部・ガリラヤ湖をめざして進んだ。



途中、ナザレを訪れた。イエスはここで、養父ヨセフと母マリアと共に過ごされた。

中東最大といわれる受胎告知教会の隣に、聖家族が生活されたという家の跡に建てられた教会がある。地下に通じる階段を下ると、そこに住居跡を見ることができる。なつかしい家にたどり着いたような、穏やか気持ちがこみあげてくる。ここで、神の計画はひっそりと暖められ、整えられていったのだ。

ゆっくりと歩きながら、思いを巡らせる。…きっと、この辺りで食事をしていたのだろう。壁の向こうから、今にも三人の笑い声が聞こえてきそうな、ふと、そんな気持ちになる。

夜になり、昼間の仕事で疲れたヨセフは、先に床に就いている。ヨセフのいびきに交じって、ずい分とたくましさを増した、もう一つの寝息が聞こえてくる。イエスの成人式のために下着を縫いながらマリアは何を思ったであろうか。エルサレムの神殿に家族揃って詣でる喜び。たとえ貧くても、この小さな幸せがいつまでも続いてくれたら…そう願いながら、神に手を合わせていたかもしれない。でも彼女の心は、あのお告げの時そのままに…。

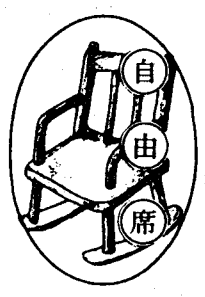
「お言葉どおり、この身になりますように。」(ルカ1・38)。やがて夜も更け、マリアの針を送る指先も止まる。ナザレの小さな、愛に満ちた一家の安らぎ。ただ、マリアの手元を照らすランプの灯りが静かに揺れていた。

そして今、季節は秋から冬へ、今年も待降節を迎えた。巡礼の間、いつも共にあったなつかしい声が、再び心の中によみがえってくる。すべての人を愛と平和で潤す幼子イエスの、ころころとしたあの笑い声が。

(写真は聖ヨセフ教会)

福岡教区大神学生　牧山美好

当たり前でないこと



鵜野泰年神父

東京で、司祭のマリア運動全国大会が行われた。一人の司祭が立ち上がり、いつもならば必ず出席しているはずの老司祭が、病気で出席できないことを告げた。「言葉を交わすこともできないほど、弱っておられます。神父様はどんなにかこの会議を楽しみにしておられたことか。どうかお祈りください」。さらに、「神父さまは、息絶えだえに、『私は、この病気の苦しみを捧げて、アサハラさんの回心のために祈っています』と言っておられました」「え！アサハラさん？」司祭たちは一瞬、聞き耳をたてた。「麻原彰晃のことですよ」。するとある司祭が「麻原彰晃！それは無理ですよ。あの人はうそばっかりつくんだから」すかさず別の司祭が言った。「それは、わからんよ」みんな、はっとした。しばし、沈黙が流れた。その数秒間の沈黙の中で、司祭たちは何を思い、何を考えたのであろう。「それは無理ですよ」それは私の本音でもあった。彼の救いなど考えたこともなかった。

考えてみれば、自分こそどうしようもない人間だったのに、こうして司祭になっている。いつのまにかそれを当然なことと考えるようになっていた。その愚かさ。

消え入るような息の下で、罪人の回心を祈っておられる老司祭の姿に、キリストの姿が重なって見えるように思えたのである。「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」(Ⅰテモテ2・4)

(健軍教会)

第8回　むなかた しみん Xmas '95 12/21(木)
出演者　本田　路津子
会　場　宗像ユリックス（ハーモニーホールにて）
時　間　18:30　終了20:45
主　催：宗像市郡内カトリック・プロテスタント教会協賛
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CROSSROAD No.20/1995
くろすろ〜ど II
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

12月

3日（日）◆水巻教会堅信式
　　宣教地司祭育成の日（献金）
　　聖フランシスコ・ザビエル
7日（木）聖アンブロジオ
8日（金）◆カトリック神学院創立記念日
　　無原罪の聖マリア
10日（日）◆光丘教会堅信式
11日（月）福岡市民クリスマス
　　［福岡市民会館 18:30〜20:30］
12日（火）臨時司教総会［東京〜15日］
13日（水）聖ルチアおとめ殉教者
14日（木）十字架の聖ヨハネ
16日（土）九州ダルク・クリスマス
　　［美野島司牧ｾﾝﾀｰ13:30〜17:00］
17日（日）†M.コニリー
　　［島崎修道院1990年］
18日（月）†J.マグラ［荒尾1976年］
　　†ミカエル村岡久義［1992年］
19日（火）†パウロ青木功［行橋1973年］
20日（水）†M.ソーレ［久留米1917年］
23日（土）北九州地区シーグクリスマス
　　†A.ベニエ［飯塚1983年］
24日（日）◆主の降誕前夜ミサ
　　［カテドラル 20:30〜］
25日（月）主の降誕
26日（火）聖ステファノ殉教者
27日（水）聖ヨハネ使徒福音記者
28日（木）幼子殉教者
31日（日）聖家族

◆ 司教日程　† 司祭命日

＊［1月1日］世界平和の日

教皇パウロ6世は今から28年前、ベトナム戦争が激化するなか、次のように呼びかけて「世界平和の日」を制定しました。「1968年1月1日、新年の最初の日に全世界で『平和の日』を催すことをすべての善意の人々に呼びかけたいと思います。今後、毎年、人類の歩みの時を刻む暦の最初に日に、このような催しが繰り返されることを心から望んでいます」。

1月

1日（月）神の母聖マリア（守るべき祝日）
　　世界平和の日
　　◆ミサ［カテドラル10:00〜］
　　†G.ロー［人吉1950年］
2日（火）聖バジリオ・聖グレゴリオ
　　†J.ドノフ［菊池1985年］
　　†ﾖｾﾌ 牧山藤房［司教館1993年］
7日（日）主の公現
8日（月）主の洗礼
9日（火）◆司祭新年の集い［浄水通11:00］
14日（日）福岡地区信徒協役員会
　　［カテドラル 13:30〜］
　　†A.ハルブ［崎津1945年］
15日（月）成人の日
17日（水）聖アントニオ
18日（木）ｷﾘｽﾄ教一致祈祷週間［〜25日］
　　†J.M.マルタン［大牟田1975年］
19日（金）†L.ガルニエ［大江1941年］
21日（日）聖アグネスおとめ
22日（月）結婚準備セミナー①【熊本】
　　［カトリック手取教会全8回
　　〜2月13日（火）］
24日（水）聖フランシスコ・サレジオ
25日（木）聖パウロの回心
26日（金）聖テモテ・聖テトス
28日（日）カトリック児童福祉の日（献金）
　　◆福岡ブロック「成人式ミサ」
　　聖トマス・アクイナス
30日（火）福岡地区短期キリスト教講座
　　［カテドラル〜3月5日］
31日（水）聖ヨハネ・ボスコ

◆ 司教日程　† 司祭命日

＊［1月18日〜25日］
キリスト教一致祈祷週間

今年は、「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている」（黙示録3・14〜22）がテーマです。主を迎え入れ、ともに食事をすることができるように、わたしたちが戸を開くことを求められています。教会としても個人としても、互いに認め合いながら、ともにキリストの弟子として働けるように祈り求めていきたいものです。

1996・97年教区内行事予定

以下の行事が予定されております。小教区、諸団体で今後、種々の行事を予定される時は、できるだけ重ならないよう、ご配慮ください。

【1996年】《2月》6日（火）司祭評議会［司教館別館10時30分］《3月》14日（木）宣教奉仕者・教会奉仕者選任式［大神学院10時30分］／19日（火）聖ヨセフ・松永司教霊名の祝い／20日（水）助祭叙階式［カテドラル］《4月》4日（木）聖香油ミサ［カテドラル11時］／7日（日）【復活祭】／13日（土）司教座教会献堂記念日【献堂10周年】／14日（日）花岡山殉教祭／28日（日）召命祈願日／《5月》・福岡地区キリスト教講座・聖書講座［7月中旬まで：カテドラル］／12日（日）世界広報の日・広報研修会［カテドラル13時30分］／26日（日）聖霊降臨祭・カテドラル合同堅信式［カテドラル］・29日（水）司祭候補者認可式［大神学院］《6月》11日（火）〜13日（木）司祭研修旅行／17日（月）〜22日（土）定例司教総会《8月》6日（火）〜15日（木）平和旬間／11日（日）平和祈願ミサ［カテドラル／各小教区］／15日（木）教区墓地ミサ［和田墓地14時　他］《9月》福岡地区聖書講座［12月中旬まで：カテドラル］／3日（火）司祭評議会［司教館別館10時30分］《10月》10日（木）むなかたTEN・TENまつり［黙想の家］／14日（月）〜18日（金）教区司祭黙想会［黙想の家］《11月》・聖書週間［聖書特別講演会］／3日（日）教区墓地ミサ［和田墓地14時　他］／4日（月）召命の集い［大神学院］／21日（木）神学院祭［大神学院］／23日（土）北九州地区信徒協研修会《12月》1日（日）宣教地司祭育成の日／10日（火）〜13日（金）臨時司教総会

【1997年】1月7日（火）司祭新年の集い［浄水通教会11時ミサ］／18日（土）〜25日（土）キリスト教一致祈祷週間　／12日（日）福岡地区「成人ミサ」［カテドラル］／2月4日（火）司祭評議会［司教館別館10時30分］／3月19日（火）松永司教　霊名祝日／21日（金）司祭叙階式［カテドラル］／27日（木）聖香油ミサ［カテドラル11時］／30日（日）【復活祭】／4月13日（土）司教座教会献堂記念日　以上

主の降誕・夜半のミサ《24日》

【福岡地区】糸島：20時／今村：21時／大楠：18時／大牟田：19時／小郡19時／久留米：19時+22時／古賀：19時／笹丘：20時／浄水通：19時／大名町：18時+20時30分+24時／高宮：18時+20時／茶山：20時／西新：19時／箱崎：20時／光丘：20時／二日市：20時／美野島：20時（スペイン語）／本郷：18時+21時／吉塚：19時30分／老司：19時30分

【北九州地区】飯塚：19時30分／黒崎：19時+22時／小倉：18時+20時30分+23時／新田原：20時／田川：18時30分／天神町：20時／戸畑：20時／直方：19時／水巻：18時30分／門司：19時30分／門司港：19時30分／湯川：19時30分+23時／行橋：19時30分／若松：19時30分

【佐賀地区】伊万里：20時／鹿島：18時／唐津：20時／佐賀：20時+24時／多久：20時／武雄：20時／鳥栖：21時／馬渡島：20時／呼子：19時

【熊本地区】荒尾：19時／大江：19時／帯山：19時30分／菊池：20時／健軍：20時／崎津：21時／島崎：20時／玉名：19時／手取：15時+20時／人吉：19時／水俣：20時／本渡：19時30分／武蔵ヶ丘：19時30分／八代：19時30分

日本カトリック研修センター・プログラム

◎国内聖地巡礼再会刷新コース

テーマ：信仰の遺産を求めて

キリシタンの聖地長崎五島を訪ね、信仰の遺産に触れる。下五島の教会巡りや日本26聖人記念祭への参加、講演会等を予定。研修ｾﾝﾀｰ開設5周年を記念し、センター再会刷新ｺｰｽとしての企画。

日時：2月1日(木)〜6日(火)＜5泊6日＞対象:誰でも・信者以外の方も可費用：159,000円/定員:40名☆問合先：日本カトリック研修センター研究企画部 ☎052(831)5037 FAX052(831)5317

◆住所名称変更のお知らせ

・カトリック二日市教会
　〒818-01太宰府市朱雀（スザク）4丁目-14-1
・二日市カトリック幼稚園
　〒818-01太宰府市朱雀（スザク）4丁目-14-2

1955年8月14日第3種郵便認可毎月1日発行　第465号

参加しませんか

◆'95待降節黙想会のご案内《黙想の家》

ー喜びなさい　恵みに満ちた方　主はあなたと共におられますー日時・指導者・会費①12／1（金）15時～2日（土）15時・Fr. 来住英俊・6000円②2日（土）16時～3日（日）16時・Fr. 畠基幸・6000円③8日（金）15時～9日（土）15時・Fr. 畠基幸・6000円④9日（土）16時～10日（日）昼食・Fr. ガブリエル・6000円⑤15日（金）15時～16日（土）15時・Fr. 畠基幸・6000円⑥16日（土）16時～17日（日）16時・Fr. 来住英俊・6000円⑦22日（金）15時～24日（日）16時・Fr. マテオ・12000円

★24日（日）ミサ…深夜12時～☆黙想会に引き続き深夜のミサに参加される方の宿泊料は無料です。〈ご希望の方はお知らせ下さい〉

☆例年行っておりました25日（昼食）のパーティーはありません。＊金・土の1泊2日の黙想会は、教会活動で忙しい方のために企画いたしました。尚、金～日までの3日間の黙想も可能です。それぞれ、スケジュールに合った黙想会をお選び下さい。主は、あなたとともに！院長：畠基幸C.P. 【申込先】☎0940-32-3222（9時30分～17時）カトリック御受難修道会：福岡黙想の家

◆SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティアグループ

下町豊重神父様のお話／日時：12月3日（日）14時～16時／問合先：龍☎092-581-6838・山下☎092-574-3787・山本☎092-595-3132・Sr. 富山☎092-512-0033

◆アレグリーニ神父の「聖書を読む会」

一般の方を対象に、毎回テーマを決めて関連する聖書を読み、一緒に考えていこうという会です。もちろん、信者の方も大歓迎です。日時：毎月第一木曜日（～96年4月）10時～11時30分／19時30分～21時（内容は午前と同じ）講師：Fr. アレグリーニ／場所：カトリック佐賀教会／会費：無料／問合先：ｶﾄﾘｯｸ佐賀教会☎0952-23-4754

◆95年福岡市民クリスマス

日時：12月11日（月）18時30分～20時30分／メッセージ：Fr. 下町豊重［大楠教会］／クリスマスを歌う：福音歌手森祐理［元ＮＨＫ歌のお姉さん］／場所：福岡市民会館大ホール／無料／問合先：事務局☎092-731-1805

◆祈りの日（黙想会）

感謝のある生活を求めてあなたとともに聖書の御言葉に触れて祈りの分かち合いと感謝の祭儀（ミサ）を捧げたいのです。どなたでもご自由にご参加下さい。／日時：第3の日曜日（12月17日）10時～16時／持参品：聖書・筆記用具・お弁当／場所と問合先：Fr. W.キッペス［〒830久留米市津福今町459-10☎0942-31-4834または〒830久留米市津福本町422聖マリア学院短期大学☎0942-35-7271内線252］

◆チョイス・ウイークエンド

若い皆さん！！

☆あなたは、本当の関わりを望んでいる？
＊友人・兄弟姉妹・両親・神様…ご大切な人々と

☆あなたは、本当の喜びを知ってる？
＊心を開ければ・信頼が出来れば…深い本当の喜びをもたらす事を

☆あなたは、呼ばれているでしょ？
＊神様があなたを通して、何かを計画していることに…

チョイス・ウイークエンドは、2泊3日をかけて徹底的に「自分に出合い」本当に自分が必要としているもの、必要とされているものに出合うための集いです。チャレンジしてみよう！日時：1996年1月13日（土）19時～15日（月・成人の日）18時／場所：カトリック福岡黙想の家／対象：21歳～35歳までの男女（独身者）／参加費15000円（ご相談下さい）／問合先：深堀純・邦枝　☎092-801-5351

◆第3回短期キリスト教講座「生きるとは」

本当の幸せとは何でしょう／自分を大切にするとはどんなことでしょう／自分を愛するとはどんなことでしょう／温かい家庭の基になるものは何でしょう／人は何のために生きているのでしょう／ともに考え、ともに学ぶため、この講座は、あなたをお待ちしています。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターあり。日時：1月30日～3月5日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分・19時～20時45分／場所：カテドラル大名町教会1階講堂／受講料：全3000円（1回1000円）／日時・テーマ・講師：①1月30日・躾と教育…思春期…・シスター村木敏子②2月6日・外国人から見た日本人とその生活・高籐エレーヌ氏③2月13日・共生と自立・畠山春秋氏④2月20日・みこころボランティアの心・Sr. 酒部順子ほか2名⑤2月27日・日本の伝統的宗教・井手恵住職⑥3月5日・わたしとキリスト教・塩谷恵策神父／主催：短期キリスト教講座福岡実行委員会／申込み：当日会場にて／問合先：教区本部（深堀邦枝）☎092-522-5139（平日10時～16時）

◆第13回「出会いの集い」

《新春ダンスパーティー》



カナの会では結婚のための出会いを求めて、新春ダンスパーティーを企画いたしました。初心者の方、大歓迎です。どうぞ、お友達を誘ってご参加ください。

日時：2月4日（日）10時30分～16時30分（15時30分からフォークミサ）／会場：カテドラル大名町教会1階講堂［福岡市中央区大名2-7-7☎092-741-3687］／インストラクター：吉川信雄氏［光丘教会］／ミサ司式・お話：Fr. 山元眞［教区本部］／参加費：1,500円（昼食代含む）／対象：20歳以上の独身男女／申込・問合先：峯幸子☎092-861-0443／奥村浩子☎092-925-5841／安部良子☎092-512-4028（カテドラルへの問い合わせは当日以外はご遠慮下さい）／申込締切：1月29日（月）／主催：カトリック福岡司教区カナの会／後援：福岡地区信徒使徒職協議会・家庭委員会・青少年委員会

福岡黙想の家

◎12月・1月のスケジュール

1(金)～2(土) 待降節の黙想会①〈Fr. 来住〉
2(土)～3(日) 待降節の黙想会②〈Fr. 畠〉
5(火)　人生講座〈講師：土岐圭子氏〉
8(金)～9(土) 待降節の黙想会③〈Fr. 畠〉
9(土)～10(日) 待降節の黙想会④〈Fr. ガブリエル〉
15(金)～16(土) 待降節の黙想会⑤〈Fr. 畠〉
16(土)～17(日) 待降節の黙想会⑥〈Fr. 来住〉
22(金)～24(日)待降節の黙想会⑦〈Fr. マテオ〉
27(水)～1／5(金) 幼きイエズス会黙想
96年1月6日(土)～12日(金)　＝休館＝

問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940-32-3222　FAX　0940-32-3385

◆九州ダルク'９５ジョッシュ大塚クリスマスライブ

九州ダルクが開設されて初めてのクリスマスを、主に関西方面で音楽活動をしているジョッシュ大塚＆リーブスオブグラスを迎えて、皆様と共にお祝いしたいと思い、ライブ＆パーティーを企画しました。年末のお忙しい頃とは存じますが、皆様のお越しを心よりお待ちいたしております。／プログラム：第1部ライブ【曲目】・ユーアーマイサンシャイン・レッド　リバーバレー・テネシーワルツ・ジャンバラヤ　他：第2部クリスマスパーティー・クリスマスソング・『クリスマスとは』(Fr. M. コース)・クリスマス・プレゼント・タイム　他／日時：12月16日（土）13時～17時／場所：九州ダルク（美野島司牧センター）／参加費：1000円／問合先：九州ダルク☎092-471-5140

◆結婚準備セミナー

【熊本】場所：カトリック手取教会
1月22日（月）23日（火）29日（月）30日（火）2月5日（月）6日（火）12日（月）13日（火）問合先：手取教会☎096-352-3030

【福岡】場所：カテドラル大名町教会
2月1日（木）3日（土）8日（木）10日（土）15日（木/17日（土）22日（木）24日（土）問合先：カトリック・ファミリーセンター☎092-541-6207

お礼

◆ぶどうの樹の会より

主の平安。皆様いかがお過ごしでしょうか。先日行われました、ぶどうの樹の会主催第5回パイプオルガンチャリティーコンサートは、400名程のお客様をお迎えして、盛会のうちに終えることができました。神様のお恵みと、多くの皆様のご支援、ご協力を心より感謝申し上げます。お蔭様で、366,073円の純益となり、前回の残金を合わせて、下記の通り送金致しましたのでご報告申し上げます。

★ペルー(大橋美智子ﾌﾟｴﾌﾞﾛﾍﾞﾙｰの会)３０万円
★阪神大震災（救援本部）１０万円

この援助が、お金と一緒に皆様そして私たちの祈りと心も届けられますように願っております。来年も秋頃、チャリティーコンサートを計画しております。またご案内はいたしますが、ご来場下さいますようによろしくお願い申し上げます。

（代表　平田孝子）

世界平和を願って 聖母行列

老司教会では十月二十二日、朝のミサに続いて恒例の聖母行列が行われた。

十字架を持った侍者を先頭に子どもたち、花まきの少女、司祭、信徒の順に聖歌を歌いながら、聖堂を出て横の広場に設けられた聖母像の前に進んだ。

ロザリオの祈りは、各玄義に世界の平和を祈る意向を加え、大勢の子どもたちと共に唱えられた（＝写真）。



先ず広場の聖母像の前で、神父様の献香の後、第一玄義はヨーロッパのため、第二玄義はアメリカのために唱えられた。その後聖歌とともに聖堂の前まで進み、少女が掲げる大きな『イコンのマリア様のご絵』の前で第三玄義がアフリカのために、第四玄義がアジアのために唱えられた。

行列の時の歌声やロザリオの祈りは、天高きさわやかな秋空に清らかに響き渡った。

最後の第五玄義は、中庭の『無原罪のマリア像』の前で日本のために唱えられた。

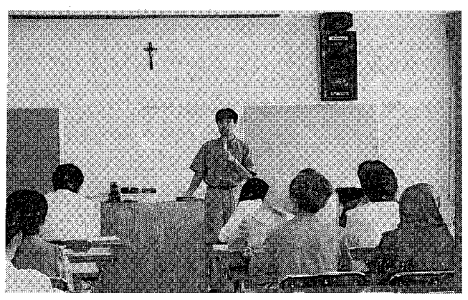
ロザリオの後、神父様のお話と祝福を受け、午前十一時過ぎに晴れやかに聖母行列を終了した。

（広報部）

忍耐強く 広い心で
―リーダー研修会―

十月十六日小倉教会で、晴佐久昌英（東京教区青梅教会主任）神父による「子どもにとって『よい知らせ』と題したリーダー研修会が行われた。参加者は北九州、福岡地区そして大分からもかけつけ、総勢五十四人を数えた。

晴佐久神父は、「子どもの頃から教会学校が大好きだった。今はその恩返しをしている」と語った（＝写真）。



参加者の一人は「私も教会学校が好きで、よく勉強した…というより、友だちや神学生のリーダーたちと遊んだことを鮮明に覚えている」と話した。

分科会では、リーダーたちの共通した悩み「どうしたら子どもたちが教会に来るのか」ということで話が盛り上がった。同年代の友だちが来なければ面白くない、という気持ちもわからないわけではないが、それでも教会に子どもたちを魅了する何かがあれば神様は導いてくれるのではないか。リーダーは忍耐強く、広い心で教会学校に協力していきたいものである。

門司カリダス修道女会　シスター大槻

神道一口メモ ⑩
森山敬三

古代から天皇が親政なさったような錯覚があるが、実際天皇が特に神格化され政治の実権を握られたのは、大化の改新から数代、明治初年、昭和20年までの三回である。それ以外は天皇が神であるという観念は乏しかった。大化の改新後の四十代天武天皇は詔（みことのり）の初めに明神（あきつ）御大八洲日本根子天皇（かおおやしまとねこのすめらみこと）と称され、明神、人となった神とされた。柿本人麿の「大君に神にしませば、…」という歌があるのも納得がゆく。

第5回 チャリティ・コンサート
ペルーの人々へ愛の支援を

入場者の皆さまの中から、「このチャリティ・コンサートは、もう五年も続いているのですか？」「ペルーに支援をしているって知らなかったわ」「毎年胸に響くようなパイプオルガンの音をじっくり聴かせていただくのを楽しみにしています」といろいろな声が聞こえてきました。今年は、ちょっと口ひげをはやした、九州交響楽団主席チェロ奏者の宮田浩久さんを迎え無伴奏チェロ組曲、重厚な音の中に軽快な指の動き、まばたきをするのも惜しいくらい。またパイプオルガンは毎回聴いているのに、高い音、低い音といろいろな楽器で演奏しているのではないかしらと思わせるひと時でした。コンサートを始めて五年、今までにペルーへ支援をしたことで、現地では職業訓練校が出来、設備も、机、椅子などの材料購入、靴製電動ミシン二台、洋裁用ペダルミシン一台、編物教室毛糸など、材料費などで援助。また共同台所、トイレ設置、水タンクとか上下水道工事費、食料費補助など、確実に少しずつペルーの人の生活が改善される様子が目に見えるようです。これからも皆さまの厚いご支援をお願いいたします。

ぶどうの樹の会



『生きがいをさがそう』
第八回 熊本短期キリスト教講座

「生きがいをさがそう」を主題に、いわばキリストとの出会いを求めての講師の方々のガイドによるツアーは、九月二十三日を初講として、第七講である十一月三日をもって無事終了しました。

受講者の状況は、

申込者数―未洗者一四四人
信者数一三三人

受講者数―未洗者二六〇人
（延べ数）信者数六四二人

昨年よりも減少しましたが受講者の方々のアンケートによれば、ほとんどの人が次回もこの講座を受けたいと記入しておられ、力づけられました。実行委員会の、半年におよぶ周到な準備と講座の運営はもちろんですが、市内五つの教会の信徒の祈りと勧誘、受付案内の支援、また、マリアの宣教者フランシスコ修道会、幼きイエズス修道会のシスター方の支援などによってこの講座が維持されていることに心から感謝したいと思います。

実行委員長　小出　貢



バザー各地で 大盛況
新田原教会の場合

十月二十九日、第二回を迎えた。教会共同体の一致と地域の人との友好を目的としたもの。延べ二千人が参加。食べ物、友愛品、子どもコーナー、イベントコーナーは大反響。餅つき、餅投げも好評。聖堂では静かに音楽、ビデオ鑑賞、展示物を楽しんだ。竹森勇主任神父は「一般の人を境内地に迎えたことと準備段階の信徒の活性化が大きな財産となった」と語った。



和田墓地ミサ

十月二十九日午後、福岡の和田墓地で、多数の参列者を迎えて、平田三郎司教司式の死者ミサが行われた。司教館と近隣の教会の司祭数人も加わって荘厳なミサとなった。

平田司教は説教で聖徒の交わりについて述べ、「今朝はこの世の聖徒と教会にて交わり、今は後の世の人々と交わっている。すでに天国に入った諸聖人は私たちのために神に祈ってくれている。地上の私たちは煉獄で償いをはたすべき霊魂のために祈り、善行、犠牲などを捧げ、天国に送ってあげるようにしなければならない。実際、煉獄の霊魂は自分で何もすることができないので、私たちがしてあげねばならない」と語った。ミサ後、司教によって納骨式が行われ、新しい遺骨が納められた。その間、参列者はロザリオを唱えながら死者を追悼した。

ご会葬御礼

聖ヨゼフ会故パウロ杉山昇修道士の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させていただきましたので御諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

平成七年十一月　福岡教区長　松永　久次郎

神学院基金への寄付の御礼

故パウロ杉山昇修道士の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄付を福岡カトリック神学院における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。故人のご安息を心よりお祈り致します。

平成七年十一月　福岡カトリック神学院　森山　信三

BOOK 読みは専科

★祈り―信仰の源へ―
マザー・テレサ　ブラザー・ロジェ　共著



〈マザー・テレサ〉「貧しい人々に仕える愛の業は、燃え上がる炎のようです」

〈ブラザー・ロジェ〉「キリストは、あなたが信頼の源へ向かうために必要なものをすべて差し出されます」

マザー・テレサ（神の愛の宣教者会）とブラザーロジェ（テゼ・コミュニティー）

この二人の創始者たちは、祈りに生きている、言いかえれば、キリストに生きているブラザー・サンとシスター・ムーンとでも言えましょう。

サンパウロ刊　定価　七〇〇円

◇　◇

★テゼ―信頼に生きる―
フランステゼ共同体製作



いま静かに感動を呼び起こしているテゼ共同体のB・ロジェ。キリスト者間の和解、さらに人類家族すべての和解に献身するテゼ共同体は、ユダヤ人を中心とする難民の受け入れから始まった。

やがて世界各地から、彼にならうブラザーたち、若者たちが集まってきた。そこで彼らは「内に息づく生命と人々の連帯」を分かち合う。

さあ、見てから読むか、読んでから見るか、あなたにおまかせ！

VHSカラー　30分
定価　四三〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

さまざまな集いに参加した方々の声を集めました。

絶妙なる歌声響く

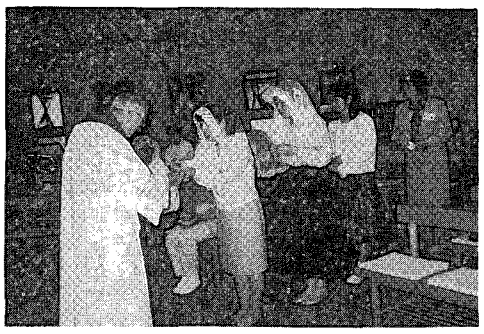
十月二十九日、韓国の釜山カテドラル中央聖堂のセシリア聖歌隊が、親善演奏会を行うために、主任司祭金啓春師に率いられて健軍教会を訪れた。一行は三十八人でミサ中の聖歌に奉仕した。通常式文はモーツアルトのハ長調ミサを採り入れ、風格のあるミサを歌ってくれた。アヴェマリア、その他、パーニス・アンジェリクスなど、おなじみの合唱の数々、また韓国語の聖歌も歌ってくれた。熊本市内からたくさんの信者たちが歓迎に駆けつけてくれて、昼食を共にし、和服の婦人たちがお茶の接待をし、三弦とお琴の演奏で一行をもてなした。

鵜野泰年神父

一日静修を終えて

さわやかな秋の一日、熊本の修道院で、「イエス様との親しさ」をテーマに、マテオ神父様のご指導で静修会がありました。地元の熊本、そして人吉、福岡から十九人の方がこの招きに応えました。この恵みの日を参加者の声で振り返ってみると、「美しい緑に囲まれた修道院での静かな祈りのひととき。とても心が落ち着くのを感じました。日頃、人と接する中で、自分の思いや周りに振り回されて、神様が見えなくなっていたように思えた時に、とても大きな恵みになりました。召命のことについては、祈りのうちにみ旨を確かめるように助言をいただけました」「聖体を今まで以上に感謝の気持ちを持って受けることができるようになりました」「拝礼の時間に、今までにない感動を覚え、『がんばろう』という気になりました」「シスター志願者の方からいろいろな話を聞き、シスターや神父様のことが身近に感じられました」「奉献文を書いてお捧げするというのも、今後の生活でよい方向づけになりました』『とてもゆとりのあるプログラムで、シスター方がよくお世話くださって有意義に過ごせました」。

マリアの宣教者
フランシスコ修道会
シスター中村淑子


感謝のミサで奉献文を捧げる

ヤングママの集いに参加して

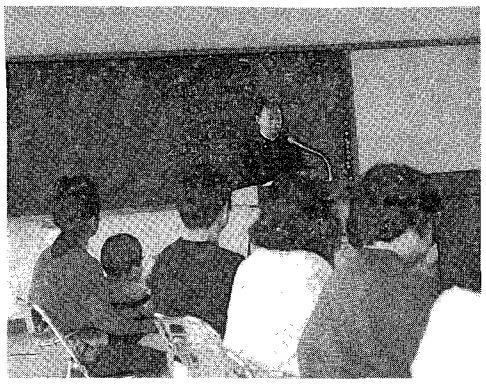
十月十一日、福岡カトリック司教館で、子育て中のお母さんたちを対象に一日黙想会が行われました。今回私も初めて参加させていただきました。

午前中は、下町豊重神父様が「神様とのつながり」というテーマで、ご自身の体験や聖書の話を交えながら、とても分かりやすくお話してくださいました。特に印象に残ったのは、「人生の目的はこの世での幸福を得ると共に後の世の幸福も得る」ということでした。これから子どもたちに信仰について話す時には、きっと確信をもって天国のことや永遠の命について話せると思います。

午後からは、深堀邦枝さんに「子どもといのち」について幅広くお話していただきました。特に強い関心をもったのは、ビリングス・メソッドの自然な家族計画の話でした。自分の身体を知ることの大切さ、夫婦のことや性教育についてなど、教会の中で性について正面から向き合えたのは私自身これは初めてでした。

それぞれ個人差はあるけれど、人間は皆同じなのだ、と実感するとともに、共感できる喜びも味わいました。短い時間でしたが、とても実り多い一日でした。参加させていただいたことに感謝します。

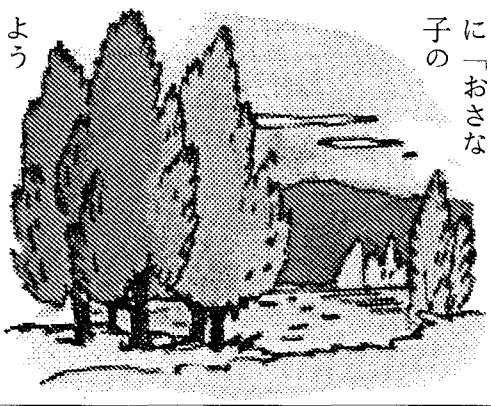
二日市教会　藤田由美


人生の目的は幸福です

福岡・生と老い死をみつめる会

―定例会―

十月二十九日の定例会は、「バングラディシュと手をつなぐ会会長」「福岡高齢化社会を考える会会長」「福岡高齢化社会を考える会会長」「小さい星伝導所牧師」といくつもの肩書をお持ちの大木松子さんに「おさな子のように」と題して講演していただいた。



彼女は一九九六年に伝導所を開きバングラディシュの青年との出会いを機に学校建設を約束し、八七年に募金活動開始、八八年に集めたお金を持参し、八九年にはレンガ造りの学校竣工と着実な活動を続けている。「バングラディシュの子どもたちの目はかがやいている。子どもは自分を守ってくれる人を知っていて全てを任せて生きている。祈る心、感謝する心があれば寝たきりになっても守ってくださる神にゆだねて、その生涯を生きる。彼らのニコニコ顔は病気を追い出し、回りを明るくし、元気を与える」と語る大木牧師の話を聞きながら聴衆はうなずく。

講演と話し合いの後、『カウンセリングについての勉強会』の一回目を開いた。この勉強会は、ケースワーカーであった楢崎さんの指導で今後も続られるので多くの方の参加を期待している。家庭での会話、病院訪問、その他に多いに役立つものと考える。

大山美穂子

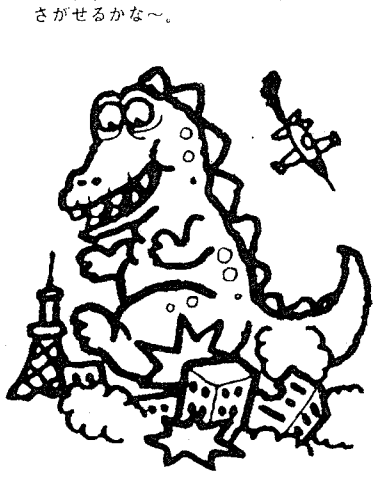
定例会　毎月最後の日曜日　参加費　五百円
場　所　カテドラル大名町教会四階

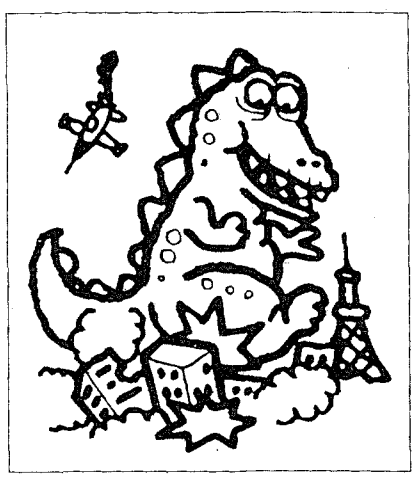
編集後記

今年ももうすぐ終わり。人が一人生きていく中で、神から人からどれほどの祝福をいただくことだろう。この一年も、数えきれないほどに神と人の世話になった。また来年も世話になると思う。教区報のために原稿を送ってくださった方、愛読してくださっている方方ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。神のお恵みを祈ります。

まちがいさがし

左の絵が右鏡に写っています。あれ？少し違っていますね。まちがいは5コあります。さがせるかな～。





平成八年度
寮生募集
OLおよび女子学生
福岡聖家族寮
〒810福岡市中央区今川1-2-24
☎092-751-2578
礼拝会福岡修道院
・寮費（朝夕2食付）
個室（小）￥61,000 月額
（大）￥66,000 月額
二人部屋　￥56,000 月額
・暖房費
個室（小）￥30,900 一冬期
二人部屋　￥30,900 一冬期
個室（大）￥33,500 一冬期

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL　092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博